サル限リ現金ト同樣ニ解スルヲ以テ信義ノ原則ニ合スルモノト謂フヘク取引上亦是認セラルル所ナリ（昭和三・一〇・一二）

○履行ノ提供ハ現實提供ニ限ラス　履行ノ提供アリト認ムヘキ場合ハ勿論債權者カ豫メ其受領ヲ拒ミタルトキ債務者ニ於テ辨濟ノ準備ヲ爲シタルコトヲ通知シテ其受領ヲ催告シタル場合ニモ亦履行ノ提供アリト看做スヘキモノトス（大正四・四・二〇）

○契約解除ト代金受領拒絕ノ意思表示　契約ノ解除ト契約ノ履行トハ全然相反スル行爲ニシテ二者併存スルモノニ非ス從テ解除ノ意思ヲ表示シタル以上ハ履行タル代金ノ受領ヲ拒絕スル意思ヲモ表示シタルモノト認定スルハ不法ニ非ス（大正四・四・二〇）

○買主カ豫メ買戻代金ノ受領ヲ拒絕シタル場合ト本條ノ適用　買戻ニツキ民法第五百八十三條ハ辨濟ノ提供ニ關スル同第四百九十三條ノ適用ヲ除外スヘキモノニアラス故ニ買主カ豫メ賣主ニ對シ買戻代金ノ受領ヲ拒絕スル意思ヲ表示シタルトキハ賣主ハ買戻權ヲ實行スルニ付現實ニ右代金ノ提供ヲ爲スヲ要セス其辨濟ノ準備トシテ認ムルニ足ルヘキ行爲ヲ爲シタルコトヲ買主ニ通知シ其受領ヲ催告スルヲ以テ足ルモノトス（大正八・五・九）

○受領ノ拒絕ト受領ノ催告トノ間ニ存スル期間ノ影響　買主ノ買戻代金受領拒絕ノ意思表示ノ以後ニ於テ當事者間事情ノ變更ヲ認ムヘキモノアルトキハ格別ナルモ然ラサルニ於テハ受領ノ拒絕トノ受領ノ催告トノ間ニ存スル期間ノ長短ハ前記買戻權ノ實行ニ何等ノ影響ヲ及ササルモノトス（大正八・五・九）

○買戻ト現實提供ノ要否　買戻ニツキ民法第四百九十三條但書ノ規定ハ賣主カ未タ現實ニ債務ノ本旨ニ從ヒタル買戻金ノ提供ヲ爲ササル場合ニ始メテ其適用ヲ見ルヘキモノニシテ之カ爲メ賣主ニ於テ一旦現實ニ債務ノ本旨ニ從ヒタル買戻金ノ提供ヲ爲シ買主ニ於テ之カ受領ヲ拒絕シタルヲ要スルモノニアラス（大正八・五・九）

巻	頁
一五	二八二
三	一三
三	一三
三	一三
六	三八三
六	三八四
六	三八五

○登記手續履行ノ義務ト言語上ノ提供　相手方カ土地代金支拂ノ義務ヲ負ヒ自己カ土地所有權移轉登記手續履行ノ義務ヲ負ヒ且同時ニ之ヲ履行スヘキ場合ニ於テ登記手續ノ履行ニハ相手方ノ行爲ヲ要スルコト勿論ナルヲ以テ之カ提供アリタリト爲スニハ必スシモ登記手續ニ關スル一切ノ書類ヲ登記所ニ持參シ相手方ノ來會ヲ待チ居ルカ如キ現實ノ提供ヲ要セス相手方カ受領ヲ申出ツルニ於テハ何時ニテモ現實ノ提供ヲ爲シ得ル程度ニ之ヲ準備シ其旨ヲ通知シテ其受領ヲ催告スルヲ以テ足リ其準備アリタリト爲スニハ必スシモ登記手續ニ關スル一切ノ書類ヲ登記所ニ持參スルヲ要セス又必スシモ自身登記所ニ出頭シテ相手方ノ來會ヲ待チ居ルヲ要セサルモノトス（大正九・六・八）

○相手方カ債務履行ヲ爲ササル意思ノ明確ナル場合ト自己ノ債務提供ノ要否　雙務契約ニ於テ當事者ノ一方カ債務ノ提供ヲ爲スモ相手方ニ於テ其債務履行ヲ爲ササル意思明確ナル場合ニハ假令一方ハ自己ノ債務ノ提供ヲ爲ササルモ相手方ハ期限ヲ徒過スルトモ遲滯ノ責ヲ免レサルモ而カモ此場合ニ於テモ少クトモ一方ニ眞實債務ヲ履行スルノ意思ヲ有セサルヘカラサルモノトス（大正一〇・一〇・一四）

○現實ノ提供ヲ要セサル場合　履行ノ提供ハ債務ノ本旨ニ從ヒテ現實ニ之ヲ爲スコトヲ要シ其履行ノ準備ヲ爲シテ之カ通知ヲ爲シ受領ノ催告ヲ爲スヲ以テ足レリトスルニハ債務者カ豫メ其受領ヲ拒ミ又ハ履行ニ付相手方ノ行爲ヲ要スル場合タラサルヘカラサルモノトス（大正一〇・一一・一五）

○義務履行ノ準備ナキ言語上ノ提供ノ效力　賣主カ言語上ノ提供ヲ爲シ其提供カ有效トナルニハ賣主ニ於テ自己ノ義務ノ履行ニ付豫メ準備ヲ爲スコトヲ要シ其準備ナキニ拘ラス言語上ノ提供ヲ爲スモ提供ノ效力ヲ生スルモノニ非ス（大正一一・一一・二八）

○賣主カ一人ニ對シテノミ履行シ得ヘキ準備ヲ以テ同時ニ數人ニ對シテ爲シタル言語上ノ提供　賣主甲カ買主乙丙丁三名ニ對シ各別ニ高粱一車宛ヲ賣渡シ其履行ノ爲メ準備セル高粱ハ一車ニ過キサルニ拘ラス買主乙丙

巻	頁
七	二三三
八	二九六
八	四二四
九	五〇六

丁各自ニ對シ同時ニ履行ノ準備アリトシ言語上ノ提供ヲ爲スモ買主ニ於テ履行ノ協力ヲ爲サントスルトキ乙丙丁中ノ一人ニ對シテノミ其引渡ヲ爲シ得ヘキニ止マリ爾餘ノ二人ニ對シテハ引渡ヲ爲スコトヲ得サルモノナレハ其二人ニ對スル言語上ノ提供ハ準備ナクシテ爲サレタル提供ナリト爲スノ外ナシ（大正一一・一一・二八）

○右言語上ノ提供ニ因リ特定ノ買主ニ對シ不履行ノ責アリト判斷シタル判決ノ當否　前項ノ場合ニ買主乙丙丁中何人ニ對スル提供カ有效ナリヤハ他ニ特別ノ事情ナキ限リ之ヲ知ルニ由ナキモノニシテ右乙丙丁中特定ノ一人ニ對スル提供カ有效ニシテ其者ニ不履行ノ責アリト爲スニハ理由ヲ附シ特ニ其一人ニ對スル提供カ有效ニシテ爾餘ノ買主ニ對スル提供ノ無效タルコトヲ說示スルヲ要シ任意ニ乙丙丁中ノ一人ヲ捉ヘ賣主甲ノ準備シタル高粱ノ數量カ同人ニ對スル義務ヲ履行スルニ足ルノ一事ヲ以テ同人ニ對スル言語上ノ提供ヲ有效ナリト速斷スルヲ得ス（大正一一・一一・二八）

○本條但書規定ノ催告ト受領期日ノ指定ノ要否　民法第四百九十三條但書ニ規定スル催告ニハ目的物受領ノ期日ヲ定ムル必要ナキモノトス（大正一二・六・八）

○相手方ノ不履行ノ意思明確ナル場合ト契約解除ノ要件　同時履行ノ雙務契約ニ在リテ其ノ債務ノ履行カ期限ノ定メナク且當事者ノ一方カ漫ニ相手方ノ履行ヲ受領スルコトヲ拒絕シ自己ノ義務ヲ履行セサル意思明確ナル場合ニハ相手方タル債權者ハ其ノ當事者ノ一方ニ對シ現實ニ義務ノ履行ヲ提供シ若クハ履行ノ準備ヲ爲シタルコトヲ通知スルノ要ナク單ニ履行ノ催告ヲ爲スニ依リ遲滯ニ付シ得ヘキモノナルヲ以テ斯ル場合ニ債權者カ相當期間ヲ定メテ履行ノ催告ヲ爲シタルトキハ其ノ催告ハ一面債務者ヲ遲滯ニ付スル效力ヲ有スルト同時ニ一面ニハ民法第五百四十一條所定ノ履行ノ催告タル效力ヲ有シ其ノ期間ヲ經過シ履行ヲ爲ササルトキハ契約ヲ解除スルコトヲ得ヘキモノニシテ債務者ヲ遲滯ニ付スル催告ト民法第五百四十一條所定ノ履行ノ催告トヲ區別シ前後時ヲ異ニシ二重ニ催告ヲ爲スノ要ナキモノトス（大正一五・一一・二）

○代金支拂ノ場所カ登記所ナル場合ノ辨濟ノ提供　代金支拂ノ債務カ債權者ノ住所ニ非サル登記所所在ノ場所ニ出會シテ履行スヘキモノナルトキハ其ハ民法第四百九十三條ニ所謂債務ノ履行ニ付債權者ノ行爲ヲ要スル場合ニ該當スルモノト謂フヘシ從テ之カ辨濟ノ提供ハ辨濟ノ準備ヲ爲シタルコトヲ通知シテ其ノ受領ヲ催告スルヲ以テ足ル（大正一五・一一・二）

○土地ノ賣主ノ履行準備　土地ノ賣主ト買主トカ共ニ代書人ニ委託シテ所有權移轉登記ノ手續ヲ爲シ登記濟證ト引換ニ代金ヲ授受スル契約ニ在リテハ登記申請ニ要スル書類ハ未タ作成セスト雖賣主ニ履行ノ準備ナシト云フヲ得ス（昭和八・一一・七）

○買主ノ所在不明ト同時履行　買主カ住所ヲ轉シ所在ヲ秘シ爲メニ賣主ハ過失ナクシテ履行ノ提供ヲナスコト能ハス且買主ニ於テ履行ノ意思ナキコト明ナルトキハ同時履行ノ場合ト雖賣主ハ契約ヲ解除スルコトナクシテ賣買ノ目的物ヲ處分スルコトヲ得ヘク之ニ對シ買主ハ賣主ノ不履行ヲ責ムルコト能ハサルモノトス（昭和八・五・一二）

第四百九十四條

○供託ノ性質　辨濟ノ目的物ノ供託トハ債權者カ辨濟ノ受領ヲ拒ミ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキ若クハ辨濟者ノ過失ナクシテ債權者ヲ確知スルコト能ハサル場合ニ於テ辨濟者カ其債務ヲ消滅セシムル目的ヲ以テ辨濟ノ目的物ヲ供託所ニ寄託シ其保管ニ付スル法律行爲ヲ謂フ從テ其寄託關係ノ成立シタル以上ハ供託受領證ヲ債權者ニ交付スル（大正七・一一・三〇）

○供託ノ通知及供託書ノ交付ト供託ノ效力　債權者カ辨濟ノ受領ヲ拒ミタルトキハ辨濟者ハ債權者ノ爲メニ辨濟ノ目的物ヲ供託シテ其債務ヲ免ルルコトヲ得ルモノニシテ供託ノ通知及供託書ノ交付ノ遲延ハ供託ノ效力ニ何等ノ

卷	頁
九	五〇六
九	五〇八
一〇	一七二
一〇	三四九
一三	三七六
二〇	四三九
二〇	二〇九
五	九三三

影響ナキモノトス（大正一〇・一一・一）　巻八 頁三六三

○供託通知ノ懈怠ト辨濟ノ效果　供託ヲ爲シタル債務者カ供託ノ通知ヲ爲ス義務ヲ怠リタルトキハ之ニ因リ生シタル損害ヲ賠償スルノ責任ヲ免ルル能ハスト雖該通知ハ供託ノ法律上ノ效果ヲ生スヘキ要件ニ非サルヲ以テ其通知ナキノ故ヲ以テ供託ハ債務辨濟ノ效果ヲ發生セサルモノト爲スヲ得ス（大正一一・六・一三）　九 二〇〇

○供託受領證ノ交付ト供託ノ效力　債務者カ供託受領證ヲ債權者ニ交付スルハ唯債權者ヲシテ供託物ヲ受取ルノ便宜ヲ得セシムルノ目的ニ出テタルモノニシテ受領證交付ノ有無ハ供託其モノノ效力ニ何等ノ影響ナシ（大正一一・六・一三）　九 二〇〇

○履行準備ノ通知ト供託ノ效力　債務者カ債權者ニ於テ辨濟ノ受領ヲ拒ミタルコトヲ原因トシテ供託シタル場合ニ其ノ前提タル履行準備ノ通知ヲ爲スコトカ徒ニ無用ノ手數ニ屬スルモノト認メラルヘキトキハ該通知ナシト雖供託ニ因ル債務免脱ノ效力ヲ生スルモノト解スヘキモノトス（昭和一一・五・二六）　二三 一八七

第四百九十五條

○債權者ノ名ヲ以テシタル預金ト所謂供託　辨濟者カ債權者ノ名ヲ以テ銀行ニ預金スルモ民法第四百九十五條ニ所謂供託ニ該當セス（大正七・一一・五）　五 八四〇

○所謂債務履行地ノ供託所ノ意義　民法第四百九十五條ニ所謂債務履行地ノ供託所トハ債務履行ノ場所タル最小ノ行政區劃內ニ存在スル供託所ノ意義ナリトス（大正一四・三・三）　一三 三二

○債務履行地ニ供託所ナキ場合ノ措置　前項ノ供託所ナキトキハ裁判所ニ供託所ノ指定又ハ供託物保管者ノ選任ヲ請求スルヲ本則トスレトモ法令ニ別段ノ定アルトキハ之ニ依ルヘキモノトス（大正四・三・三）　一三 三二

○法令ニ依ル供託所ノ指定ト債務履行地トノ關係　供託所ノ存在セサル地ニ於テ爲スヘキ辨濟目的物ノ供託ニ付法令ヲ以テ供託所ヲ指定シ又ハ供託所ニ代ハルヘキモノヲ定ムルトキハ其カ債務履行地ニ存在スルモノナルトキト否トヲ問ハス其ノ所ニ有效ニ供託ヲ爲スコトヲ得ルモノトス（大正一四・三・三）　一三 三二

○大正元年制令第一號但書及同規定ニ依ル朝鮮總督ノ供託所指定ノ趣旨　大正元年制令第一號但書ノ規定及朝鮮總督ノ右規定ニ依ル供託所ノ指定ハ朝鮮ノ各道ニ數箇ノ供託所ヲ配置シ其ノ所在道ノ區劃ヲ以テ其ノ所管區域ト爲シ之ヲシテ其ノ地ニ於テ爲スヘキ一切ノ供託事務ヲ取扱ハシムル趣旨ニ出テタルモノト解スルヲ相當トス（大正一四・三・三）　一三 三二

○所管區域ヲ一ニセル數箇ノ供託所ノ存在ト供託所ノ選定　所管區域ヲ一ニセル數箇ノ供託所存在スルトキ何レノ供託所ニ供託スヘキカハ供託原因ノ如何其ノ他各種供託ノ性質ニ從ヒテ之ヲ選定スヘキモノト解スルヲ妥當トス（大正一四・三・三）　一三 三二

第四百九十六條

○本條ノ趣旨　民法第四百九十六條ノ規定ハ單ニ供託ニ因リテ質權又ハ抵當權消滅シタル場合ノ外債權者カ供託ヲ受諾セス又ハ供託ヲ有效ト宣告シタル判決カ確定セサル間ハ辨濟者ハ供託物ヲ取戻シ得ヘク此ノ場合ニ於テハ供託ヲ爲ササリシモノト看做ス旨規定セルニ止リ供託ニ因リテ賣渡抵當ニ因ル權利ノ消滅セル場合ニ尙供託物ヲ取戻シ得サル趣旨ヲ包含スルモノニ非ス（昭和八・四・一八）　二〇 一七三

第四百九十九條

○利害關係ヲ有セサル第三者ノ辨濟ト代位ノ目的　利害ノ關係ヲ有セサル第三者カ債務者ノ意思ニ反セスシテ債權者ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ第三者ハ債務者ニ對シ求償權ヲ有スルモノニシテ求償ニ付債權者ノ承諾ヲ必要トセサルコト勿論ナルモ第三者カ民法第四百九十九條ニ依リ債權者ニ代位シ債權者ノ權利ヲ行使セムトスルニハ其辨濟ト

同時ニ代位ニ付債權者ノ承諾ヲ得タルコトヲ必要トス而シテ第三者ハ以上何レノ權利ヲ行使スルモ其自由ニ屬スルモノトス（大正一二・三・二三）

○辨濟者ニ對スル債權證書ノ交付ト代位承諾ノ推定　民法第五百三條ハ代位辨濟ニ因リテ辨濟ヲ受ケタル債權者ノ爲スヘキ行爲ヲ規定シタルモノナレトモ債權者カ辨濟ヲ受ケ單ニ其債權證書ヲ辨濟者ニ交付シタル一事ハ未タ必スシモ之ヲ以テ代位ヲ承諾シタルモノト推定セサルヘカラサルモノニアラス（大正一二・三・二三）

○納稅擔保物ニ對スル國ノ權利ノ性質及代納者ニ對スル其ノ移轉　納稅擔保物ノ上ニ國ノ有シタル抵當權ハ代納者ノ納稅義務者ニ對シテ有スル求償權ノ擔保ノ爲メニ代位辨濟ノ規定ニ準シ代納者ニ移轉ス（昭和二・四・一一）

○連帶債務者ノ一人ノ爲メニスル辨濟ト求償權ノ範圍　連帶債務者ノ一人ノ爲メニ辨濟ヲ爲シタル者ハ他ノ連帶債務者ニ對シテハ唯其ノ負擔部分ニ付テノミ求償權ヲ有スルモノトス（昭和七・五・二四）

第五百條

○本條ニ所謂辨濟ヲ爲スニ付正當ノ利益ヲ有スル者ノ意義　民法第五百條ニ所謂辨濟ヲ爲スニ付正當ノ利益ヲ有スル者ト爲スニハ辨濟者カ其債務ニ付利害關係ヲ有スルコト及其利害關係ハ正當ナル法律上ノ原因ニ基クコトノ二箇ノ要件ヲ具備セサルヘカラサルモノニシテ例ヘハ保證人、物上保證人、第三取得者、不可分債務者、連帶債務者等ハ之ニ該當スルモ單ニ債務者ノ委託ヲ受ケテ辨濟ヲ爲シタル第三者ノ如キハ之ニ該當セス（大正一二・三・二三）

○民法第五百四條ニ所謂故意ト代位者ノ存在ノ認識　民法第五百四條ニ所謂故意ハ擔保ノ喪失減少ニ付テ存スルヲ以テ足リ第五百條ノ規定ニ依リ代位ヲ爲スヘキ者ノ存在ヲ認識スルコトヲ必要トスルモノニアラス（昭和三・一一・二七）

第五百一條

○代位辨濟者ノ代位權行使ノ要件　代位辨濟者カ民法第五百一條ノ規定ニ依リ債權者ノ權利ヲ行フニハ自己ニ固有ノ求償權アル場合ナルコトヲ要件トス（大正六・六・八）

○賣渡擔保權者ノ保證人ニ對スル代位　抵當權ノ設定セラレタル不動產ヲ賣渡擔保トシテ讓受ケタル者カ債務者ニ代テ抵當權者ニ辨濟シタルトキハ連帶保證人ニ對シテハ債權者ニ代位スルコトヲ得ス（昭和七・四・二六）

○連帶債務者ノ辨濟ニ因ル代位　連帶債務者カ債務ノ辨濟ヲ爲シタルニ因リ債權者ニ代位スヘキ範圍ハ其ノ求償ヲ爲スコトヲ得ヘキ範圍ニ限リ之ヲ定ムヘク連帶債務者カ一面ニ於テ物的擔保ヲ供シタル者ナルトキト雖民法第五百一條第四號ノ規定適用セラルルコトナシ（昭和八・二・二四）

○所謂物上保證人ノ提供セル擔保ノ毀滅ト連帶保證人ノ一人ノ免責限度　所謂物上保證人ノ提供セル擔保ヲ債權者カ毀滅シタル場合ニ於テ數人ノ連帶保證人存スルトキハ其ノ一人ノ免責セラルヘキ限度ハ求償ヲ爲スコトヲ得ヘキ範圍ニシテ且連帶保證人及物上保證人ノ全頭數ニ分割セラレタル額ノ範圍內ナリトス（昭和九・九・二五）

○本條ニ依リ代位行使シ得ヘキ債權者ノ權利ト代位ノ要件　保證人カ保證債務ヲ履行シタルトキハ自己ノ求償權ノ範圍ニ於テ當然債權者ノ有シタル詐害行爲取消權ヲモ行使シ得ルモノトス

此ノ場合ニ於テハ保證人カ債權者ニ對シ何等カノ權利ヲ有スルコトハ右權利行使ノ要件ニアラサルモノトス（昭和一〇・四・二六）

第五百三條

○辨濟者ニ對スル債權證書ノ交付ト代位承諾ノ推定　民法第五百三條ハ代位辨濟ニ因リテ辨濟ヲ受ケタル債

權者ノ爲スヘキ行爲ヲ規定シタルモノナレトモ債權者カ辨濟ヲ受ケ單ニ其債權證書ヲ辨濟者ニ交付シタル一事ハ未タ必スシモ之ヲ以テ代位ヲ承諾シタルモノト推定セサルヘカラサルモノニアラス（大正一二・三・二三）

第五百四條

○擔保ノ喪失減少ニ因ル保證人免責ノ程度　保證人カ擔保ノ喪失又ハ減少ニ因ル免責ノ程度ハ債權者ノ故意又ハ懈怠ニ因リテ其擔保ヲ喪失又ハ減少シ之ニ因リテ償還ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル限度ニ於テ之ヲ定ムヘキモノトス（大正六・六・二九）

○抵當權拋棄ト意思ノ推定　抵當權者カ其ノ抵當權ヲ拋棄シタリトノ一事ヲ以テ直ニ故意又ハ懈怠ニ出テタルモノト看做ササルヘカラサルモノニアラス其之ヲ拋棄スルニ付正當ノ事由存スルトキハ尚之ヲ善意無過失ナリト認ムルヲ妨ケス（大正七・一二・二四）

○主債務者ノ償還資力ノ有無ト本條ノ適用　民法第五百四條ノ規定ハ代位ヲ爲スヘキ者ハ喪失又ハ減少シタル擔保ニ依リテ償還ヲ受クルコトヲ得ヘカリシ限度ニ於テ其ノ責ヲ免ルルノ趣旨ニシテ主タル債務者ニ償還ノ資力アルト否トヲ問ハサルモノト解スルヲ相當トス（大正一五・一〇・二六）

○本條ニ所謂故意ト代位者ノ存在ノ認識　民法第五百四條ニ所謂故意ハ擔保ノ喪失減少ニ付テ存スルヲ以テ足リ第五百條ノ規定ニ依リ代位ヲ爲スヘキ者ノ存在ヲ認識スルコトヲ必要トスルモノニアラス（昭和三・一一・二七）

○所謂物上保證人ノ提供セル擔保ノ毀滅ト連帶保證人ノ一人ノ免責限度　所謂物上保證人ノ提供セル擔保ヲ債權者カ毀滅シタル場合ニ於テ數人ノ連帶保證人存スルトキハ其ノ一人ノ免責セラルヘキ限度ハ求償ヲ爲スコトヲ得ヘキ範圍ニシテ且連帶保證人及物上保證人ノ全頭數ニ分割セラレタル額ノ範圍內ナリトス（昭和九・九・二五）

卷	頁
一〇	六九
四	五九四
五	一〇一七
一三	三三八
一五	三三一
三	三三八

○本條ニ所謂擔保ノ滅失減少　民法第五百四條ニ所謂擔保ノ滅失減少ハ擔保物ヲ毀損シ擔保權ヲ拋棄シ其ノ登記ヲ怠リ若クハ其ノ順位ヲ變更スルカ如ク擔保權ヲ行使スルニ非スシテ其ノ效用ヲ滅却スル場合ヲ指スモノニシテ債權ノ取立ヲ爲ササル爲ニ生シタル擔保物ノ腐朽其ノ價額ノ低下ノ如キハ之ニ該ラサルモノトス（昭和九・一〇・九）

第二款　相殺

第五百五條

○辨濟期前ノ債權ト相殺　相殺ヲ爲スニハ相殺セラルル債權カ辨濟期ニ在ルコトヲ要セス只債務者カ辨濟期前ニ辨濟ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テ足ルモノトス（大正八・五・二）

○受働債權ハ必スシモ辨濟期ニ在ルコトヲ要セス　民法第五百五條ニハ「雙方ノ債務カ辨濟期ニ在ルトキ」トアルカ故ニ相殺ヲ爲スニハ相殺スヘキ債權ハ勿論相殺セラルル債權カ辨濟期ニ在ルコトヲ要スルモノト解スヘキカ如シト雖モ民法第百三十六條ニ依レル期限ハ債務者ノ利益ノ爲ニ定メタルモノト推定セラルルカ故ニ債務者ハ其利益ヲ拋棄シテ辨濟期前ニ辨濟ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ相殺ハ辨濟ト實質上同一ノ效果ヲ生スルモノナルカ故ニ相殺モ亦相殺セラルル債權ノ辨濟期前ニ之ヲ爲スコトヲ得ト解釋セサルヲ得ス（大正八・五・二）

○同時履行ノ抗辯權附着ノ債權ト他ノ債務トノ相殺　相殺ヲ主張スル者ノ債權ニ同時履行ノ抗辯附着スル場合ニハ債務者ノ同時履行ニ係ラサル他ノ債務トノ相殺ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス（大正九・一二・二一）

○保證債務ト相殺　保證人ハ諸種ノ抗辯權ヲ有スルモノニシテ相殺ヲ爲ス債權者ノ債權カ保證人ニ對スル債權タル場合ニ單ニ期限ノ到來セル一事ニ依リ之ヲ以テ相殺ニ供シ得ヘキモノトスルトキハ一方ノ意思表示ニ依リ保證人ハ此等ノ抗辯權ヲ不當ニ喪失スル結果トナルモノナレハ保證債務ハ抗辯權ノ附着セル間ハ性質上相殺ニ適セサルモノトス

卷	頁
三	三五六
六	三〇七
六	三〇七
七	四九一

（大正一〇・六・三）

○相殺適狀ト主張立證ノ責任　従テ其債權者ハ此等抗辯權カ保證人ノ拋棄若クハ其他ノ事由ニ依リ消滅シ相殺ヲ爲スニ適スルニ至リタル上ニ非サレハ之ヲ以テ相殺ノ用ニ供スルヲ得サルモノニシテ其相殺適狀ニアルコトハ相殺ヲ爲ス債權者ニ於テ之ヲ主張シ立證スヘキモノトス（大正一〇・六・三）

○後裏書ト相殺ノ意思表示ノ相手方　支拂拒絕證書作成期間經過後手形所持人カ手形債務者ニ對シ債務ヲ負擔シ已ニ相殺ニ適シタル後ニ於テ裏書ヲ爲シタル時ハ手形債務者ハ被裏書人ニ對シ直接相殺ノ意思表示ヲ爲シ得ルモノトス（大正一三・九・二六）

○制限利率ヲ超ユル利息ト相殺　債務額カ法定ノ制限利率ヲ超脫シテ計算セラレタルモノナリトスルモ債務者ニ於テ之ヲ承認シ辨濟スルニ代ヘテ任意自己ノ有スル債權ト相殺ヲ爲シタルトキハ債權ハ其ノ對當額ニ於テ消滅ニ歸スルモノナルヲ以テ其ノ後ニ至リ制限利率ニ引直シ辨濟ニ付法定ノ充當方法ニ依ルコトヲ得サルモノトス（昭和二・一〇・一一）

○相殺ト辨濟期　辨濟期限ノ定メナキ貸金債權ハ催告ヲ要セスシテ相殺ニ供スルコトヲ得（昭和七・三・二九）

第五百六條

○相殺ノ方法ニ關スル慣習　相殺ハ意思表示ニ依リテ行ハルルコトハ朝鮮ニ於テモ從來是認セラレタル慣習ナリ（隆熙三「明治四二」・九・九）

○讓受債權ト相殺適狀ノ時期　民法第五百六條第二項ニ所謂相殺ヲ爲スニハ相殺ノ性質上雙方ノ債權カ相對立シ且辨濟期ノ到來シタルコトヲ必要トス從テ當事者ノ一方カ第三者ヨリ讓受ケタル債權ヲ以テ他方ノ既ニ辨濟期到來シタル債權ニ對シ相殺ヲ對抗セントスルトキハ債權ヲ讓受ケタル後ニシテ且其

卷	頁	年	號	番
八	一九四	大正	一〇	一
八	一九四	大正	一〇	一
一二	一四七	大正	一〇	一
一四	三四九	大正	一〇	一
一九	七九	大正	一〇	一
一	一四〇	大正	一〇	一

債權ノ辨濟期到來シタルトキニ始メテ相殺適狀ニ在ルモノト爲スヘキニ依リ若シ既ニ辨濟期ノ到來シタル債權ヲ讓受ケタルトキハ其ノ讓受ケノ當日ヲ以テ相殺適狀ニ在ルモノト云ハサルヘカラス何トナレハ債權ヲ讓受クル以前ニハ第三者ノ債權ニシテ未タ自己ノ債權ニ非サルカ故ニ雙方ノ債權カ相對立スト云フコトヲ得サレハナリ（大正一〇・一〇・二八）

○辨濟期ヲ異ニスル債權ノ相殺ニ依ル差引計算ノ時期　雙方ノ債權カ辨濟期ヲ異ニスル場合ニ於ケル相殺適狀ハ後ノ辨濟期ニ在ルヲ以テ此ノ時期ヲ標準トシテ差引計算ヲ爲スヘキモノトス（大正一三・五・六）

○被告カ相殺ヲ主張スル反對債權ニ對シ更ニ原告ノ爲ス相殺ノ主張　原告カ第一審ニ於テ定期米取引損金ノ支拂ヲ求メ被告ハ原告ニ對シ同額ノ貸金債權アルコトヲ主張シ相殺ノ抗辯ヲ提出シ第二審ニ於テモ同樣ノ抗辯ヲ提出シ原告カ右反對債權ノ存在ヲ認メタルトキハ原告ハ其ノ申立ヲ擴張スルカ或ハ被告ノ反對債權ヲ減少セシムル特殊ノ理由アルニ非サレハ原告ノ債權ハ消滅ニ歸スヘキモノトス（一）然レトモ第二審ニ於テ申立ヲ擴張シ新ナル請求ヲ爲スニハ其ノ請求原因ヲ變更セサルコトヲ要スルカ故ニ若シ原告カ第二審ニ至リ定期米取引損金以外ニ新ニ貸金債權アルコトヲ主張シ其ノ支拂ヲ請求スルトキハ請求原因ヲ異ニスル新ナル請求ニシテ是認スルコトヲ得ス（二）若シ前示ノ如キ請求ニ非スシテ單ニ定期米取引損金以外ニ別口貸金債權ノ存在スルコトヲ主張シ自ラ相殺ノ意思表示ヲ爲シタル相殺ノ被告ノ反對債權ト差引計算ヲ爲シ其ノ殘餘ノ支拂ヲ請求スルモノナルトキハ被告カ既ニ第一審ニ於テ爲シタル相殺ノ意思表示ノ效力ヲ滅却セシメサル限リ原告ノ請求ヲ認容スルコトヲ得ス（三）若シ別口貸金債權ト被告ノ反對債權トハ相互ニ差引計算ヲ爲スヘキ特約其ノ他ノ事情アルニ依リ先ツ此ノ兩債權ノ差引計算ヲ行ヒ其ノ殘額ニ付定期米取引損金債權ト差引計算ヲ爲シ其ノ殘餘ノ支拂ヲ請求スルモノナルトキハ認定資料ノ有無ヲ審査シ請求ノ當否ヲ決スルコトヲ得ヘシ（大正一三・五・六）

第五百十一條

民法　債權　總則　債權ノ消滅

卷	頁	年	號	番
八	三五七	大正	一〇	一
一二	九一	大正	一三	一
一二	九一	大正	一三	一

○支拂差止前ニ取得シタル債權ニ依ル相殺　支拂ノ差止ヲ受ケタル第三債務者ハ民法第五百十一條ニ依リ差止前ニ取得シタル債權ニ依リ差押債權カ差止後辨濟期ノ到來スヘキトキト雖モ相殺ヲ以テ差押債權者ニ對抗シ得ヘキモノトス、（大正八・五・二）

○條件附相殺契約ト債權差押ニ依ル影響ノ有無　債務者ト第三債務者トノ間ニ於テ第三債務者カ差止前ニ取得セル債權ヲ以テ差止ノ目的トナリタル債權カ辨濟期到來シ相殺適狀ヲ呈スルニ至リタルトキハ特ニ相殺ノ意思表示ヲ必要トセス當然消滅スヘキ旨ノ契約カ債權差止以前ニ於テ締結セラレタル場合ニ於テハ其契約上當事者間ニ生シタル法律關係ハ差止ニ依リ影響ヲ受クルコトナキニ依リ相殺適狀カ差止以後ニ發生シタル場合ト雖モ第三債務者ハ相殺ヲ以テ差押債權者ニ對抗スルコトヲ得（大正八・五・二）

第五百十二條

○制限利率ヲ超ユル利息ト相殺　債務額カ法定ノ制限利率ヲ超脫シテ計算セラレタルモノナリトスルモ債務者ニ於テ之ヲ承認シ辨濟スルニ代ヘテ任意自己ノ有スル債權ト相殺ヲ爲シタルトキハ債權ハ其ノ對當額ニ於テ消滅スルモノナルヲ以テ其ノ後ニ至リ制限利率ニ引直シ辨濟ニ付法定ノ充當方法ニ依ルコトヲ得サルモノトス（昭和二・一〇・一一）

第三款　更改

第五百十三條

○當座貸越金ヲ約束手形ニ變更シタル契約ト債務ノ更改　當座貸越金ヲ約束手形ニ變更シタルトキハ債務ノ更改ナリ（明治四四・三・一五）

二一二四	約束手形ノ授受ト舊債務ノ運命
二一二四	金錢ノ支拂ニ代ヘテ小切手ヲ振出シタル場合ノ效果
二四三	辨濟ノ爲メ他人ノ振出シタル小切手ヲ以テ金錢債務ノ辨濟ノ爲メ債權者ニ交付シタル場合ニ於テモ特別ノ意思表示ナキ限リハ現金ノ交付ニ代ヘ金錢支拂ノ方法トシテ之ヲ交付シタリトスルヲ以テ取引上ニ於ケル普通ノ狀態ナリトス從テ債權者ニ對シテ小切手ヲ交付スルモ不渡ノ場合ニ於テハ債務關係ハ依然トシテ存在スヘキモノトス（大正三・五・八）
二四三	辨濟ニ代ヘテ交付シタル約束手形カ手形上ノ效力ヲ發生セサリシ場合ニ於ケル更改ノ效力　辨濟ニ代ヘテ約束手形ヲ交付スルモ手形ニ記載スヘキ要件ヲ缺如シテ手形上ノ效力ヲ發生セサルトキハ更改ハ要素ニ錯誤アリテ無效ニ歸シ舊債務ハ消滅セサルモノトス（大正三・一二・二六）
二五六九	更改ト準消費貸借　舊債務ノ消滅シテ新債務ノ發生スルハ更改ニ限ルニアラス支拂フヘキ債務ヲ負擔スル場合ニ當事者雙方合意ノ上之ヲ貸金ニ改メタルトキニ於テモ舊債務消滅シテ新債務發生スルモノトス（大正四・二・一二）
三三五	數個ノ債權ヲ一個ノ債權ニ變更シタル契約ノ效果　數個ノ債權ヲ一個ノ債權ニ更改シタルトキハ新舊債權ハ其目的ヲ異ニスルヲ以テ債務ノ要素ニ變更ヲ來シ更改契約ハ有效ニ成立スルモノトス（大正四・五・七）
三一四四	爲替手形引受ト債務ノ更改　普通債務ヲ負擔スル債務者カ其債權者ノ振出シタル爲替手形ニ對シ支拂人トシテ

引受ヲ爲シタル場合ニ於テ當事者ノ意思カ舊債務ヲ消滅セシメ之ニ代ヘテ爲替手形ニ引受ヲ爲シタルニ在リトセハ普通債務ヲ手形債務ニ變更シタルモノニシテ民法第五百十三條第一項ニ所謂債務ノ要素ヲ變更シタルニ該當シ更改契約成立スルモノトス（大正一一・四・二一）

○荷爲替ニ因ル手形債務ノ負擔ト更改ノ成否　荷爲替ニ因ル手形債務ノ負擔ハ賣買代金支拂ノ爲メニ爲サルルヲ通常ト爲スヲ以テ當然更改ト爲ルコトナキモノトス（昭和一〇・一〇・八）

第五百十四條

○債務者ノ承諾ヲ得スシテ爲シタル新債務者ト債權者トノ更改契約ノ效力　債務者ノ交替ニ因ル更改ハ舊債務者ノ意思ニ反セサル限リハ新債務者ト債權者トノ契約ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得（大正五・七・一〇）

第五百十六條

○債務者カ異議ヲ留メスシテ爲シタル更改契約ノ效力　債權者ノ交替ニ因ル更改契約ヲ締結スル際債務者カ異議ヲ留メスシテ契約ヲ爲シタルトキハ假令舊債權ニシテ存在セサル場合ト雖モ更改契約ハ無效ニ歸スヘキモノニ非ス（大正六・六・一五）

○同　上　賭博債務ニ付債權ノ讓渡アリテ債務者之ヲ承諾シタル事實又ハ債權者ノ交替ニ因ル更改ノ事實アリタリトセハ債務者ハ民法第四百六十八條第一項又ハ同第五百十六條ニ依リ讓受人又ハ新債權者ニ對シテハ賭博債務無效ノ事由ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス（大正一一・三・一〇）

卷	頁
九	一五二
二三	四五九
三	六六九
四	五〇〇
九	八四

第二章　契約

第一節　總則

第一款　契約ノ成立

○手形上ノ效力ナキ手形補箋ノ記載ト民法上ノ責任　支拂人カ爲替手形ニ補箋ヲ爲シタル場合ニ於テ方式ヲ遵守セサル爲メ手形法上引受ノ效力ヲ生セサルトキハ其支拂人ハ手形法上ノ引受ノ義務ヲ負擔スルコトナキハ勿論當然民法上ノ無因ノ債務約束トシテ其義務ヲ負擔スルコトナシ（大正四・三・一二）

○宛名ナキ債權證書ニ本來ノ債權者以外ノ者ノ氏名カ記入セラレタル場合ノ效力　債權者カ債務者ノ承諾上宛名ナキ債權證書ニ他人ノ氏名ヲ記入シタル場合ニ於テ更改ト認ムヘキヤ又ハ債權讓渡ト認ムヘキヤハ一ニ事實ニ依リテ決スヘキモノトス（大正五・三・二八）

○契約書ノ不存在ト契約ノ成否　契約ノ內容カ重要ナル事項ニ屬シ且ツ同種ノ契約ニ付契約書ヲ作成スルヲ以テ通常ノ事態ナリトスルモ該契約カ書面ノ作成ヲ以テ成立ノ要件ト爲スモノニ非サル限リ契約書ノ存在セサル一事ヲ以テ當該契約ノ存在ヲ否認スルノ理由ト爲スニ足ラサルモノトス（大正九・五・一四）

○一個ノ契約ト數通ノ契約書　同時ニ締結シタル契約ト雖之カ證書ヲ作成スルニ當リテハ必スシモ一個ノ書面ニ其全部ヲ網羅セサルヘカラサルモノニ非スシテ數箇ノ書面ニ分割記載スルモ何等ノ妨ケナク又代理人カ其契約書ヲ作成スル場合ニ於テ一ハ本人ヨリノ授權ニ基キ本人名義ヲ用ヒ一ハ代理人名義ヲ用フルモ何等妨ケナキモノトス（大正一〇・七・一二）

卷	頁
三	九三
三	四五三
七	一七二
八	二五〇

○水利灌漑ノ事業經營ノ許可ヲ受ケタル者ト同一事項ニ付許可ノ出願ヲ爲サントスル者トノ間ニ爲シタル報償契約ノ成否　多衆ノ私有地ヲ包含スル地域ニ於ケル水利灌漑事業經營ノ許可ヲ得タル者カ同一事項ニ付許可ノ出願ヲ爲サントスル者トノ間ニ若シ前者カ許可ニヨリ得タル權利ヲ主張セサルコトヲ表明スルニ於テハ後者ノ許可ヲ容易ナラシムルコトヲ得ヘシトノ豫想ノ下ニ一種ノ出捐契約ヲ爲シ其內容ニ於テ前者ハ後者カ一定ノ報酬ヲ支拂フナラハ自己ハ已ニ許可ニヨリ得タル權利ヲ主張セサルヘク後者ハ之ニ對シ自己カ新ニ許可ヲ得タルトキハ所定ノ報酬ヲ支拂フヘキコトヲ約シ而カモ當事者ハ前者カ許可ニ依リ得タル權利ヲ讓渡スルニ非ス唯主觀的考察ニ於テ前者カ約旨ヲ守リ後者カ許可ヲ得ル場合ニハ恰カモ前者ノ權利ノ承繼アリタル場合ニ等シキ損益ヲ生スヘキコトヲ想見シ豫期ノ場合カ實現シタルトキハ之ヲ以テ權利ノ承繼ト看做シ後者ヨリ其報酬ヲ支拂フ約旨ナルトキハ斯ル契約ハ有效ニ成立スルモノトス　（大正一一・六・二〇）　　九　三二

○多數當事者間ニ於ケル契約成立ノ認定ト當事者ノ別異　契約ハ二人以上ノ當事者ノ相對立セル意思表示ノ合致ヲ其ノ缺クヘカラサル要素トスル法律行爲ナレハ其ノ一方ニ屬スル者ハ同時ニ其ノ相手方タルコトヲ得ス隨ツテ裁判所カ多數當事者間ニ一ノ契約ノ成立シタルコトヲ認定スルニハ其ノ雙方ニ屬スル各人ハ互ニ別異ノ人タルコトヲ明ニスルコトヲ要ス　（大正一二・九・一八）　　一〇　三六五

○內容ノ不確定ト契約ノ成否　契約ノ滿期後一方ノ當事者カ繼續ヲ申出テタルトキハ協定ノ上相手方之ニ應スル義務アル旨定メタル場合ニ於テハ當事者ノ意思ハ協定ナキ限リ契約ヲ成立セシメサルノ趣旨ニ解スヘキニアラスシテ一方ノ意思表示ニ依リ契約ヲ成立セシメ給付ノ內容ヲ雙方ノ合意ヲ以テ確定スヘキ趣旨ニアルモノト解スルヲ相當トス（昭和一〇・六・二一）　　三　一五九

○當事者協定ノ上爲スヘシト定メタル場合ノ確定方法　如上ノ場合ニ當事者ノ一方ヨリ契約ヲ成立セシムルノ意思表示アルニ拘ラス相手方カ不當ニ協定ヲ爲ササル場合ニ於テハ協定成ラサル場合ノ補充的確定方法ヲ定メタルトキハ之ニ依ルヘク之ナキ場合ニハ客觀的ニ相當ナル範圍ニ於テ裁判所ノ判斷ヲ求ムヘキモノトス　（昭和一〇・六・二一）　　三　一五九

○契約ノ申込ノ要件　契約ノ申込ハ當事者カ商人タルト否トヲ問ハス契約ノ成立ニ必要ナル內容ヲ包含スルコトヲ要ス換言スレハ相手方カ之ニ對シ直ニ承諾ヲ爲シ得ル程度ニ於テ其內容ヲ有スルモノナラサルヘカラス然レトモ右內容ハ必スシモ申込其モノニ表示セラルルコトヲ要セス慣習又ハ當事者間ノ從來ノ取引狀態ヲ參酌シテ其內容ヲ知ルコトヲ得ル場合ト雖モ申込タルヲ妨ケス　（大正九・一一・九）　　七　三八九

第五百二十一條

○承諾ノ通知ヲ免除セル申込ト契約成立ノ時期　隔地者間ノ契約ハ申込者特別ノ意思表示ニ依リ承諾ノ通知ヲ必要トセサル場合ニ於テハ契約ハ承諾ノ意思表示ト認ムヘキ事實アリタル時ニ成立シ其特別ノ意思表示ハ如何ナル表示方法ヲ以テモ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス　（大正七・六・一一）　　五　五一三

第二款　契約ノ效力

○危險負擔ノ特約アル送金契約ノ效力　送金依賴者ヨリ送金受取人ニ宛テタル送金案內電信送達紙ヲ持參スル者ニ對シ爲替金ヲ支拂フヘク之ニ關スル一切ノ故障ハ送金依賴者ニ於テ擔當スヘキ趣意ノ特約ハ送金依賴者ニ於テ送金ニ伴フ危險負擔ヲ約スルニ外ナラスシテ有效ナリトス　（大正元・一〇・八）　　二　二七

○根抵當契約書ニ保證人トシテ署名シタル者ノ責任　根抵當契約書ニ保證人トシテ署名捺印シタルトキハ主

タル債務者カ履行ヲ爲ササル場合ニ其履行ヲ爲スヘキ保證債務ヲ負擔シタルモノト一應認ムヘキモノトス（大正二・三・二五）

○渡船營業權讓渡契約ノ效力　渡船營業ヲ爲スニ付官廳ノ許可ヲ受クルモ爲メニ渡船營業權ナル一ノ財產權ヲ生スルモノニアラサレハ渡船營業權ナルモノヲ以テ讓渡ノ目的ト爲スモ其讓渡ハ無效ナリ（大正四・六・八）

○鑛物ノ採取ヲ目的トスル契約ノ效力　鑛業權者ハ自身ニ又ハ自己ノ責任ニ於テ鑛業代理人ヲ以テ鑛業ヲ管理シ鑛物ノ採掘ヲ爲スコトヲ要スルモノニシテ其鑛業權ヲ目的トシ鑛業權者ニアラサル他人ニ採掘ノ權利ヲ授與シ之ニ鑛業ノ管理經營ヲ一任シ鑛物ノ採掘收益ヲ爲サシムルカ如キ契約ハ無效ナリトス（大正五・一一・三〇）

○同　上　鑛業權者ニ非サル他人ニ採掘ノ權利ヲ授與シ之ニ鑛業ノ管理經營ヲ一任スルニ非スシテ鑛業權者カ他ノ者ト契約シ鑛業權者自ラ手ヲ下シテ採取ヲ爲サス其者ヲシテ鑛業權者ノ監督ノ下ニ其從業者トシテ鑛物ノ採取ニ從事セシメ採取シタル鑛物ニ對スル權利ハ採取ト同時ニ鑛業權者ヨリ採取者ニ移轉セシムルカ如キハ鑛業權者自カラ鑛業ノ管理經營ヲ爲スモノニ外ナラサレハ如上ノ契約ハ無效ニ非ス（大正六・一一・二七）

○同　上　鑛業權者カ自己ノ經營スル鑛山ニ於テ其監督ノ下ニ採取者ヲシテ鑛物ヲ採取セシムル場合ニ於テモ鑛物ノ所有權ハ先ツ鑛業權者ニ歸スヘキハ當然ナレトモ鑛業權者ト採取者トノ間ニ於ケル契約ヲ以テ採取者カ採取シタル鑛物カ鑛業權者ノ所有ニ歸スルト共ニ即時ニ該所有權ヲ採取者ニ移轉スヘキ旨ヲ定ムルハ契約當事者ノ自由ニシテ之ヲ禁止スヘキ理由ナシ（大正・六・一一・二七）

○同　上　鑛業權ノ讓渡ハ之ヲ鑛業原簿ニ登錄スルニ非サレハ其效力ヲ生セサルモノナルカ故ニ鑛業權讓渡契約ニ因リテ生シタル讓受人ノ權利ハ其登錄ヲ經サル間ハ當事者間ニ債權的效力アルニ過キス從テ其讓受人ハ未タ鑛業權者ニ非ス而シテ鑛業權ヲ有セスシテ鑛物ヲ採掘シタル者ハ刑罰ニ處セラルルコト朝鮮鑛業令第四十四條第一項ノ規定スル所

卷	頁
二	一八六
三	一八七
三	九〇〇
四	一〇一一
四	一〇一一

ナルヲ以テ鑛業權ノ讓渡人カ其登錄前ニ於テ其讓受人ニ對シ鑛物ノ採掘權ヲ許與スル契約ノ如キハ法令ノ認容セサルモノナルコト明瞭ナリ（大正九・一一・一九）

○同　上　朝鮮鑛業令ハ鑛業權ノ讓渡ハ鑛業原簿ニ登錄ヲ爲スニ非サレハ其效力ヲ生セサルコトヲ規定スルヲ以テ登錄前讓受人ニ於テ鑛物ヲ採掘シタルトキハ鑛業權ヲ有セスシテ採掘シタルモノトナリ刑罰ニ處セラルルヲ免レス從テ登錄前ニ讓渡ノ效力ヲ生セシメ讓受人ニ鑛物ヲ採掘スルノ權ヲ許與シ其代償金ヲ定ムルモ其契約ハ公益規定ニ反シ不法ノ原因ヲ帶有スルニ依リ無效ニ歸スルト同時ニ授受シタル代償金ハ不法ノ原因ノ爲メニ給付シタルモノニシテ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス（大正一一・六・三〇）

○契約證書ノ解釋　契約證書ニ署名シタル者ハ其契約證書ニ記載シタル明文ニ依據シ契約ヲ爲シタルモノト推定セラルヘキモノナルヲ以テ裁判所カ契約證書ノ眞正ニ成立シタルコトヲ認メタル以上ハ之ニ署名シタル者ニ於テ證書記載ノ明文ニ依據シ契約ヲ爲シタルモノト一應認メサルヘカラサルモノナリト雖之カ爲メニ他ノ事實若クハ證據ヲ資料トシテ以テ契約者ノ眞意ヲ判斷シ其眞意カ證書記載ノ明文ニ符合セサルモノト認ムル場合ニ於テハ其明文ニ反シテ契約ノ趣旨ヲ解釋スルコトヲ得サルモノニ非ス（大正六・三・九）

○漁業權讓渡契約ノ效力　漁業權讓渡ノ契約ハ朝鮮總督ノ許可ニ依リ始メテ權利移轉ノ效力ヲ生スルモノニシテ其許可以前ニ在リテハ單ニ當事者間ニ權利ヲ移轉スヘキ債權的權利義務ヲ生スルニ止マルモノトス（大正六・一一・九）

○同　上　漁業權讓渡ノ契約アリタルモ未タ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケスシテ漁業權ノ移轉セサルニ先タチ其漁場ニ於テ利益ノ收得ヲ爲シタル讓受人ノ行爲ハ讓渡人ノ漁業權ヲ侵害シタルモノニ外ナラス（大正六・一一・九）

○同　上　漁業權讓渡ノ契約ハ朝鮮總督ノ許可ニ依リテ始メテ權利移轉ノ效力ヲ生シ其ノ許可以前ニ在テハ單ニ當事者間ニ漁業權ヲ移轉セシムヘキ債權的權利關係ヲ生スルニ過キス而シテ此種債權的權利ノ讓渡ニ付テハ債權讓渡ノ手續

卷	頁
七	四三五
九	二三一
四	一五一
四	九四二
四	九四二

ヲ履踐スヘキモノナルヲ以テ許可以前ニ於テ讓受人ヨリ更ニ他人ニ讓渡シタルトキハ新ニ之ヲ讓受ケタル者ハ漁業權者ト協力シテ漁業權讓渡ニ因ル許可出願ノ手續ヲ爲スヘキモノトス

讓受人カ許可以前ニ於テ前示債權的權利ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ他ニ特別ノ事由ナキ限リハ讓渡ニ依リテ其ノ權利關係ヲ脫退シタルモノト認ムルヲ相當トス從テ脫退後ニ於テ欺罔手段ヲ施シ自己名義ニ許可出願ノ手續ヲ爲サシムルノ權利ヲ獲得シタルトキハ財產上不法ノ利益ヲ得タルモノニシテ詐欺罪ヲ構成スルモノトス

現在ニ漁業權名義ヲ有セサル者ニ對シテ漁業權讓渡ニ因ル許可出願ノ手續ヲ爲サシムル債權的權利ヲ獲得スル民事訴訟ヲ提起シ其ノ勝訴ノ確定判決ヲ得タルトキト雖財產上ノ利益ヲ有スルニ至ルコト明ナルヲ以テ其ノ權利取得ハ詐欺罪ノ目的タルコトヲ得ルモノトス　（大正一二・六・二一）

○營業讓渡契約ノ趣旨及效力　營業讓渡ノ契約アリタルトキハ當事者間ニ其意義ヲ明示セサル限リハ營業財產ノ包括的移轉ヲ目的トスル契約ナリト解スヘク官廳ノ許可ニヨル營業自由ノ如キ一個ノ財產權トシテ讓渡シ得ヘカラサルモノノ移轉ヲ目的トスル契約ナリト解スヘキモノニアラス　（大正七・四・三〇）

○共同漁業契約ノ趣旨　漁業權者カ單ニ自己ノ權利ニ屬スル漁場ニ於テ他人ト共同シテ漁業ヲ經營スヘキ旨ノ約旨ト漁業權者カ自己ノ有スル漁業權ヲ他人トノ共有ト爲スヘキ旨ノ約旨トハ彼此其內容ヲ異ニスルモノナルカ故ニ縱令前者ノ契約ヲ肯定シタルトキト雖當然後者ノ契約ノ存在ヲ肯定セサルヘカラサルモノニ非ス　（大正八・三・二一）

○郵便所長ノ責任ニ關スル訓令（郵便所長服務規程第二條第二項）ノ趣旨ト被用者ノ犯罪行爲ニ因ル賠償責任ヲ內容トスル契約ノ效力　大正二年三月朝鮮總督府訓令第八號朝鮮總督府郵便所長服務規程第二條第二項カ郵便所長ノ第三者ノ行爲ニ因ル民事上ノ損害賠償責任ヲ規定セルモノナリトセハ訓令ヲ以テハ斯ル事項ヲ定メ得ヘキモノニ非サレハ同服務規程ハ法律トシテ一般遵由ノ效ナカルヘシト雖當事者カ同服務規程ノ規定ヲ援用シ其契約ノ內容ト爲スハ何等妨ナキ所ニシテ其事項カ公ノ秩序善良ノ風俗ニ反セサル限リ之ヲ內容トスル契約ハ有效ニシテ當事者カ之ニ羈束セラルヘキコト言ヲ俟タス

右郵便所長服務規程第二條第二項ハ郵便所所屬ノ雇員又ハ傭人カ其職務ノ執行ニ關シ其行爲ニ因リ政府ノ損害ヲ惹起シタルトキハ其行爲カ不可抗力ニ基因スル場合ノ外總テ郵便所長ニ於テ其損害ヲ賠償スヘキ義務アリトスル趣旨ナリ從テ雇員又ハ傭人ノ行爲カ犯罪行爲ナルトキト雖モ苟モ其行爲カ其職務ノ執行ニ關連シ之ニ因リテ政府ニ損害ヲ生セシメタル以上ハ郵便所長ニ於テ其損害ヲ賠償セサルヘカラサルモノナルモ之カ爲同規定ヲ內容トスル契約ハ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスルモノト云フヲ得ス　（大正九・三・二）

○賣主名義ノ查定ト契約ノ解釋　賣主カ土地賣買契約成立後未タ所有權移轉ノ登記義務ヲ履行セサル前ニ於テ賣主名義ヲ以テ土地調查令ニ依ル所有申告ヲ爲シタルトキハ所有權ノ既ニ買主ニ移轉シタルニ拘ラス恣ニ冒認シテ所有申告ヲ爲シタリト解センヨリハ寧ロ賣主トシテ所有權移轉ノ登記義務ヲ履行スル便宜上之カ所有申告ヲ爲シタルニ外ナラサルト共ニ買主ニ於テ其旨趣ヲ諒シ賣主名義ヲ以テ所有申告ヲ爲スコトヲ容認シタルモノト認ムルヲ取引ノ通念ニ適スルモノト爲スヘク斯ル場合ニ在テハ其當事者間ニハ明示又ハ默示ノ合意ニ依リ一種ノ信託關係發生シ買主ハ內部關係ニ於テ所有權ヲ保留シ賣主ハ外部關係ニ於テ所有者トナリテ查定又ハ裁決ヲ受ケ賣主名義ニ所有權確定シタルトキハ之ト同時ニ別段ノ意思表示ヲ要セスシテ當然其所有權ハ買主ニ移轉シ賣主ハ賣買名義ニ因ル所有權移轉ノ登記ヲ爲スコトヲ約シタルモノト解スルヲ妥當トス　（大正一〇・一一・八）

○漁業組合員相互間ニ於ケル入漁契約ノ效力　漁業組合ノ有スル漁業權ニ付一部ノ組合員カ組合規約ニ依リ一定ノ地先海面ニ於テ特定ノ漁業ヲ爲ス權利ヲ有スル場合ニ於テ組合規約ニ別段ノ定ナキ限リ該組合員ハ其ノ權利ヲ有セサル他ノ組合員ニ對シ其ノ地先海面ニ於テ一定ノ期間同種ノ漁業ヲ爲スコトヲ認容スル趣旨ノ契約ヲ爲スコトヲ妨

ケス斯ル契約ハ一ノ債權契約トシテ有效ナリトス（大正一三・九・二六）

○登記申請手續ト同時ニ爲スヘキ代金支拂ノ場所　賣買ニ因ル代金支拂ノ債務カ賣買ノ目的物タル土地ニ付所有權移轉登記ヲ爲スト同時ニ履行スヘキ關係ニ在ルモノナルトキハ其ノ履行ノ場所ハ一應所轄登記所所在ノ場所トスル約旨ト解スルヲ相當トス（大正一五・一一・二二）　二三　二七六

○强制執行ヲ爲ササル旨ノ契約ノ效力　訴訟ノ當事者間ニ原告勝訴ノ判決確定スルモ强制執行ヲ爲ササルヘキ旨ヲ約シタルニ拘ラス之ニ違反シテ强制執行ヲ爲スハ不當ニシテ相手方ハ之ヲ拒否スルノ權利ヲ有スルモノトス（昭和二・一・二五）　一四　二

○保證金ノ性質　保證金ハ債務者ノ義務ノ履行ヲ擔保スルコトヲ目的トスル信託讓渡ニシテ債務者カ完全ニ此ノ義務ヲ履行スルカ若ハ不履行ニ因ル損害カ保證金以下ニ止マルトキハ擔保ノ目的ハ全部又ハ一部消滅スルカ故ニ玆ニ始メテ此ノ殘存額ニ付テ目的ノ消滅ニ因ル返還請求權ヲ生ス（昭和二・三・一八）　一四　七四

○手形割引ニ因ル擔保契約　當事者カ將來其ノ一方ニ於テ相手方ノ振出、裏書又ハ引受ヲ爲シタル手形ニ付其ノ所持人ヨリ割引ヲ請求セラルルコトアルヘキヲ豫定シ之ヲ條件トシテ割引ヲ爲ス手形ノ金額ト同額ノ金錢債務ヲ負擔スルコトヲ約スルハ手形割引ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ヲ他ノ方法ニ依リテ塡補セムトスル趣旨ニ外ナラサレハ一種ノ擔保契約トシテ其ノ效力ヲ認ムヘキモノトス（昭和二・五・三）　一四　一四三

○穀物市場仲買人ニ對スル延取引注文ト市場外ニ於ケル取引　朝鮮ニ於ケル穀物市場所屬ノ仲買人ニ對シ市場ニ於ケル穀物ノ延取引ヲ委託シタル場合ニ於テハ別段ノ意思表示ナキ限リ當該取引ヲ市場ニ於テ爲スコトヲ要件トシタルモノト認ムヘキモノトス（昭和三・七・三一）　一五　三三七

水量十分ナラスシテ全當ヲ灌漑スルニ足ラサルトキ各堌ノ何レカ先ニ又幾何ノ量ヲ引水シ得ヘキカノ如キ事項ハ自ラ慣習ニ依リテ定マレル所ナルモ蒙利當ノ所有者其ノ他利害關係人ノ合意ヲ以テ有效ニ之ニ關スル協定ヲ爲スコトヲ得ルモノトス（昭和三・一〇・五）　一五　二七五

○前項協定ニ因ル水利權行使ノ義務ト其ノ相續性　各別ノ堌ニ依リ引水スル數箇ノ水利權ノ行使ニ關シ權利者相互間ニ爲ス協定ノ效力ハ普通債權關係ニ屬シ一方ハ他方ニ對シ協定ノ趣旨ニ從ヒテ各自ノ水利權ヲ行使スヘキ義務ヲ負ヒ且其ノ效力ハ特別ノ事情存セサル限リ特定承繼人ニ及フモノトス（昭和三・一〇・五）　一五　二七五

○內容ノ不確定ト契約ノ成否　契約ノ滿期後一方ノ當事者カ繼續申出テタルトキハ協定ノ上相手方之ニ應スル義務アル旨定メタル場合ニ於テハ當事者ノ意思ハ協定ナキ限リ契約ヲ成立セシメサルノ趣旨ニ解スヘキニアラスシテ一方ノ意思表示ニ依リ契約ヲ成立セシメ給付ノ內容ヲ雙方ノ合意ヲ以テ確定スヘキ趣旨ニアルモノト解スルヲ相當トス（昭和一〇・六・二一）　一五　二七五

○當事者協定ノ上爲スヘシト定メタル場合ノ確定方法　如上ノ場合ニ當事者ノ一方ヨリ契約ヲ成立セシムルノ意思表示アルニ拘ラス相手方カ不當ニ協定ヲ爲ササル場合ニ於テハ協定成ラサル場合ノ補充的確定方法ヲ定メタルトキハ之ニ依ルヘク之ナキ場合ニハ客觀的ニ相當ナル範圍ニ於テ裁判所ノ判斷ヲ求ムヘキモノトス（昭和一〇・六・二一）　一三　一五九

○塡補賠償ノ豫定ト契約ノ解除　賣買當事者間ニ授受セラレタル契約金ニ付買主カ違約スルトキハ之ヲ無效トシ賣主ニ還付アルトキハ其ノ倍額ヲ償還スヘキ旨定メアル場合ニ於テハ協定成ラサル場合ノ補充的確定方法ヲ定メタルモノトシ解スヘク若シ右賠償カ履行ニ代ル損害ヲ豫定セルモノナルニ於テハ履行期ニ於ケル一方ノ違約ニ因リ當然契約ヲ解除セシムル約旨ナリト解スルヲ相當トス（昭和一一・三・一七）　一三　一五九

第五百三十三條

○不履行ノ意思表示ヲ爲シタル雙務契約當事者ノ責任　雙務契約ニ於テ同時履行ノ義務アル場合ニ其履行期ヲ經過シ當事者ノ一方カ其義務ヲ履行セサル意思ヲ的確ニ表示シタルトキハ相手方ハ自己ノ義務ノ履行ヲ提供セサルモ其當事者ノ一方ハ義務ノ履行ヲ爲ササル意思表示ニ依リ當然不履行ノ責アルモノナレトモ其意思ノ表示カ履行期前ナルトキハ義務ノ履行ヲ爲サスシテ其期限ヲ經過シタルトキ不履行ノ責任ヲ生スルモノトス（大正六・三・一三）

○同時履行ト反對ノ特約　雙務契約當事者ノ一方ハ相手方ノ債務履行ヲ提供スルマテ自己ノ債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得ルモノナレトモ反對ノ特約アルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス（大正七・三・一九）

○債務ノ否定ト同時履行ノ抗辯　同時履行ノ抗辯ナルモノハ相手方カ其債務ノ履行ヲ提供スルマテ自己ノ債務ノ履行ヲ拒ムニ在ルヲ以テ自己ノ債務ノ存在ヲ前提トセサルヘカラサルモノニシテ自己ノ債務カ消滅シタリトノ抗辯トハ相容レサルモノトス（大正七・四・五）

○雙務契約上ノ履行請求ト反對給付提供ノ要否　雙務契約當事者ノ一方カ相手方ニ對シテ履行ノ請求ヲ爲スニハ特約ナキ限リハ自己ノ債務ノ履行又ハ履行ノ提供ヲ要件トナスモノニ非ス（大正七・五・一四）

○「登記申請若ハ證明申請カ受理セラレタル時直ニ代金ヲ支拂フヘキ」旨ノ契約ト同時履行　土地所有權移轉登記ノ申請若クハ證明ノ申請カ登記官吏若クハ證明官吏ニ受理セラレタル時直チニ賣買代金ヲ支拂フヘキ旨ノ契約ニ對シテハ同時履行ノ原則ヲ適用スヘキモノニシテ買主ノ代金支拂ノ義務ハ登記又ハ證明カ受理セラレタル後ニ非サレハ履行期ニ達セサルモノト謂フヲ得ス（大正七・五・二八）

○請求拒絕ト不履行ノ責任　債務履行ノ請求拒絕ノ問題ト債務不履行ノ責任問題トハ自ラ別個ノ問題ニ屬シ前者ニ付テハ同時履行ノ抗辯權ヲ援用シテ之ヲ行使スルヲ要スト雖後者ニ付テハ然ラサルモノトス（大正七・九・一三）

卷	頁
四	一七八
五	二〇一
五	二二三
五	三九一
五	四六一
五	七二九

○雙務契約不履行ノ責任ト同時履行ノ抗辯權ノ行使　同時履行ノ雙務契約ニ在リテ當事者ノ一方ニ債務不履行ノ責任アリト爲スニハ相手方ニ於テ自己ノ債務ヲ提供シ他ノ一方ノ履行ヲ催告シ他ノ一方カ其ノ債務ヲ履行セサルコトヲ要スルモノナレハ相手方カ其債務ヲ提供セスシテ單ニ期日ニ至リ他ノ一方ニ對シ債務ヲ履行スヘキコトヲ催告シタル場合ニ他ノ一方カ其ノ債務ノ履行ヲ爲ササルモ不履行ノ責アリト爲スヲ得サルモノニシテ相手方ノ履行ノ催告ニ對シ同時履行ノ抗辯ヲ爲シタルト否トハ敢テ問フ所ニ非ス（大正八・六・一四）

○債權者ノ受領遲滯ト同時履行ノ抗辯權　雙務契約ノ當事者ノ一方カ曾テ一度現實ノ履行ノ提供ヲ爲シ又ハ相手方カ豫メ受領拒絕ノ意思表示ヲ爲シタル場合ニ履行ニ必要ナル準備ヲ爲シ因テ相手方ヲ受領遲滯ニ付シタリトスルモ其提供又ハ準備ニシテ繼續スル場合ハ格別然ラサルニ於テハ相手方ハ之ニ依リ反對給付ニ付同時履行ノ抗辯權ヲ喪失スヘキモノニ非ス（大正九・二・一七）

○雙務契約ニ於ケル相手方付遲滯ノ要件　同時ニ履行スヘキ雙務契約ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ相手方ヲシテ履行遲滯ノ責ニ任セシムルニハ自己ノ債務ニ付辨濟ノ提供ヲ爲ササルヘカラス然ラサルトキハ相手方ハ縱令辨濟ヲ爲サスシテ履行期日ヲ經過スルモ之カ爲ニ直ニ遲滯ノ責ヲ負フヘキモノニ非ス從テ相手方ノ遲滯ヲ前提トスル民法第五百四十一條ノ契約解除權ハ發生セサルモノトス（大正九・六・八）

○同　上　雙務契約ノ當事者ノ一方ハ先ツ自己ニ屬スル債務ノ履行ヲ提供シテ相手方ノ債務履行ヲ催告スルニ非サレハ相手方ハ縱令其ノ債務ヲ履行セサリシトスルモ履行遲滯ノ責ヲ負フコトナシ（大正九・一二・三）

○同　上　同時履行ノ雙務契約ニ在リテハ當事者ノ一方ハ先ツ自己ニ屬スル債務ノ履行ヲ提供シテ相手方ノ債務履行ヲ催告スルニ非サレハ相手方ハ其期限ニ債務ヲ履行セサルモ此一事ヲ以テ直ニ不履行ノ責アリト爲スコトヲ得ス（大正一〇・一〇・二五）

卷	頁
六	四二七
七	五一
七	二三二
七	四三九
八	三四九

○**同　上**　同時ニ履行スヘキ雙務契約ノ場合ニ於テ相手方ヲ遲滯ニ付スルニハ啻ニ相手方ニ債務不履行ノ事實アルノミヲ以テ足レリトセス自己ノ債務履行ヲ提供セサルヘカラサルモノトス（大正一一・一一・二一）

○**代金支拂ト移轉登記トヲ同時ニ履行スヘキ場合ニ於ケル履行提供ノ方法**　相手方カ土地代金支拂ノ義務ヲ負ヒ自己カ土地所有權移轉登記手續履行ノ義務ヲ負ヒ且同時ニ之ヲ履行スヘキ場合ニ於テ登記手續ノ履行ニハ相手方ノ行爲ヲ要スルコト勿論ナルヲ以テ之カ提供アリタリト爲スニハ必スシモ登記手續ニ關スル一切ノ書類ヲ登記所ニ持參シ相手方ノ來會ヲ待チ居ルカ如キ現實ノ提供ヲ爲スヲ要セス相手方カ受領ヲ申出ツルニ於テハ何時ニテモ現實ノ提供ヲ爲シ得ル程度ニ之ヲ準備シ其旨ヲ通知シテ其受領ヲ催告スルヲ以テ足リ其準備アリタリト爲スニハ必スシモ登記手續ニ關スル一切ノ書類ヲ登記所ニ持參スルヲ要セス又必スシモ自身登記所ニ出頭シテ相手方ノ來會ヲ待チ居ルヲ要セサルモノトス（大正九・六・八）

○**登記濟（證明濟）ノ上代金ヲ支拂フヘキ旨ノ契約ト同時履行**　不動產賣買契約ニ於テ當事者カ不動產ノ所有權移轉登記（若クハ證明）濟ノ上代金ヲ支拂フコトヲ約シタル場合ニ於テハ其約旨ハ特別ノ事情ナキ限リ不動產所有權移轉登記（若クハ證明）義務ト代金支拂義務ト同時ニ履行スヘキコトヲ約シタルモノト解スヘキモノトス（大正九・一二・三）

○**引換履行ヲ爲スヘキ原告ノ反對給付ニ付爭アル場合ト裁判所ノ判斷**　原告カ被告トノ間ニ同時履行ノ雙務契約ノ締結セラレタルコトヲ原因トシ被告ニ對シ自己ノ債務履行ト引換ニ反對給付タル債務ノ履行ヲ請求シ被告カ自己ノ債務ヲ爭フノミナラス原告ヨリ受クヘキ反對給付ノ內容範圍ヲ爭ヒ原告ノ同時履行ノ請求ヲ拒絕セントスル意思ノ認メ得ヘキ場合ニ於テハ裁判所ハ被告ノ債務ニ付テノミ判斷スルニ止マラス更ニ其反對給付タル原告ノ債務ノ內容範圍カ原告ノ主張ノ如キモノナルヤ否ヲ確定スルニ非サレハ原告ノ請求ヲ是認スヘキニ非ス（大正九・一二・二一）

○**同時履行ノ抗辯ノ認容ト判決主文**　雙務契約ニ於テ當事者雙方ノ債務ヲ同時ニ履行スヘキ場合ニ當事者一方カ自己ノ債務ノ履行ヲ提供スルコトナク單ニ相手方ニ其債務ノ履行ヲ請求シタルニ對シ相手方ヨリ同時履行ノ抗辯ヲ提出シタルトキハ裁判所ハ特ニ原告ニ於テ反對ノ意思ヲ表示セサル限リハ被告ニ其債務ノ履行ヲ條件トシテ交換的ニ債務ノ履行ヲ爲スヘキ旨ノ判決ヲ與フヘキモノトス（大正一〇・九・二〇）

○**債權者ノ代位請求ト同時履行ノ抗辯アル場合ノ判決**　原告カ雙務契約ノ當事者ニ非サルモ其當事者ノ債權者トシテ自己ノ債權ヲ保全スル爲其債務者タル當事者一方ノ相手方ニ對スル債權ヲ行使セントスル場合ニ於テ其相手方タル被告カ同時履行ノ抗辯ヲ提出シタルトキト雖債務者カ現實ノ履行ヲ爲ササル間ハ其履行ト交換的ニ被告カ原告ニ履行ヲ爲スヘキ旨ノ判決ヲ爲スヘキモノトス（大正一〇・九・二〇）

○**相手方カ債務履行ヲ爲ササル意思ノ明確ナル場合ト自己ノ履行意思**　雙務契約ニ於テ當事者ノ一方カ債務ノ提供ヲ爲スモ相手方ニ於テ其債務履行ヲ爲ササル意思明確ナル場合ニハ假令一方ハ自己ノ債務ノ提供ヲ爲ササルモ相手方ハ期限ヲ徒過スルト共ニ遲滯ノ責ヲ免レサルモ而カモ此場合ニ於テモ少クトモ一方ニ眞實債務ヲ履行スルノ意思ヲ有セサルヘカラサルモノトス（大正一〇・一〇・一四）

○**同時履行ノ雙務契約ト當事者雙方ノ期日徒過**　同時ニ履行スヘキ雙務契約ニ於テ當事者雙方カ契約ニ定メタル履行期日ニ各債務ノ履行ヲ爲サスシテ期日ヲ徒過シタルトキハ爾後該債務ハ期限ノ定メナキ債務ト同一視シ何時ニテモ雙方ヨリ履行ノ請求ヲ爲シ得ヘキモノナルモ之カ爲雙方ノ債務カ各獨立シタル片務契約ニ變スルモノニ非ス依然トシテ雙務契約タル性質ヲ有スルモノナレハ更ニ當事者ノ一方ヨリ自己ノ債務ノ履行ヲ提供シ相手方ニ對シ其債務ノ履行ヲ請求シ相手方カ其債務ノ履行ヲ爲ササル場合ニ始メテ債務者ニ遲滯ノ責任ヲ生ス債務ノ履行ノ提供アリタルニ拘ラス債權者カ債務ノ履行ノ受領ヲ拒ミタルトキハ提供アリタルトキヨリ遲滯ノ責ニ任ス（大正一〇・一一・一五）

○**履行期日ノ意義**　當事者雙方ノ債務ヲ同時ニ履行シ得ヘキ雙務契約ニ於テ日ヲ以テ履行期限ヲ定メタル場合ニ於

テハ期日ノ最初ノ時間ヨリ最終ノ時間ニ至ル迄ヲ以テ履行期限ト約シタルモノト解スヘク從テ繰令期日ノ中間時ニ於テ當事者ノ一方ヨリ自己ノ債務ノ履行ヲ提供シテ相手方ノ履行ヲ請求シタルトキト雖別段ノ事情ナキ限リ（例令ハ商法第二百八十三條所定ノ如キ場合）相手方ハ直ニ其請求ニ應スル義務ナク期日ノ最後ノ瞬間迄ニ自己ノ債務ノ履行ヲ爲スコトヲ得ヘク從テ當事者ノ一方ニ於テモ其瞬間迄ニ相手方ノ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ヘシ（大正一〇・一一・二九）　巻　頁

○期日場所ヲ一定シタル同時履行ノ契約ト出頭セサル相手方ノ責任　賣買ノ當事者間ニ一定ノ期日ニ一定ノ場所ニ於テ同時ニ各自ノ義務ヲ履行スヘキコトヲ約定シタル場合ニ於テ一方ノミカ該期日ニ自己ノ義務履行ノ準備ヲ爲シテ該場所ニ到リ相手方ハ同日同所ニ到ラサルトキハ一方ノ當事者ハ現實ニ自己ノ義務履行ノ提供ヲ爲シ得サルヘキハ勿論ナレハ斯カル場合ニハ其ノ一方ノ當事者ハ自己ノ遲滯ノ責任ヲ免ルヘキ有效ナル履行ノ提供ヲ爲シタルモノト爲シ相手方ニハ遲滯ノ責任發生スルモノトス（大正一一・一一・一〇）　八　四八八

○履行ニ付特約ノ認ムヘキ雙務契約ト同時履行ノ判斷　雙務契約ノ當事者カ互ニ相手方ノ債務履行ヲ俟ツテ自己ノ債務ヲ履行スヘキ特約アリト主張シタル場合ニ裁判所カ其ノ何レノ主張特約ヲモ認メ得サルトキハ雙務契約上債務履行ノ原則ニ依リ各當事者ノ債務ハ之ヲ引換ニ履行スヘキモノト判定スヘキモノトス（大正一二・五・四）　九　四七七

○相手方ノ不履行ノ意思明確ナル場合ト付遲滯ノ要件　同時履行ノ雙務契約ニ在リテ其ノ債務ノ履行カ期限ノ定メナク且當事者ノ一方カ豫メ相手方ノ履行ヲ受領スルコトヲ拒絕シ自己ノ義務ヲ履行セサル意思明確ナル場合ニハ相手方タル債權者ハ其ノ當事者ノ一方ニ對シ現實ニ義務ノ履行ヲ提供シ若クハ履行ノ準備ヲ爲シタルコトヲ通知スルノ要ナク單ニ履行ノ催告ヲ爲スニ依リ遲滯ニ付シ得ヘキモノナルヲ以テ斯ル場合ニ債權者カ相當期間ヲ定メテ履行ノ催告ヲ爲シタルトキハ其ノ催告ハ一面債務者ヲ遲滯ニ付スル效力ヲ有スルト同時ニ一面ニハ民法第五百四十一條所定ノ履行ノ催告タル效力ヲ有シ其ノ期間ヲ經過シ履行ヲ爲ササルトキハ契約ヲ解除スルコトヲ得ヘキモノニシテ債務者ヲ遲滯ニ付スル催告ト民法第五百四十一條所定ノ履行ノ催告トヲ區別シ前後時ヲ異ニシ二重ニ催告ヲ爲スノ要ナキモノトス（大正一二・一二・一四）　一〇　一三四

○同時履行ノ債務ニ期限ノ定ナキ場合ト付遲滯ノ要件　雙務契約ニ因リテ生シタル債務カ同時ニ履行ヲ爲スヘキ場合ニ於テ其ノ履行ニ付期限ノ定ナキトキハ當事者ノ一方ノ債務ノ履行ヲ提供シ相手方ノ債務履行ト同時ニ當然相手方ニ遲滯ノ責任ヲ生スヘキモノニ非スシテ當事者ノ一方ヨリ自己ノ債務ノ履行ヲ提供シ相手方カ債務ノ履行ヲ爲ササル場合ニ始メテ相手方ニ遲滯ノ責任ヲ生スヘキモノトス（大正一三・一・二九）　一〇　三四九

○雙務契約ニ於ケル同時履行ノ判定ト當事者ノ主張　雙務契約ノ當事者カ互ニ相手方ノ債務履行アリタル後ニ自己ノ債務ヲ履行スヘキ特約アリト主張シタル場合ニ於テ其ノ何レノ主張スル特約ヲモ認メ得ヘキ資料ナキトキハ各當事者ノ債務ハ同時履行ノ債務ナリト判定スヘク斯ク判定シタレハトテ當事者ノ主張セサル事實ヲ認定シタル違法アリト爲スヲ得ス（大正一四・二・二七）　二　六

○履行不能ト塡補賠償　雙務契約ニ於テ當事者ノ一方ノ債務カ其ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ履行不能ト爲リタルトキハ一方ハ自己ノ債務ノ提供ヲ爲ササルモ相手方ニ對シ履行ニ代ハル塡補賠償ヲ求ムルコトヲ得（昭和三・五・二五）　三　三三

○雙務契約ニ於ケル義務履行ノ意思ナキ當事者ト相手方ノ履行責任　雙方ノ債務カ法律上所謂同時ニ履行サルヘキ雙務契約ナルトキ當事者ノ一方ニ違約ノ責アリト爲スニハ當ニ其ノ一方ニ債務不履行ノ事實アルノミヲ以テ足レリトセス相手方ニ於テ眞實履行ノ意思ヲ有シ其ノ義務ニ屬スル履行ヲ提供シタルニ拘ラス（豫メ履行拒絕ノ意思アルトキハ言語上ノ提供ヲ以テ足ル）他ノ一方カ故ナク履行義務ヲ盡ササル場合ニ於テ始メテ認メラルルモノナルカ故ニ其ノ相手方ニ於テ眞實履行ノ意思ナク之ヲ提供セサル場合ニ於テハ他ノ一方カ義務履行ノ意思ナキコトヲ表明ス　一五　一六九

ルモ未タ以テ違約ノ責アリト爲スヲ得サルモノトス（昭和六・一二・二二）

○買主ノ所在不明ト同時履行　買主カ住所ヲ轉シ所在ヲ秘シ爲メニ賣主ハ過失ナクシテ履行ノ提供ヲナスコト能ハス且買主ニ於テ履行ノ意思ナキコト明ナルトキハ同時履行ノ場合ト雖賣主ハ契約ヲ解除スルコトナクシテ賣買ノ目的物ヲ處分スルコトヲ得ヘク之ニ對シ買主ハ賣主ノ不履行ヲ責ムルコト能ハサルモノトス（昭和八・五・一二）

○雙務契約ノ確定期限ノ延期　同時履行ノ關係ニ在ル雙務契約上ノ確定期限ヲ合意ノ上延期シタル場合ニ履行期ハ單ニ後日協定スヘク定メタルニ過キサルニ於テハ爾後雙方ノ債務ハ期限ノ定メナキモノトシテ存續スルモノトス（昭和八・一〇・二〇）

○辨濟期ヲ異ニスル債務ト同時履行　雙務契約ニ於テ雙方ノ債務ニ付互ニ異ル辨濟期ヲ定メタル場合ト雖各自カ辨濟期ヲ徒過シ結局雙方ノ辨濟期カ到來セル後ニ在リテハ一方ノ催告ニ對シ他方ハ同時履行ノ抗辯權ヲ行使スルヲ妨ケサルモノト解スヘキモノトス（昭和一一・一一・二七）

第五百三十四條

○特定物ノ賣買ト危險負擔者　朝鮮人間ニ在リテ特定物ノ賣買ニ付其契約成立後物件引渡前ニ其物ニ關シテ賣主ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ損失ノ生シタルトキハ其損失ハ買主ノ負擔ニ屬スト爲スヲ當然トス（明治四三・一一・一二）

○不特定給付ノ特定時期ト危險負擔ノ責任　不特定物タル黃鐵ヲ給付スヘキ持參債務ニアリテ債務者カ契約ノ目的物ヲ運送人ニ託シ發送シタルノミニテハ債務者ハ未タ民法第四百一條第二項ニ所謂給付ヲ爲スニ必要ナル行爲ヲ完了シタリト爲スヲ得サルヲ以テ不特定物タル黃鐵ハ之ニ依リ特定セス從テ危險負擔ニ關スル民法第五百三十四條第一項ノ規定ハ其適用ナク其運送中ニ生シタル危險ハ債務者ニ於テ之ヲ負擔スヘキモノナルカ故ニ該黃鐵カ運送中ニ滅失シタル如キ場合ニハ債務者ハ更ニ其債務ノ履行ヲ爲ササルヘカラス（大正九・一二・一〇）

第五百三十五條

○本條第二項ノ適用アル場合　未登記若クハ未證明ノ不動產所有權ヲ賣買シ移轉ノ登記若クハ證明ヲ爲シタル後代金ヲ支拂フヘキ旨ノ契約成立シタルトキハ賣主ハ先ツ以テ自己名義ノ所有權保存ノ登記若クハ證明ヲ受ケ然ル後之ヲ買主ニ移轉ノ登記若クハ證明ヲ爲スヘキ義務ヲ負フモノニシテ之ヲ履行セサル間ハ代金ノ支拂ヲ請求スルコト能ハサルモノナレトモ買主ニ於テ其買受ケタル所有權ヲ處分シ其處分行爲ニ因リ土地調査令ニ依ル査定ヲシテ確定スルニ至ラシメタルトキハ卽チ買主ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ登記若クハ證明ノ義務履行ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルモノニ外ナラサルヲ以テ賣主ハ民法第五百三十六條第二項ノ趣旨ニ依リ代金請求ノ權利ヲ行使シ得ルモノトス（大正七・二・一）

第五百三十七條

○不作爲債務ノ負擔ト第三者ノ爲ニスル契約　原告カ訴外人ト合意ノ上締結シタル將來原告ニ於テハ被告ニ對シ小切手金ノ支拂ヲ求メサル旨ノ契約ハ所謂第三者ノ爲ニスル契約ニ該當シ被告カ裁判上該契約ノ存在ヲ利益ニ援用シテ原告ノ該小切手金ノ訴求ヲ爭フハ卽之カ契約ニ因ル受益ノ意思表示ヲ爲シタルモノトス（昭和五・二・一四）

第五百三十八條

○第三者ニ對スル給付ノ契約ト當事者ノ該契約解除ノ效果　契約ニ依リ當事者ノ一方カ第三者ニ對シ或給付ヲ爲スコトヲ約シタル場合ニ於テ第三者カ契約ノ利益ヲ享受スルノ意思ヲ表示シ第三者ノ權利發生シタルトキハ爾後當事者ハ雙方ノ合意ヲ以テ契約ヲ解除シ第三者ノ權利ヲ消滅セシムルコトヲ得サルモノトス（大正一一・八・二五）

卷	頁
一八	二五七
二〇	二〇九
二〇	三八九
二三	三八三
二	一四三
七	四六一
五	三三
一七	三五
九	三一五

第三款　契約ノ解除

合意解除

○債務履行ノ完了ト合意上ノ契約解除　賣買契約ニシテ完全ニ履行ヲ了リタル後ニ在テハ最早其契約ハ解除シ得ヘカラサルモノナルヲ以テ縱シヤ當事者間ニ解除ノ合意アリトスルモ固ヨリ契約解除トシテノ法律上ノ效果ヲ生スヘキモノニアラス（明治四四・一二・一五）

○契約履行前ノ合意解除　當事者カ契約締結後履行完了前ニ於テ契約解除ノ合意ヲ爲スコトハ當事者ノ自由ニシテ其合意ハ有效ナリ（大正六・六・二九）

○合意解除ト損害賠償請求權　當事者カ合意解除ヲ爲スニ當リ當事者ノ一方カ他ノ一方ニ對シ損害賠償ノ請求權ヲ有スルト否トハ各場合ニ依リテ異リ若シ當事者ニ於テ義務ノ不履行ナキニ拘ラス解除ノ合意ヲ爲シタルトキハ不履行ニ因ル損害賠償請求權ハ發生セス之ニ反シ若シ當事者ノ一方カ他ノ一方ノ義務不履行ヲ原因トシテ損害賠償ノ請求ヲ爲シ得ヘカラサルモノニ非シタル場合ニ於テハ當事者ノ一方カ他ノ一方ノ義務不履行ヲ原因トシテ損害賠償ノ請求ヲ爲シ得ヘキコトハ當然ナリトス（大正六・六・二九）

○合意解除ヲ爲シ得ヘキ場合　契約ノ當事者ハ其一方ニ不履行ノ責アル場合ト否トヲ問ハス雙方合意ノ上契約ヲ解除スルコトヲ得（大正九・一二・二四）

○合意解除ト損害賠償請求ノ留保　合意解除ノ結果契約ハ全然解除セラレ不履行ニ因ル法律上ノ解除權ヲ行使シタルト同一ノ目的ヲ達シ得ヘシト雖モ合意解除ハ法律上ノ解除權ノ行使ニ非サルヲ以テ當事者カ別段ノ定ヲ爲ササル限リ各當事者ハ不當利得ノ原則ニ依リ互ニ給付シタル物ノ返還請求權アルニ過キスシテ民法第五百四十五條第三項ハ其適用ナキモノナルカ故ニ不履行ニ依リ生シタル損害ナルト特約ニ依リ豫定セル違約金タルトヲ問ハス之カ請求ヲ爲スヲ得サルモノナルモ當事者カ合意解除ヲ爲スニ當リ明示又ハ暗默ノ合意ニ依リ特ニ不履行ニ因ル損害賠償ノ請求ヲ留保シタルトキハ其請求ヲ爲シ得ヘキコト論ヲ俟タス（大正九・一二・二四）

○合意ニ因ル契約解除ト同時履行ノ抗辯權　民法第五百四十五條ハ解除權ヲ行使シタル場合ノ規定ナレハ當事者ノ合意ニ因リ契約ヲ解除シタル場合ニハ之ヲ適用スルヲ得ス當事者ノ合意ニ因リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テ若シ同條ト同一ノ效果ヲ生セシムル趣旨ノ特約ヲ爲シタルトキハ固ヨリ其特約ニ從フヘキモ然ラサレハ民法第七百三條以下不當利得ノ規定ニ依リ返還義務ヲ生スルニ過キスシテ同時履行ノ抗辯權ヲ生スルコトナキモノトス（大正一〇・三・八）

○第三者ノ爲ニスル契約ノ合意解除ト其ノ時期　契約ニ依リ當事者ノ一方カ第三者ニ對シ或給付ヲ爲スコトヲ約シタル場合ニ於テ第三者カ契約ノ利益ヲ享受スルノ意思ヲ表示シ第三者ノ權利ヲ消滅セシムルコトヲ得サルモノトス（大正一一・八・二五）

○指名債權ノ讓渡契約ノ合意解除ト其ノ對抗要件　指名債權ヲ讓渡シタル後ニ至リ其ノ讓渡契約ヲ解除スルコトハ當初ヨリ契約ヲ締結セサリシカ如キ狀態ニ回復セシムルコトヲ目的トスルモノニシテ當事者ノ合意アル場合ニハ有效ト解スルコトヲ妨ケス

右ノ場合ニ債權者ノ交替スルコトハ讓渡ノ場合ト異ナラサルカ故ニ之ヲ債務者ニ通知スルカ又ハ債務者ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ以テ債務者其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス而シテ債務者ニ對スル通知ハ債權讓受人ヨリ爲スヲ以テ足ルモノトス（昭和二・四・一二）

參照頁		
一四〇五		
四六〇二		
四六〇二		
四六〇二		
七五一八		
七五一八		
八六三		
九三二五		
一四一〇五		

○債權讓受人ノ讓渡契約解除通知ト解除ノ推定　債權讓受人ヨリ讓渡契約解除ノ通知ヲ爲シタル以上ハ反證ナキ限リ適法ニ解除アリタルモノト推認スルヲ相當トス（昭和二・四・一二）　一四　一〇五

第五百四十條

○契約解除ト履行ノ受領ヲ拒ム意思表示ノ認定　契約ノ解除ト契約ノ履行トハ全然相反スル行爲ニシテ二者併存スルモノニ非ス從テ解除ノ意思ヲ表示シタル以上ハ履行タル代金ノ受領ヲ拒絕スル意思ヲモ表示シタルモノト認定スルハ不法ニ非ス（大正四・四・二〇）　三　一三

○還退ノ意義　還退ナル文詞ハ賣買契約ト同時ニ爲シタル解除條件附特約ノ場合ニ於テハ買戻ノ意義ニ使用セラルヲ通例トスト雖賣買契約後ニ於テハ或ハ單純ナル同契約解除ノ意義ニ使用セラレ或ハ再賣買ノ豫約ノ意義ニ使用セラルル等種々ノ場合アルヘキヲ以テ朝鮮一般ニ行ハルル慣用上常ニ必ス單純ナル契約解除ノ意義ノミニ使用セラルルモノト謂フヲ得ス（大正六・三・一三）　四　一八九

○訴狀送達ニ依ル契約解除ノ意思表示　契約解除ノ意思表示ニ付テハ法律上一定ノ方式ヲ要スルコトヲ規定セサルヲ以テ明示ノ方法ニテ又ハ默示ノ方法ニテ之ヲ爲スコトヲ得ヘキニ因リ解除權ヲ有スル者カ契約ノ存續ト相容レサル訴狀ヲ裁判所ニ提出シ其訴狀カ相手方ニ送達セラレタルトキハ暗默ニ契約解除ノ意思表示ヲ爲シタルモノト解スヘキモノトス（大正八・六・一三）　六　四一五

○舊民事訴訟法第三百八十一條ニ依ル和解ノ瑕疵ト其ノ效果　民事訴訟法第三百八十一條ニ依レル和解ハ私法上不成立又ハ無效若ハ取消又ハ解除ノ原因アルトキハ特ニ和解無效又ハ取消等ノ形成判決ヲ受クル迄モ無ク此等ノ效果ヲ生スルモノトス（大正一三・五・二二）　二　一三〇

○代位權行使者ニ對スル解除ノ意思表示　民法第四百二十三條ニ依ル代位權ノ行使ハ債權者自己ノ名ニ於テ債務者ノ權利ヲ行使スルモノナルニ依リ第三者ハ債務者ニ對スルト同シク債權者ニ對シテモ契約解除ノ意思表示ヲ爲スコトヲ得（昭和三・二・二八）　一五　五三

第五百四十一條

○契約解除ト催告期間ニ關スル朝鮮ノ慣習　契約當事者ノ一方カ其債務ヲ履行セサルトキハ一定ノ日時又ハ一定ノ期間內ニ履行スルニアラサレハ契約ノ目的ヲ達セサル場合ヲ除クノ外相手方ハ履行ヲ催告シ若シ其履行ナキトキハ契約ヲ解除スルヲ得ヘク其履行ノ催告ヲ爲スニ當リテ相當期間ヲ定ムルヲ要セサルコトハ朝鮮ニ於ケル慣習トス（明治四五・六・一八）　一　一四八三

○民事令施行後ノ契約解除方法　朝鮮ニ於テ從來朝鮮人間ノ契約ノ解除ニ付テハ當事者ノ一方カ其債務ヲ履行セサルトキハ一定ノ日時又ハ一定ノ期間內ニ履行スルニアラサレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達セサル場合ヲ除ク外相手方ハ履行ヲ催告シ若シ其履行ナキトキハ契約ヲ解除スルヲ得ヘク其履行ノ催告ヲ爲スニ當リテ相當期間ヲ定ムルヲ要セサル慣習ハ明治四十五年四月一日朝鮮民事令ノ施行ト同時ニ廢滅ニ歸シ其以後ニ於テハ民法ノ規定ニ準應シ一定ノ日時若クハ一定ノ期間內ニ履行ヲ爲スニアラサレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達セサル場合ハ催告ヲ要セサルモ否ラサル場合ニ於テハ一應相當期間ヲ定メ催告ヲ爲シ債務者カ其期間內ニ履行ヲ爲ササルトキニアラサレハ契約ヲ解除スルヲ得サルモノトス（大正六・一〇・二三）　四　八六八

○同　旨　朝鮮人間ノ契約ノ解除ニ付テモ明治四十五年四月一日朝鮮民事令施行以後ニ於テハ民法ノ規定ニ從ヒ一定ノ日時又ハ一定ノ期間內ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ハ格別其他ノ場合ニ於テモ一應相當ノ期間ヲ定メテ其履行ヲ催告シ若シ其期間內ニ履行ナキトキニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スヲ得サルモノトス（大正七・二・二六）　五　一〇六

○履行催告ト併用セル解除ノ意思表示ノ效果時期　契約當事者ノ一方カ他ノ一方ニ對シ期間ヲ定メテ契約履行ノ催告ヲ爲スト同時ニ右期間内ニ履行ナキトキハ契約ヲ解除スル意思表示ヲ爲シタル場合ニ於テハ右期間ノ經過ニ因リ契約解除權發生スルト同時ニ契約ハ解除セラルルモノトス（大正六・三・六）

○履行ノ拒絶ト解除承諾ノ推測　契約當事者ノ一方カ相手方ニ對シ約旨ニ從ヒ契約ノ履行ヲ求メタルモ相手方カ其履行ヲ拒ミタルニ依リ之ニ對シ該契約解除ノ意思表示ヲ爲シタル場合ニ於テ其相手方ノ意思ヲ推測シテ解除ノ意思表示ヲ承諾シタルモノト爲スヲ得ス（大正六・一一・一六）

○豫メ履行ヲ拒絶スル場合ニ本條催告ノ要否　債務者カ豫メ債務ノ履行ヲ拒絶スル場合ニ於テモ債權者カ契約ヲ解除スルカ爲メニハ相當ノ期間ヲ定メテ其履行ヲ催告スルコトヲ要ス（大正六・一一・一六）

○分割供給ヲ目的トスル賣買ノ一部不履行ト全契約解除　種類ニ從ヒ定メタル物ヲ數回ニ分割シテ供給スヘキ賣買契約ノ場合ハ數個ノ契約ヲ締結シタル場合ト異ナリ一個ノ契約ニシテ唯其履行期ヲ分割シタルニ過キサルモノナレハ各部分ノ不履行ハ即契約ノ不履行ニ外ナラサルヲ以テ債權者ハ之ヲ事由トシ民法第五百四十一條ニ依リ契約全部ノ解除ヲ爲スコトヲ得ルモノトス（大正九・五・一一）

○履行期日ノ意義　當事者雙方ノ債務ヲ同時ニ履行シ得ヘキ雙務契約ニ於テハ期日ノ最初ノ時間ヨリ最終ノ時間ニ至ル迄ヲ以テ履行期限ト約シタルモノト解スヘク從テ縱令期日ノ中間時ニ於テ當事者ノ一方ヨリ自己ノ債務ノ履行ヲ提供シテ相手方ノ債務ノ履行ヲ請求シタルトキト雖別段ノ事情ナキ限リ（例令ハ商法第二百八十三條所定ノ如キ場合）相手方ハ直ニ其請求ニ應スル義務ナク期日ノ最後ノ瞬間迄ニ自己ノ債務ノ履行ヲ爲スコトヲ得ヘク從テ當事者ノ一方ニ於テモ其瞬間迄ニ相手方ノ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ヘシ（大正一〇・一一・二九）

卷	頁
四	一四一
四	九八〇
四	九八〇
七	一六九
八	四八八

提供ノ要否ト相手方ノ不履行

○不履行ノ責任ト請求者ノ提供ノ要否　同時履行ノ雙務契約ニ在リテ當事者ノ一方ニ債務不履行ノ責任アリトテハ相手方ニ於テ自己ノ債務ヲ提供シ他ノ一方ノ履行ヲ催告シ爲スニハ相手方カ其債務ヲ提供セスシテ單ニ期日ニ至リ他ノ一方ニ對シ債務ヲ履行スヘキコトヲ要スルモノナレハ相手方カ其債務ノ履行ヲ爲ササルモ不履行ノ責アリト爲スヲ得サルモノニシテ相手方ノ履行ノ催告ニ對シ同時履行ノ抗辯ヲ爲シタルト否トハ敢テ問フ所ニアラス（大正八・六・一四）

○同　旨　同時ニ履行スヘキ雙務契約ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ相手方ヲシテ履行遲滯ノ責ニ任セシムルニハ自己ノ債務ニ付辨濟ノ提供ヲ爲ササルヘカラス然ラサルトキハ相手方ハ縱令辨濟ノ提供ヲ爲サスシテ履行期日ヲ經過スルモ之カ爲ニ直ニ遲滯ノ責ヲ負フヘキモノニ非ス從テ相手方ノ遲滯ヲ前提トスル民法第五百四十一條ノ契約解除權ハ發生セサルモノトス（大正九・六・八）

○同　旨　雙務契約ノ當事者ノ一方ハ先ッ自己ニ屬スル債務ノ履行ヲ提供シテ相手方ノ債務履行ヲ催告スルニ非サレハ相手方ハ縱令其債務ヲ履行セサリシトスルモ履行遲滯ノ責ヲ負フコトナシ（大正九・一二・三）

○同　旨　同時履行ノ雙務契約ニ在リテハ當事者ノ一方ハ先ッ自己ニ屬スル債務ノ履行ヲ提供シテ相手方ノ債務履行ヲ催告スルニ非サレハ相手方ハ其期限ニ債務ヲ履行セサルモ此一事ヲ以テ直ニ不履行ノ責アリト爲スコトヲ得ス（大正一〇・一〇・二五）

○相手方カ債務履行ヲ爲ササル意思ノ明確ナル場合　雙務契約ニ於テ當事者ノ一方カ債務ノ提供ヲ爲スモ相手方ニ於テ其債務履行ヲ爲ササル意思明確ナル場合ニハ假令一方ハ自己ノ債務ノ提供ヲ爲ササルモ相手方ハ期限ヲ徒過スルトトモニ遲滯ノ責ヲ免レサルモ而カモ此場合ニ於テモ少クトモ一方ニ債實債務ヲ履行スルノ意思ヲ有セサルヘ

卷	頁
六	四二七
七	二三二
七	四三九
八	三四九

カラサルモノトス　（大正一〇・一〇・一四）

○期限ノ定メナキ雙務契約ニ於テ豫メ受領ヲ拒絕シ不履行ノ意思明確ナル場合　同時履行ノ雙務契約ニ在リテ其ノ債務ノ履行カ期限ノ定メナク且當事者ノ一方カ豫メ相手方ノ履行ヲ受領スルコトヲ拒絕シ自己ノ義務ヲ履行セサル意思明確ナル場合ニハ相手方タル債權者ハ其ノ當事者ノ一方ニ對シ現實ニ義務ノ履行ヲ提供シ若クハ履行ノ準備ヲ爲シタルコトヲ通知スルノ要ナク單ニ履行ノ催告ヲ爲スニ依リ遲滯ニ付シ得ヘキモノナルヲ以テ斯ル場合ニ債權者カ相當期間ヲ定メテ履行ノ催告ヲ爲シタルトキハ其ノ催告ハ一面債務者ヲ遲滯ニ付スル效力ヲ有スルト同時ニ一面ニハ民法第五百四十一條所定ノ履行ノ催告タル效力ヲ有シ其ノ期間ヲ經過シ履行ヲ爲ササルトキハ契約ヲ解除スルコトヲ得ヘキモノニシテ債務者ヲ遲滯ニ付スル民法第五百四十一條所定ノ履行ノ催告トヲ區別シ前後時ヲ異ニシ二重ニ催告ヲ爲スノ要ナキモノトス

前項ノ場合ニ其ノ相當期間ヲ定メ履行ノ催告ヲ爲スニ當リ債權者ハ期間内ニ履行ナキトキハ期間ノ經過ト同時ニ契約ハ解除セラルヘキ旨條件附ニテ解除ノ意思表示ヲ爲スコトヲ得　（大正一二・一二・一四）

○同時履行ノ雙務契約ト當事者雙方ノ期日徒過　同時ニ履行スヘキ雙務契約ニ於テ當事者雙方カ契約ニ定メタル履行期日ニ各債務ノ履行ヲ爲サスシテ期日ヲ徒過シタルトキハ爾後該債務ハ期限ノ定メナキ債務ト同一視シ何時ニテモ雙方ヨリ履行ノ請求ヲ爲シ得ヘキモノナルモ之カ爲雙方ノ債務カ各獨立シタル片務契約ニ變スルモノニアラス依然トシテ雙務契約タル性質ヲ有スルモノナレハ更ニ當事者ノ一方ヨリ自己ノ債務ノ履行ヲ提供シ相手方ニ對シ其債務ノ履行ヲ請求シ相手方カ其債務ノ履行ヲ爲ササル場合ニ於テ始メテ債務者ニ遲滯ノ責任ヲ生ス債務ノ履行ノ提供アリタルニ拘ラス債權者カ債務ノ履行ノ受領ヲ拒ミタルトキハ提供アリタル時ヨリ遲滯ノ責ニ任ス　（大正一〇・一一・一五）

○本條期間ノ相當ハ職權調査事項ナリヤ　本條ノ規定ニ從ヒ履行ヲ催告スル爲メ定メタル期間カ相當ノ期間ナリヤ否ヤハ抗辯トシテ提出セラレタル場合ニ於テ始メテ判定スヘキモノニシテ裁判所ノ職權上調査スヘキ事項ニ屬セサルモノトス　（大正四・一・〇二六）

○本條催告期間ノ標準　債務ノ履行ニ付期限ノ定メアル場合ニ於テ其履行期以後ノ履行ノ催告ハ債務者ニ於テ大體履行ノ準備ヲ爲シ居ルコトヲ前提トスルモノナレハ債權者ハ其催告ヲ爲スニ付債務者ニ於テ最後ノ履行準備ヲ爲シテ給付ヲ完了スルニ足ルヘキ期間ヲ存スルヲ以テ足ルモノト解スルヲ相當トス　（大正九・七・六）

○債務ノ延期ト催告期間ノ標準　債務ノ履行ニ付期限ノ定メアル場合ニ於テ債務者カ其期限ヲ怠リタル爲メ債權者カ契約解除ヲ爲サント欲シ履行ノ催告ヲ爲スニハ債務者ハ該期限迄ニ大體履行ノ準備ヲ爲シ居ルコトヲ前提トシ債務者ニ於テ最後ノ履行準備ヲ爲シテ給付ヲ完了スルニ足ルヘキ期間ヲ存スルヲ以テ足ルモノニシテ債權者カ債務者ノ爲メ履次延期ヲ爲シタル事實ノ如キハ必スシモ催告期間ノ相當ナリヤ否ヤヲ決スル標準ト爲スニ足ラサルモノトス　（大正一〇・六・一七）

○本條期間相當ノ標準　本條ニ規定セル相當ノ期間トハ債務者カ催告ニ因リ始メテ履行ノ準備ニ着手シ以テ其完了マテニ必要トスル如キ十分ノ餘裕ヲ存スル期間ヲ云フモノニアラス唯債務者ノ契約上相當ノ準備ヲ了シタル履行ニ付之レカ實現ヲ期待シ得ヘキ期間ヲ指定スルヲ以テ足レリトス（大正一二・六・八）

○本條ニヨリ指定シタル期間ニ關シ法律問題トナル部分　債權者ノ指定シタル期間ノ當否ヲ判斷スルニ當リニアラス專ラ客觀的事情即チ之ヲ指定スル債權者ニ於テ當時知リ若ハ知ルヘカリシ事情ニ依リテ相當ナリトスル期間ヲ指定スヘキモノトス　（大正一二・六・八）

其判斷ノ憑據タルヘキ諸般ノ事情ノ存否如何ヲ認定スルハ事實裁判所ノ職權ニ屬スルコト論ヲ俟タサル所ナリト雖是等ノ事情カ正當ニ斟酌セラレタルヤ否ヤハ法律問題ニ屬シ上告裁判所ノ判斷ヲ受クヘキ事項ナリトス（大正一二・六・八）

○一日ニ滿タサル指定期間ノ當否　本條ニ規定スル相當ノ期間トハ債務者カ既ニ契約上相當ノ準備ヲ了シタル履行ニ付最後ノ履行準備ヲ爲シテ給付ヲ完了スルニ足ルヘキ期間ヲ謂フモノナレハ當事者雙方同時履行ノ賣買契約ニ於テ賣主カ買主ニ對シ一定ノ日ヲ指定シテ其ノ履行ヲ催告シ來リタルトキハ該催告ニ依リ賣主ハ既ニ自己ノ債務ノ履行ニ付テモ其ノ指定ノ日マテニ一切ノ準備ヲ完了スヘキコトヲ表明シタルモノト認ムルヲ相當ト爲スヘキカ故ニ斯ノ如キ場合買主カ其ノ指定ノ日ノ前日之ニ對シ賣主ノ爲スヘキ反對給付ニ付テモ同日履行スヘキコトヲ以テ催告シタルトキハ其ノ催告ノ爲ニ存シタル期間ハ假令一日ニ滿タストスルモ最後ノ履行準備ヲ爲シテ其ノ給付ヲ完了スルニ足ルモノナル以上其ノ催告ハ尙本條ニ定メタル要件ヲ遵守シタルモノト謂ハサルヘカラス（大正一四・五・一）

○契約解除權發生後ニ於ケル履行ノ提供　債權者カ相當ノ期間ヲ定メテ履行ヲ催告シタルニ拘ハラス債務者カ其ノ期間內ニ履行ヲ爲ササルトキハ債權者ハ契約ヲ解除スルヲ得ルモノニシテ一旦契約解除權ノ發生シタル以上爾後債務者カ履行ノ提供ヲ爲シ若ハ履行ニ付債權者ノ協力ヲ求ムルコトアルモ債權者ハ必スシモ之ニ應スルノ要アルモノニ非ス之ニ應スルト將タ之ヲ拒絕スルトハ全ク債權者ノ任意ナリト解スルヲ相當ト爲スカ故ニ債權者ニ於テ之ヲ拒絕シタレハトテ之カ爲ニ債務者ヲシテ履行遲滯ノ責ヲ免レシムヘキ理由ナク從テ又既ニ債權者ニ發生シタル解除權ニ何等消長ヲ及ホスヘキモノニ非ス（大正一四・五・一）

○反對　債權者カ債務者ノ履行遲滯ニ因リ契約ヲ解除スル權利ヲ取得シタル場合ト雖モ未タ其權利ヲ行使セサル間ハ契約ハ依然トシテ存續スルヲ以テ債權者モ債務ノ履行ヲ請求スルヲ得ヘキハ勿論債務者モ亦其債務ヲ履行スルコトヲ得ヘキモノトス從テ債務者ノ履行遲滯後債權者ノ解除權行使前ニ於テ債務者カ履行ノ提供ヲ爲シタルトキハ債權者ハ之カ履行ヲ拒絕シテ解除權ヲ行使スルコトヲ得サルモノトス（大正九・六・二二）

○債權額ニ一致セサル過大ノ催告ト其ノ效果　支拂ヲ催告セル金額カ債權額ヨリ大ナルトキト雖催告ハ現ニ存スル債權額ニ對シ有效ニシテ債務者ハ現ニ存スル債權額ノ辨濟ヲ提供セサルトキハ遲滯ノ責ヲ免レサルモノトス（大正一五・三・一九）

○契約解除ノ前提要件タル催告　本條ニ依リ契約ノ解除權ヲ有スルニハ債務者ノ付遲滯ヲ前提トスヘキモノナルモ遲滯ニ付スルカ爲ノ催告ヲ爲シタル後更ニ同條所定ノ催告ヲ爲スコトヲ要スルモノニ非ス履行期日ノ定ナク又ハ債務者ノ過失ニ因ラスシテ履行期日ヲ經過シタル債務ニ在リテハ債權者ハ相當ノ期間ヲ定メテ履行ヲ催告シ之ニ因リテ債務者ヲ遲滯ニ付スルト同時ニ其ノ期間內ニ履行ナキトキハ契約ヲ解除スルコトヲ得ルモノト解スルヲ相當トス（大正一五・一一・二）

○相當期間ヲ明示セサル催告ト契約ノ解除　契約解除ノ前提タル催告ニ相當期間ヲ明示セサリシ場合ニ於テモ爾後相當期間ヲ經過シ尙債務ノ履行ヲ爲ササルトキハ契約ノ解除ヲ爲スヲ妨ケサルモノトス（昭和四・一〇・一一）

○賣主ニ對スル履行ノ催告ト代金ノ準備　代金ノ支拂カ物ノ引渡ト同時ニ履行セラルヘキ場合ニ在リテハ買主ハ代金ヲ準備シ賣主ニ對シ其ノ受領ト共ニ物ノ引渡ヲ爲スヘキコトヲ催告スルコトヲ得物ノ引渡ノ催告ハ通常ハ暗默ニ代金ノ受領ノ催告ヲ包含スルモノト解スヘキモノトス代金ノ準備ハ現金ヲ用意スルコトヲ必要トセス相當ノ資力信用ヲ有シ何時ニテモ代金ヲ調達スルコトヲ得ルモノナルトキハ其ノ準備アリト爲スヲ妨ケス（昭和八・一・三一）

○一部ノ履行ト遲滯　對價タル給付ノ大部分カ履行セラレタル場合ニ反對給付カ分割ヲ許ストキハ履行セラレタ

ル對價ノ割合ニ應スル不履行部分ニ付遲滯ノ責ヲ生スルモノトス（昭和八・二・二八）

○買主ノ所在不明ト賣主ノ目的物處分　買主カ住所ヲ轉シ所在ヲ祕シ爲ニ賣主ハ過失ナクシテ履行ノ提供ヲナスコト能ハス且買主ニ於テ履行ノ意思ナキコト明ナルトキハ同時履行ノ場合ト雖賣主ハ契約ヲ解除スルコトナクシテ賣買ノ目的物ヲ處分スルコトヲ得ヘク之ニ對シ買主ハ賣主ノ不履行ヲ責ムルコト能ハサルモノトス（昭和八・五・一二）

○契約解除ノ要件タル遲滯ト催告　同時履行ノ關係ニ在ル雙務契約上ノ確定期限ヲ合意ノ上延期シタル場合當事者ノ一方ハ爾後何時ニテモ相手方ニ對シ相當ノ期間ヲ定メテ其ノ債務ノ履行ヲ催告シ得ヘク自己ノ債務ノ履行ヲ提供シタルニ拘ラス相手方ニ於テ履行ヲ爲ササルニ於テハ相手方ヲ遲滯ニ付スルヲ得ルト共ニ本條所定ノ催告ノ效力ヲ生スルモノトス（昭和八・一〇・二〇）

第五百四十二條

○本條ニ所謂定期行爲　所謂定期契約即本條所定ノ一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ノ契約トハ汎ク一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行セラルルコトカ特ニ契約締結ノ要件トセラルル場合ノ契約ヲ意味シ單ニ其ノ日時期間内ニ履行セラレサルトキハ之カ爲ニ履行不能ヲ生スル場合ニ於ケル契約ノミナラス尚一定ノ日時期間内ニ履行セラルルコトカ當事者間ニ當該契約ヲ締結スルノ動機ヲ爲シタル場合ニ於ケル契約ヲモ包含スルモノトス（大正一五・五・一四）

○所謂定期行爲ナリヤ否ノ判斷　所謂定期行爲トシテ特定ノ履行期ヲ當事者ノ一方カ經過セルニヨリ相手方カ直チニ解除權ヲ取得シ得ヘキヤ否ハ當該契約ニ於ケル履行期ノ遵守カ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルニ缺クヘカラサル要素ヲ爲スモノナリヤ否ニヨリ定マリ其ハ具體的場合ニ於ケル契約ヲ解釋シテ判斷スヘキモノニシテ契約ノ性質上然

ヤ若ハ當事者ノ意思表示ニ依リ然ルヤハ之ヲ區別セサルヘカラサルモノニ非ス（昭和一一・二・四）

第五百四十三條

○不動產ノ二重賣買ト第一買主ニ對スル履行ノ不能　不動產ノ所有者カ第一ノ買主ニ其不動產ヲ讓渡シタル後更ニ第三者ニ之ヲ讓渡シ其所有權移轉登記ヲ了シ而カモ其第三者ハ永代自ラ之ヲ所有セント欲シ之ヲ買受ケ相當代價ヲ以テシテハ之ヲ他ニ讓渡スル意思ナキ場合ニ在リテハ法律上ヨリ之ヲ觀察スレハ其賣主ノ第一ノ買主ニ對スル義務ノ履行ハ不能ニ歸シタリト認ムルヲ相當トス（大正八・九・二六）

○不動產ノ二重賣買ト履行不能ノ推定　不動產賣買ニ於テ賣主カ其ノ目的物ヲ第三者ニ讓渡シ其ノ所有權移轉登記ヲ經由シタルトキハ右賣買ニ付買戻又ハ再賣買ノ豫約等ノ存在ニ因リ第三者ヨリ目的物ノ所有權ヲ回復シテ之ヲ買主ニ移轉スルコトノ可能ナルコトヲ證明シタル場合ハ格別然ラサル場合ニハ賣主カ買主ニ對シ負擔セル所有權移轉ノ義務ハ履行不能ノ狀態ニ在ルモノト推定スヘキモノトス何トナレハ賣主カ更ニ第三者ヨリ其ノ所有權ヲ讓受ケ之ヲ買主ニ移轉スルコトハ物理的ニハ不能ナリト謂フコト能ハサルモ賣主カ買主トノ契約ヲ無視シテ第三者ニ讓渡シ其ノ所有權移轉登記ヲ經由シタル以上ハ第三者ヨリ回復シテ所有權ヲ移轉スル意思ナキモノト推定スヘク又第三者ヲシテ目的物ノ再讓渡ヲ承諾セシムル手段方法ヲ有セサルモノト推定スルヲ以テ取引上ノ通念ニ適合スルモノト爲セハナリ（大正一四・二・二七）

○反對　賣主カ其賣買ノ目的物ヲ更ニ第三者ニ讓渡シ所有權移轉登記ヲ爲シタルトキト雖賣主ハ更ニ第三者ヨリ其所有權ヲ讓受ケタル上買主ニ對シ所有權移轉ノ義務ヲ履行スルコトハ必スシモ不能ナリト云フ能ハサルヲ以テ賣主カ賣買目的物ヲ第三者ニ讓渡シ其所有權移轉登記ヲ經タル一事ヲ以テ直ニ賣主ノ買主ニ對スル所有權移轉ノ義務カ履行不能ニ陷リタルモノト認ムヘキモノニ非ス（大正七・一二・一三）

○雙務契約一方ノ履行不能ト反對債務ノ存否　雙務契約當事者ノ一方ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ其債務カ履行不能トナリタルトキト雖モ之カ爲メニ相手方ノ債務カ當然消滅スルモノニ非サルコトハ民法第五百四十三條ニ於テ之ヲ以テ契約解除ノ原因ト爲シタルニ徴シテ明ナリ（大正七・四・五）

○履行不能ト塡補賠償ノ請求　債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ債務ノ履行不能トナリタルトキハ債權者ハ債務者ニ對シ契約ヲ解除スルコトナク直ニ履行ニ代ルヘキ塡補賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルモノトス（大正一一・一一・九）

○賣買契約ノ一部解除ノ能否　目的物數個アルモ一個ノ賣買契約ナルトキハ其中ノ一部ヲ解除シ他ノ一部ヲ存續セシムルコトハ法律ニ特別ノ規定アル場合ノ外許スヘカラサルモノトス（大正五・四・一四）

○一部ノ履行不能ヲ事由トスル契約ノ全部解除ト立證責任　債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ基ク契約ノ一部ノ履行不能ヲ以テ全契約ノ解除權ヲ行使セル場合ニ一部ノ履行不能カ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルニ妨ナキコトヲ以テ解除ノ不當ヲ爭フ債務者ハ斯ル事由ニ付立證ノ責アルモノトス（昭和一〇・七・二六）

第五百四十五條

○所有權ノ買戻ト本條ノ原狀回復義務　民法第五百四十五條ハ解除ノ結果或ル給付行爲ヲ爲シテ原狀ニ回復スルコトヲ要スルカ如キ場合ニ於ケル義務ノ負擔ヲ規定シタルモノニシテ所有權ノ如キ買戻ノ意思表示ニ依リ當然原權利者ニ復歸スヘキモノニハ其適用ナキモノトス（大正五・一二・二二）

○契約解除ト所有權ノ當然復歸　契約ノ解除ハ契約ノ效力ヲ消滅セシムルモノナルヲ以テ即時ニ目的物ノ所有權移轉ノ效力ヲ生セシムル賣買カ解除セラレタルトキハ契約ニ因ル所有權移轉ノ效力ハ消滅シテ買主ニ移轉シタル所有權ハ當事者ノ意思表示ヲ俟タス原權利者タル賣主ニ復歸ス（大正一〇・一一・二二）

卷	頁
五	二二三
一〇	三三〇
三	四九二
二二	二九五
三	九九七
八	四四五

○基本タル契約ノ解除ト從タル登記契約ノ解消　所有權移轉ノ登記方法ニ關スル契約ハ基本タル所有權移轉契約ノ存在ヲ前提トシ之ニ從タル契約ニ外ナラサルヲ以テ基本タル契約カ解除セラルルトキハ其解除ノ效力ハ當然從タル契約ニモ及フヘキモノナレハ縱令其從タル契約ニ第三者ノ加入シタルトキト雖特ニ其者ノ同意ヲ求メ若ハ之ニ解除ノ意思表示ヲ爲スノ要ナク從タル契約ハ基本タル契約ト共ニ當然解除ニ歸スヘキモノトス（大正八・四・一五）

○不動產信託契約ノ解除ト朝鮮民事令第十三條　不動產ヲ信託的ニ讓渡シタル場合ニ受託者カ之ヲ第三者ニ讓渡シタルトキハ第三者ハ所有權ヲ取得スヘキモ未タ其權利移轉ノ證明又ハ登記ヲ爲ササル內信託者カ信託的讓渡契約ヲ解除シ若ハ賣買契約ニ因リ受託者ヨリ外部關係ノ權利ヲ回收シ權利移轉ノ證明又ハ登記ヲ爲シタルトキハ其ノ權利移轉ヲ證明又ハ登記ヲ爲ササル第三者ニ對抗シ得ヘク而シテ其ノ民法第五百四十五條ハ必スシモ朝鮮民事令第十三條ノ規定ヲ除外シ不動產ヲ買受ケタル第三者ハ契約ノ解除者ニ對シ證明又ハ登記ナクシテ其權利ノ移轉ヲ對抗シ得ルモノトスル趣旨ニ非サレハ前述ノ場合ニ受託者ヨリ土地ヲ買受ケタル第三者ハ信託契約ヲ解除シ其權利移轉ノ證明又ハ登記ヲ爲シタル信託者ニ對シ權利ノ移轉ヲ對抗スルヲ得ス（大正七・四・九）

○本條第一項但書ノ場合ト民事令第十三條ノ適用ノ除外有無　本條第一項但書ノ場合ニ於テモ朝鮮民事令第十三條ノ適用ヲ除外スヘキモノニアラスシテ同條但書ニ該當スル第三者ト雖モ其權利カ物權ニシテ而カモ其物權ノ取得ニ付證明又ハ登記ヲ受ケサル以上ハ其欠缺ヲ主張スルニ付正當ノ利益ヲ有スル第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス（大正七・五・二一）

○本條ト民法第七百三條トノ義務上ノ差異　本條ノ規定ニ依ル原狀回復義務者ハ相手方ヲシテ若其契約ナカリセハ享有シ得ヘカリシ地位ニ復セシムル義務ヲ有スルモノニシテ自己カ相手方ノ出捐又ハ給付ニ因リ果シテ利益ヲ受ケタルヤ否ヤ又其利益カ現存スルヤ否ヤニ拘ハラサルモノトス反之民法第七百三條ノ規定ニ依ル不當利得返還義務者

卷	頁
六	二二九
五	二四二
五	四三九

ハ其受ケタル利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スルノミヲ以テ足リ相手方ノ地位カ原狀ニ復スルヤ否ヤニ拘ハラサルモノトス（大正八・四・一五）

○詐害行爲取消ノ效果ト契約解除　土地所有權カ乙ヨリ丙丁戊己ニ轉轉讓渡セラレタル場合ニ於テ丙丁間ノ賣買カ詐害行爲トシテ乙丁間ノ確定判決ニ依リ取消サレ次テ乙丙間ノ賣買ハ乙ノ解除權ノ行使ニ依リ解除セラレタルトスルモ詐害行爲取消ノ效果ハ相對的ニシテ訴訟當事者間ニ取消ノ效果ヲ發生スルニ止マルモノナレハ現ニ轉得者戊己カ該訴訟ノ當事者ニ非サル限リ前記取消ノ判決ニ依リ土地所有權ハ當然債務者丙ニ復歸スヘキモノニ非ス從テ又乙ハ乙丙間ノ賣買ノ解除ニ依リ該土地ノ所有權ヲ丙ヨリ自己ニ回復スルヲ得サルヤ當然ナレハ乙ハ如上原因ニ依リ該土地ノ上ニ自己ノ所有權ヲ主張スルヲ得ルモノニ非ス（大正九・六・一一）

○賣買契約解除ト登記名義回復方法　土地賣買契約ヲ解除シタル場合ニ於テ現ニ登記簿上ニ存スル所有權移轉登記ニ關シ之ヲ原狀ニ復セシムルカ爲メニハ必スシモ抹消登記ニ因リ現在ノ所有者名義ノ登記ヲ抹消シテ原所有者名義ノ登記ニ復セシムル方法ノミヲ以テ適法ト爲ササルヘカラサルモノニ非ス登記簿上ノ所有名義人ナル回復義務者ヲシテ更ニ回復權利者ニ對シ所有權移轉ノ登記手續ヲ爲サシメ之ニ因リテ原狀ニ復セシムルコトヲモ得ヘキモノトス（大正一〇・二・八）

○本條第一項ノ第三者ト朝鮮民事令第十三條　本條ハ必スシモ朝鮮民事令第十三條ノ規定ヲ除外スルモノニ非ス（大正一〇・一一・二二）

○契約解除ト不動產所有權取得ノ對抗　不動產ノ所有者カ之ヲ他人ニ賣却シ買主カ更ニ之ヲ第三者ニ轉賣シタル場合ニ於テ第一次ノ賣買契約カ解除セラレタルトキハ第一次ノ賣買契約ニ於ケル買主ニ賣買ノ間竝ニ其買主ト轉買者トノ間ニ何レモ所有權ノ得喪ヲ來スヘキ場合ナルヲ以テ當初ノ賣主ト轉買者タル第三者トノ間ニ於テ互ニ其所有

卷　頁
六　三三九
七　三五五
八　二四
八　四四五

權ヲ主張セントスルトキハ其權利ノ優劣ニ付テハ民事令第十三條ノ適用アルモノトス

右ノ場合ニ於テ當初ノ賣主カ解除權ヲ行使シタルニ依リ回復シタリトスル所有權ヲ轉買者タル第三者ニ對抗セントスルニハ不動產所有權ニ付自己名義ノ登記又ハ證明ノ存スルカ若クハ一旦買主名義ニ登記又ハ證明セラレタル場合ニ於テ抹消登記又ハ抹消證明若クハ移轉登記又ハ移轉證明ニ由リ登記名義又ハ證明名義カ自己ニ回復セラレタルコトヲ要シ又轉買者タル第三者カ取得シタリトスル所有權ヲ解除者タル賣主ニ對抗セントスルニハ自己ノ登記又ハ證明ヲ經由セサルヘカラス（大正一〇・一一・二二）

○不動產賃貸借ト本條第一項但書　不動產賣買契約カ解除セラレタル場合ニ於テ買主ヨリ不動產ヲ賃借シタル者ト雖賃貸借ニ付登記ヲ爲スニ非サレハ賃借權ヲ以テ解除者ニ對抗スルコトヲ得ス此見解ハ本條但書ノ規定アルカ爲メニ影響アルコトナシ（大正一〇・一一・二二）

○立木買受ノ公示ヲ爲ササル第三者ト本條第一項但書　不動產ノ信託的讓渡契約ヲ爲シタル信託者カ該信託的讓渡契約ヲ解除シ之ニ伴フ權利ノ移轉ニ付證明又ハ登記ヲ經タルトキハ信託者ハ之ヲ以テ該契約存續中受託者ヨリ其ノ不動產上ニ生育スル立木ヲ讓受ケタルモ其ノ公示方法ヲ施行セサル第三者ニ對抗シ得ヘキモノニシテコノ場合ニハ本條第一項但書ノ規定ノ適用ナキモノトス（大正一二・五・四）

○契約解除ノ效果　契約解除ノ效果ハ相對的ナルカ故ニ第三者ノ權利關係ニ影響ヲ及ホササルモノニシテ此ノ第三者中ニハ物權ヲ讓受ケタル特定承繼人ヲ包含スルコト當然ナリ（昭和二・四・一五）

○信託契約解除ト第三者ノ權利取得登記　信託者カ不動產ヲ信託行爲ニ依リテ讓渡シタル後該信託契約ヲ解除シタル場合ニ於テ其ノ以前ニ受託者ヨリ第三者ニ讓渡シ其ノ登記ヲ經由シタルトキハ此ノ第三者ニ對シ其ノ善意ナルト其ノ惡意ナルトヲ問ハス解除ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス（昭和二・四・一五）

卷　頁
八　四四五
八　四四五
一〇　一〇
一四　一一
一四　一一

○契約解除ノ對外的效力　契約ノ解除ハ第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得サルモノナルカ故ニ第三者カ賣買契約ノ目的タル不動產上ノ物權ヲ取得シ其ノ登記ヲ爲シタルトキハ最初ノ賣主ハ契約解除ノミニ依リテ直ニ其ノ權利ヲ回復スルモノニ非スト雖第三者カ未タ其ノ登記ヲ爲ササルトキハ其ノ權利ヲ否認シ自己ノ權利回復ヲ主張スルコトヲ得ヘシ（昭和四・九・六）

○契約解除ニ因ル金錢ノ返還ト其ノ利息ノ性質　契約解除ニ因リ金錢ヲ返還スヘキ場合ニ之ニ利息ヲ附スルコトヲ要スルハ原狀回復ノ範圍ニ屬スルモノニシテ返還義務ノ履行遲滯ニ因ルモノニ非ス（大正一四・一二・一八）

○解除ニヨル損害賠償請求ト代金控除　解除權ノ行使ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ケサルヲ以テ買主ヨリ代金全部ヲ支拂ヒタルニ賣主ノ責ニ因ル履行不能ノ爲メ契約ヲ解除シタル場合ノ如キハ賣主ニ於テ未タ買主ヲ原狀ニ回復セシメサル間ハ買主ハ履行不能ニ因ル損害賠償トシテ賣買ノ目的物ノ價格ニ相當スル金額中ヨリ返還ヲ受クヘキ代金額ヲ控除スルヲ要セスシテ其全額ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノトス（大正一〇・一〇・一八）

○信託契約ニ因リ保管セル物ノ不法處分ト損害賠償ノ請求方法　信託契約ニ因リ物ヲ保管セル債務者カ不法ニ之ヲ處分シタル場合ニ債權者カ債務者ニ對スル不法行爲ヲ原因トシテ損害賠償ヲ求ムルトハ將タ本條第三項ニ依リ不履行ニ因ル損害賠償ヲ求ムルトハ其自由ナリ（大正一〇・一一・二三）

○塡補賠償請求ト解除ノ要否　債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ債務ノ履行不能トナリタルトキハ債權者ハ債務者ニ對シ契約ヲ解除スルコトナク直ニ履行ニ代ルヘキ塡補賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルモノトス（大正一一・一一・九）

○塡補賠償ノ豫定ト契約ノ解除　賣買當事者間ニ授受セラレタル契約金ニ付買主カ違約スルトキハ之ヲ無效トシ賣主ニ違約アルトキハ其ノ倍額ヲ償還スヘキ旨定メアルトキハ當事者一方ノ違約ニ備ヘテ損害賠償ヲ豫定セルモノト

解スヘク若シ右賠償カ履行ニ代ル損害ヲ豫定セルモノナルニ於テハ履行期ニ於ケル一方ノ違約ニ因リ當然契約ヲ解除セシムル約旨ナリト解スルヲ相當トス（昭和一一・三・一七）

○契約解除ニ因ル原狀回復義務ト保證人ノ責任　當事者間ニ豫メ契約解除ノ場合ニ於ケル原狀回復ノ義務ニ付テモ保證ヲ爲スコトヲ約シタルトキハ格別ナルモ然ラサル限リ保證人ハ契約解除ニ因ル原狀回復ノ義務ニ付保證ノ義務アルモノト爲スヲ得ス（大正一一・一〇・六）

第二節　贈與

第五百四十九條

○贈與契約ニヨル所有權移轉後ノ査定ト其登記又ハ引渡請求　贈與契約ノ履行ニ因リ目的タル土地ノ所有權カ受贈者ニ移轉シタルモ未タ登記竝ニ引渡ノ義務ノ履行ヲ了セサル中途ニ於テ土地カ査定ニ依リ贈與者ノ所有ト確定シタルトキハ贈與者カ所有權ヲ喪失スルヲ以テ爾後新ナル物權變動ノ發生ト共ニ贈與契約ニ準據スヘキ特別ノ事情ナキ限リ受贈者ハ贈與契約ニ依リ登記竝ニ引渡ノ義務履行ヲ請求スル權利ナシ卽チ如上ノ義務ハ査定確定ノ日ニ受贈者ノ所有權ヲ喪失スルト同時ニ自然消滅ニ歸スヘキモノトス（大正八・四・一五）

○所有權移轉ヲ伴ハサル登記引渡請求ノ當否　贈與契約ノ目的カ不動產所有權ノ移轉ナルトキハ贈與者ハ受贈者ニ對シ所有權移轉登記ヲ爲シ或ハ不動產ノ引渡ヲ爲ス義務アルハ勿論ナルモ這ハ贈與者カ受贈者ヲシテ所有者トシテ完全ナル支配權ヲ行使セシムル爲メ所有權ノ移轉ニ隨伴スル義務ニ過キサレハ受贈者ハ所有權ノ移轉ニ交涉ナクシテ斯ル登記引渡等ノ請求權ヲ行使シ得ヘキモノナリ（大正八・四・一五）

○朝鮮慣習ニ基ク相續財産ノ分配ハ贈與ニ非ラス　朝鮮人タル戸主ノ長男カ戸主ノ死亡ニ因リ戸主相續ヲ爲シ前戸主ニ屬セシ一切ノ財産ヲ承繼シタル場合ニ於テ朝鮮ノ慣習ニ從ヒ其ノ財産ノ幾部ヲ次弟以下ノ衆子ニ分與スルハ當該相續人カ慣習上定レル義務ノ履行ヲ爲スモノニ外ナラスシテ所謂贈與ニ該當スルモノニ非ス（昭和四・一二・三）　一六　二七三

○贈與契約ト自己ノ財産　贈與ノ目的物ハ必スシモ契約當時ニ於テ自己ノ所有ニ屬スル物タルコトヲ要セス將來取得スヘキ物ト雖是ヲ與フル契約ハ本條ニ所謂自己ノ財産ヲ與フルコトニ該當ス（大正一〇・一〇・一四）　一六　二七三

○離婚ニ實質關係ヲ有スル贈與契約ノ效力　離婚ノ協議調ヒタルニ際リ一方ヨリ妻タリシ他方ニ對シ金品ノ贈與又ハ扶養方ヲ約定スルハ夫婦タリシ情誼ニ基キ不祥ナル離婚ニ因ル災害ヲ緩和セムトスルモノニシテ至當ノ處置ト謂フヘク毫モ公序良俗ニ反スルトコロナキモノトス（昭和七・一二・二〇）　一九　二七六

第五百五十條

○贈與不動産ノ引渡ト本條但書　本條ニ所謂履行ヲ終ハリタリトハ不動産贈與ノ場合ニ於テハ引渡ヲ爲スヲ以テ足リ其所有權移轉登記ヲモ完了セサルヘカラサルモノニ非ス（大正一〇・一〇・一四）　八　三〇九

○不動産贈與ノ履行ト其方式　贈與不動産ニ付贈與者ヨリ受贈者ニ對スル所有權移轉登記ヲ完了セルトキハ該贈與ハ本條ニ所謂履行ヲ終リタルモノト謂フヲ妨ケス

右ノ場合登記原因ヲ賣買ノ形式ニ採リタルコトニ因リ結論ヲ異ニスルコトナシ（昭和一〇・二・五）　三一　一

信託ト當事者間ノ內部關係

○舊韓國法ニヨル信託行爲ノ性質　舊韓國ノ法律ニ依レハ信託行爲ニ因リ受託者ハ信託者以外ノ者ニ對シ信託者ノ承諾ヲ得スシテ目的物ヲ處分セサル債務負擔ノ下ニ所有權ヲ取得シ其後右債務ニ違背シ目的物ヲ第三者ニ讓渡シタル場合ニ於テモ讓受人善意ナルトキハ完全ニ其所有權ヲ取得スヘキモノトス（大正元・一〇・二九）　三　四三

○民事令施行以前ノ信託又ハ虛僞行爲ノ效力　甲カ乙ヲ所有名義者ト爲シタル行爲カ信託行爲ニ基クトキハ信託者ト受託者トノ內部關係ニ於テハ所有權移轉ノ效果ヲ生セサルモ第三者ニ對スル外部關係ニ於テハ表面上ノ所有者ハ僞ノ所有者ト看做サルヘキヲ以テ第三者カ之レト賣買ヲ爲シタルトキハ其賣買ハ有效ナリトス若シ又虛僞ノ意思表示ニ因ルトキハ當事者間ニハ所有權移轉ノ效力ヲ生セサルモ其事情ヲ知ラサル善意ノ第三者カ表面上ノ所有者ヲ以テ僞ノ所有者ナリト信シ之ト賣買契約ヲ爲シタルトキハ其契約ハ有效ニシテ第三者ハ所有權ヲ取得スヘキモノトス而シテ此法則ハ朝鮮民事令施行前ト雖朝鮮ニ行ハレタルモノナリ（大正二・九・九）　二　五一五

○債權擔保ノ目的ニ出タル信託的賣買契約　債權擔保ノ目的ニ出テタル信託的賣買ハ第三者ニ對スル外部關係ニ於テハ所有權ハ債權者ニ移轉スルモ當事者間ノ內部關係ニ於テハ所有權移轉ノ效力ヲ生セス唯債權者ハ辨濟期ニ至リ辨濟ヲ受ケサルトキ其擔保物件ヲ處分シ得ヘキニ止マリ所有權ハ依然トシテ債務者ニ存スルモノトス（大正五・一・三五）　五　三八七

○信託債務者ノ所有權確認請求利益　債權擔保ノ目的ニ出テタル信託的賣買ニ於テ債權者ハ外部關係ニ於テハ所有者トシテ處分シ得ヘキ狀態ニ在ルヲ以テ債務者カ債務ノ辨濟ヲ爲ササル限リハ債權者ニ對シテ所有權ヲ確認セシ

ムルモ債權者ノ處分ヲ妨クルコトヲ得サレハ債務者ノ所有權ノ確認請求ハ即時ニ確定スヘキ法律上ノ利益ナキニ依リ其請求ハ排斥スヘキモノトス（大正五・一・二五）

○信託者ニヨル賣渡抵當地ノ賣買ト債務ノ辨濟　甲乙間ニ設定シタル信託的賣渡抵當ノ目的物タル地所ヲ設定者甲ニ於テ他人ニ賣渡スモ甲ハ乙ニ對シテハ債務ヲ辨濟シタルトキハ其賣渡抵當地所ノ所有名義ヲ自己ニ復歸セシムル權利ヲ有スルモノトス（大正五・八・一一）

○權利ノ信託的賣買ノ性質　權利ノ信託的賣買トハ一定ノ目的ヲ達スル手段トシテ其目的ヲ超過シ賣買ノ形式ヲ執リタル意思表示ニシテ第三者ニ對スル外部關係ニ於テハ常ニ權利移轉ノ效果ヲ生スルモノトス而シテ當事者間ノ內部關係ニ於テハ權利ヲ移轉スル場合ト然ラサル場合トアルヘク又信託的賣買ニ依リ達セントスル目的及賣買ノ形式方法ニ付テハ制限ナシ（大正六・七・六）

○債權擔保ヲ目的トセル信託讓渡ノ內部關係　債權擔保ノ目的ヲ以テスル信託的所有權讓渡行爲ニ在リテハ特別ノ意思表示ヲ以テ外部關係ニ於ケルト同時ニ內部關係ニ於テモ所有權ヲ移轉スヘキモノト爲スヲ妨ケサルモ特別ノ意思表示ナキ以上ハ外部關係ニ於テノミ所有權移轉ノ效果ヲ發生シ內部關係ニ於テハ然ラスト爲スヲ通例トス（大正七・四・二三）

○信託不動產ノ信託者ト第三者間ノ關係　信託行爲ニアリテハ當事者間ニ於テハ通例所有權移轉ノ效果ヲ生セサルモ外部關係ニ於テハ其移轉ノ效果ヲ生スルモノナレハ第三者ヨリシテ之ヲ見レハ信託者ハ所有者ニアラスシテ受託者カ常ニ所有者ト認メラルヘキモノナルカ故ニ信託者ニ於テ信託行爲ノ目的タリシ不動產ヲ第三者ニ賣渡シタルトキハ其賣買ハ必スシモ無效ニアラサルヘキモ信託者カ受託者ニ移轉セル所有權ヲ回復シ之ヲ第三者ニ移轉セサル限リ當然所有權移轉ノ效果ヲ生スルモノニアラス（大正七・五・七）

卷	頁
三	三八七
三	六八四
四	六五七
五	三一一
五	三六五

○信託者ヲ第三者ニ對スル賣主ト認定セル判決ノ當否　債務者（信託者）カ其所有地所ヲ賣渡抵當トシ信託的ニ債權者ニ其權利ヲ讓渡セルニ拘ハラス當然第三者ト所有權移轉ノ效果ヲ生スヘキ賣買契約ヲ締結シ得ヘキコトヲ理由トシテ其賣主ハ土地ノ所有者タル被上告人（受託者）ナリトノ相手方ノ主張ヲ排斥セルハ失當ナリ（大正七・五・七）

○賣渡抵當ノ通常ノ狀態　債權擔保ノ目的ニ出テタル信託的賣買即所謂賣渡抵當ニ在リテハ第三者ニ對スル外部關係ニ於テハ所有權ハ債權者ニ移轉スルモ當事者間ノ內部關係ニ於テハ所有權移轉ノ效力ヲ生セサルヲ通常トスルモノナレハ賣渡擔保ニシテ特殊ノ效力ヲ有スルモノト認メラレサル限リ如上ノ效力ヲ有スル通常ノモノト推認セラルヘク其之ヲ推認スルニ付特ニ證據ニ依ルヲ要セサルモノトス（大正九・七・二三）

○同　旨　所謂賣渡抵當ニ在リテハ特殊ノ效力ヲ有スルモノト認メラレサル限リ當事者間ノ內部關係ニ於テハ目的物件ノ所有權移轉ノ效ヲ生セサルモノト推認セラルヘキモノトス（大正一四・三・二〇）

○保管ノ爲ニスル信託行爲ト任意解除　保管ノ目的ニ出テタル信託行爲ニアリテハ信託者ハ其一方ノ意思表示ニ依リ任意ニ其ノ信託契約ヲ解除スルコトヲ得（大正八・一〇・一四）

○信託ノ解除　信託ノ利益ハ其ノ內容ノ如何ニ依リ信託行爲ノ當事者若クハ受益者ノ一人之ヲ享受スル場合アリ其ノ數人ニ於テ之ヲ享受スル場合アリテ必シモ一定セス而シテ信託利益カ委託者ノミニ在リテ存スルトキハ其ノ受託者ニ對スル一方的意思表示ニ依リテ信託ヲ解除シ得ヘキモ其ノ然ラサル場合ニ在リテハ單ニ委託者ヨリ受託者ニ對スル意思表示ノミニ依リテハ解除ノ效力ヲ生セサルモノトス（昭和七・二・一二）

第五百五十五條

卷	頁
五	三六五
七	三五四
一二	七八
六	五一六
一九	二六

○**牌旨ノ性質**　牌旨ハ賣買ノ誘引狀ニ過キスシテ賣買ノ申込書若クハ豫約書又ハ賣買ノ代理委任狀ニアラス牌旨發行者カ買受ノ意思表示ニ對シテ承諾即チ賣却ノ意思表示ヲ爲スニ因リテ賣買契約成立スルモノトス（隆熙三「明治四二」九・三）

○**朝鮮人間ノ特定物賣買契約ノ成立要件**　朝鮮人間ニ在リテ特定物ノ賣買ハ當事者ノ合意ニ依リテ成立シ其成立ニ付目的物ノ引渡ヲ要セス（明治四四・一・二八）

○**同一物件再度ノ賣渡ト第一買主ニ對スル引渡ノ義務**　賣主ニ於テ賣渡シタル物件ヲ他ニ賣却スルモ之カ買主ニ對シテ物件引渡ノ義務ヲ免ルルモノニアラス（明治四四・七・八）

○**刑法大全施行當時ノ土地家屋ノ二重處分**　朝鮮人間ニ於テ一旦典當ニ供シ又ハ賣却シタル土地家屋ヲ他人ニ再ヒ典當ニ供シ又ハ賣却シタルトキハ刑法大全第六百三十六條ニ違背シ其典當又ハ賣却ハ法律上無效トス（明治四四・八・二一）

○**刑法大全ニ觸ルル賣却行爲ト買得者ノ國籍關係**　賣却行爲ニシテ刑法大全第六百三十六條ノ犯罪ヲ構成スルトキハ買得者ノ國籍如何ヲ問ハス其賣買ハ全然無效ニ歸シ何等ノ效果ヲ發生セス（明治四三・一〇・二一）

○**賣買無效ト代金返還請求權ノ性質**　地所賣買ノ無效トナリタル場合ニ於テ交付シタル金員ノ返還請求ハ不當利得金返還請求ニ外ナラス（明治四四・一〇・一三）

○**賣買ニヨル田畓所有權移轉時期ニ關スル特約ノ效力**　田畓賣買契約ニ於テ代金ノ完濟ト舊文記ノ授受トヲ待テ始メテ所有權ヲ移轉スヘキコトヲ特約スルハ公益ニ反スル意思表示ニアラス從テ其意思表示ハ有效ナリ（明治四五・一・一七）

○**賣主カ代金騙取ノ目的ヲ以テ爲シタル賣買契約ノ效力**　賣買契約ニ於テ賣主カ眞ニ賣渡ノ意思ナク買主ヨリ代金ヲ騙取スルノ目的ヲ以テ賣買ニ依リテ相手方ニ所有權ヲ移轉スルコトヲ約シタルトキハ其行爲ハ詐欺ナリト雖右賣主ノ意思表示カ眞意ニアラサルコトハ賣買ノ要素ニ關セス從テ賣買ノ成立ニ影響ヲ及ホスコトナシ是ハ朝鮮民事令施行前ニ於ケル朝鮮人間ノ法律關係ニ付テモ行ハレタル條理ナリ（大正二・一〇・一〇）

○**代金支拂ノ意思ト緣由ノ錯誤**　民法第九十五條ニ所謂法律行爲ノ要素ノ錯誤ハ通常人ヲ表意者ノ位地ニ置キ合理的ニ判斷シテ表意者カ意思表示ノ內容ニ付錯誤ナカリセハ其意思表示ヲ爲ササルヘカリシモノト認ムルコトヲ得ヘキ場合ニ於ケル錯誤ヲ指稱ス從テ買主カ約諾シタル代金ヲ支拂フ眞意ナカリシ場合ノ如キハ賣主ニ於テ誤信アルモ法律行爲ノ要素ニ錯誤アルモノニアラスシテ賣渡ノ意思表示ヲ爲スニ至リタル理由ノ錯誤ニ外ナラサルモノトス（大正五・九・五）

○**位土賣買無效ノ場合**　位土ノ共有ナルモノハ一門共同ノ祖先祭祀ノ用ニ供スル爲メ一門ニ屬スル者ニ限リテ共有スル性質ノモノナレハ一門ニ屬セサル者カ共有者ノ一人ヨリ他ノ共有者ノ承諾ナク其單獨所有ナリトシテ買受ケタル場合ニハ其賣買契約ハ全然無效ナリトス（大正五・一・二一）

○**賣買ノ前後ニヨル立木所有權ノ判定ノ當否**　同一所有者ヨリ同一立木ヲ買受ケタル甲乙兩者間ニ其立木ノ所有權ヲ相爭ヒ後ニ買受ケタル者ヨリ前ニ買受ケタル者ノ賣買ハ既ニ解除セラレタリト主張シタル場合ニ於テ單ニ其賣買成立ノ前後ノミニ依リテ所有權ノ有無ヲ判定シ其解除ノ有無ニ付判斷ヲ與ヘサルハ重要ノ爭點ニ對シテ判斷ヲ與ヘサル違法アルモノトス（大正五・三・三一）

○**出版物引渡後ノ發賣頒布ノ禁止ト賣買ノ效力**　出版物カ賣買ニ因リ引渡ヲ終了シタル後ニ至リテ偶發賣頒布ヲ禁止セラルルモ遡リテ其賣買ヲ無效ナラシムルコトナシ（大正五・四・二五）

○**契約當時代金ヲ確定セサリシ賣買ノ效力**　賣買契約ヲ爲スニ當リ必スシモ契約當時ニ代金ヲ確定スルコトヲ

要セス契約ノ趣旨ニ從ヘハ後日之ヲ確定スルヲ得ヘキモノナルトキハ該契約ハ有效ナリトス（大正五・一〇・一〇）

○田畓ニ生立セル農作物ノ賣買ノ性質　田畓ニ生立セル一定ノ稻作其他ノ農作物ヲ其生立ノ儘賣買シタルトキハ其賣買ノ目的物ハ確定物ニシテ且不動產ナリ（大正五・一二・八）

○目的物又ハ代金ノ一部除去ト賣買ノ要素ノ變更　賣買ノ目的物中一部ノ土地ヲ控除シ又一部ノ代金ヲ減額スルカ如キハ目的物ヲ變更スルモノト謂フヘカラス從テ賣買ノ要素ニ變更ヲ來タスコトナシ（大正五・一二・二二）

○賣渡證書ノ授受ヲ權利移轉ノ要件トセル慣習ノ存否　賣渡證書ハ代金受領證書ニアラス從テ第三者カ賣渡證書ヲ買主ノ許ニ持參シタリトスルモ其者カ賣主ニ代リ代金受領ノ權限ヲ有スルモノナルヤ否ヤニ付爭アルトキハ其權限アリト主張スル者ニ於テ立證ヲ爲ササルヘカラサルモノニシテ其單ニ賣渡證書ヲ持參シタル一事ヲ以テ其權限アリトノ推定ヲ下スヘキモノニアラス（大正六・二・二〇）

○特定物ノ二重賣買ニ於テ前ノ賣買解除ノ效果　同一特定物ニ付所有者カ甲者ニ對シ賣買契約ヲ爲シタル後更ニ乙者ニ對シ賣買契約ヲ爲シタル場合ニ甲者ニ對スル賣買契約カ解除セラルルトキハ其特定物ノ所有權ハ所有者ニ復歸スルト同時ニ乙者ニ對スル賣買契約ノ結果トシテ右所有權ハ當然乙者ニ移轉スルモノトス（大正六・五・二五）

○山坂賣買契約ニ蕃文券其他ノ書面ノ交付ノ要件ノ有無　朝鮮人間ニ於ケル山坂賣買契約ノ際ニハ必スシモ山坂ノ地籍圖配達證明書及ヒ圖面ヲ買主ニ交付シ且山坂ノ面積及四標ヲ契約書ニ明記セサルヘカラサルモノニ非サルノミナラス買主ニ於テ山坂ノ舊文券及前揭書面ノ交付ヲ受クルニ非サレハ賣買ヲ爲ササルカ如キ慣習ノ存在ハ之ヲ認メス（大正六・一一・一三）

○家族又ハ奴僕ノ名義ヲ代用セル賣買事例　朝鮮ニ於テ舊韓國光武八年頃ニ在リテ朝鮮人間ニ於ケル不動產ノ賣買文記ニ實際ノ買主ニ非サル家族又ハ奴僕ノ名義ヲ買主トシテ表示スルカ如キ事例ハ行ハレタルモノトス（大正六・一二・二一）

○賣買目的物ノ分割請求　籾及土地ニ付賣買アリタル場合ニ於テ其賣買ノ不可分的ナルコトヲ認メ得ヘキトキト雖賣主ハ債務ノ本旨ニ從ヒ不可分的ニ其全部ノ履行ヲ爲スコトヲ要スルコト勿論ナルモ買主ハ其履行ヲ求ムルニ付必スシモ不可分的ニ請求スルコトヲ要スルモノニ非ス他ニ可分的ニ請求スルコトヲ得サル旨ノ特約アリタルカ又ハ目的物ノ性質上可分的ニ請求スルコトヲ許ササルカ如キ特別ノ事情アルトキノ外其利益ヲ拋棄シ分割シテ其一部ニ付履行ヲ請求スルヲ得ルモノトス（大正八・四・四）

○禁止規定ニ反スル法律行爲ノ效力及市場規則違反ノ營業　禁止規定ノ趣旨カ一定ノ效果ノ發生其モノヲ禁止スルニ在ルトキハ其效果ノ發生ヲ目的トスル法律行爲ハ無效ナルモ之ニ反シ禁止規定ノ趣旨カ唯一定ノ效果ヲ生スルニ付テノ特定ノ手段ヲ禁止スルニ止マルトキハ之ニ違反スル法律行爲ハ無效ニ非ス

市場規則第十九條ニ於ケル同規則第八條ノ許可ヲ受ケタル營業者カ營業所トシテ許可ヲ受ケタル市場外ニ於テ其營業ヲ爲シタルトキハ之ヲ處罰スル規定ハ許可ヲ受ケタル營業者ノ水產物ノ販賣其モノヲ禁止スル趣旨ニ非ス專ラ行政上斯ル營業上ノ取締ヲ爲ス必要ノ爲該營業者カ水產物ノ販賣ヲ營業所トシテ許可ヲ受ケタル市場外ニ於テ競賣ノ方法ニヨリ營業的ニ爲スコトヲ禁止スルモノニシテ則チ水產物販賣ノ一定ノ手段ヲ禁止スルノ趣旨ト解スヘキモノナレハ營業者カ右禁止規定ニ反シテ爲シタル水產物ノ賣買ハ無效ニ非ス（大正八・七・三一）

○登記官吏ノ錯誤ニ因ル證明抹消ト其ノ回復方　未證明ノ土地ノ買主カ同土地ニ付保存證明ヲ經タルモ該證明カ登記官吏ノ錯誤ニ因リ抹消セラレタル場合ニ於テ第一若シ買主カ更ニ他ニ所有權ヲ移轉シタル事實ナク又他ニ所有

權ヲ移轉シタル事實アルモ其移轉證明若ハ登記ヲ經サルモノナルトキハ買主ハ自己ノ權利ヲ保全シ又ハ其後者ニ對スル移轉證明若ハ登記ノ義務ヲ履行スル爲ニハ其抹消セラレタル證明ノ囘復ヲ請求シ得ルノミナラス民事令施行以後ニ在リテハ證明囘復ノ方法ニ出テスシテ賣主ニ對シ移轉證明若ハ登記ノ手續ノ履行ヲ請求スルヲ妨クルモノニ非ス　第二然レトモ買主ニ於テ更ニ他ニ其所有權ヲ移轉シ既ニ其移轉證明手續義務ヲ履行シタル後其證明モ亦保存證明ト共ニ抹消セラレタル如キ關係ニ在リテハ買主ハ抹消證明囘復ノ請求ハ勿論賣主ニ對シ移轉證明若ハ登記手續ノ義務ノ履行ヲ求ムルヲ得サルモノトス何トナレハ買主ハ現ニ所有權ヲ有セス又重ネテ其後者ニ對シ移轉證明若ハ登記手續ヲ爲スヘキ責務ナキヲ以テナリ　（大正九・六・一一）

○數量ヲ示ササル白米ノ賣買申込　白米ノ賣買契約ニ於ケル申込ハ商人間ト雖モ其品質價格及數量ヲ包含スルコトヲ要ス若シ品質及價格ノミヲ表示シ數量ヲ示ササルモ尚申込タル效力アリトセンカ相手方ノ要求スル數量ノ多寡如何ニ拘ラス契約成立スルコトトナリ申込者ノ意思ニ反スル結果ヲ生スルニ至ルヘケレハナリ故ニ斯ル場合ニ於テハ慣習若クハ當事者間ノ從來ノ取引狀態ニシテ參酌スヘキモノアラハ之ヲ參酌シテ申込ト認メ得ルヤ否ヤヲ決セサルヘカラス　（大正九・一一・九）

○不動產賣買ト所有權移轉登記義務　不動產ノ賣主カ買主ニ對シテ不動產ノ完全ナル所有權ヲ移轉セントスルニハ買主ヲシテ第三者ニ對シ其權利ノ取得ヲ對抗スルコトヲ得セシメサルヘカラサレハ賣主カ不動產ノ所有權移轉登記手續ヲ履行スルコトハ賣買ニ基ク賣主ノ義務ト稱スルヲ妨ケス　（大正一〇・六・一七）

○代金支拂方法タル手形振出義務　賣買代金支拂ノ方法トシテ手形ヲ振出スハ買主カ手形ノ支拂期日ニ代金ヲ支拂フヘキコトヲ確保スルモノニ非ス又代金支拂ニ付テ期限ヲ定ムルモノニモ非ス手形ノ振出即チ代金ノ支拂ナルヲ以テ假令手形振出ノ義務ハ賣買契約ヨリ當然生スルモノニ非スト雖モ苟クモ代金支拂ノ方法トシテ手形ヲ振出ス特約ノ存スル場合ニ於テハ手形振出ノ義務カ賣買契約上ノ義務ニ屬スルコト論ヲ俟タス　（大正一〇・一〇・一四）

○登記濟證ト引換ニ代金ヲ支拂フ旨ノ契約ノ旨意　不動產賣買契約ニ於テ當事者カ不動產所有權移轉登記濟證ト引換ニ賣買代金ヲ支拂フコトヲ約シタル場合ニ於テハ其約旨ハ特別ノ事情ナキ限リ不動產所有權移轉登記義務ト同時ニ履行スヘキコトヲ約シタルモノト解スヘキモノトス　（大正一〇・一〇・二五）

○賣主名義ノ査定ト買主ノ權利　賣主カ土地賣買契約成立後未タ所有權移轉ノ登記義務ヲ履行セサル前ニ於テ賣主名義ヲ以テ土地調査令ニ依ル所有申告ヲ爲シタルトキハ所有權ノ既ニ買主ニ移轉シタルニ拘ラス恣ニ冒認シテ所有申告ヲ爲シタリト解センヨリハ寧ロ賣主トシテ所有權移轉ノ登記義務ヲ履行スル便宜上之カ所有申告ヲ爲シタルニ外ナラサルト共ニ買主ニ於テモ其趣旨ヲ諒シ賣主名義ヲ以テ所有申告ヲ爲スコトヲ容認シタルモノト認ムルヲ取引ノ通念ニ適スルモノト爲スヘク斯ル場合ニ在テハ其當事者間ニハ明示又ハ默示ノ合意ニ依リ一種ノ信託關係發生シ買主ハ內部關係ニ於テ所有權ヲ保留シ賣主ハ外部關係ニ於テ所有者トナリテ査定又ハ裁決ヲ受ケ賣主名義ニ所有權確定シタルトキハ之ト同時ニ別段ノ意思表示ヲ要セスシテ當然其所有權ハ買主ニ移轉シ賣主ハ賣買名義ニ因ル所有權移轉ノ登記ヲ爲スコトヲ約シタルモノト解スルヲ妥當トス　（大正一〇・一一・八）

○特定物ノ賣買ト所有權移轉ノ時期　特定物ノ賣買ニ在テハ其物ノ所有權ヲ將來移轉スヘキ特約ナキ限リハ即時ニ所有權移轉ノ效力ヲ生ス　（大正一〇・一一・二二）

○同　旨　特定物ノ賣買ニ在テハ其物ノ所有權ヲ將來移轉スヘキ特約ナキ限リハ賣買成立ト同時ニ所有權移轉ノ效力ヲ生ス　（大正一一・五・二）

○賣買契約解除ト所有權ノ復歸　契約ノ解除ハ契約ノ效力ヲ消滅セシムルモノナルヲ以テ卽時ニ目的物ノ所有權

卷	頁
八	二九五
八	三四九
八	三九〇
八	四四五
九	一五七
七	二五五
七	三八九
八	三三

移轉ノ效力ヲ生セシムル賣買カ解除セラレタルトキハ契約ニ因ル所有權移轉ノ效力ハ消滅シテ買主ニ移轉シタル所有權ハ當事者ノ意思表示ヲ俟タス原權利者タル賣主ニ復歸ス（大正一〇・一一・二二）

○登記手續履行ト同時ニ代金ヲ支拂フヘキ旨ノ判決主文ノ意義　登記手續ヲ爲ス義務ハ登記ノ完了ニ依リテ遂行セラルルモノナルヲ以テ判決主文ニ於テ登記手續履行ト同時ニ代金ヲ支拂フヘキコトヲ命シタルモノトス（大正一〇・一二・一三）

○不動產ノ第二次買主ニ對スル登記完了ト第一次買主ノ權利　自己ノ不動產ヲ賣却シタル賣主カ擅ニ之ヲ他人ニ賣却シ其者ノ爲ニ所有權移轉登記ヲ了シタルトキハ後ノ買主ハ完全ナル所有權ヲ取得スヘク之ト同時ニ前買主ニ對スル所有權移轉ノ效果ヲ滅却セシムルニ至ルヘシ

如上賣主ノ第二次ノ賣却行爲ハ前買主ノ所有權ヲ侵害スル不法行爲ニシテ賣主ハ之カ爲メ前買主ニ生シタル損害ヲ賠償スル責務アリ從テ前買主ハ之ヲ賠償セシムル物權的請求權ヲ取得スヘシ

如上第二次ノ賣買ニ因ル所有權移轉登記ノ行ハレタル場合ニ於テ賣主カ所有權ヲ回復シテ前買主ニ完全ナル給付ヲ爲シ得サル場合ニ在テハ前買主ハ契約上ノ債務不履行若クハ履行不能ヲ原因トシテ損害賠償ヲ請求シ得ヘク又賣主カ所有權ヲ回復シテ前買主ニ完全ナル給付ヲ爲シ得ル場合ニハ契約上ノ債務履行ヲ請求シ得ヘシ

此等債權的請求權ハ前示不法行爲ニ因ル物權的請求ト競合スルモノニシテ其中一個ノ請求權ノ辨濟ニ因リ他ノ請求權ハ消滅スルモノトス（大正一一・五・二）

○即時賣買ニ於ケル債權的及物權的意思表示　物權ノ設定移轉ハ之ヲ目的トスル物權的意思表示ニ因リテ其效力ヲ生スル債權的意思表示ニ因リ當然其效力ヲ生スヘキニ非ス

特定物ノ賣買ニ於テモ觀念上所有權ヲ移轉スヘキ債務ヲ生セシムル債權的意思表示ト其債務ノ履行トシテ所有權ヲ移轉セシムル物權的意思表示トヲ區別スヘク單ニ此等ノ行爲ハ同時ニ行ハルルニ過キス（大正一一・五・二）

○地價昂騰ニ因ル利益ノ獲得ト賣主ノ立證責任　土地ノ買主カ價格昂騰ノ機會ヲ利用シ利益ヲ獲得スヘキモノナルコトハ取引上ノ常態ナルカ故ニ買主ハ何等ノ證據ヲ提出スルコトナクシテ一應價格昂騰ノ機會ヲ利用シ利益ヲ獲得スヘカリシモノト推定スルヲ相當トス從テ賣主カ其事實ヲ爭ハントスルトキハ其昂騰シタル時期ニ於テモ尙買主カ其機會ヲ利用セサルヘカリシ事情ノ存在スルコトヲ立證スルコトヲ要ス若シ價格昂騰ノ一事ヲ以テ直ニ損害アリト爲ストキハ買主カ其機會ヲ利用シテ利益ヲ獲得セサルヘカリシニ拘ラス賠償責任ヲ認ムルコトトナリ公平ノ觀念ニ反スル不法アリト謂ハサルヘカラス（大正一一・一〇・二四）

○賣買ノ效果意思ト其ノ用語　賣買ハ當事者ノ一方カ或財產權ヲ相手方ニ移轉スルコトヲ約シ相手方カ之ニ代金ヲ支拂フコトヲ約スルニ因リテ成立スルモノナレハ縱令其ノ意思ヲ表示スルニ當リ或物ノ貸付ト謂ヒ又ハ金錢ノ返濟若ハ對償金ノ支拂等ノ語辭ヲ使用スルモ苟モ其ノ效果意思ニシテ如上ノ趣旨ニ適合スルモノナル以上ハ之ヲ賣買ト認ムヘキモノトス（大正一三・三・一一）

○林野調查中ノ林野賣買ト登記義務　林野調查令ニ依リ調查中ニ係ル林野ノ賣買ニ付テモ普通ノ不動產賣買ニ於ケルト同樣特約ナキモ賣買契約上當然ノ義務トシテ賣主ハ所有權移轉登記義務ヲ負擔スルモノトス（大正一三・八・五）

○登記申請手續ト同時ニ爲スヘキ代金支拂ノ場所　賣買ニ因ル代金支拂ノ債務カ賣買ノ目的物タル土地ニ付所有權移轉登記ヲ爲スト同時ニ履行スヘキ關係ニ在ルモノナルトキハ其ノ履行ノ場所ハ一應所轄登記所所在ノ場所トスル約旨ト解スルヲ相當トス（大正一五・一一・二）

卷	頁
八	四四三
八	五三九
九	一五七
九	一五七
九	四三七
一二	二三
一二	一五六
一三	三七六

○格安ノ代金ト特別ノ事情　當事者ノ一方カ金錢ヲ給付スルコトヲ約シ相手方カ之ニ財產權ヲ移轉スルコトヲ約シ之ヲ通俗ニ賣買ト稱スル場合ニ於テモ其ノ金額ニシテ財產權ノ目的物ノ價格ニ比シ格外ニ低廉ナルトキハ特別ノ事情ナキ限リ當事者ノ意思ハ財產權ノ移轉ト金錢ノ給付トヲ對價的關係ニ置キタルモノニ非スシテ贈與以外ノ所謂實渡抵當其ノ他ノ契約成立シタルヘシトノ疑ヲ容ルル餘地アルモノナルカ故ニ贈與成立シタリト認ムルカ爲ニハ特別ノ事情存スルコトヲ究メサルヘカラス（昭和二・五・二〇）　一四　一七

○代金ノ著シク低廉ナル賣買契約ノ效力　賣買ニ於ケル代金ノ額カ目的物件ノ價額ニ比シ低廉ニシテ著シク不權衡ナル場合ニ於テ其ノ契約カ賣主ノ輕率無經驗又ハ急迫ナル困窮ニ乘シテ約諾セシメタルモノナルトキハ公序良俗ニ反スルモノトシテ之ヲ無效ト爲スモノトス（昭和三・一一・一七）　一五　二二

○國有林野賣却行爲ノ性質　行政官廳ノ爲ス國有林野賣却行爲ハ民法ニ定ムル賣買契約ナルモ又行政行爲タルノ性質ヲモ具有スルモノナレハ其ノ行爲ニハ一面賣買ニ關スル民法ノ規定ノ適用アルモ同時ニ他面行政行爲ニ關スル法則ノ適用アルモノトス（昭和五・七・二五）　一七　一五四

○不動產賣買契約ノ當事者間ニ於ケル第三者ニ所有權移轉登記ヲ爲スヘキ旨ノ合意ノ效力　不動產賣買契約ニ於テ其ノ當事者カ第三者ヲ指定シ之ニ所有權移轉登記ヲ爲スヘキ旨合意シタルトキ雖特別ノ事情ナキ限リ賣主ハ登記完了前ニ在リテハ何時ニテモ賣主ニ對シ右ノ合意ヲ取消シ更メテ自己ニ對シ所有權移轉登記ヲ爲スヘキコトヲ求メ得ルモノトス（昭和一〇・一〇・四）　一三　四二七

第五百五十六條

○還退ノ意義　還退ナル文詞ハ賣買契約ト同時ニ爲シタル解除條件附特約ノ場合ニ於テハ買戻ノ意義ニ使用セラルルヲ通例トスト雖賣買契約後ニ於テハ或ハ單純ナル同契約解除ノ意義ニ使用セラレ或ハ條件ヲ附シタル同契約解除ノ

卷	頁
一四	一七
一五	二二
一七	一五四
一三	四二七

意義ニ使用セラレ或ハ再賣買ノ豫約ノ意義ニ使用セラルル等種々ノ場合アルヘキヲ以テ朝鮮一般ニ行ハルル慣用上常ニ必ス單純ナル契約解除ノ意義ノミニ使用セラルルモノト謂フヲ得ス（大正六・三・一三）　四　一八九

○再賣買ノ豫約權利者ノ意思表示ト相手方承諾ノ要否　再賣買豫約ノ權利者ハ再賣買ヲ完結スル一方的意思表示ニヨリ再賣買ヲ成立セシメ得ヘキモノニシテ他ノ相手方ノ承諾ヲ要スルモノニアラサレハ豫約權利者カ其契約ノ履行トシテ相手方ニ對シ承諾ノ意思表示ヲ訴求スルハ失當ナリ（大正六・六・一九）　四　五五九

○訴訟ニ於ケル再賣買豫約ニヨル賣買完結ノ意思表示　再賣買豫約ニ因ル賣買完結ノ意思表示ニ付テハ法律上何等ノ方式ヲ要スルモノニアラサルヲ以テ訴訟當事者ハ訴狀答辯書若ハ口頭辯論ニ於テ攻擊又ハ防禦ノ方法トシテ明示的若クハ默示的ニ之ヲ爲スコトヲ妨ケス然レトモ豫約權利者カ賣買完結ノ意思表示ヲ爲シタル日時ヲ限定シテ主張シタル場合ニ於テハ裁判所ハ其日時ニ其意思表示ヲ爲シタルヤ否ヤヲ審判スルニ止ムヘク其他ニ於テ其意思表示ナカリシヤ否ヤヲ審判スルノ職責ヲ有スルモノニアラス（大正八・四・一五）　六　二九

○再賣買ノ豫約ト豫約失效ノ特約　再賣買ノ豫約ハ相手方カ賣買完結ノ意思ヲ表示シタルトキヨリ賣買ノ效力ヲ生スヘキモノナルコト本條第一項ノ規定スル所ナレトモ同條ハ敢テ强行的規定ニ非サルヲ以テ再賣買ノ豫約者ハ其相手方トノ間ニ若シ相手方ニ於テ再賣買期間内ニ約定ノ代金ヲ提供セサルトキハ當然再賣買ノ效力ヲ失フ旨ノ特約ヲ爲スコトヲ得サルモノニ非ス（大正一〇・一一・八）　八　三九六

第五百五十七條

○開城ニ於ケル蔘圃ノ賣買ト解除ノ慣習　開城ニ於テ蔘圃ノ賣買ニ付買主ヨリ賣主ニ對シ其代價ニ相當スル於晉ヲ交付シ掌記ヲ作成シタル場合ニ於テ當事者一方ノ意思ニ依リ隨意ニ其賣買契約ヲ解除スルコトハ引渡ニ關シ當事者雙方立會ノ上實物調査ヲ爲シテ現物ノ引渡ヲ爲ス場合ナルト將タ以口傳掌ノ方法ニテ實物調査ヲ爲サス口頭ニテ引

渡ヲ爲ス場合ナルトヲ問ハス其引渡ノ行ハルル以前ニ限リ許サルル習慣ナリトス（大正五・三・七）

○本條ノ解除權ヲ行使セサル旨ノ特約ノ效力　本條ニ依ル解除權ハ當事者間ニ於テ之ヲ行使セサルコトヲ特約スルヲ妨ケス（大正五・四・一四）

○預約金又ハ契約金ナル用語ト手附金ノ認定　朝鮮人間ノ賣買契約ニ於テ預約金（豫約金）或ハ契約金ナル文詞ヲ本條ニ所謂契約解除ノ方法タル手附金ト同一意義ニ使用スル慣習アルコトハ當院ノ認メサル所ニシテ之ヲ手附金ノ趣意ニ解スルト否トハ事實承審官ノ職權ニ屬スルモノトス（大正七・七・五）

○本條ニヨル解除權行使ト履行著手前ノ推定　買主カ賣主ニ手附ヲ交付シタルトキハ當事者ノ一方カ契約ノ履行ニ著手スル迄ハ買主ハ其手附ヲ拋棄シテ契約ノ解除ヲ爲シ得ルコト本條第一項ノ規定ニ徵シ明白ナリト雖買主カ賣主ノ債務履行前手附ヲ拋棄シテ契約ヲ解除シタル場合ニハ一應該解除ハ賣主カ契約ノ履行著手前適法ニ爲シタルモノト推定スヘク賣主カ該解除ハ契約ノ履行著手後ニ係ルヲ以テ無效ナリトシ以テ右推定ヲ覆ヘサントスルニハ須ラク賣主ニ於テ該解除カ契約ノ履行著手後ニ係ルコトヲ主張シ且立證セサルヘカラス（大正一〇・一〇・四）

○賣買代金ノ一部辨濟ト本條ノ解除權消滅　賣買ニ際リ買主カ賣主ニ手附ヲ交附シタルトキハ當事者ノ一方カ契約ノ履行ニ著手スル迄ハ賣主ハ其ノ手附倍額ヲ償還シテ契約ノ解除ヲナシ得ヘシト雖其ノ後買主カ賣主ニ對シ賣買代金ノ一部ヲ支拂ノ爲提供シ賣主ニ於テ異議ナク之ヲ受領シタルトキハ本條ニ所謂契約ノ履行ニ著手アリタルモノト謂フヘク賣主ハ最早手附倍額ヲ償還シテ契約ノ解除ヲ爲スヲ得サルモノトス（昭和四・一〇・四）

○本條解除權ノ契約ト違約金ノ特約　賣買當事者カ違約ノ場合ニ付損害賠償額ノ豫定ヲ爲シタルコトハ買主カ相手方ノ履行著手前受取リタル契約金ノ倍額ヲ償還シテ契約ヲ解除シ得ル旨ノ特約ト兩立セサルモノニ非ス（昭和一一・三・一七）

卷	頁
三	四二五
三	五一六
五	五七三
八	二八四
一六	二四三
二三	一一一

第二款　賣買ノ效力

第五百六十條

○他人ノ物ノ善意ノ賣主ト移轉義務　賣買契約締結ノ當時賣買ノ目的物カ第三者ノ所有ニ屬スルコトヲ知ラス賣主自己ノ所有ト信シテ之ヲ賣却シタル場合モ當初ヨリ第三者所有ノ物件ヲ以テ賣買ノ目的ト爲シタル場合ト同シク賣主ハ第三者ヨリ其權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スル義務ヲ負擔スルモノトス（大正四・四・二〇）

○物ノ所屬ト賣買契約ノ要素　他人ノ物ト雖賣買ノ目的物ト爲シ得ルカ故ニ賣買ノ目的物カ何人ニ歸屬スルヤハ當然賣買契約ノ要素ヲ爲スモノナリト謂フコトヲ得ス（昭和三・七・二四）

○無權利者ノ處分ト相續　無權利者カ其ノ處分シタル權利ヲ後日取得シタルトキハ茲ニ其ノ處分行爲ハ當然ニ效力ヲ生ス

被相續人ノ生存中其ノ所有土地ヲ相續人カ擅ニ處分シタル後被相續人亦同一土地ヲ他ニ遺贈シテ死亡シタルトキハ相續人ヨリ處分ヲ受ケタル者ト受遺者トハ民事令第十三條ニ所謂第三者ノ關係ニ立ツモノトス（昭和七・三・二五）

第五百六十一條

○他人ノ物ノ賣主ノ履行不能ト善意ノ買主ノ權利　他人ノ權利ヲ以テ賣買ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ賣主カ其ノ權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサルトキ善意ノ買主ハ一般債務ノ履行不能ナルトキト等シク契約ノ解除ヲ爲スコトナクシテ直ニ履行ニ代ル損害賠償ヲ請求シ得ルモノトス（大正一三・九・三〇）

○責ニ歸スヘキ履行不能ト本條ノ損害賠償　他人ノ權利ヲ以テ賣買ノ目的ト爲シタル場合ト雖賣主ノ義務カ其ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ履行不能トナリタル爲買主ヨリ其ノ損害賠償ノ請求ヲ爲スハ民法第五百六十一條ニ所謂

卷	頁
三	一二一
一五	二一三
一九	七三
一一	一五六

損害賠償ノ請求ニ非ス（昭和一〇・一〇・二五）

○中間登記省略ノ合意ト賣主ノ履行義務完了　不動產ノ賣主カ買主ニ其ノ所有權ヲ移轉シ其移轉登記ニ付テハ賣主ノ前主ノ所有名義ニ在ルカ爲所謂中間登記ヲ省略シテ賣主ノ前主ヨリ直接買主ニ所有權移轉登記ヲ爲スヘキ合意カ關係者間ニ成立シタルトキト雖之ニ依リテ賣主ノ債務ハ其ノ履行ヲ終ヘタルモノト謂フヲ得ス（昭和五・八・五）

○賣主ノ前主カ中間登記省略ヲ合意シタル場合ト民法第五百六十一條ノ準用　賣主ノ前主カ買主ニ對シテ所有權移轉登記ヲナスコト能ハサルニ至リタルトキハ民法第五百六十一條ノ準用アルモノトス（昭和五・八・五）

第五百六十三條

○本條ニ所謂移轉スルコト能ハサルトキノ意義　本條第一項ニ所謂「移轉スルコト能ハサルトキ」トハ其移轉カ必スシモ絕對的不能ノ場合ノミヲ謂フニ非ラス一般取引ノ通念ニ於テ不能ニ屬スヘキモノナルトキハ其移轉ハ尙不能タルヲ妨ケス（大正七・一・二九）

○洑梁ノ賣買ト收穫減收ノ爲メノ代金減額　洑梁ノ賣買ニ於テ豫定ノ收穫高ニ不足アルモ其足ラサル部分ノ割合ニ應シテ代金ノ減額ヲ爲スヘキ慣習ナシ（大正九・三・五）

第五百六十四條

○本條ニ規定セル「前條ニ定メタル權利」ノ範圍　民法第五百六十三條第三項ニ規定セル損害賠償ノ請求權ハ同法第五百六十四條ノ「前條ニ定メタル權利」トアル中ニ包含スルモノトス（大正四・七・六）

第五百六十五條

○數量ヲ指示シテ爲シタル賣買ノ意義　本條ニ數量ヲ指定シテ爲シタル賣買トハ特定物ノ賣買ニ於テ賣主カ其目的物ノ數量ヲ指示シ且其數量ヲ基礎トシテ代金額ヲ定メタル場合ヲ指稱スルモノニシテ單ニ目的物ヨリ收得スヘキ收穫物ノ數量ヲ指示シタル賣買ヲ云フモノニ非ス（大正九・三・五）

○契約ノ內容ト相違セルモ目的物ノ數量ニ不足ナキ場合ト代金減額ノ請求權　上告人カ被上告人ヨリ本件未登記ノ土地ハ全部開墾セル畓ニシテ六十町六反二畝二十三歩ノ面積アルモノトシ之ヲ買受ケタルニ其實一部ハ未墾地ニシテ畓ニ非サリシトスルモ苟モ賣買ノ目的物タリシ土地ノ坪數ニ不足ナク同面積ノ未登記土地存在セル以上賣買ノ目的物ノ數量ニ不足アリト云フヲ得サルヲ以テ本條ニ依ル代金減額ノ請求權ナキモノトス（大正九・一一・一一）

○所謂數量指示賣買ノ意義　本條ニ所謂數量ヲ指示シテ爲シタル賣買トハ特定物ノ賣買ニ於テ賣主カ其目的物ノ數量ヲ指示シ且其數量ヲ基礎トシテ代金額ヲ定メタル場合ヲ指稱ス（大正一〇・二・二一）

○目的物ヨリ收得スヘキ收穫物ハ本條ノ場合ニ該當セス　目的物ヨリ收得スヘキ收穫物ノ數量ヲ指示シ之ヲ賣却條件トスルモ之ヲ標準トシテ目的物ノ數量ヲ指示シタルモノト云フヲ得ス（大正一〇・二・二一）

第五百六十六條

○本條ニ所謂契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル事情　本條ニ所謂契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル事情ハ賣買當時ニ於ケル買主側ニ存スル事情ニ付決スヘキモノニシテ斯ル目的ヲ合意ノ內容ト爲スコトヲ要セサルハ勿論買主カ賣主ニ對シテ告知シ若ハ賣主ニ於テ之ヲ了知シタルコトヲ必要トセス要ハ一般ノ人カ其ノ買主ト爲リタル場合ニ於テ通常買受ノ目的ヲ達スルコト能ハサルモノト認ムヘキ場合ナレハ足レリトス（昭和一一・九・四）

第五百六十七條

○假差押又ハ差押ノ目的タル不動產ノ賣主ノ擔保責任　本條ハ賣買ノ目的タル不動產ノ上ニ存スル先取特權及抵當權ニ付テノミ規定スト雖之等ノ權利ノ行使ニ因テ買主カ其ノ所有權ヲ喪失スルハ假差押又ハ差押ノ目的タル不

卷	頁
三	四八七
一七	一七七
一七	一七七
五	二五
七	七一
三	二四二
七	七一
七	四〇五
刑八	二七
刑八	二七
二三	二四七

動產ノ買主カ强制執行ニ因テ其ノ所有權ヲ喪失スルト何等異ル處ナキカ故ニ賣主ノ擔保責任ニ付テ其ノ間ニ區別ヲ設クヘキ理由ナク同條ハ賣買ノ目的タル不動產ニ對シ假差押又ハ差押ノ爲サレタル場合ニ準用スヘキモノトス（昭和六・一〇・二七）

第五百六十八條

○國稅徵收法ニ基ク競賣　國家機關カ國稅徵收法ニ基キテ納稅義務者ノ財產ニ對シテ爲ス競賣モ亦民法第五百六十八條ニ所謂强制競賣ナリ（大正一四・一〇・九）

第五百七十條

○建物ノ賣買ト隱レタル瑕疵　建物ヲ其ノ用法ニ從ヒ利用スル目的ヲ以テ其ノ敷地ト共ニ買受ケタル場合ニ建物ノ一部カ權限ナクシテ他人ノ所有土地ニ侵入シテ建設セラレアリタルヲ買主ニ於テ當該敷地ト共ニ賣主ノ所有ト信シ且ツ之ヲ信スルニ付過失ナキトキハ民法五百七十條ニ所謂賣買ノ目的物ニ隱レタル瑕疵アリタルトキニ該當スルモノト解スルヲ相當トス（昭和一一・九・四）

第五百七十三條

○本條ノ代金支拂ト支拂方法トシテ振出シタル約束手形　賣買ノ目的物ノ引渡ニ付期限アルトキハ代金ノ支拂ニ付テモ亦同一ノ期限ヲ附シタルモノト推定スルコト本條ノ規定スル所ナルヲ以テ從テ斯カル場合ニハ代金ノ支拂ニ付特ニ別異ナル期限ノ定メアルコトノ反證ナキ限リハ目的物ノ引渡ト代金ノ支拂トハ同時履行ニ係ルモノトス而シテ代金支拂ノ方法トシテ手形ヲ振出ス場合ニ於テモ亦之ト同一ニ論スヘキハ當然ナリ（大正一〇・一〇・一四）

第五百七十五條

○賣買物件引渡後ノ果實ノ歸屬權利者　賣主ニ於テ既ニ賣買ノ目的物ヲ引渡シタル後ハ假令代金支拂時期ノ到

卷	頁
一八	一五五
一三	二四九
一三	二四七
八	二九五

來以前ニ目的物ヨリ果實ヲ生シタルトキト雖其果實ハ賣主ニ屬セスシテ買主ニ屬シ買主ハ民法第八十九條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ取得スルモノトス（大正九・一・二三）

○土地ノ賣買ト收穫物歸屬者ノ慣習　朝鮮ニ於テハ賣買ノ目的タル土地ノ收穫ニ付テハ特約ヲ以テ其歸屬ヲ定ムルヲ通例トシ若特約ナキトキハ耕作地ニ在テハ其作物カ成熟セルトキハ賣主ノ所得トシ稻田ニ在リテハ其收穫ハ白露前ノ賣買ニ在リテハ賣主ノ所得ニ歸シ白露後ノ賣買ニ在テハ買主ノ所得ニ歸スル慣習ニシテ收穫期以後ニ於ケル土地賣買ニ在テハ稻田タルト否トニ關セス收穫物ハ賣買ノ目的ニ包含セストノ一般慣習アルコトナシ（大正九・五・二五）

○前項慣行ノ人的範圍　朝鮮ニ於ケル稻田ノ賣買ニ在リテハ其賣買白露前ナルトキハ收穫ハ買主ノ所得ニ歸シ白露後ナルトキハ賣主ノ所得ニ歸スル慣習一般ニ行ハレ獨リ朝鮮人相互間ノ賣買ニ限ラス內地人ト朝鮮人間ノ賣買ニモ行ハルル慣習ナリトス（大正一〇・一二・二）

○同慣習ノ物的範圍　朝鮮ニ於テ稻田ノ賣買ニ付キ白露ノ前後ニ依リ其ノ收穫ノ歸屬ヲ異ニスル慣習ハ賣主カ土地ノ引渡ヲ爲シタル當時其地上ニ生育セル稻ヨリ生スヘキ收穫ニ關スルモノトス（大正一二・五・四）

○白露前ノ公賣ト果實ノ歸屬　白露ノ前後ニ依リ土地ノ秋收カ買主ニ移轉シ若ハ移轉セストスル慣習ニシテ當事者ノ契約ノ內容ヲ解釋スルニ當リテノ規準ニ過キス競賣法及民事訴訟法ニ依ル强制競賣竝國稅徵收令ニ依ル公賣ニ在リテハ競落ニ因リテ競落人若ハ買受人ニ移轉スル權利ノ內容ハ法律ノ規定ニ依テ定マリ當事者ノ意思ヲ解釋スル餘地ナク從テ白露ノ前後ニ依リ區別アルコトナシ（昭和四・九・二七）

第五百七十七條

○抵當權設定登記アル不動產賣買ノ代金支拂拒絕權　本條所定ノ賣買代金支拂拒絕權ハ買主カ其ノ抵當權設

卷	頁
七	四
七	二三一
八	四九八
一〇	二一八
一六	二三〇

定登記ノ存在ヲ知リテ移轉登記ヲ受ケタルコトニヨリ喪フモノニ非ス（昭和八・一一・一〇）

○本條ニ所謂抵當權ノ登記　抵當權カ消滅シタル場合ト雖當該登記カ抹消セラレスシテ存スル以上ハ民法第五百七十七條ノ適用アルモノト解スヘキモノトス（昭和一一・三・一七）

第三款　買戻

第五百七十九條

○買戻實行ノ要件　買戻ハ賣買契約ノ解除ナルモ買戻ヲ爲スニハ賣主ハ解除ノ意思表示ノ外ニ買戻代金及契約ノ費用ヲ現實ニ提供スルコトヲ要ス（大正五・一〇・三〇）

○買戻權行使ノ效果　適法ナル買戻權ノ行使アリタルトキハ賣買解除ノ效ヲ生シ既存ノ契約關係ヲ消滅セシメ曾テ契約ナカリシト同一ナル狀態ニ回復セシムヘキモノトス從テ賣買ニ因リテ移轉シタル所有權ハ買戻ノ意思表示アリタルト同時ニ當然賣主ニ復歸シ別段ニ所有權ヲ移轉スル意思表示アルコトヲ要セス（大正五・一二・二二）

○買戻ニヨル所有權ノ當然復歸　民法第五百四十五條ハ解除ノ結果或ル給付行爲ヲ爲シテ原狀ニ回復スルコトヲ要スルカ如キ場合ニ於ケル義務ノ負擔ヲ規定シタルモノニシテ所有權ノ如キ買戻ノ意思表示ニ依リ當然原權利者ニ復歸スヘキモノニハ其適用ナキモノトス（大正五・一二・二二）

○物權設定移轉ノ意思表示ト買戻ノ意思表示　民法第百七十六條ニ所謂意思表示ハ物權ノ設定又ハ移轉ノ意思表示ヲ指稱シ買戻ノ意思表示ハ之ヲ包含セス（大正五・一二・二二）

○還退ノ意義　還退ナル文詞ハ賣買契約ト同時ニ爲シタル解除條件附特約ノ場合ニ於テハ買戻ノ意義ニ使用セラルヘク通例トスト雖賣買契約解除ノ意義ニ使用セラレ或ハ條件ヲ附シタル同契約解除ノ意義ニ使用セラルル等種々ノ場合アルヘキヲ以テ朝鮮一般ニ行ハルル慣用上常ニ必ス單純ナル契約解除ノ意義ノミニ使用セラルルモノト謂フヲ得ス（大正六・三・一三）

○買戻契約締結ノ時期　民法ニ所謂買戻契約ハ賣買契約ト同時ニ之ヲ爲スコトヲ要シ賣買契約ノ後ニ至リテハ之ヲ爲スコトヲ得ス（大正六・三・一三）

○買戻ニ要スル代金額　買戻ノ特約ニ依リ賣主カ買主ニ返還スヘキ代金ハ賣買代金ト同一ナルコトヲ要ス（大正六・六・三〇）

○買戻ノ爲メニスル提供金ト特約利息　買戻ノ特約ニ依リ賣主カ買主ニ提供スヘキ金額ハ常ニ賣買代金ト同額タルヲ要スルモノニ非ス契約ノ費用ノ外尚當事者ノ特約ニ依リ賣買代金ノ利息ノ附加スルヲ妨ケサルハ民法第五百七十九條ノ解釋上何等疑ナキ所トス（大正九・六・二五）

○買戻特約ハ所有權移轉登記ト共ニ登記ヲ要ス　買戻特約附賣買契約ニ在リテハ買主カ賣主ニ對シ賣買ニ因ル所有權移轉ノ登記ト共ニ買戻特約ノ登記手續ノ請求ヲ爲ササルヘカラス（大正九・一〇・二六）

○還退ノ特約ヲ附シテ爲ス土地賣買上ノ慣習　咸鏡北道明川郡地方ニ於テハ還退ノ特約ヲ附シテ土地ノ賣買ヲ爲ス場合ニハ契約ノ際原價ニテ還退ヲ爲スカ時價ニテ還退ヲ爲スカヲ約スルヲ通例トシ時價ニ依リ還退ヲ爲スコトヲ約シタル場合ニハ其文記ニ加文還退又ハ加錢還退ト記載スル慣習アリ

上記ノ慣習ニ依レハ還退ノ特約ニハ買主ニ於テ原價ヲ返還シテ賣買ノ解除ヲ爲シ得ル場合即民法ニ所謂買戻ノ特約ト同視シ得ヘキ場合ト賣主カ時價ヲ支拂ヒ所有權ヲ回復シ得ル場合即再賣買ノ豫約ニ該當スヘキ場合アリトス（大正九・一一・一二）

四一八九	四	六〇七	七
四一八九	四	二九九	七
三九七九	七	三九五	七

三九七	三	九九七	三
三九七	三	九九七	三
三九七	三	九九七	三
四二四	二〇	九七	二三

○買戻權ノ性質　買戻權ハ債權ニ非スシテ買戻期間内原賣買ノ賣主ニ於テ何時ニテモ原賣買ノ目的物ヲ買戻シ得ル形成權ナリ（大正一〇・一一・一）

○定期取引ニ於ケル轉賣買戻　米穀ノ定期取引ニ付テ行ハルル轉賣買戻ハ賣買當事者ノ一方カ相手方ニ通知スルコトナク又其ノ承諾ヲ受クルコトナクシテ市場ニ於テ前取引ト反對ノ賣買ヲ爲スニ因リテ自己ノ賣約ト買約トヲ相殺シ全然其ノ契約關係ヨリ脫離スルコトヲ謂ヒ多クノ場合ニ於テハ契約當事者一方ノ賣約若ハ買約ト買戻約若ハ轉賣約トヲ差引消合スルモノニシテ其ノ行爲ハ定期取引ニ關スル商慣習ニ依リテ認メラルル一種特別ノモノトス（大正一二・八・七）

○買戻權ノ行使ト第三者ノ權利　買戻權ノ行使ハ固ヨリ第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得スト雖其ノ第三者ノ權利カ買戻權利者ニ對抗シ得サルモノナルトキハ買戻ハ完全ニ其ノ效力ヲ生スルモノトス（大正一四・一〇・一三）

第五百八十條

○買戻期間ニ關スル民事令施行前ノ慣習　朝鮮ニ於テハ朝鮮民事令施行前土地賣買ニ關シ不定期間ノ買戻契約ヲ締結シタル慣習アリ（大正五・四・一一）

○買戻期間伸張ニ關スル合意ノ效力　買戻期間ノ伸張ハ法律ノ制限スルトコロナレハ假令當事者合意ヲ以テ之ヲ伸張スルモ其ノ效ナキモノト謂ハサルヘカラス（大正一四・一〇・二）

第五百八十三條

○買戻ニ關スル朝鮮民事令施行前ノ慣習　買戻約款附賣買契約ノ場合ニ於テ賣主ハ買戻期間内ニ代金ヲ提供スルニ非サレハ買戻ヲ爲スヲ得サルコトハ朝鮮民事令施行以前朝鮮ニ於テ行ハレタル慣習ナリ（大正六・一一・一三）

○買戻ニ關シ民法第四百九十三條ノ適用ノ有無　買戻ニッキ民法第五百八十三條ハ辨濟ノ提供ニ關スル同第四百九十三條ノ適用ヲ除外スヘキモノニアラス故ニ買主カ豫メ賣主ニ對シ買戻代金ノ受領ヲ拒絕スル意思ヲ表示シタルトキハ賣主ハ買戻權ヲ實行スルニ付現實ニ右代金ノ提供ヲ爲スヲ要セス其辨濟ノ準備トシテ認ムルニ足ルヘキ行爲ヲ爲シタルコトヲ買主ニ通知シ其受領ヲ催告スルヲ以テ足ルモノトス（大正八・五・九）

○前項ノ場合ニ於ケル受領催告ノ期間　而シテ買主ノ買戻代金受領拒絕ノ意表示ノ以後ニ於テ當事者間事情ノ變更ヲ認ムヘキモノアルトキハ格別ナルモ然ラサルニ於テハ受領ノ拒絕ト受領ノ催告トノ間ニ存スル期間ノ長短ハ前記買戻權ノ實行ニ何等ノ影響ヲ及ホササルモノトス（大正八・五・九）

○買戻ニ付民法第四百九十三條但書ノ働ク場合　買戻ニッキ民法第四百九十三條但書ノ規定ハ賣主カ未タ現實ニ債務ノ本旨ニ從ヒタル買戻金ノ提供ヲ爲ササル場合ニ始メテ其適用ヲ見ルヘキモノニシテ之カ爲メ賣主ニ於テ一旦現實ニ債務ノ本旨ニ從ヒタル買戻金ノ提供ヲ爲シ買主ニ於テ之カ受領ヲ拒絕シタル事實アルヲ要スルモノニアラス（大正八・五・九）

○買戻ノ代金提供ノ場所　民法第五百八十三條ニ所謂代金ノ提供ハ金錢債務ノ辨濟ノ提供ニ外ナラサレハ其提供ノ場所ニ付別段ノ意思表示ナキトキハ同第四百八十四條ニ從ヒ債權者ノ現時ノ住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス（大正一〇・一〇・二五）

○多數當事者ノ買戻權ノ行使　賣買ノ當事者ノ一方又ハ雙方カ多數ナルトキハ買戻權ノ行使ハ其ノ全員ヨリ又ハ全員ニ對シテ爲スコトヲ要ス（昭和九・六・五）

巻	頁
八	三六二
一〇	二三五
一三	三七三
一三	四八五
一三	三三四
四	九五三
六	三八三
六	三八三
六	三八三
八	三四四
一二	二二一

第五節　消費貸借

第五百八十七條

○娼妓雇入資金ノ貸借契約ト民法第九十條　娼妓ハ公認セラレタルモノナレハ其雇入資金ニ供スル金錢ノ貸借契約ハ之ヲ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル無效ノ契約ナリト謂フコトヲ得ス（明治四四・四・二九）

○無期限ノ消費貸借ト朝鮮人間ノ慣習　朝鮮人間ノ消費貸借ナルトキハ履行期限ノ定メナキモ相當ノ期間ヲ定メテ催告スルヲ要セス直ニ返還ヲ請求シ得ヘキハ從來ノ慣習ナリ（明治四四・八・三一）

○提供ノミニテハ貸金ノ辨濟トナラス　消費貸借ノ場合ニ於テ借主ハ辨濟ノ提供ヲ爲シタル時ヨリ遲延利子ヲ支拂フ義務ヲ免ルルモ本來ノ債務其モノハ辨濟ノ提供ノミニ依リテ之ヲ免ルヘキモノニ非ス（大正七・一一・五）

○抵當權ト流抵當權ノ性質及效力上ノ異同　消費貸借ニ因ル債務ノ履行ヲ確保スル爲ニ抵當權ヲ設定シタルトキハ債權者ハ債務者カ債務ノ履行ヲ爲ササルニ當リ抵當權ノ實行ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サスシテ債務ノ履行ヲ要求シ得ヘシト雖反之流抵當權ヲ設定シタルトキハ債務者カ債務ノ履行ヲ爲ササルニ當リ當然代物辨濟ノ效果ヲ生シ之ニ因リ債務ハ消滅ニ歸スヘキモノナレハ抵當權ト流抵當權トハ其性質及效力ニ於テ相異ノ點アルコトヲ認メサルヘカラス然レトモ抵當權モ流抵當權モ共ニ消費貸借ニ因ル債務ノ履行ヲ確保スル爲ニ設定セラレタルモノナル以上消費貸借契約ニ對スル關係ニ於テハ通常從タル關係ニ在ルモノト謂ハサルヘカラサルヲ以テ縱令從タル契約カ無效ナルトキト雖モ之カ爲ニ必スシモ主タル契約ヲ無效視セサルヘカラサルモノニ非スシテ特別ノ意思表示ナキ限リ主タル契約ハ依然トシテ效力ヲ保有スヘキハ當然ナレハ此關係ニ於テハ抵當權モ共ニ同一ナリト謂ハサルヘカラス（大正一〇・二・二二）

○流抵當契約無效ト消費貸借契約及人的保證ノ效力　流抵當附消費貸借ヲ擔保スル爲ニ人的保證ヲ以テシタル場合ニ於テ保證人カ若シ流抵當契約ノ無效ナルトキハ消費貸借及其人的保證ヲ無效トスル旨ノ特別ノ意思表示ヲ爲シタリトセハ其事實ハ之ヲ主張スル者ニ於テ之ヲ立證セサルヘカラス其立證ナキニ於テハ縱令流抵當契約カ無效ナルトキト雖消費貸借及其人的保證ハ原則トシテ之ヲ有效ト認ムヘキモノトス（大正一〇・二・二二）

○「法定利息支拂」ノ約旨　消費貸借契約ニ於テ當事者ノ一方カ相手方ニ對シ法定利息ヲ支拂フコトヲ約シタルトキハ別段ノ事情ナキ限リ債務者ハ法定利率ニ依ル利息ヲ支拂フ約旨ナリト解スヘキモノナレハ之ヲ以テ利息制限令ノ許容セル最高ノ利率ニ依ル利息ヲ支拂フ約旨ト解スルニハ其之ヲ解スルニ足ルヘキ特別ノ理由ヲ明示スル要アルモノトス（大正一一・四・一四）

○現金授受ナキ消費貸借ノ成立　金錢消費貸借ハ必スシモ現實ニ金錢ノ授受アルコトヲ要スルモノニ非スシテ縱令現實ニ金錢ノ授受ナキモ貸主カ借主ヲシテ現實ニ其金錢ノ授受アリタルト同一ノ經濟上ノ利益ヲ得セシメタルトキハ消費貸借成立スヘキモノトス（大正一一・七・七）

○消費貸借ト利息ノ天引　借主カ貸主ニ對シ利息ヲ支拂フコトヲ要スル場合ニ貸主カ借主ニ對シ貸金ヲ交付シ更ニ同金員中ヨリ其利子ヲ受取ルヘキ手數ヲ省略シ貸主カ豫メ借主ニ交付スヘキ貸金中ヨリ之ヲ控除スルモ借主ハ之ヲ受取リタルト同一ノ經濟上ノ利益ヲ受クルモノナレハ其控除セル金額ニ付消費貸借成立スヘク又貸主カ借主ニ對シ自己若クハ第三者ノ振出ニ係ル小切手ヲ交付シ借主カ之ニ依リテ金融ヲ得現金ヲ受取ルコトヲ得タル如キ場合ニ於テモ借主ハ該小切手ノ授受ニ依リ現金ノ授受アリタルト同一ノ經濟上ノ利益ヲ得ヘキモノナルヲ以テ消費貸借ハ其小切手ノ授受ト同時ニ成立スルモノトス（大正一一・七・七）

○要物契約ニ於ケル物ノ授受　消費貸借及寄託ハ共ニ要物契約ナリト雖其ノ成立ニ要スル目的物ノ授受ハ現實ニ行ハルルコトヲ要セス經濟上授受アリタルト同一ノ狀態ニ置クヲ以テ足ル（大正一五・六・二二）

卷	頁
一	二五五
一	三五六
五	八四〇
八	四三
九	一四三
九	二六〇
九	二六〇
一三	一五九

○消費貸借ト現金授受ノ省略　消費貸借ノ貸主カ同時ニ寄託契約ノ受寄者トナリ相手方カ借主タルト同時ニ寄託者トナリテ同一金額ニ付消費貸借ト寄託トヲ契約スル場合ニハ金錢ノ引渡ヲ省略スルヲ妨ケス　（大正一五・六・二二）

○賭博資金貸借ノ效力　當事者カ賭博ノ資金ニ供スル趣旨ニ於テ金錢ノ貸借ヲ爲シタル場合ニ於テハ當該法律行爲ハ公序良俗ニ反スル事項ヲ目的トスルモノトシテ之ヲ無效トス　（昭和二・三・一一）

○面長ト面ノ出納ニ關スル責任者　面ノ出納ニ關シ現實ニ金錢ノ支拂ヲ爲シ又ハ收入ヲ受領スル權限ハ會計員ニ屬シ面長ニ屬セス故ニ面カ第三者ヨリ金員ヲ借入レントスル場合ニハ面ノ代表者ハ面長ナルモ會計員ニ於テ借入金ヲ受領スルニ非サレハ消費貸借ノ效力ヲ生セス　（昭和四・三・八）

○電信爲替ニ依ル送金ト消費貸借ノ成立　官廳其ノ他多數人集合ノ箇所ヲ肩書シタル郵便物ハ其ノ受附ニ引渡シテ送達スヘキモノナルカ故ニ郵便ニ付シテ送附シタル物品ニ付テハ斯ル箇所ニ集合スル者ハ常ニ其ノ受附ヲ以テ受領ニ付テノ代理人ト爲セルモノト解スヘク特別ノ事情ナキ限リ受附ヲ以テ發送者ノ爲メニ送達ノ取次ヲナスモノト解スヘキニ非ス病院ノ受附ノ入院患者ニ對スル關係亦同樣トス而シテ電信爲替證書ハ取引ノ通念上現金ト同視スヘキモノナルカ故ニ其ノ在中ノ書留郵便カ被告ノ入院セル病院ノ受附ニ引渡サレタルトキハ消費貸借ハ之ニ因テ成立スルモノトス　（昭和六・七・七）

○債務者同一ノ錯誤ト消費貸借ノ效力　消費借ニ在リテハ債務者ノ同一ニ付テ錯誤アリタルトキハ契約ハ無效トス他人ノ債務ヲ辨濟シタル第三者カ辨濟ニ當リ債務者同一ニ付テ錯誤アリタルトキハ債務者ナリト誤信シタル者ハ債務者ニ非サルヲ以テ恰モ債務者ニ非サル者カ錯誤ニ因テ辨濟シタル場合ト同樣債權者ニ對シ不當利得ニ基テ其ノ辨濟シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得　（昭和七・一二・二三）

卷	頁
一三	一五九
一四	六六
一六	四四
一八	一四四
一九	二八一

第五百八十八條

○更改ト準消費貸借　舊債務ノ消滅シテ新債務ノ發生スルハ更改ニ限ルニアラス支拂フヘキ債務ヲ負擔スル場合ニ當事者雙方合意ノ上之ヲ貸金ニ改メタルトキニ於テモ舊債務消滅シテ新債務發生スルモノトス　（大正四・二・一二）

○準消費貸借ノ否認ト其ノ立證責任　當事者カ從來債務ノ目的タル金錢ヲ目的トシテ消費貸借（所謂準消費貸借）ノ成立シタルコトヲ主張シ其ノ立證トシテ提出セラレタル證書ニ於テ從來債務ニ關スル記載ナク單ニ金錢ヲ借用スル旨ノ記載アルトキト雖反證ナキ限リ其ノ主張事實ハ一應立證セラレタルモノト云フヘク從來ノ債務ヲ否認シテ準消費貸借ノ成立セサルコトヲ主張スル者ハ反證ヲ提出スル義務アルモノトス　（大正一一・七・二五）

○準消費貸借前ノ債務ト訴ノ原因事實　民法第五百八十八條ノ規定ニ依ル所謂準消費貸借ニ因ル金錢債務ノ支拂ヲ求ムル訴ニ於ケル請求ノ原因タル事實ハ當該準消費貸借ノ事實關係ニ外ナラスシテ其ノ貸借ノ目的ト爲シタル舊債務ノ發生事由ニ係ル事實ハ如上訴ニ於ケル請求ノ原因タル事實ニ屬セス從テ其ノ訴ノ原告タル者ハ何時ニテモ任意ニ斯ル事實ヲ補充シ若クハ更正スルコトヲ得ヘキモノトス　（大正一二・八・七）

○貸金豫約ノ債權ヲ目的トセル準消費寄託　金錢ノ消費貸借ノ豫約ニ基ク債權ノ目的ハ金錢ノ支拂其ノモノニ非スシテ金錢ノ支拂ニ因リ消費貸借ヲ成立セシムルコトニ在ルカ故ニ金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ト謂フコトヲ得ス然レハ該豫約ニ基キ支拂フヘキ金錢ヲ以テ準消費寄託ノ目的ト爲スコトハ之ヲ許容セサルモノトス　（大正一二・一〇・三〇）

○利息制限令超過ノ利息ノ準消費貸借ノ效力　利息制限令所定ノ制限利率ヲ超過スル部分ノ利息ニ關スル契約ハ無效ナルカ故ニ當事者既ニ任意授受ヲ了セサルモノニ付テハ利息制限令ノ規定ニ從ヒ更ニ計算ヲ爲シ元利金ノ辨濟ヲ爲ササルヘカラサルモノニシテ縱令當事者カ利息制限令ノ規定ニ超過スル利息ヲ授

卷	頁
三	三五
九	二七一
一〇	二三五
一〇	三二六

受スヘキコトヲ約定スルモ有效ナル債務關係ヲ發生セシムルコトヲ得サルニ依リ其ノ債務關係ヲ目的トシタル消費貸借ハ無效ナリ（昭和二・九・六）

○同　旨　利息制限令ニ定ムル制限ニ超過スル利息額ヲ消費貸借ノ目的トシ合意ヲ爲スモ有效ニ消費貸借ノ成立スルコトナキモノトス（昭和五・一一・一一）

○準消費貸借ト既存債務一部辨濟ノ充當方　準消費貸借ノ合意アリタル事實ハ一應其ノ目的タル債務カ既ニ存在シタルモノナルヘシト推斷スルノ根據ト爲リ得ヘシト雖其ノ前ニ於ケル一部辨濟カ任意制限超過ノ利率ニ依ル約定利息ノ辨濟トシテ支拂ハレタルモノナリトノ推定ヲ下ス根據ト爲リ得ルモノニ非ス（昭和七・一〇・七）

○準消費貸借ノ締結ト舊債務　準消費貸借ノ締結ニ因テ舊債務カ消滅スルヤ否ハ當事者ノ意思ニ依リテ定ルモノトス（昭和九・九・一八）

○準消費貸借ト時效　賣買代金債務カ二年ノ短期時效ニ服スヘキモノトスルモ當事者カ該債務ヲ目的トシテ準消費貸借契約ヲ締結シタル場合ニハ爾後消費貸借上ノ債務トシテ民法又ハ商法所定ノ一般時效ニ關スル規定ノ適用ヲ受クヘキモノトス（昭和一〇・一二・一三）

第五百八十九條

○消費貸借豫約者ノ債務　消費貸借ノ豫約ハ諸成契約ニシテ豫約者ハ契約ノ趣旨ニ從ヒ契約ノ目的物タル金錢其他ノ代替物ヲ引渡シ消費貸借ヲ成立セシムル債務ヲ負擔スルモノトス（大正一一・八・二五）

○消費貸借豫約者ノ債務ノ强制履行　豫約者カ債務ノ履行ヲ爲ササルトキハ相手方ハ債務ノ不履行ニ關スル一般ノ原則ニ從ヒ其履行ヲ强制スルコトヲ得ヘキモノトス（大正一一・八・二五）

○消費貸借ノ豫約ニ基ク權利ノ讓渡　消費貸借ハ借主ノ信用ヲ基礎トスルモノナルカ故ニ其ノ豫約ニ基ク權利ハ讓渡スルコトヲ得サルモノトス（昭和四・九・二七）

第五百九十一條

○無期限ノ消費貸借ト朝鮮人間ノ慣習　朝鮮人間ノ消費貸借ナルトキハ履行期限ノ定メナキモ相當ノ期限ヲ定メテ催告スルヲ要セス直ニ返還ヲ請求シ得ヘキハ從來ノ慣習ナリ（明治四四・八・三一）

○辨濟期ノ定ナキ貸金ト相殺　辨濟期ノ定メナキ貸金債權ハ催告ヲ要セスシテ相殺ニ供スルコトヲ得（昭和七・三・二九）

第七節　賃貸借

第一款　總則

第六百一條

○舍音ト小作地ノ占有　朝鮮ノ慣習ニ於テ小作地ハ小作人ニ於テ占有ヲ爲シ地主モ亦小作人ニ依リテ占有ヲ爲スモノニシテ舍音ハ之カ占有ヲ爲スモノニ非ス（大正二・三・一四）

○賭租ノ性質及賭租ノ計算　朝鮮ノ慣習ニ於テ賭租ハ他人ノ土地ニ付使用收益ヲ爲ス場合ノ對價ニ外ナラサルヲ以テ之ヲ收得スル權利ノ存續期間日割ヲ以テ取得スヘキモノトス（大正二・三・一四）

○小作人カ地主ノ代理ヲ爲ス慣習ノ存否　朝鮮ニ於テ小作人ハ其小作地ニ對スル利益ノ行爲ヲ地主ノ代理トシテ爲スコトヲ得ヘシトノ一般慣習ハ存在セス（大正七・四・五）

○小作料ノ支拂方法タル打租ト賭租トノ差異　朝鮮ニ於テ畓ノ賃貸借契約ニ基タ土地ノ賃料タル小作料ノ支拂

卷	頁
一四	二九五
一七	二二八
一九	二一〇
二一	二二〇
二三	五七五
九	三一五
九	三一五
一六	二三七
一	三五六
一九	七九
二	一五九
二	一五九
五	二三五

方法ニ關シテハ打租ニ依ル場合ト賭租ニ依ル場合トノ二アリテ前者ハ每年實地ニ就キ收穫ノ一半ヲ小作料トナスモノ後者ハ收穫ニ對スル小作料ノ割合ヲ定メ年ノ豐凶ニ拘ラス一定ノ小作料額ヲ支拂フモノニシテ二者何レニ從フヘキカハ固ヨリ契約當事者ノ自由ナリトス（大正七・七・九）

○敵國人ノ家賃請求ト大正六年朝鮮總督府令第二十六號　當事者カ敵國人ニシテ家賃債權ニ付先取特權アリト主張スルトキハ大正六年五月五日朝鮮總督府令第二十六號（對敵取引禁止令施行ニ關スル件）ニ依リ其敵國人カ朝鮮總督ヨリ家屋賃貸ノ許可ヲ受ケタリヤ否ヤヲ調査スルコトヲ要ス（大正七・七・一〇）

○土地ノ所有者ト認メテ借受ケタル場合ノ所有權ノ推定　土地ニ付相手方ノ所有權ヲ認メテ之ヲ賃借スル意思表示ヲ爲シタルトキハ反證ナキ限リ當事者間ニ於テハ賃貸人ニ所有權アリト推定スヘキモノトス（大正七・一二・二七）

○賃借人ノ所有物ヲ目的トスル賃貸借契約ノ成立　賃貸借契約ハ所有權ノ移轉ヲ目的トスルモノニ非スシテ單ニ物ノ使用收益ヲ目的トスルモノナレハ假令賃借人自身ノ所有物ト雖現在貸主カ其物ニ付權原ニ因リ占有ヲ爲スノ權利ヲ有スルトキハ其權利ノ範圍内ニ於テ賃貸借ノ成立ヲ妨ケサルモノトス（大正八・二・一四）

○同　旨　賃貸借契約ハ單ニ物ノ使用收益ヲ目的トスルモノナルカ故ニ其目的物カ賃貸人ノ所有ニ屬セスシテ賃借人ノ所有タル一事ニ依リ當然無效トナルモノニ非ス賃貸人カ之ヲ賃貸シ得ヘキ權利ヲ有スル場合ハ勿論所有者タル賃借人カ自己ノ所有物ヲ賃借スルニ付利益ヲ有スル場合例ヘハ物ノ所有ニ付當事者間爭アリ其爭ノ終局スル迄實際ノ所有者カ之ヲ賃借シ使用收益スル如キ場合ニアリテハ眞ノ所有者ト雖モ賃貸借契約ニ依リ利益ヲ受クヘキモノナルヲ以テ賃貸借契約ハ有效ニ成立スヘキモノトス（大正一〇・三・二五）

○無效ノ賃貸借契約ト賃料ノ性質　賃貸借契約カ無效ナルトキハ該契約ニ基キ支拂ノ賃料ハ土地ノ使用ノ對價

ナリト云フヲ得サルヲ以テ法定果實ナリト云フヲ得ス（大正一〇・三・二五）

○賃貸土地ノ買主ト賃貸義務承繼ノ慣習有無　賃借人カ之ニ住家其他ノ建物ヲ建築シ所有スル土地ノ買主ハ前所有者タル賣主ノ該土地賃貸義務ヲ承繼シ引續キ土地ヲ該建物所有者ニ貸與セサルヘカラサル慣習ハ平壤地方ニ存セス（大正一一・八・八）

○朝鮮ニ於ケル慣習上ノ小作制度　朝鮮慣習トシテ一般ニ行ハルル小作制度上地主ト耕作者間ニ於ケル土地ノ使用收益ニ關スル法律關係ハ其所謂賭租ノ契約ナル場合ト並作ノ契約ナル場合トヲ問ハス地主カ耕作者ニ土地ノ使用及收益ヲ爲サシムルコトヲ約シ耕作者カ之ニ賃料ヲ支拂フコトヲ約スル契約關係ニシテ其條款ノ如何ニ從ヒ或ハ永小作或ハ賃貸借ノ關係成立スルニ止マリ組合關係ヲ形成セサルモノトス（大正一二・六・二二）

○小作土地ノ所有權ノ移轉ト小作料請求權ノ歸屬　小作契約ノ目的トナレル土地所有權ト其ノ小作料請求權トハ夫レ夫レ法律關係ヲ異ニシ法律上別個ノ運命ニ服スヘキモノナルカ故ニ前者ノ權利移轉ハ當然後者ノ權利移轉ヲ隨伴結果スルコトナキモノトス（昭和七・六・一四）

○賃貸借ノ目的物ノ使用收益ト賃料支拂ノ義務　賃貸借契約ニ於テ賃貸人カ賃借人ヲシテ目的物ノ使用收益ヲ爲サシムルコトハ具體的賃料請求權發生ノ要件ナリト雖賃貸人ハ賃借人ニ於テ目的物ノ使用收益ヲ爲シ得ヘキ狀態ニ之ヲ置ケハ足ルモノニシテ以後賃借人ニ於テ現實ニ目的物ノ使用收益ヲ爲シタルコトハ必要ニアラス（昭和一一・一〇・二六）

第二款　賃貸借ノ效力

第六百五條

○平安北道博川郡德安面ノ賃貸借ニ關スル慣習　平安北道博川郡德安面地方ニ在リテハ泥生地ヲ防塞シテ畓

トナシ之ヲ耕作スル爲メ普通三年乃至六年ノ期限ヲ以テ賃借契約ヲ締結シ其期間内ニ於テハ借主ノ權利ハ物權的效力ヲ有シ其土地ノ所有權ヲ讓受ケタル第三者ニ對シテモ其權利ヲ對抗スルヲ得ヘキ地方慣習存在ス（大正七・三・八）

○不動產賃貸借ト民法第五百四十五條但書　不動產賣買契約カ解除セラレタル場合ニ於テ買主ヨリ不動產ヲ賃借シタル者ト雖賃貸借ニ付登記ヲ爲スニ非サレハ賃借權ヲ以テ解除者ニ對抗スルヲ得ス此見解ハ民法第五百四十五條但書ノ規定アルカ爲ニ影響アルコトナシ（大正一〇・一一・二二）

○登記ナキ不動產賃貸借ノ效力　不動產ニ付其ノ所有者カ他人ニ之ヲ賃貸セル事情ヲ知リテ其ノ所有權ヲ取得シタル場合ニ於テモ其ノ賃貸借カ登記シタルモノニ非サルトキハ別段ノ合意ノ存セサル限リ第三取得者ハ該賃貸借關係ヲ無視シテ其ノ權利ヲ行使シ得ヘキモノトス（大正一四・七・一四）

○不動產賃貸借ト其ノ登記請求ノ能否　不動產ノ賃貸借ハ之ヲ登記スヘキ特約アルニ非サレハ賃借人ハ登記ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス（大正一四・一二・二二）

○既存登記ノ流用　抵當權登記後登記セラレタル民法第六百二條所定期間ヲ超ユル賃貸借ノ登記ハ其ノ後競落人ト同一賃借權者トノ間ニ締結セラレタル新ナル賃貸借ノ公示方法タルニ適セサルモノトス（昭和一〇・一一・一二）

第六百九條

○本條ノ收益ノ意義　民法第六百九條ニ所謂收益トハ土地ノ總收穫ヨリ必要ノ農費ヲ控除シタル純收益ヲイフモノトス（昭和一一・一二・二六）

第六百十二條

○傳貰契約ト轉貸權ノ慣習　傳貰契約ニ依リ家屋使用ノ權利ヲ得タル者カ該家屋所有者ノ承諾ヲ得スシテ其權利ヲ第三者ニ讓渡シテ全然其關係ヨリ離脫シ又ハ該契約ヲ持續シテ其家屋ヲ轉貸スルヲ得ルコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（明治四五・三・八）

○賃貸人ノ承諾ナキ賃借權ノ讓渡及轉貸ノ效力　賃借人カ賃貸人ノ承諾ヲ得スシテ其權利ヲ讓渡シ又ハ賃借物ヲ轉貸スルモ其行爲ハ當然無效ニ歸スルモノニ非ス（大正四・一二・一七）

第三款　賃貸借ノ終了

○賃借物ノ所有權取得ト賃貸借契約ノ消滅關係　賃借人カ賃借物ニ付所有權ヲ取得シタルノ一事ニ因リ賃貸借契約ハ當然消滅ニ歸スヘキモノニ非ス（昭和二・五・二〇）

○賃借物ノ所有權取得ト賃料支拂義務　前項ノ場合ニ於テ賃料ノ支拂ヲ拒否セムニハ賃借人カ其ノ所有權ニ基キ現實ニ物ヲ占有シ其ノ固有ノ權利トシテ使用收益ヲ爲シタルコト換言スレハ賃貸人ニ於テ物ノ使用收益ニ付何等ノ權原ナキ爲其ノ義務ノ履行ヲ爲シ能ハサリシコトヲ主張シ且立證セサルヘカラス（昭和二・五・二〇）

第六百十七條

○小作解約ニ關スル朝鮮ノ慣習　朝鮮ニ於テ小作ニ付期限ノ定ナキモノト雖モ春分後冬至前ノ耕作季節内ニ於テハ地主小作人共ニ隨意ニ解約ヲ爲スコトヲ得サルハ一般ノ慣習ナリ（大正六・一〇・一九）

○期間ノ定メナキ賃貸借保證ト解約　將來ニ於ケル賃貸借人ノ滯納賃料ニ付存スル保證契約ハ保證期間ヲ定メス賃貸借契約亦期限ノ定ナキ場合ニ於テハ保證人ヨリ之カ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得保證契約ハ右解約申入後民法第六百十七條ノ期間ヲ經過スルコトニ因リテ終了シ保證人ハ將來ニ向ツテ其ノ責任ヲ免ルルモノトス（大正一五・三・二三）

巻	頁
五	一七〇
八	四四五
一三	二六三
一三	五〇八
一三	五四三
二三	四二〇
一	四四三
三	三五一
一四	一七二
一四	一七三
一四	八六四
一三	四九

第六百十九條

○敷金ト充當ノ時期及方法　賃貸人ハ賃貸借關係存續中ト雖任意敷金ヲ以テ延滯賃料ニ充當スルコトヲ得ルモノトス（昭和一〇・一〇・一五）

第九節　請負

第六百四十一條

○本條ノ法意　民法第六百四十一條ノ規定ハ注文者ニ於テ損害賠償ノ提供ヲ爲ササレハ請負契約ヲ解除シ得サル趣旨ニ非スシテ注文者ハ解除ヲ爲シ得ルモノニ因リテ生シタル損害ヲ賠償セサルヘカラサルコトヲ規定シタルモノトス（大正一二・六・五）

第十節　委任

第六百四十三條

○取立委任ト出訴權　取立委任ヲ受クルモ裁判上ニテハ訴訟ヲ提起スルヲ得ス（明治四三・九・二六）

○舍音ノ性質　舍音ハ其關係地所ニ付本主ノ爲メニ作人ヨリ收租等ヲ爲シ其引渡ヲ了ルマテハ代理占有ヲ爲スヘキ性質ノモノニシテ法律上ノ意義ニ於テハ管理人ニ異ナラス（明治四三・四・二一）

○土地家屋賣買ノ仲介ト口錢ノ慣習　朝鮮人間ニ於テ仲介人ノ手ヲ經テ土地家屋ヲ賣買シタルトキハ特約ナキ限リハ一般ニ依頼者ヨリ仲介人ニ對シテ口錢ヲ支拂フ慣習アリ其額ハ各地方ニ依リ多少ノ差異アルモ賣買代金百分ノ一乃至二ニシテ京畿道方面ニ於テハ百分ノ一ヲ支拂フ慣習アリ（大正八・六三〇）

○口錢負擔者ノ慣習　仲介料（口錢）ハ仲介ヲ依頼シタルトキハ仲介人ハ雙方ヨリ各之カ仲介料ヲ賞受クルコトヲ得ヘキモノナルモ（明治四十三年四月二十一日當院判決參照）其收穫租賣却ノ賴シタルトキハ仲介人ハ雙方ヨリ各之カ仲介料ヲ賞受クルコトヲ得ヘキモノトス（大正八・六・三〇）

○舍音ノ管理權ノ範圍　田畓ノ管理ヲ委託セラレタル舍音ハ其田畓ニ付本主ノ爲作人ヨリ賭租ノ取立ヲ爲シ本主ニ對シ之カ引渡ヲ了ル迄其代理占有ヲ爲スヘキモノナルモ（明治四十三年四月二十一日當院判決參照）其收穫租賣却ノ受託カ朝鮮ノ慣習上舍音ノ田畓管理事務中ニ包含セラルルコトハ當院ノ認メサル所ナリ（大正九・六・八）

○土地賣却ノ受任者ト代金受領權限ノ推定　土地賣却ノ委任ヲ受ケタル者ハ第三者ニ對シ代理人トシテ賣買契約ヲ締結スル權限ヲ有スルニ止マラス特別ノ意思表示ナキ限リ其代金ヲ受領スル權限ヲモ併セ有スルモノト認ムルヲ相當トス從テ土地賣却ノ委任ヲ受ケタルコトヲ認ムルニ足ルヘキ證據アル以上ハ特ニ其代金受領ノ權限アルコトヲ認ムヘキ直接ノ證據ナシトスルモ反證ナキ限リハ之ニ依リ代金受領ノ權限アルコトヲ推認シ得ヘカラサルニアラス（大正九・四・二三）

○契約實行委任ト契約ノ解除ヲ受クル權限　契約ノ實行ト其解除トハ法律上ノ性質相異ナル事項ナルヲ以テ縱令契約ノ實行ニ付其權限ヲ委任セラレタレハトテ契約ノ解除ノ意思表示ヲ受クルニ付相當ノ權限ヲ有スルモノト云フコトヲ得ス（大正九・一二・三）

第六百四十四條

○委託販賣ト銀爲替ノ決濟　青島ニ於ケル商人カ商品ノ販賣ノ委託ヲ受ケタル場合ニ銀相場ノ變動ニ備フル爲賣値ニ相當スル銀高ニ付委託者ノ爲金爲替ヲ取組ミタル場合ニ於テハ委託品販賣ノ當時ニ於テ爲替ヲ決濟スルヲ要シ其ノ爲替尻ヲ以テ計算ノ基礎ト爲スヘキハ委託ノ趣旨ニ副フ取引ノ常態ナリトス（昭和九・六・二六）

頁	卷	
四四九	六	
四四九	六	
三九	七	
一三	七	
四四三	七	
三五	三	
一六一	一〇	
一一三	一	
八六	一	

第六百四十六條

○委任解除ト委任事務處理上既ニ支出シタル金錢返還ノ要否　委任解除ノ場合ニ於テ受任者ハ委任事務處理ノ爲受領シタル金錢ニシテ其ノ手裡ニ殘存スルモノハ之ヲ委任者ニ返還スルコトヲ要スト雖委任事務ノ處理上既ニ支出シタル金錢ヲ返還スルノ義務ナキモノトス（大正一四・三・一三）

○株式買入委託解除ト受託者ノ既ニ支拂ヒタル代金返還ノ要否　株式ノ買入ヲ委託セラレタル者カ委託ノ趣旨ニ從ヒ株式ノ賣買ヲ爲シ既ニ代金ノ支拂ヲ爲シタルトキハ其ノ後ニ至リ委任解除ト爲ルモ代金支拂ノ爲委託者ヨリ受取リタル金額ヲ委託者ニ返還スル義務ヲ生セス（大正一四・三・一三）

○委任者ニ對スル受任者ノ移轉又ハ引渡義務　受任者ハ委任者ノ爲ニ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ヲ委任者ニ移轉シ且受任事務ヲ處理スルニ當リ受取リタルモノヲ委任者ニ引渡スヘキ義務ヲ負フモノトス（大正元・一・一五）

○受任者ノ取得權利移轉ノ義務ト其方法　民法第六百四十六條第二項ニ依レハ受任者カ委任者ノ爲ニ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ハ受任者ニ歸屬スルヲ以テ之ヲ委任者ニ移轉セサルヘカラスト雖モ之ヲ委任者ニ移轉セシムル爲メノ意思表示ハ必スシモ其效果カ受任者ニ歸屬シタル後ニ於テスルコトヲ要セス當事者カ豫メ其意思表示ヲ爲シタルトキハ其效果ノ受任者ニ歸屬スルト同時ニ當然委任者ニ移轉スルモノトス（大正九・三・一二）

○委任ニ於テ豫メ爲シタル權利取得ノ特約ノ有無ト權利移轉ノ關係　凡ソ委任者ト受任者トノ間ニ於テ豫メ委任者ヲシテ直ニ權利ヲ取得セシムルノ特約アルトキハ受任者カ自己ノ名ヲ以テ權利取得ヲ爲スト同時ニ當然委任者ニ對シ權利移轉ノ效果ヲ生スルモノニシテ之カ爲メ敢テ特別ノ意思表示ヲ爲スノ必要ナキモ然ラサル以上ハ受任者ハ唯其取得シタル權利ヲ委任者ニ移轉スル債務ヲ負擔スルニ止マルヲ以テ其債務ノ履行トシテ權利移轉行爲ヲ爲シタル場合ニ始メテ其權利ハ委任者ニ移轉スルモノトス（大正一〇・一二・二）

卷	頁
一三	六八
一三	六八
二	五四
七	一一一
八	五四九

第六百四十八條

○成功謝金ノ特約ニ關スル解釋　保證債務ノ履行ヲ訴求セラレタル被告カ辯護士ニ訴訟代理ヲ委任シ債務不成立及債權讓渡ノ二抗辯ヲ提出セル場合ニ於テ委任契約書ニ債務免脫セラレタル場合ニ限リ勝訴部分ニ對シ謝金ヲ一割五分トスル旨ノ約定アルトキハ其ハ一應債務不成立ノ抗辯ヲ認容セラルルニ因リテ勝訴シタル場合ニ限リ該謝金ヲ支拂フノ趣旨ト解スヘキモノトス（昭和九・四・一〇）

○成功謝金ト訴訟ノ中途ニ於ケル辯護士ノ死亡　本件謝金ハ委任契約ノ報酬額ノ一部ニ對シ勝訴判決ノ確定ヲ條件トシタルモノニシテ委任契約自體カ條件ニ繫ルモノニ非ス故ニ訴訟ノ終了前ニ受任者死亡シ委任契約ハ消滅スルモ其ニ依ツテ直ニ報酬請求權ノ消滅スルコトナキハ勿論ニシテ訴訟カ勝訴判決ヲ得テ確定シタルトキハ民法第六百四十八條第三項ニ依リ履行ノ割合ニ應シテ報酬ヲ請求スルコトヲ得ルモノト解スルヲ正當トス（昭和八・三・一四）

第六百五十條

○辯護士ノ出張ニ要スル旅費　內衣代、靴修繕費、洋襪代、靴敷皮代、苦學生給與、靴藥代等ノ支出ハ辯護士ノ出張ニ要スル旅費ニ屬スルモノト謂フヘカラス（昭和九・六・二九）

第六百五十一條

○委任契約ニヨル利益ト解除　委任契約ハ專ラ委任者ノ利益ヲ圖ル爲ニノミ締結セラレタル場合ニ限リ何時ニテモ之ヲ解除シ得可キモ其委任事務ノ處理カ委任者ノ爲ノミナラス受託者ノ利益ヲモ目的トスルトキハ委任者ニ於テ任意ニ其委任ヲ解除スルコトヲ得サルモノトス（昭和三・七・二七）

第六百五十六條

○土地家屋賣買ノ仲介トロ錢ノ慣習　朝鮮人間ニ於テ仲介人ノ手ヲ經テ土地家屋ヲ賣買シタルトキハ特約ナキ

卷	頁
二一	一一二
二〇	一六二
二一	二四六
一五	二二三

限リハ一般ニ依賴者ヨリ仲介人ニ對シテ口錢ヲ支拂フ慣習アリ其額ハ各地方ニ依リ多少ノ差異アルモ賣買代金百分ノ一乃至二ニシテ京畿道方面ニ於テハ百分ノ一ヲ支拂フ慣習アリ（大正八・六・三〇）

○口錢負擔者ノ慣習　仲介料（口錢）ハ仲介ヲ依賴シタル者ヨリ支拂フ慣習ナルヲ以テ賣主買主雙方ヨリ仲介ヲ依賴シタルトキハ仲介人ハ雙方ヨリ各之カ仲介料ヲ貰受クルコトヲ得ヘキモノトス（大正八・六・三〇）

第十一節　寄託

第六百五十七條

○穀類ノ買收寄託貸付ヲ爲シタル使用人ノ權限ノ推定　使用人トシテ穀類ヲ買收シ之ヲ寄託シタル事實及其使用人タリシモノカ該寄託穀類ヲ他ニ貸付ケ居リタル事實アリタレハトテ同人カ該寄託穀類受領ノ權限アリタルモノト認メサルヘカラサルモノニアラサレハ他ノ事實證據ニ依リ其權限ナキコトヲ說示スルハ違法ニアラス（大正六・三・二〇）

○虛僞ノ寄託契約ト寄託物ノ授受　當事者相通シテ虛僞ノ寄託契約ヲ爲スニ當タリ他ノ隱祕セル目的ニテ物ノ授受ヲ爲シタルニ拘ハラス之ヲ寄託物トシテ授受シタル如ク裝ヒ契約ヲ爲スコトアルヘシト雖モ場合ニ依リテハ當事者間ニ全然物ノ授受ナク而カモ之レアリタル如ク事實ヲ架構シ其旨ノ寄託契約ヲ締結スルコトナキニアラス（大正一一・二・一七）

○物ノ收受ヲ伴ハサル虛僞寄託ト民法第九四條第二項ノ保護　此後者ノ場合ニハ寄託契約ノ成立要件タル物ノ授受ヲ伴ハサルモ有效ナル寄託契約ノ成立シタル外觀ヲ有スル點ハ前者ノ場合ト同一ナレハ該契約ノ當事者ト取引シタル善意ノ第三者ハ民法第九十四條第二項ノ保護ヲ受クルヲ當然トス（大正一一・二・一七）

○要物契約ニ於ケル物ノ授受　消費貸借及寄託ハ共ニ要物契約ナリト雖其ノ成立ニ要スル目的物ノ授受ハ現實ニ行ハルルコトヲ要セス經濟上授受アリタルト同一ノ狀態ニ置クヲ以テ足ル（大正一五・六・二二）

○消費貸借ト金錢ノ授受省略ニヨル寄託　消費貸借ノ貸主カ同時ニ寄託契約ノ受託者トナリ相手方カ借主タルト同時ニ寄託者トナリテ同一金額ニ付消費貸借ト寄託トヲ契約スル場合ニハ金錢ノ引渡ヲ省略スルヲ妨ケス（大正一五・六・二二）

○門中ノ合有財產ヲ目的トスル信託契約ノ當事者　門中ヨリ其ノ合有ニ屬スル祭位土ヲ他ニ信託シタル場合門中ノ家族ハ信託契約ノ當事者ニ非ストモ尙之ヲ當事者ニ準シ之ヲ以テ第三者ニ屬セサルモノト爲スヲ相當トス（昭和八・二・一〇）

第六百六十二條

○結錢換用ノ性質ト返還請求ヲ爲シ得ヘキ時期　結錢換用ハ一ノ寄託契約ニ外ナラス故ニ委託者ハ何時ニテモ返還ヲ請求スルヲ得ヘシ（隆熙三「明治四二」四・一六）

○占有ノ改定ト保管義務ノ消滅　保管者カ賣買ニ因リテ其保管物ノ所有權ヲ得タルトキハ同時ニ其占有ハ改定セラレ保管義務モ亦消滅スヘキモノトス（大正五・三・七）

○保管ノ爲ニスル信託行爲ト信託者ノ解約　保管ノ目的ニ出テタル信託行爲ニ在リテハ信託者ハ其一方ノ意思表示ニ依リ任意ニ其信託契約ヲ解除スルコトヲ得（大正八・一〇・一四）

聯

○信託契約ノ解除權ト消滅時效　不動產ニ關スル權利ノ保全ヲ目的トスル信託契約ニ付テハ委任ノ法規ニ準據シ之ヲ解除シタルトキニ始メテ信託者ハ受託者ニ對シ原狀回復トシテ信託物ノ權利返還請求權ヲ行使シ得ヘキカ故ニ此ノ解除ノ時ヨリ之カ消滅時效進行スルモノト解スヘキモノトス（昭和四・四・九）

卷	頁	
九	三九	一三 一五九
九	三九	一三 一五九
四	一九七	二〇 七四
六	四四九	一 一〇
六	四四九	三 四一三
六	四四九	六 五一六
九	三九	一六 七四

○反對　物ノ保管ヲ目的トスル信託讓渡契約ニ於テ信託者ハ相手方ニ對シ契約ノ主タル效力トシテ物ノ保管ヲ請求シ得ルト共ニ契約ノ從タル效力トシテ何時ニテモ物ノ返還ヲ請求シ得ヘキカ故ニ信託者ハ何時ニテモ相手方ノ同意ヲ得スシテ契約關係ヲ解消スル目的ヲ以テ物ノ返還ヲ請求シ得ヘシト雖契約關係ノ消滅ハ請求ニ因リテ發生スルモノニ非スシテ返還義務ノ消滅ニ因リテ發生スヘキモノトス

○信託物返還ノ請求權ハ相手方ノ行爲ヲ要求シ得ヘキ權利ニシテ而カモ何時ニテモ之ヲ行使シ得ヘキモノナレハ民法第百六十六條第一項及同百六十七條第一項ニヨリ契約成立ノ時ヨリ十年間之ヲ行ハサルニヨリ消滅ニ歸スヘキモノトス（大正一一・一一・一七）

第六百六十六條

○消費寄託契約ト認ムヘキ場合　支拂フヘキ材木代金及其他ノ立替金ヲ更ニ預ケ金トスル契約ヲ締結シタルトキハ其寄託契約中ニハ當然寄託者カ受寄者ニ對シ其目的物ノ消費ヲ許容セシ契約ヲモ爲セシモノト認ムヘキモノトス（大正元・一〇・一五）

○準消費寄託ノ成立　消費寄託ニ因ラスシテ金錢其ノ他ノ物ヲ給付スル義務ヲ負フ者アル場合ニ於テ當事者カ其ノ物ヲ以テ消費寄託ノ目的ト爲スコトヲ約シタルトキハ消費寄託ハ之ニ因リテ成立ス（大正一二・一〇・三〇）

○消費貸借ノ豫約ニ基ク債權ト準消費寄託ノ目的　金錢ノ消費貸借ノ豫約ニ基ク債權ノ目的ハ金錢ノ支拂其ノモノニ非スシテ金錢ノ支拂ニ因リ消費貸借ヲ成立セシムルコトニ在ルカ故ニ金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ト謂フコトヲ得ス然レハ該豫約ニ基キ支拂フヘキ金錢ヲ以テ準消費寄託ノ目的ト爲スコトハ之ヲ許容セサルモノトス（大正一二・一〇・三〇）

卷	頁
九	四八七
二	三二
一〇	三二六
一〇	三二六

第十二節　組合

○國有未墾地利用法第六條第二項ノ意義ト民法組合ノ規定　國有未墾地利用法第六條第二項ノ規定ハ國有未墾地利用權カ相續ノ目的タルヲ得ル趣旨ヲ明ニシ同法施行規則第二十條第二項ノ規定ハ相續ニ因リ同利用權ヲ取得シタルモノハ所定ノ屆出ヲ爲スヘキコトヲ命シタルニ過キスシテ之ヲ以テ民法組合ニ關スル規定ノ適用ヲ排除スルノ律意ニアラス（大正八・五・六）

○組合ナリヤ否ヤノ爭アル契約ノ性質ト裁判所ノ認定　同一ノ契約ニ關シ當事者ノ一方ハ之ヲ組合契約ナリト主張シ他ノ一方ハ組合契約ニアラスト抗爭スルモ其雙方カ該契約ノ內容トシテ現ニ主張スル事實關係ニシテ法律上組合契約ニ該當スルトキハ裁判所ハ組合契約ノ存在ヲ否定スルヲ得サルモノトス（大正八・五・六）

○組合ニヨル小作制度ノ存否　朝鮮慣習トシテ一般ニ行ハルル小作制度上地主ト耕作者間ニ於ケル土地ノ使用收益ニ關スル法律關係ハ其ノ所謂賭租ノ契約ナル場合ト並作ノ契約ナル場合トヲ問ハス地主カ耕作者ニ土地ノ使用及收益ヲ爲サシムルコトヲ約シ耕作者カ之ニ賃料ヲ支拂フコトヲ約スル契約關係ニシテ其條款ノ如何ニ從ヒ或ハ永小作或ハ賃貸借ノ關係成立スルニ止マリ組合關係ヲ形成セサルモノトス（大正一二・六・二二）

第六百六十七條

○組合ノ要件ト出資　組合ハ各當事者カ出資ヲ爲シテ共同ノ事業ヲ營ムコトヲ約スル契約ナレハ共同事業ノ成就ニ要スル資本ハ組合員ニ於テ之ヲ供給スルコトヲ要シ組合員カ出資ノ義務ヲ負擔スルコトハ組合契約成立ノ要件ナリ

其出資ハ組合員中ノ或者ニ於テ負擔シ他ノ者ニ於テ之ヲ負擔セサル場合ノ如キハ組合契約成立シ得ヘカラサルモノニ

卷	頁
六	三三〇
六	三三〇
一〇	一八七

シテ組合員各自カ一定ノ出資ヲ爲スヲ要件トス（大正六・一〇・三〇）

第六百六十八條

○組合債權ノ請求權利者　組合ノ債權ハ組合員ノ一人又ハ數人カ自己ノ名義ヲ以テ請求シ得ヘキ特別ノ權限ナキ以上ハ組合員全員ヨリ請求セサルヘカラス（大正六・四・一七）

○同　旨　組合ノ第三者ニ對スル債權ハ組合員ノ總員又ハ其履行請求ノ權限ヲ有スル者ニ於テ之カ履行ヲ第三者ニ對シ請求スルコトヲ要シ組合員ノ一員ヨリ其履行ノ請求ヲ爲スヲ得サルモノトス（大正七・一〇・二九）

○組合財產權侵害ニヨル賠償請求權ハ組合財產トス　組合財產ニ屬スル權利カ第三者ニヨリテ侵害セラレタル場合ニ於テ不法行爲ヲ理由トシ之カ賠償ヲ請求スル權利ハ組合財產ヲ組成スルモノトス（大正七・一〇・二九）

○組合ノ出資請求權者　組合契約ニ於テ出資ノ受領者又ハ業務執行者ヲ定メタルニアラサル限リ組合員ノ各自ハ他ノ組合員ニ對シテ其ノ者ノ出資ノ全部タルト一部タルトヲ問ハス之ヲ請求スルコトヲ得（大正一五・一一・三〇）

第六百七十條

○賴母子講契約解除ト掛戻金請求權者　賴母子講ニ於ケル講員相互ノ關係竝ニ講元ト各講員トノ關係ハ一ニ講ノ規約ニ依ルヘク若シ講ノ規約ニ於テ講元ハ自己ノ名義ヲ以テ既當籤者ニ對シ掛戻金ノ請求ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ定メタルトキハ講元ハ自己ノ名義ヲ以テ掛戻金ノ請求ヲ爲シ得ヘシト雖其講契約ニシテ解除セラレタルトキハ當然ノ結果トシテ既當籤者ニ對スル掛戻金請求ノ權利ニ關シテハ未當籤者各自ノ部分ニ付各自其請求權ヲ有スヘキモノニシテ別段ノ契約ナキ限リハ未當籤者中ノ一人カ其名義ヲ以テ既當籤者ニ對シテ未當籤者全員ノ權利ニ關シ掛戻金ノ請求ヲ爲スヲ得サルモノトス（大正四・五・四）

卷	頁
四	九〇二
四	二七五
五	八〇七
五	八〇七
一三	四二三
三	一六九

○業務執行者ト組合代表權　組合契約ヲ以テ業務執行者ヲ定メ而シテ其業務執行者カ組合員中ノ一人ナルトキハ組合員タル資格ト他ノ組合員ヲ代表スル資格トヲ併有スルモノニシテ其權限ニ付テハ（一）組合契約ニ於テ業務執行者カ第三者ニ對シ組合員ヲ代表シテ裁判上及裁判外ノ行爲ヲ爲スノ權限ヲ授與シタル場合ハ勿論單ニ業務執行者ヲ定メタルニ過キスシテ對外關係ノ規約ナキトキト雖反對ノ意思表示アラサル限リ其業務執行者ハ第三者ニ對シ組合員ヲ代表シテ裁判上及裁判外ノ行爲ヲ爲スノ權限ヲ授與セラレタルモノト解スヘキモノナルヲ以テ其業務執行者ハ組合員ヲ代表シ自ラ訴訟ノ當事者ト爲リテ訴訟ヲ爲スコトヲ得ヘシ（二）組合契約ニ於テ業務執行者ニシテ組合員ヲ代表セシムルコトナク單ニ業務執行者タル個人ノ資格ヲ以テ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲スコトヲ委任スルコトモ亦固ヨリ自由ニシテ法律上有效ナルニ依リ此場合ニ於テハ對外關係ニ於テ權利ヲ取得シ又ハ義務ヲ負擔スルハ業務執行者タル個人ニシテ直接他ノ組合員ニ其效力ヲ及ホスモノニ非ス他ノ組合員ハ唯委任ノ趣旨ニ從ヒ業務執行者ニ對シテ權利義務ノ關係ヲ生スルニ過キサルモノニシテ業務執行者ノ爲シタル訴訟ノ結果ニ付テモ亦然リトス（大正一一・三・一七）

○組合員ノ代理資格者　組合員ノ代理人ハ必スシモ組合員以外ノ第三者タルコトヲ要スルモノニ非スシテ組合員中ノ一人ト雖他ノ組合員ヲ代理スルコトヲ得ルモノトス（大正一一・三・一七）

○無盡講員相互及總代トノ關係ハ講規約ニ依ル　無盡講ニ於ケル講員相互ノ關係竝總代ト各講員トノ關係ハ一ニ講ノ規約ニ依ルヘキモノニシテ若シ總代ハ自己ノ債權トシテ自己ノ名義ヲ以テ既當籤者ニ對シ掛戻金ノ請求ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ定メタルトキハ總代ハ自己ノ債權トシテ自己ノ名義ヲ以テ掛戻金ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルモノトス（大正一三・三・一八）

○業務執行者ト組合代表權ノ推定　組合契約ニ於テ業務執行者ヲ定メタルニ過キスシテ對外關係ノ規約ナキトキハ反對ノ意思表示アラサル限リ其ノ業務執行者ハ第三者ニ對シ組合ヲ代表シテ裁判上ノ行爲ヲ爲スノ權限ヲ授與セ

卷	頁
九	八九
九	八九
一一	三一

ラレタリト解スヘキモノナルヲ以テ其ノ業務執行者ハ組合員ヲ代表シ自ラ訴訟ノ當事者トナリテ訴訟ヲ爲スコトヲ得ヘシ（大正一四・三・三一）

○賴母子講員相互及講主講員間ノ關係ハ講規約ニヨル　無盡講（又賴母子講トモ云フ）ニハ講員相互間ニ資金ノ融通ヲ目的トスル組合類似ノ契約ノ下ニ組織セラルルモノト講主カ自己ノ事業トシテ講員ヲ募集シ一定ノ時期ニ一定ノ金員ヲ拂込マシメ毎回抽籤又ハ落札ノ方法ニ依リ若干ノ金額ヲ講員ニ交付スル組織ノ下ニ經營スルモノトアリ其ノ何レニ在リテモ講員相互ノ關係又ハ講主ト各講員トノ關係ハ一ニ講ノ規約ニ依ルヘキモノトス（昭和三・三・二）

第六百七十四條

○債務者ノ無資力ト共同營業者ノ損失計算　目的物ノ滅失ニ因リ共同營業カ損失ニ歸シタル爲共同營業契約ニ依リ各共同者ノ負擔スヘキ損失ノ計算ヲ爲スニ當リ目的物滅失ニ因リ不當利得ヲ爲シタル者アルトキハ其滅失ニ因リ生シタル損失ヲ以テ直ニ共同者ノ負擔スヘキ損失ト爲スヲ得ス不當利得ヲ爲シタル者ニ對シ其返還ノ請求ヲ爲シタル上其結果ニ依リ計算ヲ爲シ共同者ノ負擔スヘキ損失ヲ定メサルヘカラト雖若シ其不當利得ヲ爲シタル者カ無資力ナルコト明ナルトキハ之ニ對シ其返還ヲ求メシテ計算ヲ結了シ目的物ノ滅失ニ因リテ生シタル損失ヲ以テ直ニ共同者ノ負擔スヘキ損失ト爲スモ違法ニアラス（大正七・一一・二九）

○出資義務ノ不履行ト組合ノ利益配當請求權　組合員ノ一人カ出資義務ヲ履行セサルモ其ノ者ノ爲ニ利益配當請求權ノ發生ヲ妨クルコト無シ（大正一五・九・二八）

○共同買入人間ノ損失分擔請求ノ時期　共同買入ヲ約シタル者ノ間ニ履行ノ意思ナク手附金ヲ拋棄セサルヘカラサル運命ニ在ルコトノ顯著ナル以上賣買ハ未タ解除ニ至ラサルトキト雖手附ノ拋棄ニ因ル損失ノ分擔ヲ請求スルヲ妨ケス（昭和八・一一・七）

第六百七十七條

○講落札金ノ請求權ト講掛戻金ノ相殺　講會ニ於テ講金ヲ落札シタル講員カ落札金ノ一部ノ交付ヲ受ケサル場合ニ於テ之カ請求權ト彌後掛戻ヲ爲スヘキ債務トヲ相殺スルコトヲ得ヘキヤ否ヤハ講規約ノ趣旨ニ從ヒテ決スヘキモノトス（昭和三・三・二）

○講落札金ト講金掛戻債務トノ相殺ノ適否　組合類似ノ賴母子講ニ在リテハ一定ノ開會期ニ於ケル落札金ハ其ノ會期ニ拂込マルヘキ未落札者ノ講掛金及已落札者ノ掛戻金ヲ以テ之ニ充ツヘキモノトシ已落札者ノ掛戻金ハ常ニ後ノ會期ニ於ケル落札金ニ充テラルヘキモノトスルヲ通例トスルカ故ニ落札金ノ不拂カ講金ノ掛金未納ニ基ク場合ニ於テモ講規約ニ別段ノ定ナク且他ニ特別ノ事情存セサル限リ落札金拂渡請求權ト講金掛戻ノ債務トハ互ニ相殺スルニ適セサルモノト觀ルヲ相當トス（昭和三・三・二）

第六百七十八條

○組合員ノ脫退自由ノ制限　本條第一項本文ニハ組合契約ヲ以テ存續期間ヲ定メサリシトキハ各組合員ハ何時ニテモ脫退ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ規定スレトモ右ニ規定スル一方的告知ノミニ依ル脫退ノ自由ハ必シモ絕對的ノモノニアラス各組合員ニ於テ組合ノ永久存續ノ期待ヲ空シカラシメス又他ノ組合員ノ利益ヲ著シク毀損スルコト無カラシメムカ爲ニ脫退ニ相當ノ條件ヲ附シ以テ脫退ノ自由ヲ制限スルコトヲ約スルハ法ノ禁スル所ニアラス（大正一五・二・三〇）

○組合ノ爲不利益ナル時期ニ於ケル組合脫退ノ意思表示ト組合全員ノ同意　組合員ノ脫退申入ノ意思表示ニ對シ他ノ組合員全員カ之ニ同意シ何等ノ異議ナキトキハ假令其ノ意思表示カ組合ノ爲不利ナル時期ニ於テ爲サレタリトスルモ該意思表示ハ有效ニシテ組合脫退ノ效果ヲ生スルモノトス（昭和六・一〇・二三）

卷	頁
一三	一〇一
一五	六三
一五	九一六
一三	二七六
二〇	四二九
一五	六三
一五	六三
一三	四三三
一八	一四五

第六百七十九條

○死亡ノ脫退事由ト反對ノ特約　死亡ヲ以テ組合員脫退ノ事由ト爲シタル民法第六百七十九條ノ規定ハ組合契約ヲ以テ之ト異ル定メヲ爲スコトヲ禁スルノ趣旨ニアラス（昭和一〇・六・二五）

第六百八十一條

○死亡組合員ノ相續人ノ組合ニ對スル權限　死亡組合員ノ相續人ハ殘留組合員ニ對シ單ニ死亡者カ組合財產ニツキ有シタル持分ノ割合ニ應シ其拂戻ヲ受クル請求權ヲ有スルニ止マリ自ラ組合員タルコトヲ主張シ且ツ死亡者カ組合財產ニ對シ有セシ持分ヲ自己ノ權利トシテ主張シ行使スルヲ得サルモノトス（大正八・五・六）

○組合員ノ脫退ト脫退後ノ利益分配請求權　組合員ハ脫退後ハ持分ノ拂戻請求權ヲ有スルニ止リ配當金其ノ他利益分配請求權ヲ取得スルコトナシ（昭和九・九・一一）

第六百八十二條

○清算手續ヲ經サル殘餘財產ノ分配　組合ノ事業完成シタル場合ニ於テハ清算ノ手續ヲ爲スヘキヲ通例トスレトモ既ニ事業ハ完成シテ遂行スヘキ現務ナク又事業經營ノ爲要シタル物ノ處分其ノ他組合ノ債權ノ取立債務ノ辨濟等組合ノ殘務トシテ處理ヲ要スルモノナク單ニ殘餘財產ノ分配ヲ剩スニ過キサル場合ニ於テ其ノ分配額ニ付爭アルトキハ直ニ訴ニ依リ利益配當額算定ノ基礎トナルヘキ殘餘財產ノ狀態ヲ明カニシテ分配スヘキ利益金ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス（大正一五・九・二八）

第六百八十三條

○組合解散請求ノ意思表示ノ相手方　解散請求ノ意思表示カ組合員全員ヲ代表スル資格アル者ニ對シテ爲サレタルトキハ組合員各自ニ對シテ爲サレタルモノト同一ノ效力ヲ生スヘシト雖業務執行者ニ對スル解散請求ノ意思表示ハ當然ニ組合員各自ニ對シテ爲サレタルモノト同一ノ效力ヲ生スルモノニ非ス（大正四・四・

卷	頁
三一	一七九
六	五三〇
二一	五一三
一三	二七六

解散請求ノ意思表示ハ特約ナキ限リハ組合員各自ニ對シテ之ヲ爲スニ非サレハ其效ナキモノトス（大正四・四・三〇）

○本條ノ已ムコトヲ得サル事由ノ意義　組合員間ニ或組合員ヲ除名スヘキヤ否ヤニ付紛議ヲ生シ其除名ノ問題トナレル組合員ニ於テ依然組合員タルコトヲ持續シ其紛議底止スル所ナキカ如キ場合ニ在リテハ本條ニ所謂已ムコトヲ得サル事由アルモノト謂ヒ得ヘキモ其除名ノ問題トナレル組合員カ他ノ組合全員ノ同意ヲ得自ラ組合ヨリ脫退シタル如キ場合ニ在リテハ他ニ特別ノ事情ナキ限リ單ニ其除名問題ニ付組合員間ニ紛議ヲ生シ協議纏ラサリシ事實アルモ之ヲ以テ直ニ前記已ムコトヲ得サル事由アルモノト謂フヲ得ス（大正八・六・二七）

第十四節　和　解

第六八三條

○和解契約ノ解除ト以前ノ原債權復活　和解契約ニシテ解除セラレタルトキハ解除ノ效果トシテ當然該契約締結前ノ狀態ニ復スヘキモノナレハ和解契約前ノ原債權ハ何等ノ手續ヲ要セスシテ復活スヘキ筋合ナリ從テ右復活ヲ以テ契約解除ニ因ル當事者ノ原狀回復ノ義務ナリト謂フヲ得ス（大正二・六・二七）

○數口ノ請求權ヲ合シタル和解契約ト當事者ノ意思　一個ノ和解契約ニ依リ數口ノ請求金額全部ノ紛爭ヲ終局セシメタル場合ニハ其和解契約ニ協定セラレタル數個ノ請求額ノ合算額ヲ主要ノ眼目ト看做スヘキヤ將タ各個ノ請求金額ヲ主要ノ眼目ト看做スヘキヤハ專ラ當事者ノ意思ニヨリ決定セラルヘキモノニシテ必スシモ其總金額ヲ主要ノ眼目ト爲スヲ以テ普通ノ常態ナリト云フヲ得サルモノトス（大正七・六・二五）

○訴訟上ノ和解ト民法ノ規定ノ適用　訴訟上ノ和解ニ於テハ當事者相互間ノ關係ニ於テハ私法上ノ和解契約成

（第六八三條）

卷	頁
二	二三八
六	四四〇
五	五一九

立スルモノト解スヘキモノナルヲ以テ其ノ和解契約ニ付テハ總テ民法ノ規定ノ適用アルモノトス　（昭和二・一二・一三）

第六百九十五條

○和解成立ノ要件　和解ハ當事者カ互ニ讓歩ヲ爲シ其間ニ存スル爭ヲ止ムル契約ナルヲ以テ和解契約ノ成立ニハ當事者間ニ於テ權利義務ノ存否若ハ其範圍態樣ニ關シ當事者互ニ其主張ヲ異ニシ爭ノ存シタルヲ要ス故ニ當事者間法律關係ニ付爭ノ存スルナクンハ假令當事者ノ法律關係ヲ確定スル爲メ契約ヲ爲シ之ニ和解ナル名稱ヲ附スルモ性質上和解契約成立ノ要件ヲ缺クモノナルカ故ニ法律上絕對ニ和解ノ效力ヲ生スヘキモノニアラス　（大正九・五・一一）

○假裝的和解契約ノ效力　然レトモ當事者間ニ於テ何等法律關係ニ付爭ノ存在セサルニ拘ラス當事者相通シテ互ニ讓歩ヲ爲シ其間ニ存スル爭ヲ止ムル目的ノ爲メ和解ヲ爲スモノノ如ク假裝シタル契約ニアリテハ該契約ハ形式上和解ノ要件ヲ具備スルモノニシテ唯其要件ノ存在カ當事者ノ相通シテ爲シタル虛僞ノ意思表示タル點ニ於テ當事者間無效ナルニ止マリ善意ノ第三者ニ對シテハ其無效ヲ對抗スルヲ得サルモノト謂ハサルヘカラス　（大正九・五・一一）

○內部關係ノ制限ト外部ニ對スル無制限訴訟委任ノ效力　訴訟委任ヲ爲スニ當リ外部關係ニ於テ何等制限スル所ナク完全ニ法廷和解ヲモ爲シ得ヘキ權限ヲ附與シタルトキハ假令其委任者ト受任者間ニ受任者ハ委任者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ法廷和解ヲ爲スコトヲ得サル旨約定スルモ幷ハ委任者ト受任者間ノ內部關係ニ止マルヲ以テ受任者ニ於テ其約定ニ背反シテ和解ヲ爲スモ同人カ外部關係ニ於テ完全ニ和解ヲ爲シ得ヘキ權限ヲ有シテ爲シタル法廷和解ノ效力ニ消長ヲ來タスコトナキモノトス　（大正一一・一二・二六）

聯○裁判上和解ノ特別委任ヲ受ケタル訴訟代理人ノ裁判外ニ於ケル和解權限　訴訟ノ當事者カ代理人ニ訴訟委任ヲ爲スニ當リ裁判上ノ和解ヲ爲スコトノ特別委任ヲ爲シタルトキハ特ニ同代理人ニ裁判外ノ和解ヲ爲ス權限ヲ付與セサル意思ヲ明ニセサル限リ一應裁判上ノ和解ヲ爲ス權限ト共ニ裁判外ノ和解ヲ爲シ其ノ和解ニ基ク履行ヲ受領スル權限ヲモ付與セルモノト認ムルヲ相當トス　（大正一二・六・一九）

○反對　訴訟行爲ニ付和解ヲ爲スノ特別委任ハ裁判上ノ和解ヲ爲シ得ヘク裁判外ニ於テ和解ヲ爲スノ權ヲ包含セサルモノトス　（明治四五・三・三〇）

○舊民事訴訟法第三百八十一條ニ依ル和解ノ無效又ハ取消　舊民事訴訟法第三百八十一條ニ依レル和解ハ私法上不成立又ハ無效若ハ取消又ハ解除ノ原因アルトキハ特ニ和解無效又ハ取消等ノ形成判決ヲ受クル迄モナク此等ノ效果ヲ生スルモノトス　（大正一三・五・二二）

第三章　事務管理

第七百一條

○事務管理ノ爲メニナシタル查定確定ト所有權移轉登記契約ノ性質　民法第七百一條第六百四十六條ニ依レハ事務管理ニ於ケル管理者ハ本人ノ爲メニ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ハ之ヲ本人ニ移轉スル義務アルヲ以テ他人ノ土地ニ付事務管理トシテ管理人カ自己ノ名義ヲ以テ所有申告ヲ爲シ自己名義ニ查定確定シタルトキハ其所有權ハ本人ノ爲メニ自己名義ヲ以テ取得シタルモノニ外ナラサレハ之ヲ本人ニ移轉スル義務アルハ勿論ニシテ其申告ヲ爲シタル後右管理者及本人間ニ於テ何時ニテモ本人ニ所有名義移轉登記手續ヲ爲スヘク約シタルトキハ管理者カ事務管理上ノ權利移轉義務ヲ認メテ所有權移轉登記手續ヲ爲スヘキコトヲ約シタルモノニシテ本人ノ請求次第當然所有權ハ本人ニ移轉シ直ニ登記手續ヲ爲スヘキコトヲ約シタル趣旨ト解スルヲ妥當トスルカ故ニ斯ル契約ニハ債權契約ト物權契約ト併存スルモノト解スルハ當然ナリ　（大正九・六・四）

第四章　不當利得

第七百三條

○賭技輸贏ニ基因スル債權ノ無效　賭技輸贏ニ於ケル金錢授受ニ基因シテ取得シタル債權ハ條理上無效トス（除照三「明治四二」六・八）

○賭博債權　賭博ニ基ク債權ハ無效ナリトス（大正三・八・一三）

○地所賣買ノ無效ナル場合ニ於ケル代金返還請求權ノ性質　地所賣買ノ無效トナリタル場合ニ於テ交付シタル金員ノ返還請求ハ不當利得金返還請求ニ外ナラス（明治四四・一〇・一三）

○確定判決ニヨル利益ト不當利得　確定判決ノ效力トシテ利益ヲ受クルコトアルモ法律上ノ原因ナクシテ利得シタルモノニ該當セス（大正五・四・一一）

○不當利得ノ要件　不當利得ノ成立ニハ利得者カ利得ヲ受ケタル爲メ之ニ因リテ他人カ損失ヲ蒙リタルコトヲ一ノ要件トス（大正七・九・二〇）

○法律上ノ原因ヲ有スル利得ハ不當利得ニ非ラス　他人ノ財產ニ因リ利益ヲ受ケ之カ爲メ他人ニ損失ヲ及ホシタルトキト雖モ利得者ニ於テ之ヲ利得スルニ付法律上ノ原因ヲ有スルトキハ不當利得返還ノ義務ヲ負フモノニ非ス（大正七・一〇・三〇）

○善意ノ占有者ノ果實取得ト所謂法律上ノ原因　善意ノ占有者ハ占有物ヨリ生スル果實ヲ取得スルニツキ法律上ノ原因ヲ有スルモノトス（大正七・一〇・三〇）

○原狀回復義務ト不當利得義務ノ差異　民法第五百四十五條ノ規定ニ依ル原狀回復義務者ハ相手方ヲシテ若其契約ナカリセハ享有シ得ヘカリシ地位ニ復セシムル義務ヲ有スルモノニシテ自己カ相手方ノ出捐又ハ給付ニ因リ果シテ利益ヲ受ケタルヤ否ヤ又其利益カ現存スルヤ否ヤニ拘ラサルモノトス反之本條ノ規定ニ依ル不當利得返還義務者ハ其受ケタル利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スルノミヲ以テ足リ相手方ノ地位カ原狀ニ復スルヤ否ヤニ拘ラサルモノトス（大正八・四・一五）

○合意ニ因ル契約解除ト不當利得及同時履行ノ抗辯　民法第五百四十五條ハ解除權ヲ行使シタル場合ノ規定ナレハ當事者ノ合意ニ因リ契約ヲ解除シタル場合ニ適用スルヲ得ス當事者ノ合意ニ因リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テ若シ同條ト同一ノ效果ヲ生セシムル趣旨ノ特約ヲ爲シタルトキハ固ヨリ其特約ニ從フヘキモ然ラサレハ本條以下不當利得ノ規定ニ依リ返還義務ヲ生スルニ過キスシテ同時履行ノ抗辯權ヲ生スルコトナキモノトス（大正一〇・三・八）

○第三者ノ行爲ニヨル不當利得ノ成立　不當利得ハ第三者ノ行爲ニ因リ生シ受益者カ不當ニ利得スヘキ事實ヲ知ラサル場合ト雖モ受益者ニ於テ利得ヲ受クヘキ權利ヲ有セサル以上ハ不當利得ノ成立スルコトヲ妨ケス（大正一〇・五・二〇）

○不法占有者ノ賃料取得ト不當利得　不法占有者カ土地ヲ賃貸シタルニ因リ取立テタル小作料ハ其ノ所有ニ歸スヘシト雖土地所有者ニ對スル關係ニ於テハ正當ノ原因ナクシテ他人ノ財產ニ因リ利益ヲ受ケタルモノニ外ナラサルモノトス（大正一五・一一・二）

○不當利得ノ成立ト他人ノ損失　他人ノ財產ニ因リ利益ヲ受クルモ之カ爲ニ他人ニ損失ヲ及ホスコトナキトキハ所謂不當利得返還義務ヲ生セサルモノトス（昭和二・一一・一）

巻	頁
刑 一	一三
刑 二	二四八
一	三八六
三	四八八
五	七三七
五	八一九
五	八一九
六	二二九
八	六三
八	一五七
一三	三九四
一四	三六一

○債務者ノ同一ノ錯誤　消費貸借ニ在リテハ債務者ノ同一ニ付テ錯誤アリタルトキハ契約ハ無效トス

他人ノ債務ヲ辨濟シタル第三者カ辨濟ニ當リ債務者同一ニ付テ錯誤アリタルトキハ債務者ナリト誤信シタル者ハ債務者ニ非サルヲ以テ恰モ債務者ニ非サル者カ錯誤ニ因テ辨濟シタル場合ト同樣債權者ニ對シ不當利得ニ基テ其ノ辨濟シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得（昭和七・一二・二三）

○水利組合ノ滯納處分ト不當利得　競賣法ニ依ル競賣ニ因リ蒙利地ノ所有者トナリタル者ハ前主ノ水利組合ニ對スル組合費納入義務ヲ承繼スルコトナク同組合ヨリ其ノ義務アルモノトシテ滯納處分ヲ受ケタル爲止ムコトヲ得スシテ金員ノ支拂ヲ爲シタルトキハ不當利得ニ關スル民法ノ規定ニ依リ其ノ返還請求ヲ爲シ得ルモノトス（昭和一一・一・二一）

第七百五條

○不任意ノ給付ト民法第七百五條ノ適用　本條ニ所謂債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタル者カ其ノ當時債務ノ存在セサルコトヲ知リタル爲其ノ給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得サルハ給付者ニ於テ任意ニ給付ヲ爲シタル場合ヲ指稱スルモノニシテ强制執行ヲ受クル不利益ヲ避ケンカ爲又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ止ムヲ得スシテ給付ヲ爲シタルカ如キ場合ハ任意ノ給付ト謂フヲ得サルヲ以テ給付者ハ債務ノ存在セサル限リ其ノ給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス（昭和一〇・七・二三）

第七百七條

○辨濟證書等ノ調印ト權利證書ノ毀滅及擔保拋棄　貸金ノ辨濟證書ハ貸金ノ權利證書ト云フヲ得サルニ依リ債權者カ貸金ノ辨濟證書ニ調印シタルコトヲ以テ民法第七百七條ニ所謂證書ヲ毀滅シタルモノト爲スヲ得ス又本來無效ナル抵當權ノ登記抹消ニ關スル委任狀ニ債權者カ調印スルモ是亦同條ニ所謂擔保ヲ拋棄シタルモノト爲スヲ得ス

卷	頁
一九	二八一
二三	三〇
二三	二六六

（大正七・一二・一九）

第七百八條

○贈賄金ノ取戻請求權　郡守トナルノ目的ヲ以テ官吏ニ贈賄スルハ不正ノ行爲ナルヲ以テ其給付シタル金錢ノ取戻請求ハ法律上保護スヘキモノニアラス（明治四三・一二・一五）

○本條ノ意義　本條ノ規定ハ給付行爲自體カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル場合ノミナラス給付ノ目的若ハ緣由タル事項カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル場合ニ於テモ其給付シタルモノノ返還ヲ請求シ得サルコトヲ定メタルモノニシテ又同規定ハ不法原因カ當事者雙方ニ存スル場合ノミナラス給付者ニ付テノミ存シタル場合ニ於テモ亦其給付シタルモノノ返還ヲ請求シ得サルコトヲ定メタルモノトス（大正七・五・一四）

○詐欺手段タル內拂代金ノ所有權歸屬者　代金ノ內拂ヒトシテ買主ヨリ賣主ニ交付シタル金錢ノ所有權ハ交付ト同時ニ賣主ニ移轉スルヲ通例トスルカ故ニ縱令詐欺ノ手段トシテ不法原因ニ基キ交付シタルトキト雖モ其所有權ハ交付ト同時ニ相手方ニ移轉スヘキモノトス（大正七・五・一四）

○不法原因給付物ヲ給付者ニ交付スル新法律行爲ノ效力　民法第七百八條ノ規定ニ違反シ不法原因ノ爲ニ給付シタルモノノ返還ヲ約スルカ如キハ公益規定ニ違反スル法律行爲ナルヲ以テ無效ナリト雖モ賣買贈與其他新タナル法律行爲ニ基キ更ニ之ヲ前主ニ交付スルカ如キハ不法ニアラス（大正七・五・一四）

○詐欺賭博ノ給付金ト敗者ノ返還請求權ノ有無　賭博罪ニ依リ敗者カ勝者ニ給付シタル金錢ハ民法第七百八條ニ所謂不法ノ原因ノ爲ニ給付シタルモノニ該當シ敗者ハ勝者ニ對シ不當利得トシテ之カ返還ヲ請求シ得ヘキ權利ナキハ勿論賭博ニ依リ金錢ノ授受ヲ爲シタルトキハ當事者ハ其金錢ニ對スル權利移轉ノ意思アルモノナルヲ以テ之ヲ受領セル勝者ハ直ニ其金錢ノ上ニ所有權ヲ取得スヘキモノナルニ依リ敗者ハ固ヨリ所有權ニ基キ之カ返還ヲ求ムル權利ナ

刑	
五	三二四
一	一五九
五	四〇二
五	四〇二
五	四〇二

キモノニシテ此法理ハ詐欺賭博ニ於ケル場合モ毫モ異ナルコトナシ（大正七・一一・一四）

○鑛業原簿登錄前ニ於ケル鑛物採掘代償金ノ返還請求　朝鮮鑛業令ハ鑛業權ノ讓渡ハ鑛業原簿ニ登記ヲ爲スニ非サレハ其效力ヲ生セサルコトヲ規定スルヲ以テ登錄前讓受人ニ於テ鑛物ヲ採掘シタルトキハ鑛業權ヲ有セスシテ採掘シタルモノトナリ刑罰ニ處セラルルヲ免レス從テ登錄前ニ讓渡ノ效力ヲ生セシメ讓受人ニ鑛物ヲ採掘スルノ權ヲ許與シ其代償金ヲ定ムルモ其契約ハ公益規定ニ反シ不法ノ原因ヲ帶有スルニ依リ無效ニ歸スルト共ニ授受シタル代償金ハ不法ノ原因ノ爲メニ給付シタルモノニシテ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス（大正一一・六・三〇）

○本條ニ反スル事項ヲ目的トセル法律行爲ノ效力　民法第七百八條ハ公ノ秩序ニ關スル規定ナルヲ以テ之ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行爲ハ無效タルヘキモノトス（昭和三・一二・二一）

○利息制限令超過利息ノ支拂ト民法第七百八條　利息制限令所定限度ヲ超ユル利息ノ支拂ハ其ノ給付自體公序良俗ニ反スルモノニシテ民法第七百八條ニ所謂不法原因ノ爲ノ給付ニ該當ス而シテ其ノ不法ハ債權者及債務者ノ雙方ニ付存スルモノトス（昭和一〇・三・五）

第五章　不法行爲

第七百九條

○過失ニ關スル注意ノ程度　不法行爲ノ原因タル過失ハ普通人ノ注意ノ及フ範圍ニ限定セラルルモ重大ノ事項ニ關シテハ周密ナル注意ヲ要シ些細ナル事項ニ關シテハ輕微ナル注意ニ止マル等各場合ノ事情ニ應シテ注意ノ程度ヲ異ニス（明治四四・二・一〇）

○判決ノ既判力ノ誤解ト過失　普通人ノ注意ヲ缺キテ判決理由中主文ニ包含セラレスシテ確定力ヲ有セサル抵當權ニ付既判力アルモノノ如ク解釋シ自己ニ抵當權アリトシテ松林ヲ伐採シタルハ過失ノ責ヲ免レス（明治四四・二・一〇）

○不法行爲ノ過失ノ有無ヲ定ムヘキ注意ノ標準　不法行爲ノ規定ニ於テ過失ノ有無ヲ定ムヘキ注意ノ程度ハ普通注意ヲ用フル人カ事物ノ狀況ニ應シテ通常爲スヘキ注意ヲ以テ其標準ト爲スヘキモノトス（大正六・五・一八）

○子宮摘出ノ際ノ「ガーゼ」殘留ト過失　婦人科專門ノ醫師カ子宮癌腫ノ患者ニ對シ子宮摘出ノ手術ヲ施スニ當リ患者ノ腹腔内ニ「ガーゼ」ヲ殘留シタル爲メ腸管腹壁瘻孔ヲ生スルニ至リタルトキハ「ガーゼ」殘留ノ事實ハ一應該醫師ノ過失ニ基因スルモノト認ムヘク醫師ニシテ過失ノ責任ヲ免レントスルニハ該手術ヲ施スニ當リ現今醫術ノ程度ニ於テ執ルヘキ相當ノ手段方法ニ從ヒテ之ヲ行ヒタルコトヲ立證セサルヘカラス（大正六・七・三一）

○債權侵害ト不法行爲　債權ハ債權者對債務者間ノ相對的關係ニシテ第三者ハ之ニ關シテ何等ノ義務ヲ負擔スルモノニ非スト雖其債權者ノ利益ノ享受ヲ侵害スヘカラサルモノトス從テ第三者ニ於テ不法ニ之ヲ侵害シタルトキハ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責任アリ（大正四・四・一三）

○第三者ノ執行異議ト不法行爲　債權者カ債務者所有ノ不動產ニ對シテ强制執行ヲ開始シタルニ當リ第三者カ該不動產ニ付所有權ヲ有スト詐稱シテ異議ノ訴ヲ提起シ其執行ヲ遲延セシメ因リテ債權者ニ損害ヲ生セシメタルトキハ不法行爲ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタルモノナレハ其損害ヲ賠償スル責ニ任スヘキモノトス（大正四・四・一三）

○執行異議訴訟ノ敗訴第三者ト過失ノ推定　所有權アリト信シテ他人ノ强制執行ニ對シテ異議ノ訴ヲ提起シ執行ヲ遲延セシメタル場合ニ於テ其起訴者カ所有權ヲ有セサルノ故ヲ以テ敗訴シタルトキハ所有權アリト信スルニ付相當ノ理由アルコトヲ證明セサル限リハ過失アリト認ムルヲ相當トス（大正五・五・二六）

一	一九九	四	四〇〇
四	七三一	三	一二五
三	一二五	三	六〇四
一	一九九	一五	三五九
九	三三一	三	六五五

○天候ト過失者ノ責任　天候ハ絕對ニ之ヲ豫測スルコト能ハサルモノニアラス故ニ之ヲ豫測シ得ル場合ナルニ拘ハラス不注意ニ因リ之ニ氣付カス爲ニ損害ヲ生セシメタリトセハ過失ノ責ニ任セサルヲ得サルモノトス（大正六・四・二〇）

○故意ノ主張ト過失ノ認定　不法行爲ヲ原因トシテ損害賠償ヲ請求シタル場合ニ於テ故意ニ出テタリトノ原告ノ主張ヲ認ムルヲ得サルモ過失ニ出テタルコトヲ認メ得ヘキトキハ之ニ因リテ損害賠償ノ請求ヲ是認スルヲ得（大正五・七・四）

○不法行爲ト因果關係ノ中斷　不法行爲ニ基ク損害カ通常ノ經過ニ於テ不法行爲ヨリ當然生スヘキモノナルトキハ其不法行爲ト損害トノ間ニ因果關係アリト謂ヒ得ヘキモ通常ノ經過ニ於テハ不法行爲ヨリ當然生スヘキモノニ非スシテ不法行爲ノ行ハレタル後ニ至リ獨立シタル他ノ特別事由ノ介在ニ因リ損害ノ生シタルモノナルトキハ其不法行爲ト損害トノ間ニハ因果ノ連絡ヲ缺クヲ以テ其不法行爲者ハ其損害ヲ賠償スル責ニ任セサルモノトス（大正五・六・三〇）

○不法行爲ニ必要ナル因果關係　不法行爲ニ因ル損害カ行爲ノ當時豫見セラレ且通常ノ經過ニ於テ其不法行爲ヨリ當然生スヘキモノナルトキハ其不法行爲ト損害トノ間ニハ因果ノ關係アリ其損害カ不法行爲ヨリ直接ニ生シタルト間接ニ生シタルトヲ問ハス不法行爲者ハ損害賠償ノ責ニ任スヘキモノトス（大正五・一〇・六）

○稅關貨物取扱人ノ名義ヲ以テ關稅逋脫ヲ圖リシ者ノ名義人ニ對スル責任　甲カ稅關貨物取扱人タル乙ノ名義ヲ用キ其業務ニ從事中關稅逋脫ヲ圖リタルトキハ乙ハ朝鮮關稅令竝關稅法第八十二條ノ規定ニ從ヒ其責ニ任セサルヘカラス從テ甲カ關稅逋脫ヲ圖ル際若シ官ニ發覺スル場合ニハ貨物取扱名義人タル乙カ其責ニ任スヘキモノナリトノ事ハ當初ヨリ豫見セラレ且當然生スヘキ結果ナルヲ以テ甲ノ關稅逋脫ノ不法行爲ハ直接ニ關稅徵收權ヲ侵害スルト同時ニ間接ニ貨物取扱名義人タル乙ノ財產權ヲ侵害スルモノニシテ其不法行爲ト財產權ニ因ル損害トノ間ニハ因果ノ關係アリ其不法行爲者ハ損害賠償ノ責ニ任スヘキモノトス（大正五・一〇・六）

○不法行爲ニ基ク損害賠償請求權發生ノ要件　不法行爲ニ基ク損害賠償請求權ノ發生スル爲ニハ不法行爲ト損害トノ間ニ法律上因果ノ連絡ノ存スルヲ要スルコト勿論ナリ而シテ法律上因果ノ連絡ハ單純ナル條件ノ關係ニ非スシテ當該不法行爲ハ當該損害ニ對シ現實ニ條件ノ關係アリ且該條件ハ其特定ノ場合ノミナラス一般的ニモ亦同種ノ損害ヲ生スヘキ可能性ヲ有スル場合ニ限リ之ヲ認ムヘキモノトス故ニ假令當該損害カ當該不法行爲ノ存在ヲ條件トシテ發生シタルトキト雖モ若シ其不法行爲カ一般的ニ觀察シ同一條件ノ下ニ同種ノ結果ヲ發生スヘキ可能性ヲ有セス却テ偶然ノ結果ニ過キサルトキハ當該不法行爲ト結果トノ間ニ法律上因果ノ連絡ノ存スルモノト謂フ能ハサルヲ以テ其不法行爲者ハ其損害ニ付賠償ノ責ニ任セサルモノトス（大正七・一一・一九）

○僞造文書行使者ト他人ノ其後ノ行使ニヨル損害ニ對スル責任　土地ニ關スル立旨完文賣買文記ノ如キハ何レモ當事者ノ土地ニ關スル權利關係ヲ證明スル目的ヲ以テ作成セラレ其性質流通ヲ目的トスルモノニ非サルカ故ニ斯ノ如キ文書ヲ僞造シテ他人ニ行使シタル場合ニ其行使ヲ受ケタルモノカ該文書ノ僞造ナルコトヲ覺知シタル上更ニ故意ヲ以テ之ヲ第三者ニ交付シ依テ之ニ損害ヲ被ラシムルカ如キハ僞造者ヨリ其行使ヲ受ケタルモノノ甲ナルト乙ナルトヲ問ハス最ノ僞造行使ノ行爲ヨリ一般的ニ發生シ得ヘキ結果ト認ムルヲ得ス別言スレハ右僞造行使ノ行爲ハ一般的ニ觀察シテ斯ノ如キ結果ヲ發生スヘキ可能性ヲ有スルモノニ非ス故ニ若シ右僞造行使ノ行爲ヲ條件トシテ現實斯ノ如キ結果ヲ發生シタリトスルモ之レ寧ロ他人ノ故意行爲ノ介入ニ因リ其特殊ノ場合ニ限リ發生シタル偶然ノ結果ナリト認ムルヲ妥當トス（大正七・一一・一九）

○査定ト判決トノ牴觸ト權利ヲ害セラレタル場合ノ救濟方　同一土地ノ所有權ニ關シ土地調査令ニ依ル査定

頁		
四	二九八	
三	六三九	
三	六二	
三	七四九	
三	七四九	
五	八八六	
五	八八六	

又ハ裁決ト司法裁判所ノ確定判決トノ間ニ互ニ牴觸シテ相容ルルコト能ハサル結果ヲ生シタルトキト雖二者全然其系統ヲ異ニスル國家機關ノ行爲ニシテ各獨立シテ其效力ヲ有スルモノナルヲ以テ斯ル場合ニハ一方ヲシテ査定又ハ裁決ニ因リテ確定シタル權利ヲ主張スルヲ得セシムルト共ニ又他ノ一方ヲシテ判決ニ因リテ確定シタル權利ヲ主張スルヲ得セシメ其ノ當事者間ニ在リテハ兩々相對立シタル當時ノ現在ノ狀態ヲ維持シ互ニ他ノ一方ノ權利ヲ侵害スルコトナクシテ其權利ヲ行使スルコトヲ得ヘキモノト爲スヲ妥當トス從テ若シ他ノ一方ノ現狀ニ變更ヲ加ヘ其權利ヲ侵害シテ目的物件ヲ奪取スルカ如キ行爲ヲ爲スニ於テハ侵奪セラレタル者ハ侵奪者ヲ相手取リ之カ囘復ヲ請求スルヲ得ヘキモノトス（大正八・三・一四）

聯

○査定ト判決ノ牴觸ト不法行爲ノ成立　土地所有權ノ確定ニ付土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ト司法裁判所ノ確定判決トカ互ニ牴觸シ相容レサル結果ヲ生シタル場合ニ於テ査定名義人又ハ裁決名義人及確定判決ノ勝訴者ハ各其ノ權利ヲ主張スルコトヲ得ヘシト雖其ノ兩者ノ間ニ在リテハ兩々對立シタル當時ノ狀態ヲ維持シ互ニ他方ノ權利ヲ侵害スルコトヲ得サルモノナルヲ以テ査定名義人又ハ裁決名義人カ其ノ權利ヲ第三者ニ讓渡シ其ノ者ヲシテ當該土地ニ付完全ナル所有權ヲ取得セシメ確定判決ノ勝訴者ヲシテ全然其ノ權利ヲ喪失セシメタルトキハ査定名義人又ハ裁決名義人ハ確定判決ノ勝訴者ニ對シテ不法行爲ノ責ニ任スヘキモノトス（大正一四・一二・二六）

○土地調査令ニ依ル虛僞ノ申告ト不法行爲　土地調査令ニ依リ所有申告ヲ爲スニ當リ申告者カ從來所有權ヲ有セサルニ拘ラス自己名義ノ査定ヲ得ンコトヲ企圖シテ虛僞ノ申告ヲ爲シ偶々申告者ノ所有ト査定セラルルコトアルモ之ヲ以テ直ニ不法行爲ニ因リ眞實ノ所有者ノ權利ヲ侵害シタルモノト爲スヘキニ非ス只査定カ申告者ノ不法行爲ニ原因スルコト判然タル場合ニ於テノミ査定ト不法行爲トノ間ニ因果關係ヲ惹起シ眞實ノ所有者ノ權利ヲ侵害シタリトシテ其ノ不法行爲ニ因ル損害賠償ノ責任ヲ負フヘキモノト爲スヲ妥當トス（大正一二・八・二八）

巻	頁
六	九六
一三	五一五
一〇	二四九

○欺罔行爲ト騙取ノ間ニ介入シタル過失行爲ト損害ノ原因　他人ノ欺罔行爲ニ因リテ錯誤ニ陷リ或一定ノ物件ヲ交付スヘク決意シテ之ヲ給付シタル時ハ之ニ依リテ生シタル損害ハ其ノ欺罔行爲ニ基クモノニシテ其ノ決意後給付ヲ爲スヘカリシ間ニ於テ介入シタル他人ノ過失行爲ノ如キハ假令該行爲無カリセハ右給付行爲ヲ爲スニ至ラスシテ損害ヲ未然ニ防止シ得ヘカリシ關係ニ在リシトスルモ特ニ之カ爲其ノ損害ノ發生ヲ容易ナラシメ又ハ其ノ損害ヲ增大ナラシメタル等ノ事情ナキ限右損害ノ原因トナルモノニアラス（大正一三・四・四）

○擔保尊重ノ違約ト不法行爲　丙ト甲トノ間ニ甲カ乙ヨリ債權ノ擔保ニ徵シタル漁船漁具ニ付甲カ債權ノ完濟ヲ受クル迄ハ丙ニ於テ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル爲メ右漁船漁具(乙ノ占有中ニ在リ)ニ對シテ權利ヲ行使セサルコトヲ契約シタルニ拘ラス丙之ニ違反シテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル爲メ右物件ニ對シ競賣手續ヲ申請シ因テ其競落金ヲ受領シ辨濟ヲ受ケタルトキハ丙ハ甲ニ對シテ違約ノ責ニ任シ甲ノ受ケタル損害ヲ賠償スヘキモノトス（大正五・一〇・三〇）

○惡意ノ占有者ト民法第七百九條ノ關係　民法第百九十條及第百九十一條ハ同法第七百九條ニ對シテハ一ノ特別規定タルヘキモノナレハ占有者ノ取得セル果實若クハ占有物ノ減失毀損ニ關スル限リハ常ニ前記第百九十條第百九十一條ニ依リ其賠償責任ノ有無ヲ定メ民法第七百九條ノ規定ヲ適用スヘキ限リニアラサルヲ以テ此二個ノ請求權ハ競合スヘキモノニアラス（大正八・六・一三）

○官吏ノ法規違背ノ職務執行ト不法行爲ノ認定　官吏カ滯納稅金徵收ノ爲ニスル公賣處分ヲ遂行スルニ當リ其行爲カ手續法規ニ違反シ甚タ失當タルヲ免レサルトキト雖此一事ニ因リ直ニ官吏カ名ヲ職務執行ニ藉リテ爲シタル不法行爲ナリト論結セサルヘカラサルモノニ非スシテ依然職務執行ニ屬スルモノト認ムルハ事實裁判所ノ職權當行ニ外ナラサルモノトス（大正一〇・八・二六）

巻	頁
一二	三六
一	八〇
六	四一九
八	二六八

巻　頁

○官吏ノ職務執行ト第三者ニ對スル賠償責任　官吏ハ國家ニ對シ服從的關係ヲ有シ其機械トナリテ職務ヲ執行スルモノニシテ直接外部ニ對シ法律關係ニ立ツモノニ非サルヲ以テ職務執行ノ結果第三者ニ損害ヲ加フルコトアルモ直接自己ニ於テ責任ヲ負フヘキモノニ非ス（大正一〇・八・二六）

八　二六八

○受託物ノ不法處分ト損害賠償ノ請求方法　信託契約ニ因リ物ヲ保管セル債務者カ不法ニ之ヲ處分シタル場合ニ債權者カ債務者ニ對スル不法行爲ヲ原因トシテ損害賠償ヲ求ムルト將タ民法第五百四十五條第三項ニ依リ不履行ニ因ル損害賠償ヲ求ムルトハ其自由ナリ（大正一〇・一一・二三）

八　四五五

○執達吏ノ不當差押ト委任者ノ不法行爲　執達吏カ債權者ノ委任ニ基キ債務者ノ有體動產ニ對シ差押ヲ實行スルニ當リテハ其職權ヲ以テ爲スヘク敢テ債權者ノ指示ヲ受クヘキモノニ非サルヲ以テ執達吏カ誤テ第三者所有ノ有體動產ヲ差押ヘタル場合ニ債權者ニ不法行爲ノ責任アリト爲スニハ債權者ノ故意又ハ過失ニ因リ執達吏ヲシテ斯ル差押ヲ實行セシメタル事實存在セサルヘカラス（大正一一・一・二七）

九　九

○不法行爲ニ因ル損害額算定ノ標準　不法行爲ニ因ル損害額ヲ算定スル場合ニ於テハ必スシモ不法行爲當時ヲ標準ト爲ササルヘカラサルモノニ非ス取引ノ通念上不法行爲ニ基因スル損害ト認ムルコトヲ得ル以上ハ不法行爲以後ノ時期ヲ標準トシテ損害額ヲ算定シ其賠償ヲ求ムルコトヲ得卽不法行爲ニ因リテ侵害セラレタル財產權ノ價格カ該行爲以後ニ至リ昂騰シタル場合ニ於テモ取引ノ通念上賠償權利者ハ其機會ヲ利用シテ利益ヲ得ヘカリシモノト認ムルヲ相當トスルカ故ニ昂騰シタル時ノ價格ヲ標準トシテ算定シタル損害ハ取引ノ通念上不法行爲ニ基因スル損害ト認ムルコトヲ得ヘシ（大正一一・三・一〇）

九　七三

○不動產ノ二重賣買ト第一次買主ノ請求權ノ競合　自己ノ不動產ヲ賣却シタル賣主カ擅ニ之ヲ他人ニ賣却シ其者ノ爲ニ所有權移轉登記ヲ了シタルトキハ後ノ買主ハ完全ナル所有權ヲ取得スヘク之ト同時ニ前買主ニ對スル所有移轉ノ效果ヲ滅却セシムルニ至ルヘシ如上賣主ノ第二次ノ賣却行爲ハ前買主ノ所有權ヲ侵害スル不法行爲ニシテ賣主ハ之カ爲前買主ニ生シタル損害ヲ賠償スル責務アリ從テ前買主ハ之ヲ賠償セシムル物權的請求權ヲ取得スヘシ如上第二次ノ賣買ニ因ル所有權移轉登記ノ行ハレタル場合ニ於テ賣主カ所有權ヲ囘復シテ前買主ニ完全ナル給付ヲ爲シ得サル場合ニ在テハ前買主ハ契約上ノ債務不履行若クハ履行不能ヲ原因トシテ損害賠償ヲ請求シ得ヘク又賣主カ所有權ヲ囘復シテ前買主ニ完全ナル給付ヲ爲シ得ル場合ニハ契約上ノ債務履行ヲ請求シ得ヘシ此等債權的請求權ハ前示不法行爲ニ因ル物的請求權ト競合スルモノニシテ其中一個ノ請求權ノ辨濟ニ因リ他ノ請求權ハ消滅スルモノトス（大正一一・五・二）

九　一五七

○代理人ノ報告ヲ受ケタル買主ト注意ノ程度　賣主カ買主ニ對シ賣買ノ目的物タル動產ノ引取方ヲ通知セシヨリ買主カ賣主ト豫メ期日ヲ打合セ之カ引渡ヲ受クル爲代理人ヲ派遣シタルニ同代理人カ買主ニ對シ無事引渡ヲ受ケタル旨報告ヲ爲シタルカ如キ場合ニ在リテハ買主ハ一應其言ヲ信シ右賣買ノ目的物ニ付完全ニ權利ヲ取得シタルモノト確信スルニ於テ間然スル所ナシトスルモ他ニ同一賣主ヨリ同一目的物ヲ買受ケ其引渡ヲ受ケタリトシ自己ノ權利ト相容レサル權利ヲ主張スル者顯ハレタルトキハ斯ル場合ニハ更ニ相當ノ手段方法ニ依リ其代理人ノ引渡ヲ受ケタリトノ報告カ眞實ナリヤ否ヤニ付相當ノ調査ヲ爲シタル後訴ヲ提起シ假處分命令ノ申請ヲ爲スヲ以テ通常人ノ用フル注意ヲ施シタルモノト爲スヘク代理人ノ當初ノ報告ノミニ信頼シ直ニ訴ヲ提起シ假處分ノ申請ヲ爲スカ如キハ其注意ニ缺クル所アルモノト謂ハサルヘカラス（大正一一・六・五）

一〇　一五三

○面吏員ノ面ニ對スル賠償責任　面吏員カ其ノ職務ヲ執行スルニ當リ爲スヘキ相當ノ注意ヲ怠リタル結果面ニ對シテ損害ヲ加ヘタルトキト雖事公法關係ニ屬シ現行法上面吏員ニ損害賠償ノ責任ヲ負ハシムヘキ規定存セサルヲ以テ面ノ右吏員ニ對スル損害賠償ノ請求ハ之ヲ認容スルニ由ナキモノトス（大正一一・八・二八）

一〇　二五四

○質權者ノ質物保管ノ責任　質權者ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ質物ヲ占有スルコトヲ要スルモノナルカ故ニ故意又ハ過失ニ因リ其ノ物ヲ第三者ニ引渡シ以テ質權設定者ニ之ヲ返還スルコト能ハサルヘキ狀態ニ至ラシメ其ノ物ニ付質權設定者ノ有スル法律上ノ利益ヲ喪失セシメタルトキハ質權設定者ハ質權ノ消滅ヲ請求シ得ヘキハ勿論之ニ因リテ被リタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス（大正一四・三・三）

○共有物ニ關スル損害賠償請求權ノ範圍　共有物ニ付加ヘラレタル不法行爲ニ因ル損害賠償請求權ト雖別段ノ意思表示ナキトキハ各共有者ハ其ノ持分ニ應スル割合ヲ以テ其ノ權利ヲ有シ且之ヲ行使シ得ルニ過キサルモノトス（大正一四・七・二四）

○裁判上ノ離婚ニ於ケル妻タル地位ノ喪失ニ因ル損害賠償　夫カ妻ニ對シ暴行ヲ爲シテ傷害シ同居ニ堪ヘサル虐待ヲ加ヘタル場合ニ於テハ妻ハ之ヲ事由トシテ夫ニ對シ離婚ノ請求ヲ爲スト同時ニ其ノ傷害ニ因ル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ヘキハ勿論其ノ結果裁判上離婚ト爲リタルトキハ仍妻タル地位ノ喪失ニ因ル損害ノ賠償ヲモ請求スルコトヲ得ルモノトス（大正一五・八・二七）

○所有權侵害ト損害ノ發生　正當ノ權原ナク他人所有ノ建造物ヲ使用スルハ所有者ノ權利行使ヲ妨クルニ至ルヲ通例トスルカ故ニ特別ノ事情存セサル限リ所有者ハ之ニ因リテ損害ヲ被リタルモノト認メサルヘカラス（昭和三・五・一五）

○不動產ノ二重賣買ト後ノ買受人ノ責任　不動產登記令ニ登記ノ定アル不動產上ノ權利ノ取得ハ其ノ登記ヲ爲スニ非サレハ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノニシテ第三者ノ意思ノ善惡ハ之ヲ問ハサルモノナルカ故ニ或不動產上ノ權利カ甲ヨリ乙ニ移轉シタルモ其ノ登記ナキ間ニ再ヒ甲ヨリ丙ニ對シ同一ノ權利ヲ讓渡スル合意ヲ爲シ先ツ之カ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ乙ハ丙ニ對シ自己ノ權利取得ヲ對抗スルコトヲ得サルハ勿論丙ノ右行爲ヲ以テ乙ノ權利ヲ

卷	頁
一三	二六九
一三	二七一
一五	一四一

侵害スルモノトシテ不法行爲ノ責ヲ負ハシムルコトヲ得サルモノトス（昭和三・五・二二）

○強制執行ノ停止ニ因ル損害額　債權者ノ爲ニ施行セラルル強制執行ヲ停止セシムルコトニ因テ自己ノ權利ヲ保全スルコトハ非常救濟手段トシテ認メラレタル假ノ處置ニ外ナラサルカ故ニ保全ヲ求メタル權利カ後日否定セラレ救濟カ不法行爲タルニ至リタルトキハ爲ニ生シタル損害ニ對シ賠償ノ責任ヲ負擔スヘキ危險ノ下ニ於テノミ許サル此ノ場合ニ於ケル損害ハ停止ナカリセハ得ヘカリシ滿足ノ額ト停止ニ因テ妨ケラレタル執行ノ結果トノ差額ナリトス（昭和六・七・二四）

○物ノ毀滅ノ場合ハ原狀回復ノ請求權ナシ　所有權ノ侵害カ其ノ行使ヲ妨害スルコトニ因テ存スルトキハ之ヲ排除シテ原狀ニ回復スルコトヲ請求シ得ルハ明ナリト雖物ノ一部ノ毀滅ニ因ルモノナルトキハ不法行爲ヲ理由トシテ金錢ヲ以テ其ノ賠償ヲ請求シ得ルニ止ル而シテ土砂採取ノ爲メ山坂ノ一部カ切崩サレタルトキハ毀滅ニ該當シ土地ノ所有權ノ行使ニ對スル妨害ノ繼續セルモノト謂フヲ得ス（昭和六・一二・一）

○自動車所有者ノ責任　自動車ノ操縱ハ特別ノ技能ヲ有スルモノニヨリテ爲サレサレハ第三者ノ生命身體財產等ニ危害ヲ及ホスヘキ危險アルモノナレハ其ノ所有者ハ第三者カ恣ニ其ノ自動車ヲ使用スルコトヲ防止スヘキ義務アルモノトス（昭和八・一・一三）

○擔保消滅ニ因ル損害額　連帶債務者カ其ノ辨濟ニ因リ代位取得セル抵當權カ債權者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ消滅セルトキハ代位權者ハ其ノ求償ヲ爲シ得ル金額ノ範圍ニ於テハ直チニ抵當權ヲ實行シテ滿足ヲ得ヘカリシ部分ニ付債權者ニ賠償ヲ求メ得ルモノトス（昭和八・二・二四）

○辯護士ニ支拂ヒタル報酬ト損害賠償　民事訴訟法及民事訴訟費用法ノ規定ノ範圍外ニ於テ辯護士ニ支拂ヒタル旅費及報酬金ハ不法行爲ニ基因セル損害トシテ賠償ヲ求ムルヲ得ス（昭和八・六・二七）

卷	頁
一五	一五五
一八	一三四
一八	一七七
二〇	一
二〇	九五
二〇	二七六

○物ノ使用不能ニ因テ通常生スル損害　物ノ使用不能ニ因テ通常生スヘキ損害ハ賃貸借ノ行ハルルモノニ在リテハ其ノ賃料ヲ標準トス假令其ノ爲メニ原告ハ業ヲ廢シテ徒食シタリトスルモ被告ノ賠償スヘキ責任ハ賃借料ヲ限度トシ賃借ノ爲メニ必要ナル期間ノ休業ニ因テ生シタル損害ノミハ豫見シ得ヘキ損害トシテ加算スヘキモノトス（昭和九・六・二六）

○自轉車ニヨル危害　車馬自轉車ノ如キ之ヲ使用スル者ハ特ニ或ハ通行人ニ危害ヲ加フル慮ナシトセサルヲ以テ常ニ特別ノ注意ヲ拂フヘキハ道路ノ交通上一般ノ要請スル處ニシテ之ニ依テ通行人ニ危害ヲ加ヘタルトキハ加害者ヲシテ當時ノ事情ヲ具陳セシムルコトヲ要ス漫然過失ナシト云フヲ得ス（昭和九・七・一三）

○差押解除手續ノ懈怠ト損害賠償　債權者カ債務者所有ノ動產ニ付差押ヲ爲シタル後債務ノ一部ハ現金ヲ以テ辨濟ヲ受ケ殘部ニ付テハ期限ヲ定メテ貸借契約ニ改メタルニ拘ラス其ノ差押ヲ解除スルコトナク手續ノ進行ニ任セ競賣セラルルニ至リタルトキハ其ノ動產ニ對スル所有權ヲ侵害シタルモノトシ債務者ニ對シテ不法行爲ニ基ク損害ヲ賠償スル義務アルモノトス（昭和一〇・二・一五）

○婚姻豫約中ノ同棲ニ因ル損害ニ對スル賠償責任　婚姻豫約當事者ノ同棲カ婚姻ニ對スル當事者ノ期待ヲ根據トスルカ故ナリ故ニ當事者一方カ其ノ責ニ歸スヘキ豫約不履行ニ因リ右ノ期待ヲ覆滅シタルトキハ同棲ハ理由ナカリシモノニ歸シ之ニ因リテ相手方ノ蒙リタル損害賠償ノ責ニ任セサルヘカラス（昭和一〇・二・二六）

○抵當權ノ不當ナル實行ト不法行爲　債權及抵當權ノ存スル場合ト雖債權者カ未タ抵當權ノ實行ヲ爲シ得サル時期ニ於テ其ノ實行ヲ爲シ因テ債務者ヲシテ抵當物件ノ所有權ヲ喪ハシメタルトキハ債務者ニ對シ不法行爲ノ責ニ任スヘキモノトス（昭和一〇・九・一七）

卷	頁
二一	二三九
二一	二八五
二三	一三
二三	二一
二三	三五五

第七百十條

○妻契約ノ破棄ト損害賠償　妻契約ニ基キ情交關係ヲ結フニ至リタル者ハ相手方ニ於テ之ヲ破棄スルモ貞操權ノ侵害又ハ名譽毀損ニ因ル不法行爲トシテ之カ損害賠償請求ヲ爲シ得サルモノトス（昭和一一・一二・二六）

第七百十一條

○本條ノ法意　本條ノ規定ハ他人ノ故意若クハ過失ニ因リ人ノ生命カ殞セラレタル場合ニ於テ被害者ノ死亡ハ往々其父母配偶者子等ニ對シ財產上若クハ財產外ノ損害ヲ加フルコトアルカ故ニ加害者ハ是等ノ者ノ各自ニ對シ加ヘタル損害ヲ賠償スヘキ旨ヲ定メタル法意ト解スルヲ相當トス故ニ是等ノ者ハ加害者ニ對シ各自獨立シテ被害者ノ死亡ニ因リ生シタル財產上ノ損害ノ賠償ハ勿論其死亡ニ因リ悲哀ノ爲メ生スル損害ノ賠償所謂慰藉料ノ請求ヲ爲シ得ヘキハ當然ナリ（大正一〇・七・五）

第七百十五條

○使用者ノ責任原因　本條ハ民法第七百九條ニ牽聯シ被用者ニ責任アル場合ハ使用者モ亦自己ノ不注意即チ被用者選任及其事業ノ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲ササルコトニ因リ其責任ヲ負フヘキコトヲ規定シタルモノニシテ被用者ノ不法行爲ニ對シ代テ其責ニ任スヘキコトヲ規定シタル法意ニアラス（大正六・四・二〇）

○被用者ノ不法行爲ト使用者ノ立證責任　本條ハ被用者カ使用者ノ命令又ハ委任シタル事業ノ執行行爲自體若クハ其執行ニ必要ナル行爲ニ因リ第三者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ同條但書ノ場合ヲ除ク外一般ニ使用者ニ於テ被用者ノ選任及其事業ノ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲ササリシモノト看做シ之カ損害賠償ノ責ニ任スヘキコトヲ規定シタルモノニシテ使用者カ被用者ノ選任ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルコトヲ立證シ得タリトスルモ其事業ノ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルコトヲ立證シ能ハサルトキハ同條本文ノ規定ニ依リ當然其責ニ任セサルヲ得サルモノトス

卷	頁
二三	四二九
八	二三七
四	二九八

（大正六・四・二〇）

○被用者ノ過失ト使用者ノ責任　如上ノ場合ニ於テ被用者ノ過失行爲カ被害者ノ代理人ノ行爲ニ因リ誘發セラレ又ハ使用者カ被用者ノ事業執行ニ對スル直接監督ノ不能ナルコトヲ熟知シ居タリトスルモ此等ハ使用者カ自己ノ責任ヲ免ルル辭柄ト爲スヲ得サルモノトス（大正六・四・二〇）

○被用人ノ過失ニ因ル寄託物ノ滅失ト受託者ノ責任　自動自轉車ノ修理ヲ業トスルモノカ修理ノ爲他人ヨリ自動自轉車ノ寄託ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ使用人ノ過失ニ因リ該物件ヲ燒失セシメ返還不能ト爲リタルトキハ斯カル使用人ヲ使役スルコトカ受託者ノ過失ニ歸スルヲ以テ返還不能ハ結局受託者ノ過失ニ因リ生シタルモノトス（大正一四・八・二一）

○本條ノ法意　本條ノ法意ハ苟モ被用者カ第三者ニ加ヘタル損害ニシテ使用者ノ事業執行ニ付生セシメタルモノナル以上ハ使用者ハ其ノ賠償ノ責ニ任スヘク其ノ事業ノ適法ノモノナルト否トヲ又使用者被用者間ノ使用原因タル雇傭關係ノ法律上有效ノモノナルト否トヲ問ハサルモノトス（大正一四・一二・一一）

○監督ノ怠慢ト共同不法行爲　金融組合理事ノ使用人ニ對スル監督ノ怠慢カ使用人ノ犯行ニ機會ヲ與ヘタリトスルモ之ヲ以テ直ニ使用人ノ犯行ト共同不法行爲ノ關係ニ立ツモノト謂フヲ得ス（大正一五・四・一六）

○事業者ノ賠償ト法定利息ノ償還請求　監督義務ヲ怠リタル爲ニ使用人ノ不法行爲ニ因ル損害ヲ賠償シタル者ハ賠償後ノ法定利息ニ付テ亦使用人及其ノ身元保證人ニ對シ償還ヲ請求スルコトヲ得（大正一五・四・一六）

○被用者ノ監督者ノ監督懈怠ト使用者ノ責任　或事業ノ爲ニ他人ヲ使用スル者カ被用者ノ監督ニ付特ニ第三者ヲ雇使スルトキハ其ノ者ノ監督ノ過失懈怠ハ使用者ノ過失懈怠トシテ法律上其ノ效ヲ生スヘキモノトス（大正一五・五・二五）

○限度ノ定メナキ身元保證契約ノ解釋　身元保證契約ニ於テ賠償額ヲ明示セサル場合例ヘハ被用者カ使用者ニ損害ヲ被ムラシメタル場合ニ身元保證人ニ於テ賠償ヲ爲ス旨單純ナル契約ヲ締結シタル場合ニハ特別ノ事情ナキ限リ身元保證人ハ相當ノ範圍内ニ於テ賠償ヲ爲ス約旨ナリト解スルヲ相當トス又一切ノ責任ヲ負擔スト契約シタル場合ニ於テモ一切ノ文字ハ必スシモ無限ヲ意味スルモノニ非ス或ハ損害ノ種類ヲ問ハス責任ヲ負フ趣旨ニ用ヰラルルコトアリ或ハ常套語トシテ不用意ニ使用セラルル場合アルカ故ニ特殊ノ事情ナキトキハ前者ト同シク相當ノ範圍内ニ於ケル賠償ヲ約シタル趣旨ト解スヘキモノトス（昭和四・六・四）　一六一三〇

○身元保證ノ相當ナル賠償ノ範圍　相當ナル賠償範圍ハ使用者ノ職業被用者ノ執ルヘキ業務身元保證人ト被用者トノ關係及被用者ノ契約當時ニ於ケル資產狀態等ヲ斟酌シ箇々ノ具體的事件ニ付合理的價値判斷ノ下ニ決スヘキモノトス（昭和四・六・四）　一六一三〇

○身元保證ト使用者ノ過失斟酌　身元保證契約ハ使用者ニ監督義務ヲ免脫スル趣旨ニ於テ締結セラルルモノニ非ス使用者ニ於テモ相當ノ監督ヲ爲スヘキコトヲ條件ト爲シタルモノト推認スヘキモノナルニ依リ使用者ニ監督上ノ過失アリタルトキハ賠償額ヲ算定スルニ當リ之ヲ斟酌スルコトヲ得（昭和四・六・四）　一六一三〇

○事業ノ執行ト牽連セル法律行爲ト使用者ノ責任　本條ニ所謂事業ノ執行カ法律行爲ニ牽連スル場合ニ於テ被用者カ法律行爲ニ關スル事實上ノ事務ヲ擔任セルニ過キサル場合ニ於テモ其ノ職務上保管セル印顆用紙等ヲ不正ニ使用シ法律行爲ニ關スル證券ヲ發行シタルトキハ畢竟不當ニ事業ノ執行ニ當ニ事業ヲ執行シタルモノニ外ナラスシテ其ノ事業ノ執行ニ關スル行爲タルコトヲ失ハス從テ使用者ハ之ニ因リ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任スヘキモノトス

前項不正行爲ヲ爲シタル被用者カ苟モ當該事務ヲ擔任セシモノナル以上ハ他人ト共同シ主任又ハ補助トシテ其ノ事務

民法　債權　不法行爲

ノ一部ヲ擔任シタル場合ニ於テモ使用者ハ前項ト同一ノ責ニ任ス（昭和五・一一・一八）

○官設保稅倉庫ノ業務ト民法ノ適用　官設保稅倉庫ニ關スル事業ト雖モ藏置貨物ニ付預證券ヲ作成交付スル行爲ハ其ノ交付ヲ受クル者トノ關係ニ於テハ私法上ノ法律行爲ヲ適用スルモノトス

而シテ預證券ノ作成交付ハ國ヲ主體トスル官設保稅倉庫ノ業務ナルカ故ニ之ニ從事スル國ノ使用人カ預證券ヲ作成交付スルトキハ自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ之ヲ爲シタルトキト雖モ本條ニ所謂事業ノ執行ニ付之ヲ發シタルモノト謂フヲ得ヘキモノトス（昭和六・三・一三）

○船舶所有者ノ損害賠償責任ト本條　商法第五百四十四條第一項ニ依リ船舶所有者カ船長其ノ他ノ船員ニ於テ其ノ職務ヲ行フニ當リ他人ニ加ヘタル損害ニ付賠償ノ責アル場合ニ船舶所有者ハ其ノ者等ノ選任監督ニ付過失ナカリシコトヲ證明シテ其ノ責ヲ免ルルヲ得サルヘク此ノ場合ニ民法第七百十五條ハ其ノ適用ヲ排除セラルルモノトス（昭和一〇・三・五）

○自動車ノ賃借人ト本條ノ責任　自動車ニ依ル旅客運送業者カ自動車ヲ他ヨリ賃借シテ自己ノ營業ノ爲ニ之ヲ使用シ運轉手ヲシテ旅客運送ヲ爲サシメタルトキハ其ノ運轉手カ賃貸人ノ雇人ニシテ同人ヨリ給料ノ支給ヲ受ケ且其ノ身分上ノ監督ニ服シタリトスルモ他ニ特別ノ事情ナキ限リ本條ノ適用ニ付テハ右運轉手ノ爲シタル賃借人ノ事業ノ執行ニシテ賃貸人ノ夫レニ非サルモノトス（昭和一一・三・二〇）

第七百十七條

○本條ノ損害賠償ノ原因ト平時又ハ事變　本條ニ規定セル損害賠償ハ單ニ損害ヲ生セシメタル原因カ工作物ノ設置若クハ保存ニ關シ瑕疵アリシカ爲メナルトキハ其責任ヲ生スルモノニシテ其損害ノ原因タル事實ノ發生シタル時カ平時ナルト事變ニ際シタルトヲ問ハサルモノトス（大正五・七・二八）

卷	頁
一七	二三六
一八	五三
二二	二五
二三	一二一
三	六六四

第七百十九條

○本條第一項後段ニ所謂共同行爲ノ意義　本條第一項後段ニ所謂共同行爲者トハ權利侵害ヲ爲スノ危險アル行爲ヲ爲シタル二人以上ノ者ノ義ナリトス（昭和二・二・一九）

第七百二十二條

○本條第二項ノ意義及過失相殺ニ必要ナル因果關係ノ程度　本條第二項ノ規定ハ加害者ノ不法行爲ニ因リテ損害ノ發生シタルトキ被害者ニモ過失アリ之ニ因リ加害者ヲシテ不法行爲ヲ爲スニ至ラシメ若クハ加害者ノ不法行爲ヲ助成シ又ハ加害者ノ不法行爲ト相俟テ損害ヲ發生セシメ若クハ損害ヲ增大ナラシメタルカ如キ加害者ノ賠償責任ヲ宥恕スヘキ事情ノ存スル場合ニ於テ裁判所ヲシテ損害賠償ノ額ヲ減殺スルコトヲ得セシムル旨趣ニ外ナラスト解スヘキモノトス從テ被害者ノ過失ト加害者ノ不法行爲若クハ其不法行爲ニ因リテ生シタル損害トノ間ニ密接ナル因果關係ノ存スルコトヲ要ス（大正六・一二・七）

○被害者ノ過失ト損害賠償額ノ確定　本條第二項ノ規定ハ被害者ニ過失アリテ加害者ノ不法行爲ヲ助成シ又ハ加害者ノ不法行爲ト相俟テ損害ヲ發生セシメタルカ如キ場合ニ於テ加害者ノ責任ヲ宥恕スヘキ事情ノ存スルトキ之ヲ適用スヘキ趣旨ノモノトス（昭和四・七・二）

○詐欺ニ因ル損害ト被害者ノ過失ノ相殺　詐欺ニ因ル損害賠償ニ付テ被害者カ欺罔セラレタルハ其ノ過失ニ因ルトスルモ其ハ唯加害者ノ不法行爲ノ遂行ヲ容易ナラシメタルニ止リ損害ハ一ニ加害者ノ不法行爲ニ因テ發生シ被害者ノ行爲カ之ニ協力シタルモノニ非サルヲ以テ被害者ノ過失ハ加害者ノ責任及ヒ賠償額ヲ定ムルニ當リ斟酌スヘキモノニ非ス（昭和九・一・三〇）

○雙方ノ過失ニ因ル船舶ノ衝突ト損害額ノ算定　船舶カ雙方ノ過失ニ因リ衝突シタル場合ニ於テ之ニ因テ生シ

卷	頁
一四	四四
四	一〇五三
一六	一七〇
二一	六

タル損害ハ其ノ過失ノ輕重ニ從ヒ割合ヲ以テ各船舶所有者之ヲ負擔スヘク此ノ場合本條ハ適用スヘキ限ニアラス（昭和一〇・三・五）

卷 三　頁 二五

○不法行爲ニ因ル損害賠償ノ額ト被害者ノ過失　裁判所カ訴訟ニ現ハレタル資料ニ基キ被害者ニ過失アリト認ムヘキ場合ハ不法行爲ニ因ル損害賠償ノ額ヲ判定スルニ付賠償義務者ノ主張ヲ俟ツコトナク職權ヲ以テ之ヲ斟酌シ得ルハ勿論ナリト雖然カモ尚之ヲ斟酌スルト否トハ裁判所ノ自由ニ決シ得ヘキトコロニシテ必ス斟酌セサルヘカラサルモノニアラス從テ此ノ點ニ關シ賠償義務者ヨリ何等ノ主張モナク且裁判所ニ於テ其ノ裁量ニヨリ之ヲ斟酌セサル場合ニ於テハ其ノ之ヲ斟酌セサル事由ヲ判示スルヲ要セス（昭和一一・一、一四）

二三　八

第七百二十三條

○本條ノ法意　本條ハ名譽毀損ニ對スル一ノ損害賠償タルニ外ナラサルモノトス（大正三・九・一四）

刑 二　三六六

○金錢及名譽回復ノ請求ノ性質　被害者カ金錢ヲ以テスル損害賠償ト併セテ名譽回復ニ適スル方法トノ請求ヲ爲スモ結局一個ノ損害賠償ノ請求タルニ過キサルモノトス（大正三・九・一四）

刑 二　三六六

○前項ノ場合ニ於テ金錢賠償ヲ排斥シタル判決ノ當否　前項ノ場合ニ於テ金錢ヲ以テスル損害賠償ノ請求ヲ排斥スルハ一箇ノ請求ニ對シ幾部ノ制限ヲ加ヘタルモノニ過キスシテ不當ニアラス（大正三・九・一四）

刑 二　三六六

第七百二十四條

○取締役ニ對スル會社ノ損害賠償請求權ト時效ノ起算點　株式會社ノ取締役カ不法行爲ニ因リ會社ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ其損害賠償ノ請求權カ民法第七百二十四條ニ規定スル三年ノ時效ニ依リテ消滅セリトスルニハ會社ノ法定代理人カ其損害及加害者ヲ知リタル時ヨリ三年間之ヲ行ハサリシ事實ノ存スルコトヲ要スルハ勿論其法定代理人ハ損害賠償ノ請求權ヲ行使スル權限ヲ有スル者ナルコトヲ要ス（大正八・五・二）

六　二九九

○前項ノ場合ニ於ケル時效起算點　株式會社ノ監査役ハ特別ノ規定アル場合ノ外常ニ取締役ト會社トノ利益相反スル行爲ニ付當然會社ノ法定代理人タルノ權限ヲ有スルモノニ非ス其會社ヲ代表シ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スル場合ト雖商法第百七十八條第百八十五條ニ規定スルカ如ク株主總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シ而カモ他ニ代表者ヲ決議セサル場合又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主カ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ監査役ニ請求シ而カモ他ニ代表者ヲ指定セサル場合ニ於テ始メテ法定代理人トシテ會社ヲ代表スル權限ヲ有スルニ至ルモノニシテ其決議又ハ請求ナキ以上ハ會社ヲ代表スル權限ナク從テ取締役ノ會社ニ對スル不法行爲ニ因ル損害事實ヲ知リタリトスルモ會社ノ法定代理人カ之ヲ知リタル場合ニ該當セサルヲ以テ其監査役ノ知リタル時ヲ以テ會社ニ對スル時效期間ノ進行ヲ始ムルモノト爲スヘキニ非ス（大正八・五・二）

六　二九九

○被害者ノ不法行爲ヲ知リタル時期ノ立證　不法行爲ニ因ル損害賠償請求權者カ不法行爲及其ノ加害者ヲ知リタル時期ハ時效ヲ援用スル者ニ於テ立證スルコトヲ要ス（大正一五・四・二七）

一三　八八

○手形金請求訴訟ニ於ケル僞造ノ抗辯ト其ノ事實ヲ知リタル時期　僞造手形ニ因ル詐欺ノ被害者カ手形金請求ノ訴訟ニ於テ僞造ノ抗辯ヲ爭ヒタルトキハ他ノ事情ノ立證ナキ限リ僞造ヲ認メタル判決ノ確定前ニ於テハ未タ僞造ノ事實ヲ知リタルモノト謂フヲ得ス（大正一五・四・二七）

一三　八八

○繼續的ノ損害ト時效起算點　故意過失ニ因リ他人ノ權利ヲ侵害シ之ニ因リテ損害ヲ生シタル事實アル以上ハ爾後其ノ侵害行爲ノ性質上之ヲ廢止セサル限リ自然ノ趨勢ニ於テ損害カ繼續シテ發生シ漸次堆積追加スル場合ト雖其ノ損害賠償請求權ノ消滅時效ハ民法第七百二十四條ニ依リ被害者カ最初ニ損害及加害者ヲ知リタル時ヨリ其ノ損害ノ全部ノ賠償請求權ニ付進行スルモノト解スルヲ相當トシ加害者カ加害行爲ヲ廢止セサルカ爲ニ損害ノ繼續シテ發生スル間

時々各別ニ進行スルモノト解スヘキニ非ス（昭和三・二・一七）

○不法行爲ニ因ル損害賠償請求ニ對スル消滅時效ノ起算　本條所定ノ消滅時效ハ被害者ニ於テ苟モ何等カノ損害アルヲ知レハ直チニ進行スルノ趣旨ニシテ之ニ因テ生スル損害ノ具體的ナル數額及程度ヲ知ルニ非サレハ進行セスト謂フモノニ非ス（昭和九・七・二七）

第四編　親族——朝鮮民事令第十一條

第一章　總則

第七百二十五條

○朝鮮人間ニ於ケル親族ノ範圍　刑法ノ適用上朝鮮人間ニ於ケル親戚ノ範圍ハ朝鮮ニ於ケル一般慣習ニ依ルヘキモノニシテ民法第七百二十五條以下ノ規定ニ依リテ定ムヘキモノニ非ス

朝鮮ノ一般慣習ニ依レハ其ノ相互間ノ誼禮ヲ本トシ親族ト汎稱スル本宗及異姓ノ有服親、袒免親及無服親ノ中特ニ血族ニ於テハ有服ノ近親ノミヲ以テ法令上親族ノ範圍トナシタルモノトス（大正一三・一二・四）

○庶子ト其ノ生母ノ實父トノ間ノ親族關係　朝鮮ニ於テ庶子ト其ノ生母ノ實父トハ相互ニ血族ニシテ其ノ生母ノ實父ハ庶子ノ外祖父ニ該リ兩者間親族關係ノ存スルコトハ顯著ナル慣習ナリトス（昭和二・一〇・二五）

○庶子カ戸主トナルモ生母ノ父トノ親族關係ハ消滅セス　庶子カ一旦相續ニ因リ戸主ト爲リタルトキハ其ノ生母ノ實父トノ間ニ存セシ親族關係消滅ストノ慣習ハ存在セス（昭和二・一〇・二五）

卷	頁
一五	二一
二一	二九二
刑 一一	四三
一四	三五四
一四	三五四

第七百三十條

○養母家ヲ去ル時ハ養子トノ親族關係消滅　養母カ其家ヲ去リタルトキハ養母ト養子トノ親族關係ハ之ニ因リテ止ムハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（大正六・六・一五）

第二章　戸主及ヒ家族

第一節　總則

第七百三十二條

○家族タル妾　妾ハ現時ニ於テ之ヲ家族トシテ認メサルハ慣習上顯著ナルモ從前ニ於テハ之ヲ妻ニ準シテ夫ノ家族トシ民籍法上亦其ノ入籍ヲ認メタリ而シテ慣習上妾カ家族トシテノ地位ヲ認メラレサルニ及ヒ大正四年八月七日官通牒第二四〇號ヲ以テ民籍上爾後妾ノ入籍申告ヲ受理セサルニ至リタルモ從來既ニ家族トシテ入籍シアリタル者ハ其ノ儘家族トシテ其ノ家籍ニ留マラシメタルヲ以テ敍上ノ關係ニ於テ妾タリシモノニシテ現時尚夫家ノ家族トシテ家籍ヲ有スル者アルハ裁判所ニ顯著ナル事實ニ屬ス（大正一四・六・一六）

○妾タル家族ト戸主ノ變更　從來家族トシテ戸籍ニ登載セラレタル舊戸主ノ妾ハ舊戸主ノ死亡ニ因リ當然新戸主ノ家族トナル（大正一五・一〇・五）

第七百三十八條

○養子ト妻子ノ入家　朝鮮人間ニ於テ戸主又ハ家族タル男カ養子ト爲リテ他家ニ入ル場合ニ其ノ妻又ハ家ヲ同ウスル子女ハ當然之ニ隨ヒテ其ノ養家ニ入ルハ朝鮮古來ノ慣習ナリトス（大正一二・九・二一）

卷	頁
四	五二二
一二	二二五
一五	三〇七
一〇	二七六

○養子ノ男モ養家ニ入ル　朝鮮ニ於テ宗家戸主タル者ニ相續人タルヘキ男子ナキ場合其ノ弟又ハ姪ハ當然宗家ノ相續人ト爲ル慣習ナシ從テ宗家戸主ノ弟カ養子ト爲リテ他家ニ入ル場合ニ於テ其ノ男ハ縱令宗家ニ嗣子ナキトキト雖已ニ宗家ノ養子ト爲リタルモノニ非サル限リハ父ニ隨ヒテ父ノ養家ニ入ルニ何等ノ支障ナキモノトス　（大正一二・九・二一）

第七百四十三條

○次男以下男ノ分家　朝鮮ニ於テ次男以下ノ男子カ分家ヲ爲シ一家ヲ創立スルコトアルハ慣習上認ムル處ナリ而シテ一旦分家ヲ爲シタル以上ハ分家ノ戸主及其家族ハ本家ノ家族ト謂フヲ得サルモノトス　（大正六・一・一六）

○庶子ノ分家ト慣習　庶子ハ他ニ戸主相續人アルト否トヲ問ハス分家ヲ爲シ得ヘク其ノ分家者カ意思能力ナキ幼者ナルトキハ親權者ニ依リテ之ヲ爲シ得タルコトハ大正三年頃ニ於ケル朝鮮ノ慣習ナリトス　（昭和六・一〇・一三）

第七百四十四條

○長子ノ養子緣組　朝鮮ニ於テ長子ト雖宗家ノ養子トナルコトヲ得ヘキモノトス　（大正五・四・一四）

○長男ハ他家ノ養子トナルコトヲ得ス　長男ハ收養サレタル者ト否トニ論ナク同本者間ニ於テ支家ヨリ本家ノ立後（相續）ヲ爲ス場合以外ニ他家ノ養子タルコトヲ得サルハ朝鮮ノ慣習ナリ　（大正五・一〇・六）

○同　旨　分家ノ長子ハ宗家相續ノ場合ニ宗家ノ養子トナリ其家ニ入ルコトヲ得ル慣習アルモ長子カ分家タル自己ノ父ノ兄ノ養子トナリ其家ニ入ルコトヲ得ル慣習ナシ　（大正六・三・三〇）

○同　旨　長男ハ宗家又ハ本家ノ相續ヲ爲ス場合ノ外他家ノ養子トナルヲ許ササルコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリトス　（大正一一・一二・一五）

頁	節
一〇	二七六
四	五
一八	一三八
三	五〇七
三	七五五
四	二四五
九	五二三

○長男ノ他家入家ニ關スル慣習　朝鮮ニ於テハ長男ハ奉祀者ト稱シ本家相續ノ爲本家ノ養子ト爲ル場合ノ外如何ナル理由ノ存スルモ養子緣組其ノ他ノ事由ニ因リ他家ニ入ルコトヲ得サルノ慣習存ス

朝鮮内ノ一地方ニ右慣習ノ行ハレス若ハ之ト異ナル慣習ノ存スルコトナシ　（大正一二・七・一〇）

○長男ノ他家入家ニ關スル慣習違反ノ效力　養子緣組ニ關スル上敍ノ慣習ハ公ノ秩序ニ關スル法規ニ屬スルヲ以テ之ニ適合セサル行爲ハ縱令當事者雙方ノ希望ニ副ヒ門族一同ノ異議ナキトキニ於テモ其ノ效力ヲ生スルニ由ナキモノトス如上不適法ナル養子緣組ハ當然無效ニシテ當事者其ノ他ノ利害關係人ハ何時ニテモ之カ無效ヲ主張シ得ヘキモノトス　（大正一二・七・一〇）

○分家長男ノ本家相續及其ノ適格　分家ノ長男ノ父カ本家ノ養親タルヘキ者ト四等親以上ノ關係アルモノナリトスルモ分家ノ長男ハ本家相續ノ爲養子トナルコトヲ得

分家ノ長男カ本家ノ養子トナリ得ルハ其ノ分家長男ノ父カ本家ノ養親タルヘキ者ト實兄弟ノ關係アル場合ニ限ルトノ慣習ハ存セス　（大正一二・一二・一八）

○獨子ノ本家相續ノ爲ノ養子緣組　朝鮮ニ於テ獨子カ養子緣組ニ依リ他家ニ入リ得ルハ其ノ養家カ六代祖以上ノ祭祀ヲ行フ宗家ニ限ルト爲ス慣習ノ存在スルコトナク却テ支分ノ家ノ獨子ト雖代數ノ如何ニ拘ラス廣ク其ノ本宗ノ家ヲ相續スル爲ナルトキハ養子トシテ其ノ家ニ入ルヲ得ルト爲スヲ以テ顯著ナル慣習ナリトス　（大正一四・三・三一）

○分家戸主ノ養子資格　新ニ分家シテ戸主ト爲リタル男子ハ本家以外ノ者ト雖之ト養子緣組ヲ爲シ自家ヲ消滅セシメテ養家ニ入ルコトヲ得ルハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ　（大正一五・九・三）

○長男ノ養子緣組　朝鮮ニ於テ長男ハ本家又ハ宗家ノ相續ヲ爲ス場合ノ外他家ノ養子ト爲ルコトヲ得サル慣習ニシテ他家カ生家ナル場合モ同樣ナリ從テ之ニ反スル養子緣組ハ當然無效ナリ　（昭和二・八・九）

頁	節
一〇	二〇六
一〇	二〇六
一〇	三七二
一二	九七
一三	二五四
一四	二四三

○不適法ナル養子緣組ト年月ノ經過　朝鮮人ノ家族タル長男ハ宗家相續ノ爲ニスル場合ノ外養子緣組其ノ他ノ事由ニ因リ他家ニ入ルコトヲ得サル慣習ハ公ノ秩序ニ關スル法規ニ屬スルヲ以テ此ノ法規ニ反シテ爲シタル養子緣組ハ異議ナクシテ長年月ヲ經過スルモ其ノ效力ヲ生スルニ由ナキモノトス　（昭和二・一二・二八）

○妻子ノ養家入籍　朝鮮人間ニ於テ戸主又ハ家族タル男カ養子ト爲リテ他家ニ入ル場合ニ其ノ妻又ハ家ヲ同ウスル子女ハ當然之ニ隨ヒテ其ノ養家ニ入ルハ朝鮮古來ノ慣習ナリトス　（大正一二・九・二一）

第二節　戸主及ヒ家族ノ權利義務

第七百四十七條

○朝鮮人戸主ノ扶養義務順位　戸主カ扶養義務ヲ負擔セル場合ニハ他ニ扶養義務者アルト否トニ拘ラス第一順位ニ於テ之ヲ履行スヘキモノトスルハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ　（昭和六・五・一九）

第七百四十八條

○一戸内ノ財産ト戸主所有權ノ推定　一戸内ニ家族同居スル場合ニ於テ戸主ト其他ノ者トノ間孰レニ屬スルカ分明ナラサル物件ハ戸主ノ所有ト推定スヘキコトハ朝鮮ニ於テモ然リトス　（明治四三・一一・二八）

○同　旨　朝鮮人間ニ於テモ戸主及家族カ住所ヲ同フスル場合ニ於テ其住所ニ在ル動産ノ所有權カ何レニ屬スルヤ分明ナラサルトキハ一應戸主ノ財産ナリト推定スルヲ相當トス　（大正六・七・三一）

○戸主タル父ト相當年齢ノ子ノ財産管理慣習　朝鮮ニ於テ戸主タル父ト同居スル子カ未タ獨立ノ生計ヲ立テサルモ相當ノ年齢ニ達シタル場合ニ其特有財産ニ對シ父ニ於テ管理收益ヲ爲ス權利ヲ有ストノ慣習ハ存セス從テ如上ノ場合ニ子ノ債務者カ父ニ對シテ爲シタル辨濟ハ子ニ對シテ之ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ有セサルモノトス　（大正七・六・二八）

第七百四十九條

○朝鮮ニ於ケル離籍ノ慣習　朝鮮ニ於テハ戸主カ家族ヲ離籍スルコトハ慣習法ノ認メサル處ナリ　（大正一五・一〇・五）

○同　旨　朝鮮ニ於テ戸主カ家族ヲ離籍スルコトハ慣習法ノ認メサルトコロナリ　（昭和一一・七・三）

第七百五十條

○亡戸主ノ爲ニスル養子緣組ト女戸主ノ同意　亡戸主ノ爲ニスル養子緣組ニ付テハ一時戸主ト爲レル婦女ノ同意ヲ得ルコトヲ要セサルハ朝鮮ニ於ケル古來ノ慣習ナリ　（昭和三・四・一三）

第三節　戸主權ノ喪失

第七百五十二條

○幼學ノ意義　幼學ナルモノハ隱居ノ意義ヲ有スルモノニアラス　（大正二・九・二三）

○本家ノ戸主ハ分家ノ戸主ト爲リ得ス　朝鮮ニ於テ戸主カ本家ヲ去リテ分家ノ戸主トナル慣習ナシ　（大正五・八・一八）

○戸主ノ隱居ニ關スル慣習　朝鮮ニ於テハ戸主カ隱居ヲ爲シテ其家ヲ去リ一家ヲ創立シ若クハ分家ヲ爲シテ其戸主ト爲ル慣習ノ存スルコトナシ　（大正九・六・二五）

第七百六十二條

○宗家奉祀　宗家嗣ナキトキハ支系ヨリ入ツテ宗家ヲ繼承シ一族ニ關スル祖先ノ祭祀ヲ主宰スルコト竝ニ此等ノ者ヲ宗孫ト稱スルコトハ朝鮮ニ於ケル從來ノ慣習トス（明治四四・四・二七）

○分家戸主ノ養子緣組　新ニ分家シテ戸主ト爲リタル男子ハ本家以外ノ者ト雖之ト養子緣組ヲ爲シ自家ヲ消滅セシメテ養家ニ入ルコトヲ得ルハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（大正一五・九・三）

○戸主カ宗家ノ養子トナリタルニ因ル相續ノ開始ト前戸主ノ辨濟義務　實父死亡ニヨリ相續ヲ爲シ債務ヲ承繼シタル戸主カ宗家養子トナリタル場合ニ在リテハ其ノ實家ニ於テ相續開始シタルトキト雖債權者ハ他家ニ入リタル前戸主ニ對シ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリトス（昭和四・三・一）

第三章　婚姻

○婚姻ノ豫約ト父母ノ同意　婚姻ノ豫約ニ付テハ家ニ在ル父母ノ同意ヲ必要トセス（昭和八・二・一七）

○婚姻豫約ノ解除ト結納金ノ返還　婚姻ノ豫約カ合意上解除セラレタル場合ニハ授受セラレタル結納金ハ返還スヘキモノトス（昭和一〇・九・一三）

第一節　婚姻ノ成立

第一款　婚姻ノ要件

第七百六十五條

○婚姻年齢　朝鮮人間ニ在リテハ當事者ノ年齢ノ如何ニ拘ハラス其婚姻ハ有效ナリトス（明治四四・八・二一）

參照	頁
一	二四七
一三	三五四
一六	三五四
二〇	一八
三三	三五四
別一	一六一

○婚姻年齢　大正十二年七月一日施行ノ朝鮮民事令第十一條ノ改正以前ニ在リテハ婚姻ハ年齢ニ拘ラス完全ニ成立シタルモノトス（昭和三・一〇・二六）

○婚姻適齢前ニ於ケル婚姻豫約ノ適齢後ニ於ケル效力　慣習ニ從テ婚姻ノ儀式ヲ擧ケ事實上夫婦トシテ同棲シタル者カ其ノ當初ニ於テハ未タ婚姻年齢ニ達セス若クハ自ラ婚姻ヲ爲スノ能力ナカリシト雖繼續シテ婚姻適齢ニ達シタルトキハ婚姻豫約トシテ其ノ時ヨリ效力ヲ生スルモノトス（昭和七・二・九）

第七百六十六條

○重婚ハ無效　朝鮮ニ於テハ從來正式ノ婚姻ヲ爲シタル配偶者ノ一人カ其婚姻ノ繼續セル中重テ他ノ男子若クハ女子ト婚姻ヲ爲シタルトキハ犯罪トシテ處罰セラレ其婚姻ハ當然之ヲ無效トセルコト一般ノ慣習ニシテ其離異セラレサル間ハ正當ニ婚姻成立セルモノト爲スヲ得ス（大正一〇・一二・六）

○重婚ニ因リ出生シタル男子及ヒ其ノ生母ノ身分　朝鮮ニ於テ重婚ニ依リ出生シタル男子カ出生後直ニ嫡子ノ待遇ヲ受ケ門中ヲ集メテ之ヲ嫡子トスルコトヲ發表シタリトスルモ之ニ依リ其男子カ嫡子タル身分ヲ取得スル慣習ナク又ハ其重婚ヲ爲シタル其生母カ當然正妻トナル慣習ナシ（大正一〇・一二・六）

第七百七十二條

○朝鮮ニ於ケル婚姻成立ノ要件　從前朝鮮ニ於テ婚姻ノ成立ニハ當事者ノ意思若クハ之ニ代ルヘキ主婚者タル父又ハ祖父等ノ意思ノ合致ヲ要件トスルヲ以テ此等ノ意思ナキトキハ縱令公然同棲シタル事實アリトスルモ之ヲ以テ婚姻成立シタルモノト謂フヲ得ス（大正六・四・二七）

○儀式ヲ婚姻ノ要件トスル慣習ノ存否　婚姻ハ儀式ヲ擧行スルヲ通例トスレトモ其成立要件ニ非ス（大正六・四・二七）

參照	頁
一五	三〇九
一九	三一
八	五一〇
八	五一〇
四	三四八
四	三四八

○大典會通吏典外命婦條ハ舊韓國時代ニ適用ナシ　大典會通吏典外命婦條「封爵從夫職庶孼及再嫁者勿論云々」ノ規定ハ舊韓國時代ニ正當ニ適用セラレタルモノニ非ス（大正六・四・二七）　四　三四八

第七百八十五條

○詐欺ニ因ル婚姻ト其ノ取消　詐欺ニ因リテ成立シタル婚姻ノ取消ハ裁判所ニ請求シテ之ヲ爲スコトヲ要スルハ裁判制度ノ確立スルニ從テ自ラ生シタル朝鮮ノ慣習ナリトス（昭和五・七・一八）　一七　一五一

第二節　婚姻ノ效力

第七百八十九條

○夫婦間別居同意ノ效力及其取消　夫婦カ營業又ハ病氣等ノ如キ正當ノ事由ニ基キ一時別居スルコトヲ約スルハ必スシモ公ノ秩序ニ反スルモノニアラスシテ有效ナリト雖モ其別居ニ同意シタルモノハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得ルハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリトス（大正七・七・五）　五　五八五

○妻ノ同居義務ト妻ニ對スル夫ノ誘拐罪　妻ハ夫ト同居スル義務アリト雖モ是アルカ爲ニ不法ナル夫ノ命令ニ服從セサルヘカラサルモノニ非ス本件ハ被告カ其妻ヲ支那地ニ移送シ同人ヲシテ被告ト離婚スルノ餘儀ナキニ至ラシメンコトヲ決意シ附近ノ村落ニ於テ一家ヲ構ヘ同居スヘキ旨申欺キテ同人ヲ其實家ヨリ誘出シ支那營口ニ移送シタリト謂フニ在ルカ故ニ誘拐罪ヲ構成スルヤ論ナシ（大正一〇・三・二四）　八　九四

第七百九十條

○扶養料及扶養義務者ノ同居請求　妻カ夫ノ虐待ニ因テ同居スルコト能ハサルカ故ニ別居シテ扶養料ヲ請求シタル場合ニハ夫ハ同居ヲ請求スルコトヲ得ス他ニ適當ナル扶養ノ方法ヲ指定シテ其ノ義務ノ履行ヲ提供スルニ非サレハ其ノ義務ヲ免ルルコト能ハス

請求ヲ受ケテ履行セサル過去ノ扶養義務ノ履行ハ扶養料ノ支拂ニ依ルノ外ナシ

夫婦不和ノ原因カ何レノ責ニ歸スヘキトキト雖同居ニ堪エサル狀態ニ在ルトキハ別居シテ扶養料ノ請求ヲナスコトヲ得（昭和八・二・三）

第七百九十二條

○夫婦間ノ契約取消ト朝鮮ノ慣習　夫婦間ノ契約ハ愛情ニ惑溺シ又權威ニ屈服シテ之ヲ爲シ自由ナル意思ヲ以テ締結スルコト勘キカ故ニ夫婦關係存續中ハ夫婦ノ一方ヨリ何時ニテモ取消スコトヲ得ルモノト爲スヲ獨リ條理ニ適スト爲スノミナラス朝鮮ノ慣習ニ於テモ是認スル所トス（大正一〇・三・一八）

第三節　夫婦財産制

第二款　法定財産制

第八百七條

○妻ノ特有財産ト其處分權　朝鮮ニ於テ妻カ夫ノ生存中自己ノ所持金ヲ以テ土地ヲ買得シ之ヲ其子ニ贈與スルヲ禁シタル法律及ヒ習慣存在セス（明治四五・二・二八）　一　四四〇

○夫ノ財産ハ妻ト共有ナリトノ慣習ノ存否　朝鮮ニ於テ夫ノ財産ハ每ニ其妻トノ間ニ共有ナリトノ慣習ナシ（大正二・五・二三）　三　三三〇

○妻又ハ妾ノ特有財産タル不動産　朝鮮ニ於テ明治三十一年乃至三十五年頃女子カ妻又ハ妾トシテ夫ト同棲スル場合ニ特有財産トシテ不動産ヲ所有スルコトハ異例ノ事實ナリトス（大正五・一〇・三）

○妻又ハ妾ノ有スル特有財産　朝鮮ニ於テ妻又ハ妾カ夫ト同棲スル場合ニ其何レニ屬スルカ不明ナル財産ハ一應夫ノ所有ニ屬スルモノト推定スヘキモノナルモ之カ爲メニ妻又ハ妾カ夫ト同棲中特有財産ヲ有スルコトヲ妨クルモノニ非ス故ニ妻又ハ妾カ夫ト同棲中自ラ商業ヲ營ミ依テ得タル利益ヲ以テ不動産ヲ買入レタル事實アリトスレハ該不動産ハ妻又ハ妾ノ所有ニ歸スルモノトス（大正六・二・一六）

第四節　離

第八百八條

○夫ノ親ノ喪中ト離婚　朝鮮ニ於テ夫ノ親ノ喪中離婚ヲ許ササル慣習アルコトハ當院之ヲ認メス（大正一〇・一二・二三）

第八百十條

○舊法ニ依ル申出ナキ婚姻ト離婚ノ届出　朝鮮民事令第十一條第二項協談上ノ離婚ハ之ヲ府尹又ハ面長ニ届出ツルニ因リテ其ノ效力ヲ生ストノ規定ハ當該婚姻ノ成立カ同法施行ノ前ナルト後ナルト將又其ノ婚姻カ戸籍簿ニ記載セラレアルト否トヲ問ハス同法施行後ニ爲ス協談上ノ離婚ニ適用アルモノト解スヘキモノトス（昭和四・五・三）

巻	頁
三	七三三
八	五九七
四	一〇三
一六	一〇七

第二款　裁判上ノ離婚

第八百十三條

○妻ノ不謹愼行爲ト離婚ノ原因　妻トシテ夫ニ對シ不謹愼ノ行爲アルトキハ其行爲ノ内容如何ニ因リ或ハ離婚ノ原因トナルヘキ場合アルモノトス（大正六・一〇・二三）

○裁判上ノ離婚ニ於ケル妻タル地位ノ喪失ニ因ル損害賠償　夫カ妻ニ對シ暴行ヲ爲シテ傷害シ同居ニ堪ヘサル虐待ヲ加ヘタル場合ニ於テハ妻ハ之ヲ事由トシテ夫ニ對シ離婚ノ請求ヲ爲スト同時ニ其ノ傷害ニ因ル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス（大正一五・八・二七）

○舊妾ト離婚請求　朝鮮人間ニ於ケル現今ノ社會狀態ニ在リテハ落妾ノ一事ヲ以テ離婚ヲ求ムル事由ト爲スニ足ラサルモノトス（昭和三・一〇・二六）

○妻ノ出家ト惡意ノ遺棄ノ推定　妻カ其夫ノ家ヲ出テタリトノ事實カ爾後夫ト同棲ヲ爲サス再ヒ歸家セサル決意ニ基キタルトキハ惡意ノ遺棄タルヘシト雖其決意ノ認メ得ラレサル場合ニ於テ單ニ出家ノ事實ヲ以テ惡意ノ遺棄ト爲スヘキモノニ非ス（大正六・一〇・二三）

○離婚ノ訴ヲ提起シ得ヘキ期間ト惡意ノ遺棄　離婚事由タル惡意ノ遺棄トハ故意ニ相手方ノ意思ニ反シテ爲ス夫婦共同生活ノ廢止即チ惡意ニ出テタル同居義務ノ不履行ヲ謂フモノナレハ遺棄ノ手段トシテ相手方ヲ放逐シ又ハ置去ル等ノ行動ニ出テタル後繼續シテ同居ヲ肯セサルカ如キ場合ニ於テハ所謂遺棄ハ繼續シテ存續スルモノトス（昭和六・四・一七）

巻	頁
四	八七三
一三	二一三
一五	三一三
四	八七三
一八	七六

○配偶者ノ直系尊屬ノ虐待又ハ侮辱ト離婚　朝鮮人間ニ於テ夫妻ノ一方カ配偶者ノ直系尊屬ヨリ虐待ヲ受ケ又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキハ之ヲ理由トシテ他ノ一方ニ對シ離婚ヲ請求シ得ル慣習ニシテ縱令妻カ姦通ヲ爲シタルトキト雖之ヲ糺スカ爲メニ數時間制縛シテ極度ニ自由ヲ拘束シ且身體ニ傷害ヲ加フル如キハ許スヘカラサル所ナルヲ以テ苟モ斯カル行爲アリタル以上ハ妻ハ之ヲ理由トシテ離婚ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘク斯ノ如キ場合ニ於テ姦通ノ事實有無ノ如キハ之ヲ審査確定スルノ要ナシ（大正一〇・一二・二三）　八　五九七

○夫カ妻ノ實母ニ對スル虐待　朝鮮人間ニ在テモ夫カ妻ノ實母ヲ毆打シテ負傷セシメタル等ノ行爲アリ虐待ヲ加ヘタルトキハ妻ハ之ヲ理由トシテ夫ニ對シテ離婚ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノトス（大正四・七・六）　三　二一五

第八百十六條

○朝鮮人間ノ離婚訴訟提起期間　朝鮮人間ノ離婚ノ訴ハ離婚ノ原因タル事實ヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得スト爲シタル成文法又ハ慣習法アルコトナシ（大正一〇・二・一五）　八　三〇

○離婚ノ訴ヲ提起シ得ヘキ期間ト惡意ノ遺棄　離婚事由タル遺棄事實カ或期間繼續セル場合ニ於テハ民法第八百十六條ノ離婚ノ訴ヲ提起スヘキ期間ハ十年ノ期間ニ付テハ遺棄狀態ノ終了シタル時ヨリ又一年ノ期間ハ遺棄ヲ當初ヨリ知レル場合ハ遺棄狀態ノ終了シタル時ヨリ其ノ終了後覺知シタル場合ハ覺知シタル時ヨリ之ヲ起算スヘキモノトス（昭和六・四・一七）　一八　七六

妾ニ關スル諸問

○未成年者ノ財産ト母タル妾ノ管理權　妾ハ其所生子カ未成年ニシテ夫其他ノ尊長ナキトキハ子ニ屬スル財産ニ對シテ管理權ヲ有シ且其子ヲ代表シテ財産ニ關スル法律行爲ヲ爲スノ權能ヲ有シ別籍異財ノ尊屬親ハ未成年者ヲ代表シテ法律行爲ヲ爲スコトヲ得サルハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（明治四四・一二・四）　一　一四〇二

○妾ノ姓ノ冠稱方法　朝鮮ニ於テ妾ハ常ニ自家ノ姓ヲ冠稱シ其夫ノ姓ヲ冠稱スルノ理由トナラス（明治四五・二・一二）　一　一四三四

○開國五百三年六月議案ノ趣旨ト妾　舊韓國開國五百三年六月議案ハ寡婦再嫁ノ禁ヲ解キタルニ過キスシテ從來寡婦ニシテ他人ノ妾トナリ同棲シタルニ過キサル者カ同議案ノ發布ニ依リ當然妻ノ身分ヲ取得スヘキコトヲ規定シタル趣旨ニアラス（大正六・五・三一）　四　四五一

○家族タル妾　妾ハ現時ニ於テ之ヲ家族トシテ認メサルハ慣習上顯著ナルモ從前ニ於テハ之ヲ妻ニ準シテ夫ノ家族トシテ民籍法上亦其ノ入籍ヲ認メタリ而シテ慣習上妾カ家族トシテノ地位ヲ認メラレサルニ及ヒ大正四年八月七日官通牒第二四〇號ヲ以テ民籍上爾後妾ノ入籍申告ヲ受理セサルニ至リタルモ從來既ニ家族トシテ入籍シアリタル者ハ其ノ儘家族トシテ其ノ家籍ニ留マラシメタルヲ以テ彼上ノ關係ニ於テ妾タリシモノニシテ現時尙夫家ノ家族トシテ家籍ヲ有スル者アルハ裁判所ニ顯著ナル事實ニ屬ス（大正一四・六・一六）　一三　三三五

○妾ノ遺産ト其ノ相續人　妾ノ遺産ハ子、子無ケレハ孫、子孫共ニ無ケレハ夫之ヲ承繼シ是等ノ者總テ無ケレハ戶主之ヲ承繼スル慣習ナリ（大正一四・八・二一）　一三　二九三

○妾ト事實上ノ夫婦　朝鮮人タル一男一女カ正式ニ婚姻ノ屆出ヲ爲サス夫妾ノ名ノ下ニ終生ノ共同生活ヲ約シ公然同棲ヲ繼續セル場合他ニ配偶者ナキモノナルトキハ之ヲ事實上ノ夫婦ト認ムヘク其ハ公序良俗ニ反スルコトナキモノトス（昭和八・五・一二）　二〇　二一七

○夫妾關係解消ノ場合ニ於ケル裁判上離異請求ノ要否　朝鮮人間ニ於ケル夫妾ノ關係ハ當事者一方ノ意思ヲ以テ何時タリトモ自由ニ之ヲ解消シ得ヘク敢テ裁判上離異ノ請求ヲ必要ト爲ササル慣習存ス（大正元・一二・一三）　二　八四

○夫妾關係解消ノ方法　夫妾關係ノ解消ヲ申告スルニ當リテハ夫ノ家ノ戶主ヨリ其申告ヲ爲スヲ以テ足リ妾ノ實

家ノ戸主又ハ妾ノ連署ヲ必要トスルモノニ非ス（大正一〇・九・二〇）

○夫妾關係解消ノ意思表示ト其ノ效果　朝鮮人間ニ於ケル夫妾ノ關係ハ當事者一方ノ意思表示ニ因リ何時ニテモ自由ニ解消シ得ルモノトス

夫妾關係解消ノ意思表示ニ因リ妾ハ妾タル身分ヲ喪失シ當然實家ニ復歸スヘキモノトス（大正一〇・九・二〇）

第四章　親子

○親子關係確認ノ訴ト確認ノ利益　親子關係ハ事實關係ナルト同時ニ身分ナル法律關係ナルヲ以テ之カ確認請求ハ無益ノ訴訟ニアラス（明治四四・五・一八）

○親族關係不存在ニ對スル確認訴訟ノ當否　自己ト養親子關係ナキ者カ不實ノ身分登記ヲ爲シ其關係アルモノノ如ク行動スルニ於テハ親族關係ノ紊亂ヲ來スヲ以テ自己ノ親族權ヲ侵害セラルルモノナレハ自己ハ其者ニ對シ親族關係不在在ノ確認ヲ求ムル利益アリ（大正八・一一・二八）

○親子關係存在ノ確認訴訟ト聽訟期限　親子ノ關係ハ事實關係ナルト同時ニ身分ナル法律關係ニシテ斯カル法律關係ノ確認ヲ求ムル訴即親子關係存在確認ノ訴ハ身分關係ノ民事訴訟ニ屬スルコト明白ナルカ故ニ聽訟期限ノ適用ヲ受クヘキモノトス（大正一一・九・一）

○親子關係存在確認訴訟ノ權利保護要件　親子關係存在ノ確認訴訟ニ於ケル權利保護ノ請求權ハ法律關係ノ不確實ナル狀態ノ表現ニ因リ發生スルモノニシテ必スシモ相手方カ親子關係ノ存在ヲ否定スルニ依リ始メテ發生スルモノニ非ス何トナレハ親子關係ノ存在ヲ否定セサルモ尙其身分關係ノ不確實ナル狀態ニ在ルトキハ之カ救濟ヲ求ムル必要存在スレハナリ（大正一一・九・一）

卷	頁
八	二八〇
八	二八〇
一	二七八
六	五八八
九	三三二
九	三三二

第一節　實子

第一款　嫡出子

第八百二十條

○重婚ニ因リ出生シタル男子ノ身分　朝鮮ニ於テ重婚ニ因リ出生シタル男子カ出生後直ニ嫡子ノ待遇ヲ受ケ門中ヲ集メテ之ヲ嫡子トスルコトヲ發表シタリトスルモ之ニ依リ其男子カ嫡子タル身分ヲ取得スル慣習ナク又ハ其重婚ヲ爲シタル其生母カ當然正妻トナル慣習ナシ（大正一〇・一二・六）

第八百二十二條

○嫡出子否認判決ノ效力　嫡出子否認ノ訴ニ於テ被告ハ原告ノ嫡出子ニ非ストノ判決確定スルモ其ノ理由ト爲リタル被告カ訴外者某ノ子ナリトノ事實ハ確定力ヲ有スルモノニ非サルヲ以テ該訴外者又ハ其ノ配偶者カ之ニ因リテ危害ヲ被ムル虞アルモノト謂フコトヲ得ス（昭和五・三・二五）

第二款　庶子及ヒ私生子

○私生子ト其ノ父ノ推定　或女子カ數人ノ男子ト私通シテ生ミタル子カ何レノ子ナリヤ爭アル場合ハ諸般ノ事情ニ依リテ之ヲ決スル外ナク其ノ私通關係ノ永續的ナリヤ一時的ナリヤ又ハ公然ナリヤ隱密ナリヤ等ノ事情ノミニ依リテハ之ヲ何レトモ推定シ得サルコトハ實驗法則上明ナル所ナリ（大正一三・四・一一）

卷	頁
八	五一〇
一七	八八
一一	五三

第八百二十七條

○法律上嫡出子ト認メラルヘキ者ニ對スル認知ノ時期　法律上嫡出子ト認メラルヘキ者ニ對シテハ其ノ父ヨリ爲ス否認ノ訴ニ於ケル判決確定スル前ニ於テハ何人モ認知ヲ爲スコトヲ得ス（昭和五・三・二五）

○婚姻外ノ子ト實父トノ關係　婚姻ニ因ラサル子ハ認知アルニ非サレハ實父トノ間ニ法律上ノ親子關係ヲ生セス（昭和五・三・二五）

○認知ノ方法　認知ハ認知者ノ生前行爲又ハ遺言ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス（昭和五・三・二五）

第八百三十三條

○私生子ノ認知ト效力發生ノ時期　私生子ノ認知ハ出生ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス（明治四五・六・二八）

第二節　養子

死後養子

○戸主ノ弟ト法定推定家督相續人　朝鮮ニ於テ宗家戸主タル者ニ相續人タルヘキ男子ナキ場合其ノ弟又ハ姪ハ當然宗家ノ相續人ト爲ル慣習ナシ從テ宗家戸主ノ弟カ養子ト爲リテ他家ニ入ル場合ニ於テ其ノ男ハ縱令宗家ニ嗣子ナキトキト雖已ニ宗家ノ養子ト爲リタルモノニ非サル限リハ父ニ隨ヒテ父ノ養家ニ入ルニ何等ノ支障ナキモノトス（大正一二・九・二一）

○寡婦ノ死後養子選定ト親族會　戸主死亡シ其寡婦カ養子トニ當リテハ寡婦單獨ニ之ヲ爲スコトヲ得ヘク必スシモ親族會ノ同意ヲ經ルコトヲ要スルモノニアラサルコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ從テ縱令其ノ選定ニ際シ開カレタル親族會員中親族會員タルコトヲ得ヘキ資格ヲ有セサルモノアリテ其決議適法ナラサルトキト雖之カ爲ニ選定ノ效力ヲ阻却スルコトナキモノトス（大正六・四・二〇）

○死後養子選定權者　朝鮮ニ於テ戸主死亡シ其家督ヲ相續スヘキ男子ナキ場合ニ於テ其養子ヲ選定スヘキ者ハ亡戸主ノ妻アルトキハ妻又妻ナクシテ母アルトキハ母ニシテ此等ノ者ナキ時ハ門會ニ於テ之ヲ選定スル慣習ナリトス（大正九・七・九）

○次養子選定權者　右慣習ハ亡戸主カ生前養子ヲ爲シ養子カ相續ニ因リ戸主ト爲リタルモ未婚ニシテ死亡シタルニ依リ更ニ養子ヲ選定スル場合ニ於テモ同一ナリトス（大正九・七・九）

○養母ト養子緣組ノ當事者　朝鮮ニ於テ養子緣組ノ當事者ハ養父及養子ニシテ養父ノ妻ハ緣組ノ當事者ニ非ス只養父ト養子トノ間ニ緣組ヲ爲シタル效果トシテ養母タル地位ヲ獲得スルニ過キス而シテ死後養子ノ場合ニハ亡戸主ノ妻カ養子ヲ選定スルコトアリト雖緣組ノ當事者ト爲ルモノニ非サルコトハ生前養子ノ場合ト同一ナリ（大正一三・一一・二五）

養子及次養子選定權者

○養子及次養子選定權者　朝鮮ノ慣習ニ於テハ嗣子ナクシテ死亡シタル長男ノ爲ニ次養子ヲ選定スル權利ハ常ニ其ノ養子ヲ選定スル權利ト併有スルモノトス（大正一三・一二・一五）

○死後養子選定權者　朝鮮ニ於テ戸主死亡シ其ノ家督ヲ相續スヘキ男子ナキ場合ニ於テ其ノ養子ヲ選定スヘキ者ハ亡戸主ノ妻アルトキハ妻又妻ナクシテ母アルトキハ母ニシテ此等ノ者ナキトキハ門會ニ於テ之ヲ選定スヘキ慣習ナリトス（大正一四・五・五）

民法　親族　親子　養子

	巻	頁
法律上嫡出子ト認メラルヘキ者ニ對シテハ其ノ父ヨ	一七	八八
婚姻ニ因ラサル子ハ認知アルニ非サレハ實父トノ間ニ法律上ノ親子關係ヲ生セス	一七	八八
認知ハ認知者ノ生前行爲又ハ遺言ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス	一七	八八
私生子ノ認知ト效力發生ノ時期	一	四八六
戸主ノ弟ト法定推定家督相續人	一〇	三七六
寡婦ノ死後養子選定ト親族會	四	三七八
死後養子選定權者	七	三二九
養母ト養子緣組ノ當事者	七	三三九
次養子選定權者	二	三二三
養子及次養子選定權者	二	三二四
死後養子選定權者	三	一七四

○次養子及其ノ妻ノ養子選定權　次養子及其ノ妻ハ亡戸主ノ爲ニ養子ヲ選定スルコトヲ得ス（大正一五・二・二六）　一三　一八

○亡戸主ノ爲ニスル養子緣組ト女戸主ノ同意　亡戸主ノ爲ニスル養子緣組ニ付テハ一時戸主ト爲リタル婦女ノ同意ヲ得ルコトヲ要セサル　一五　一〇〇

意ヲ得ルコトヲ要セサルハ朝鮮ニ於ケル古來ノ慣習ナリ（昭和三・四・一三）

○亡戸主ノ長孫ノ爲ニスル死後養子ノ選定權者ト女戸主ノ同意　戸主甲ノ長男乙カ嗣子丙ヲ遺シテ死亡シ　一三　三〇九

次テ丙ノ妻丙及甲カ順次死亡シタルトキハ丙ノ爲ニスル死後養子ノ選定權ハ第一次ニ於テ乙ノ遺妻ニ屬シ甲ノ遺妻ニ

屬セサルモノトス

戸主死亡後亡長男又ハ亡長孫ノ爲ニスル死後養子緣組ニ付テハ一時戸主ト爲リタル婦女ノ同意ヲ得ルコトヲ要セサル　一二　三四

モノトス（昭和一〇・七・三一）

○養子選定權ノ喪失原因　朝鮮ノ慣習ニ於テハ戸主タル夫ヲ殺害シタル妻ハ其ノ家統ノ繼續ニ關シ養子又ハ次養　一三　一七四

子ヲ選定スル權利ヲ有セサルモノトス（大正一三・一二・一五）

○門會ノ死後養子選定　戸主カ妻ノミヲ遺シテ死亡シタル場合ニ妻ニ於テ養子ヲ選定スル意思ナキトキハ門會ニ　一三　一七四

於テ選定シ得ル慣習ナリ（大正一四・五・五）

○死後養子選定意思ノ有無ト選定時期　遺妻ニ於テ養子選定ノ意思ヲ有スル以上ハ選定スヘキ時期ニ付制限ナ　一三　一七四

キカ故ニ時日ヲ經過スル一事ヲ以テハ未タ選定權ノ喪失ヲ來スモノニ非ス（大正一四・五・五）

○死後養子選定ノ順位ト親族會　朝鮮ニ於テ戸主死亡シ其ノ家督ヲ相續シタル男子カ未婚ノ儘死亡シタルトキハ　一二　三四

右戸主ノ死後養子選定權ハ第一次ニ其ノ遺妻ニ於テ之ヲ有シ遺妻カ其ノ權利ヲ行使スルノ意思ナキトキニ非サレハ親

族會ニ於テ選定スルノ權利ナキコト現行ノ慣習ナリ（昭和八・五・五）

○先順位選定權者ヲ無視シテ親族會カ爲シタル死後養子選定ノ效力　敍上ノ場合ニ於テ親族會カ先順位者　二〇　二〇〇

タル遺妻ノ選定權ヲ無視シテ爲シタル死後養子ノ選定ハ當然無效ナリ（昭和八・五・五）　二〇　二〇〇・

○養子ヲ爲ササル旨ノ遺言ト死後養子選定ノ爲ノ親族會ノ招集　死後養子ヲ選定セサル旨ノ亡夫ノ遺言ノ效　二〇　二九六

力ヲ誤信シ養子ヲ選定セスト通告シタルトキハ眞ニ養子ヲ選定スル意思ナキモノト謂フヲ得サルヲ以テ養子選定ノ爲

メニスル親族會ノ招集ハ違法ナリ（昭和八・一〇・三一）

○亡長男ノ爲メノ養子選定權者　朝鮮ノ慣習ニ於テハ戸主ノ長男カ結婚シ嗣子ナクシテ死亡シタル場合ニ於テ亡　二　三四

長男ノ爲ニ養子ヲ選定スル權利ハ第一次ニ父タル戸主ニ屬シ戸主死亡セルトキハ順次其ノ寡婦、母、祖母ニ屬シ此レ

等ノ者皆在ラサルトキ又ハ其ノ權利ヲ喪失シタルトキ若ハ之ヲ行使スルコト能ハサルトキハ亡長男ノ寡婦ニ屬スルモ

ノトス（大正一三・一二・一五）

○戸主ノ亡長男ノ爲ニスル死後養子選定權者　朝鮮ノ慣習ニ於テ結婚後嗣子ナクシテ死亡セル長男ノ爲ニ養子　二　三四

ヲ選定スル權利ハ第一次ニ父タル戸主ニ屬シ戸主ヲ措テ亡長男ノ寡婦カ選定スルカ如キハ之ヲ認メス（昭和九・六・

一五）

○戸主ノ同意ト選定權行使　右ノ場合ニ亡長男ノ寡婦ニ於テ死後養子選定ノ意思表示ヲ爲シタリトスルモ之ニ對　二　三三

シ父タル戸主カ同意ヲ與ヘタルトキハ正當ニ選定權ヲ有スル者ニ依リテ其ノ權利ヲ行使セラレタルニ歸スルモノトス

（昭和九・六・一五）

○死後養子選定ノ爲ノ親族會　朝鮮民事令第十一條第一項ノ親族會ニ關スル規定ハ朝鮮人ノ養子選定ノ爲メニ開　二　一九三

クヘキ親族會（從前ニ於ケル門會）ニ付テモ民法ノ親族會ニ關スル規定ニ依ラシムル趣旨ト解スヘキモノトス（昭和

三・四・一三）

○女子相續後ノ亡父ノ死後養子　戸主男死亡シ女子ノ外ニ家ニ在ル者ナキトキハ女子相續ス故ニ女子ノ生存中ハ　一五　一〇〇

勿論死亡後ト雖モ戸主男ノ死後養子ノ選定セラレタルトキハ其ノ者ニ於テ祭祀權戸主權及ヒ遺產ノ全部ヲ相續シ戸主權及ヒ遺產ハ女戸主ヲ通シテ之ヲ承繼スルモノトス　（昭和六・二・六）

巻 一八　頁 二四

○女戸主死亡後ニ於ケル前男戸主ノ死後養子　女戸主死亡シ其ノ相續人ナキトキハ遺產ハ出嫁女ニ歸屬スル慣習ハ絶家ノ場合ニ付テ云ヘルモノニシテ女戸主ノ前戸主タル既婚男ノ死後養子ノ選定セラレタルトキハ相續開始ノトキニ遡リテ其ノ家ヲ相續スヘキカ故ニ女戸主ノ遺產ハ出嫁女ニ歸屬スルコトナシ　（昭和六・二・六）

一八　二四

○庶子アル場合ノ死後養子　朝鮮人間ニ在リテ戸主タル被相續人ニ庶出ノ男子アル場合ト雖被相續人カ他ヨリ養子ヲ爲シ其養子ハ相續ニ關シ嫡出ノ男子ト同一ノ權利ヲ有スル慣習存在スレトモ（既判例）是レ被相續人カ其生前ニ於テ養子緣組ヲ爲シ若クハ遺言ヲ以テ養子ヲ指定スル場合ニ之ヲ有效トスルモノニ過キスシテ被相續人ノ妻若クハ親族等カ被相續人ニ庶出ノ男子アルニ拘ラス被相續人死亡後直ニ他ヨリ養子ヲ爲シ之ヲシテ被相續人ノ家督ヲ相續セシメ得ル一般慣習ナシ　（大正六・一一・二七）

四　一〇一八

○庶子アル場合ノ死後養子　從來一部社會殊ニ名門勢家ノ間ニアリテ庶出ノ男子アルニ拘ラス被相續人死亡後其遺妻等カ直ニ他ヨリ養子ヲ爲シ之ヲシテ家督ヲ相續セシメシカ如キ事例ナキニアラサリシモ如此ハ名門勢家各自ノ一個ノ專擅行爲ニ過キスシテ慣習法タル效力ヲ有セシモノニアラス　（大正六・一一・二七）

四　一〇一八

○庶孫アル亡戸主ノ死後養子　朝鮮ニ於テ既婚ノ長男戸主ニ先チテ死亡シ次テ戸主死亡シタル場合ニ於ケル戸主相續竝之ニ伴フ財產相續ハ法律上直接ニ亡戸主ト現ニ相續スヘキ者トノ間ニ行ハレ其ノ間ニ亡長男ノ介在スルコトナキモ其ノ相續人ノ確定ニ關シテハ亡長男ヲ被相續人ト看做シ之ヲ標準トシテ決スル慣習ナリトス從テ已ニ亡長男ヲ相續シタル庶出ノ男子アルトキハ其ノ者ハ當然亡戸主ヲ承繼スルモノニシテ此ノ者ヲ措キテ別ニ亡戸主ノ爲ニ養子ヲ爲シ之ヲシテ相續ヲ爲サシムルコトヲ許ササルモノトス　（昭和二・二・一五）

一四　三

○庶子アル場合ノ死後養子　朝鮮ニ於テハ既往殊ニ舊韓國時代ニ在リテハ戸主タル被相續人ニ庶出ノ男子アル場合ト雖被相續人カ他ヨリ養子ヲ爲シ其ノ養子ハ相續ニ關シ嫡出ノ男子ト同一ノ權利ヲ有スル慣習存在シタレトモ是唯被相續人カ生前ニ於テ養子緣組ヲ爲シ若ハ遺言ヲ以テ養子ヲ指定スル場合ニ之ヲ有效トスルモノニ過キスシテ被相續人ノ親族等カ被相續人死亡後他ヨリ養子ヲ爲シ之ヲシテ被相續人ノ家統ヲ相續セシメ得ル一般慣習ハ存在セサリシモノトス　（昭和二・二・一五）

一四　三

○庶孫アル亡長男ノ死後養子　前項ノ慣習ノ趣旨ハ既婚ノ長男戸主ニ先チテ死亡シ其ノ庶子男アル場合ニ亦之カ適用アリ卽チ戸主ノ生存中既婚ノ長男死亡シタル場合ニ於テ亡長男ニ庶出ノ男子アルニ止マルトキハ其ノ者ハ當然亡長男ヲ奉祀シ其ノ遺產ヲ承繼スルモノニシテ（廣義ニ於ケル祭祀相續ノ一種）亡長男ノ死亡後親族等ニ於テ亡長男ノ爲ニ養子ヲ爲スコトヲ許ササル慣習存在シタルモノトス　（昭和二・二・一五）

一四　三

○死後養子ト相續　戸主ノ死亡後其養子ト爲リタル者ハ其養子緣組ト同時ニ當然戸主ト爲ルコトモ亦朝鮮ニ於ケル慣習ナリ　（大正六・七・六）

四　六六七

○死後養子ノ相續ノ時期　遺產相續ニ因ル不動產所有權ノ取得モ其登記ヲ爲スニ非サレハ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス而シテ朝鮮ニ於テハ戸主カ男子孫ナクシテ死亡シタルトキハ其妻カ戸主權竝ニ亡戸主ノ遺產ヲ相續スルモノニシテ其相續後死後養子カ選定セラレタル場合ニハ該養子ハ亡戸主死亡ノ日ニ遡リテ戸主權竝亡戸主ノ遺產ヲ相續スルニ非スシテ其選定セラレタル日ニ亡戸主ノ妻ヨリ之カ相續ヲ爲スモノナリ從テ若シ右養子カ之カ選定ヲ受ケタルニ拘ラス遺產相續ニ依ル不動產所有權ノ取得ヲ登記セス而カモ他面ニ於テ其先代タル亡戸主ノ妻カ亡戸主ノ遺產タル不動產ヲ他ニ賣却シタルトキハ其不動產ノ買受人ハ朝鮮民事令第十三條ニ所謂第三者ニ該當スルモノナルヲ以テ遺產相續ニ因リ該不動產ノ所有權ヲ取得シタル右養子モ之ヲ以テ第三者タル右買受人ニ對抗スルコトヲ得サルモノ

トス（大正九・一二・一八）

○亡長男ノ死後養子　朝鮮ノ慣習ニ於テハ戸主死亡前其長男カ既ニ死亡セル場合ニ於テ其長男カ既婚者ナルトキハ亡長男ノ爲メニ養子ヲ選定スヘク其選定アル迄戸主ノ遺産ハ其妻ニ於テ之ヲ承繼シ養子ハ其遺産ヲ亡戸主ノ妻ヨリ承繼スルモノトス（大正一〇・三・二四）

○死後養子選定前ノ祭祀　亡戸主ノ妻カ養子ヲ選定セサル間ニ於ケル祖先ノ祭祀ハ攝祀ト稱シ女戸主カ權リニ之ヲ行ヒ又ハ近親タル男子其ノ祭祀ヲ攝行スヘキモノトス（大正一四・五・五）

○死後養子ノ相續ト被相續人　朝鮮ノ慣習ニ依ル死後養子ハ祭祀相續ノ關係ニ於テ養父ノ直接ノ相續人トシテ其ノ世代ヲ算スヘキモノニシテ養父死亡後養子ノ選定ヲ見ルマテノ間其ノ寡婦又ハ未婚ノ男子ニ於テ一旦戸主權及財産權ヲ承繼シタル場合ニ於テモ尚然リト爲スヘキモノナルモ戸主相續及遺産相續ノ關係ニ於テハ死後養子ハ其ノ養子ト爲ルト同時ニ當然一旦戸主トナリタル寡婦又ハ未婚ノ男子ヲ通シテ戸主權及財産權ヲ包括的ニ承繼スルモノト認ムヘキモノトス（大正一四・六・一六）

○妾ノ戸主相續及遺産相續權　戸主死亡シ其ノ男子ニ於テ一旦戸主權及財産權ヲ相續シタルモ未婚ニシテ死亡シタルトキハ之ヲ世代ニ數ヘス故ニ他ニ男子ナキトキハ先代亡戸主ノ死後養子ヲ定メテ之カ相續ヲ爲サシムヘキモノニシテ其ノ死後養子ノ選定アルマテハ先代亡戸主ノ祖母、母、妻ノ順序ヲ以テ其ノ戸主權及財産權ヲ相續スヘキモノナルモ唯妾ハ家族タルト否ト又未婚亡戸主ノ生母タルト否トニ拘ハラス常ニ相續人タルヲ得サルモノト爲スヲ以テ朝鮮ニ行ハルル慣習ナリトス（大正一四・六・一六）

○死後養子ト相續ノ時期　朝鮮ノ慣習ニ依レハ男戸主死亡シ其死後養子ヲ選定スヘキ場合ニ於テ之カ選定アル迄ノ間單ニ死者ノ旁系血族タル家族ノミアルトキト雖其者ハ一時遺産ヲ管理スルコトアルハ格別當然之ヲ相續スルコト

卷	頁
七	四八三
刑 八	六五
一三	一七五
一三	二三五
一三	二三五

ナシ而シテ死後養子ハ其ノ選定ノ時ニ於テ當然男戸主ヨリ遺産ヲ相續スルモノトス（昭和三・九・二一）

○死後養子ノ離緣　戸主ノ死亡後其養子ト爲リタル者カ綱常ノ罪ヲ犯シタルトキ又ハ家産ヲ蕩盡シ祖先ヲ奉祀スル希望ナキトキ其他養家ヲ永久繼續スヘキ見込ナキトキ其寡婦タル養母ニ於テ其養子カ既ニ戸主ト爲リタルニ拘ラス離緣スルコトヲ得ル旨ノ慣習ハ朝鮮ニ於テハ存在セス（大正六・七・六）

○亡長男ノ死後養子ト離緣　甲ノ長男（既婚者）死亡後ニ乙其養子ト爲リ甲トノ間ニ緣組契約ヲ爲シ養家ノ財産中田畓若干ノ贈與ヲ受ケタルニ甲及其次子丙共謀ノ上乙名義ノ贈與證書ヲ僞造シ右田畓ヲ丙名義ニ所有權移轉登記ヲ受ケタルヨリ乙ハ之ヲ憤リ養家ノ幾人カヲ監獄ニ投入スヘシト揚言シ檢事ニ對シ丙ヲ告訴シ甲モ之ニ座シテ勾留セラレ其後乙ハ豫審判事ヨリ訊問ヲ受ケタル際甲等ノ右犯罪事實ヲ供述シ之カ爲メ甲ハ文書僞造罪ニ因リ刑ノ言渡ヲ受クルニ至リタル事實アルトキハ右乙ノ檢事又ハ豫審判事ニ對スル告訴又ハ供述ハ一面ヨリ見レハ乙ノ權利ヲ行使シタルモノナルモ又他ノ一面ヨリ見レハ養孫ノ養祖父ニ對スル道義上爲スニ忍ヒサル行爲ヲ敢行シタルモノニシテ斯ノ如キ行爲アリタル以上ハ養祖父養孫間ノ親誼ヲ完フスルコト能ハサル事情アルハ勿論朝鮮ノ慣習上罷養スヘキ甚シキ不孝ノ行爲アリタルモノニ該當スルモノトス（大正一〇・一・一八）

○亡長男ノ死後養子ト離緣　戸主タル祖父カ既婚者タル長男ノ死亡後ニ養孫タルヘキ者ト緣組契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其養孫ニ罷養スヘキ原因アリタルトキハ緣組契約ノ當事者タル養祖父ハ養孫ニ對シテ罷養ヲ爲スコトヲ得ヘク而カモ之カ罷養ヲ爲スニ付テハ養孫ニ對シテ罷養スル旨ノ意思表示ヲ爲スヲ以テ足レリトスルコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（大正一〇・一・一八）

○養子確認ノ訴ノ相手方　養子タルコトヲ主張スル者ヨリ提起スル養子確認ノ訴ハ人事訴訟手續法第二十六條第二條ノ規定ニ準據シ養父ヲ以テ相手方トスヘク死後養子ナル場合又ハ養父死亡後ニ在リテハ朝鮮ニ於テ緣組ノ相手方

卷	頁
一五	二六八
四	六六七
八	一
八	一

ニ準セラルヘキ養母ヲ以テ相手方トスヘク養母カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方ト爲スヘキモノトス（大正一四・七・一〇）

○死後養子ヨリ提起スル養子確認訴訟ノ相手方　死後養子ヨリ提起スル養子確認ノ訴ハ養母カ既ニ他家ニ改嫁シ養家ニ在ラサル場合ニ於テハ養母ノ死亡シタル場合ト同樣ニ檢事ヲ以テ相手方トスヘキモノトス（大正一五・二・二六）

次養子

○次養子緣組ノ意義　所謂次養子緣組ハ養子ヲ爲スヘキ亡男戸主又ハ亡長男ノ侄行ニ在ル者ヲ養子トセスシテ兄弟行ニ在ル者ヲ入養スルノ謂ナリトス（昭和三・四・一七）

○次養子ノ戸主權及財産權相續　次養子ハ普通ノ養子ト異ナリ戸主權財産權ニ付テハ一時承繼スルモ祭祀ニ付テハ之ヲ攝行スルニ過キサルヲ以テ兄弟行ニ在ルコトヲ妨ケサルハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（大正九・一二・七）

○次養子ト養子　朝鮮ノ慣習ニ依レハ次養子ハ戸主ノ長男カ結婚シ嗣子ナクシテ死亡シタル場合ニ之ヲ爲スモノニシテ其亡長男ノ養子ト爲ルヘキ適格者ナキコトハ必スシモ次養子ヲ爲ス要件ニ非ス故ニ養子タルヘキ適格者アル場合ニ之ヲ亡長男ノ養子ト爲スト將又亡長男ト同列ニ在ル者ヲ以テ次養子ト爲ストハ養子ヲ爲ス者ノ隨意ナリ（大正九・三・一二）

○次養子ト養子　朝鮮ノ慣習ニ於テハ戸主ノ長男カ結婚シ嗣子ナクシテ死亡シタル場合ニ於テ家統ヲ維持スル爲ニハ亡長男ノ爲ニ其ノ子ノ列ニ在ル血族男子ヲ入養シテ嗣子ト爲スヲ通例トスルモ亡長男ノ嗣子ヲ得ル爲ニ亡長男ト同列ニ在ル血族男子ヲ入養スルコトヲ妨ケス後者ハ所謂次養子ノ制ニシテ其ノ何レノ方法ニ從フヘキカハ亡長男ノ爲ニ養子ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ノ任意ニ定メ得ヘキ所トス（大正一三・一二・一五）

○次養子ト養父　家族タル亡長男ノ爲ニ入養セラレタル次養子ハ現行法令上常ニ戸主ノ養子タル身位ヲ取得スルモノトス（大正一三・一二・一五）

卷	頁
一二	二五七
一三	一八
一五	一一五
七	一一
七	八八
一一	二二四

○亡夫ノ次養子　戸主ノ長男結婚シ嗣子ナクシテ死亡シ次テ戸主亦死亡シタル場合ニ於テ亡長男ノ寡婦カ亡夫ノ爲ニ養子ヲ爲ス權利ヲ有スルトキハ任意ニ養子ヲ爲サスシテ亡夫ノ爲ニ次養子ヲ爲スコトヲ妨ケス斯ル場合ニ於ケル次養子ハ亡男戸主ノ養子タル身位ヲ取得スルモノトス（大正一三・一二・一五）

○次養子ノ緣組ト門族會議　次養子緣組ハ其養親タルヘキ戸主若シ戸主死亡セルトキハ其寡婦ニ於テ單獨ニ之ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ次養子ヲ爲スニハ門族會議ヲ開催シ得ヘキ員數ノ親族アルトキハ常ニ必ス門族會議ヲ開催シ同門族會議ニ於テ之ヲ選定セサルヘカラストスル慣習存在セス（大正九・三・一二）

○次養子選定權者　配偶者アル男戸主家督相續人ナクシテ死亡シタル場合ニ於テモ其ノ兄弟行ニ在ル者ヲ次養子ト爲スコトヲ得ヘキハ勿論其ノ次養子ノ選定權ハ第一次ニ配偶者第二次ニ母第三次ニ祖母ニ存スト爲スハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリトス（大正一二・一二・一八）

○次養子ノ選定　朝鮮ノ慣習ニ於テハ嗣子ナクシテ死亡シタル戸主ノ爲ニ次養子ヲ選定スル權利ハ常ニ其ノ養子ヲ選定スル權利ニ附隨シ他ニ養子タルヘキ適格者アル場合ニ於テモ尙次養子ヲ選定シ得ルモノトス（昭和六・二・二〇）

○次養子ノ男子ト養家ノ家督相續權　次養子ト爲リタル者カ男子ヲ出生シタルトキハ其男子ハ出生ト同時ニ當然養家ノ家督相續人ト爲ルモノニシテ養子ニ選定セラレテ始メテ其家督相續人ト爲ルモノニ非サルコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（大正九・三・一二）

○次養子ノ子ノ相續ト次養子ノ責任　次養子カ負擔シタル債務ハ其ノ子カ相續シタル後ニ於テモ尙次養子ニ對シテ請求シ得ヘキコトハ朝鮮ノ慣習ナリトス（昭和二・二・二五）

○次養子ノ親族法上及相續法上ノ地位　次養子カ養親ノ嫡出子タル身分ヲ取得シ相續ニ因リ戸主ト爲リ財産ヲ

卷	頁
一一	二二四
一一	二二五
七	八八
一〇	三六八
一八	一六七
七	八八
一四	五二

承繼スルハ終局的ノモノニシテ次養子ニ男子出生スルモ之ニ因リテ戸主相續及財産相續開始スルコトナク次養子ハ依然其地位ヲ保有スルモノニシテ次養子緣組ニ因ル親族法上及相續法上ノ效果ハ普通ノ養子緣組ニ於ケルモノト同一ナリトスルヲ朝鮮ニ於ケル現行ノ慣習ト認ム（昭和三・四・一三）

○次養子ノ死亡ト妻ノ相續　次養子カ男子ナクシテ死亡シタルトキハ雖其家ニ次養子ノ妻ノミ在リテ他ニ尊屬親在ラサル場合ニハ更ニ養子ヲ爲スニ至ル迄次養子ノ妻ニ於テ戸主トナリ財産ヲ承繼スルコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（大正九・一・二七）

○次養子ノ爲ノ養子　次養子ハ養家ニ於ケル祭祀系統ヨリ除外セラレ祭祀者タル地位ヲ承繼スルコトナクシテ唯祭祀ヲ擯行シ得ルニ過キサルモノナルヲ以テ次養子カ男子ナクシテ死亡シタルトキハ養家ニ於ケル最後ノ祭祀者タリシ旣婚男子ノ爲ニ養子ヲ爲スヘク次養子タル亡男ノ爲ニ養子ヲ爲スヘキモノニ非ス（昭和三・四・一三）

○次養子及其ノ妻ノ養子ノ選定　次養子及其ノ妻ハ亡戸主ノ爲ニ養子ヲ選定スルコトヲ得ス（大正一五・二・二六）

○次養子ノ遺妻ト養子緣組確認ノ訴　次養子タル夫ノ死亡ニ因リ戸主相續ヲ爲シタル寡婦ハ次養子ノ死亡後相續ノ爲養子ト爲リタリト主張スル者ヨリ檢事ヲ相手取リテ起シタル緣組確認ノ訴ニ付權利上利害ノ關係ヲ有スルモノトシテ被告ヲ補助スル爲其ノ訴訟ニ參加スルコトヲ得ルモノトス從參加ノ許スヘキモノタルニハ必スシモ主タル當事者ニ代リテ當該訴訟ヲ引受クルノ資格ヲ有スル者ナルコトヲ要セス（昭和二・四・五）

收養子

○收養子ノ地位　朝鮮ニ於テハ養子タルモノハ同姓ノ適格者タルコトヲ要シ異姓ノ兒ヲ養育シテ子ト爲ス場合ニハ之ヲ收養子ト稱シ父祖ノ祭祀及ヒ財産ヲ承繼スヘキ養子ト區別セリ（大正一一・五・五）

○收養子ノ相續權　故ニ收養子ハ養家ノ祭祀及ヒ遺産ヲ相續スルヲ得サルコト朝鮮ニ於ケル顯著ナル慣習ナリ

卷	頁
一五	一〇〇
七	二
一五	一〇〇
一三	一八
一四	八三
九	一七〇

（大正一一・五・五）

○收養子ト異姓　異姓ノ者ヲ養子（收養子ノ場合ヲ除ク）ト爲スヲ得サルコトハ朝鮮ニ於ケル古來ノ慣習ナリ（大正五・一二・二八）

○收養子ハ養子ニ非ス　被告ハ崔某ノ子ニシテ生後一週間ニシテ宋長星夫妻ニ養ハレテ子トナリタルモノナリ民籍ニハ誤テ宋長星ノ長男トシテ登載セラレタリト雖異姓ノ子ナルヲ以テ養嗣子ノ意味ニ於テノ養子ニ非ス是レ被告ノ認ムル處ニシテ被告ノ主張スルモノハ收養子ニ外ナラス故ニ養子ニ非サルコトノ確認ヲ求ムルハ法律上利益ナシ（昭和九・七・一〇）

○收養子ノ養子緣組　長男ハ收養サレタル者ト否トニ論ナク同本者間ニ於テ支家ヨリ本家ノ立後（相續）ヲ爲ス場合以外ニ他家ノ養子タルコトヲ得サルハ朝鮮ノ慣習ナリ（大正五・一〇・六）

○妾ノ收養子　朝鮮ノ慣習ニ於テハ妾ノ養子又ハ收養子ヲ認メス妾ノ遺產ハ子、子ナケレハ孫、子孫共ニ無ケレハ夫、子孫及夫無ケレハ戸主之ヲ承繼スル慣習ナリ（大正一〇・一二・二〇）

第一款　緣組ノ要件

同本同姓

○養子ノ資格　朝鮮ニ於ケル養子緣組ニ付テハ同本同姓ノ者ハ其派系ノ遠近ヲ論セス甥行ハ養子ト爲スヲ得ルモ兄弟行ハ養子ト爲スヲ得サルヲ慣習トス（明治四五・一・二四）

○異姓者ノ養子　異姓ノ者ヲ養子（收養子ノ場合ヲ除ク）ト爲スヲ得サルコトハ朝鮮ニ於ケル古來ノ慣習ナリ（大正五・一二・二八）

卷	頁
九	一七〇
三	二〇七
二一	二八一
三	七五五
八	五五五
一	四二六
三	二〇七

○官官家又ハ奉侍家ノ他姓養子　朝鮮ニ於ケル從前ノ慣習ハ官官家又ハ奉侍家ニ限リ他姓ノ者ヲ養子トナスコトヲ認メタリシモ大正四年四月一日改正民籍法ノ實施セラルルト同時ニ該慣習ハ自ラ廢絶ニ歸シ爾來一般ノ慣習ニ從ヒ官官家又ハ奉侍家ト雖他姓ノ者ヲ養子ト爲スコトヲ得サルニ至リタルモノトス（昭和三・五・二五）　一五　一七三

長子出繼

○長子ノ養子緣組　長男ハ收養サレタル者ト否トニ論ナク同本者間ニ於テ支家ヨリ本家ノ立後（相續）ヲ爲ス場合以外ニ他家ノ養子タルコトヲ得サルハ朝鮮ノ慣習ナリ（大正五・一〇・六）　三　七五五

○宗家繼承　宗家嗣ナキトキハ支系ヨリ入ツテ宗家ヲ繼承シ一族ニ關スル祖先ノ祭祀ヲ主宰スルコト竝ニ此等ノ者ヲ宗孫ト稱スルコトハ朝鮮ニ於ケル從來ノ慣習トス（明治四四・四・二七）　一　二四七

○長子ノ養子緣組　朝鮮ニ於テ長子ト雖宗家ノ養子トナルコトヲ得ヘキモノトス（大正五・四・一四）　三　五〇七

○同　上　分家ノ長子ハ宗家相續ノ場合ニ宗家ノ養子トナリ其家ニ入ルコトヲ得ル慣習アルモ長子カ分家タル自己ノ父ノ兄ノ養子トナリ其家ニ入ルコトヲ得ル慣習ナシ（大正六・三・三〇）　四　二四五

○同　上　長男ハ宗家又ハ本家ノ相續ヲ爲ス場合ノ外他家ノ養子トナルヲ許ササルコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリトス（大正一一・一二・一五）　九　五二三

○同　上　朝鮮ニ於テハ長男ハ奉祀者ト稱シ本家相續ノ爲本家ノ養子ト爲ル場合ノ外如何ナル理由ノ存スルモ養子緣組其ノ他ノ事由ニ因リ他家ニ入ルコトヲ得サルノ慣習存ス

朝鮮內ノ一地方ニ右慣習ノ行ハレス若ハ之ト異ル慣習ノ存スルコトナシ

養子緣組ニ關スル上敍ノ慣習ハ公ノ秩序ニ關スル法規ニ屬スルヲ以テ之ニ適合セサル行爲ハ縱令當事者雙方ノ希望ニ副ヒ門族一同ノ異議ナキトキニ於テモ其ノ效力ヲ生スルニ由ナキモノトス如上不適法ナル養子緣組ハ當然無效ニシテ

當事者其ノ他ノ利害關係人ハ何時ニテモ之カ無效ヲ主張シ得ヘキモノトス（大正一二・七・一〇）　一〇　二〇六

○分家長男ト本家養子　分家ノ長男カ本家ノ養子トナリ得ルハ其ノ分家長男ノ父カ本家ノ養親タルヘキ者ト實兄弟ノ關係アル場合ニ限ルトノ慣習ハ存在セス（大正一二・一二・一八）　一　三七三

○同　上　分家長男ノ父カ本家ノ養親タルヘキ者ト四等親以上ノ關係アルモノナリトスルモ分家ノ長男ハ本家相續ノ爲養子トナルコトヲ得（大正一二・一二・一八）　一〇　三七三

○獨子ノ養子緣組　朝鮮ニ於テ獨子カ養子緣組ニ因リ他家ニ入リ得ルハ其ノ養家カ六代祖以上ノ祭祀ヲ行フ宗家ニ限ルト爲ス慣習ノ存在スルコトナク却テ支分ノ家ノ獨子ト雖代數ノ如何ニ拘ラス廣ク其ノ本宗ノ家ヲ相續スル爲ナルトキハ養子トシテ其ノ家ニ入ルヲ得ルト爲スヲ以テ顯著ナル慣習ナリトス（大正一四・三・二一）　一三　九七

○長男ノ養子緣組　朝鮮ニ於テ長男ハ本家又ハ宗家ノ相續ヲ爲ス場合ノ外他家ノ養子ト爲ルコトヲ得サル慣習ニシテ他家カ生家ナル場合モ同樣ナリ從テ之ニ反スル養子緣組ハ當然無效ナリ（昭和二・八・九）　一四　二四三

○戶主カ宗家ノ養子トナリタルニ因ル相續ノ開始ト前戶主ノ辨濟義務　實父死亡ニヨリ相續ヲ爲シ債務ヲ承繼シタル戶主カ宗家ノ養子トナリタル場合ニ在リテハ其ノ實家ニ於テ相續開始シタルトキト雖債權者ハ他家ニ入リタル前戶主ニ對シ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリトス（昭和四・三・一）　一六　三四

○分家戶主ノ養子緣組　新ニ分家シテ戶主ト爲リタル男子ハ本家以外ノ者ト雖之ト養子緣組ヲ爲シ自家ヲ消滅セシメテ養家ニ入ルコトヲ得ルハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（大正一五・九・三）　一三　二五四

其ノ他

○妻子ノ養家入籍　朝鮮人間ニ於テ戶主又ハ家族タル男カ養子ト爲リテ他家ニ入ル場合ニ其ノ妻又ハ家ヲ同ウスル子女ハ當然之ニ隨ヒテ其ノ養家ニ入ルハ朝鮮古來ノ慣習ナリトス（大正一二・九・二一）　一〇　二七六

○不適法ナル縁組ト年月ノ經過　朝鮮人ノ家族タル長男ハ宗家相續ノ爲ニスル場合ノ外養子縁組其ノ他ノ事由ニ因リ他家ニ入ルコトヲ得サル慣習ハ公ノ秩序ニ關スル法規ニ屬スルヲ以テ此ノ法規ニ反シテ爲シタル養子縁組ハ異議ナクシテ長年月ヲ經過スルモ其ノ效力ヲ生スルニ由ナキモノトス（昭和二・一二・二八）　一四　三七九

○養母ト養子縁組ノ當事者　朝鮮ニ於テ養子縁組ノ當事者ハ養父及養子ニシテ養父ノ妻ハ縁組ノ當事者ニ非ス只養父ト養子トノ間ニ縁組ヲ爲シタル效果トシテ養母タル地位ヲ獲得スルニ過キス而シテ死後養子ノ場合ニハ亡戸主ノ妻カ養子ヲ選定スルコトアリト雖縁組ノ當事者ト爲ルモノニ非サルコトハ生前養子ノ場合ト同一ナリ（大正一三・一一・二五）　二　三二三

○養親子關係存在確認訴訟ト法律上ノ利益　養父ノ死亡後其ノ妻カ養子ト亡夫トノ間ニ於ケル養親子關係ヲ否認シ其ノ養子タルコトヲ無視スル行動ニ出ツル如キハ親族ノ關係ヲ紊リ養子ノ親族法上ノ權利ヲ侵害スルモノナレハ養子ハ之ニ對シ自己ト亡養父トノ間ニ於ケル養親子關係ノ存在スルコトヲ即時ニ確定スルニ付法律上ノ利益ヲ有スルモノトス（大正一四・三・三一）　一三　九七

○養子確認ノ訴ノ相手方　養子タルコトヲ主張スル者ヨリ提起スル養子確認ノ訴ハ人事訴訟手續法第二十六條第二條ノ規定ニ準據シ養父ヲ以テ相手方トスヘク死後養子ナル場合又ハ養父死亡後ニ在リテハ朝鮮ニ於テ縁組ノ相手方ニ準セラルヘキ養母ヲ以テ相手方トスヘク養母カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方ト爲スヘキモノトス（大正一四・七・一〇）　一三　三五七

○養家ヲ去リタル養母トノ親族關係　養母カ其家ヲ去リタルトキハ養母ト養子トノ親族關係ハ之ニ因リテ止ムハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（大正六・六・一五）　四　五三三

○養子確認訴訟ノ相手方　死後養子ヨリ提起スル養子確認ノ訴ハ養母カ既ニ他家ニ改嫁シ養家ニ在ラサル場合ニ於テハ養母ノ死亡シタル場合ト同樣ニ檢事ヲ以テ相手方トスヘキモノトス（大正一五・二・二六）　一三　一八

○縁組無效ノ訴ノ相手方　朝鮮人ノ養子縁組無效ノ訴ニ於テハ養父及養子ヲ以テ訴訟ノ相手方ト爲スヘク養父ノ死亡シタル後ハ養母及養子ヲ以テ相手方ト爲スモノナリト雖相續回復ノ訴ニ於テハ縱令其ノ内容ニ於テ縁組ノ當否カ審理セラルル場合ナリトスルモ慣習相續人ヲ相手方ト爲スヲ以テ足ル（昭和二・八・九）　一四　二四三

○養子縁組ト禮斜　朝鮮ニ於テ兩班ノ養子縁組ニ付禮斜ヲ受クルコトヲ以テ其要件ト爲シタル慣習ナシ（大正四・二・二六）　三　八〇

○上疏ニ關シテ與ヘタル相續回復ノ命令　上疏ニ關シテ與ヘタル命令ハ判決ト同視スヘキモノニアラサルハ勿論舊韓國時代ニ於テモ之ヲ判決ト同視シタル慣習ナシ又其命令ニ於テ罷養ヲ取消シ相續權ヲ回復セシムルコトヲ命スルモ既ニ存立シタル罷養行爲ヲシテ當然無效ニ歸セシムルコトヲ命スルコトナシ（大正三・七・二四）　三　四四三

○親族關係不存在ニ對スル確認訴訟ノ當否　自己ト養親子關係ナキ者カ不實ノ身分登記ヲ爲シ其關係アルモノノ如ク行動スルニ於テハ親族關係ノ紊亂ヲ來スヲ以テ自己ノ親族權ヲ侵害セラルルモノナレハ自己ハ其者ニ對シ親族關係不存在ノ確認ヲ求ムル利益アリ（大正八・一一・二八）　六　五八八

○養子縁組ノ成立又ハ不成立ヲ確認シタル判決ノ效力　養子縁組ノ當事者間若クハ第三者ヨリ其當事者雙方ヲ相手取リタル訴訟ニ於テ養子縁組ノ成立又ハ不成立ヲ確定シタル判決ハ人事訴訟手續法第二十六條第十八條第一項ノ規定ニ準據シ第三者ニ對シテモ其既判力ヲ及スモノトス（昭和三・六・二二）　一五　一八五

第八百三十七條

○妾ノ養子　朝鮮ノ慣習ニ於テハ妾ノ養子又ハ收養子ヲ認メス妾ノ遺産ハ子、子ナケレハ孫、子孫共ニ無ケレハ夫、子孫及夫無ケレハ戸主之ヲ承繼スル慣習ナリ（大正一〇・一二・二〇）　八　五五五

第八百三十八條

○養子ト養親ノ配偶者ノ年齢　養子タルモノノ年齢カ養親ノ配偶者タルモノヨリ年長者ニ非サルコトヲ必要トス

ル慣習ハ朝鮮ニ存在セス（大正一一・八・一）

○養子ノ適格ト昭穆ノ序　朝鮮ニ於ケル養子緣組ハ父子自然ノ序ヲ紊ササランカ爲ニ所謂昭穆ノ序ニ適合スル血族男ヲ選ンテ養子ト爲ス慣習存スルモ其ハ必スシモ侄行ニ在ルモノナラサルヘカラストスルモノニアラス尊卑ノ序ヲ紊スコトナキ限リ侄行以下ノモノヲ適宜選擇シテ養子ト爲シ得ル趣旨ノモノナルコト顯著ナル所ナルカ故ニ養親タルヘキモノト同本同姓ノ血族ニシテ子ト同列以下ニ存スルモノハ其ノ親疎遠近ヲ論セス等シク養子タルノ適格ヲ有スルモノトス（昭和七・一一・一五）

第八百三十九條

○庶子アル場合ノ養子　大典會通禮典立後條ニ嫡妾俱無子者告官立同宗支子爲後トアリ又其補文ニ私自立後者論罪云々トアルモ右規定ハ實際ニ行ハレス而シテ嫡子ナキ場合ニ庶子アルモ禮斜ヲ受ケスシテ養子ヲ爲スニ妨ナキコトハ庶人タルト宗親國戚タルトヲ問ハス朝鮮一般ノ慣習ナリ（大正二・五・二〇）

○庶子アル場合ノ養子　朝鮮人間ニ在テハ戶主タル被相續人ニ其庶出ノ男子アル場合ト雖他ヨリ養子ヲ爲シ且其養子ハ相續ニ關シ嫡出ノ男子ト同一ノ權利ヲ有スル慣習存ス（大正四・一・二九）

○庶子アル場合ノ死後養子　朝鮮人間ニ在リテ庶出ノ男子アルニ拘ラス被相續人死亡後其遺妻等カ直ニ他ヨリ養子ヲ爲シ之ヲシテ家督ヲ相續セシメシカ如キ事例ナキニアラサリシモ如此ハ名門勢家各自ノ一個ノ專擅行爲ニ過キスシテ慣習法タル效力ヲ有セシモノニアラス（大正六・一一・二七）

○庶子アル場合ノ死後養子　朝鮮人間ニ在リテ戶主タル被相續人ニ庶出ノ男子アル場合ト雖被相續人カ他ヨリ養

子ヲ爲シ其養子ハ相續ニ關シ嫡出ノ男子ト同一ノ權利ヲ有スル慣習存在スレトモ（既判例）是レ被相續人カ其生前ニ於テ養子緣組ヲ爲シ若クハ遺言ヲ以テ養子ヲ指定スル場合ニ之ヲ有效トスルモノニ過キスシテ被相續人死亡後直ニ他ヨリ養子ヲ爲シテ之ヲシテ被相續人ノ家督ヲ相續セシメ得ル一般慣習ナシ（大正六・一一・二七）

○庶子ト養子緣組　朝鮮ニ於テハ既往殊ニ舊韓國時代ニ在リテハ戶主タル被相續人ニ庶出ノ男子アル場合ト雖被相續人カ他ヨリ養子ヲ爲シ其ノ養子ハ相續ニ關シ嫡出ノ男子ト同一ノ權利ヲ有スル慣習存在シタレトモ是唯被相續人カ生前ニ於テ養子緣組ヲ爲シ若ハ遺言ヲ以テ養子ヲ指定スル場合ニ之ヲ有效トスルモノニ過キスシテ被相續人ノ親族等カ被相續人死亡後他ヨリ養子ヲ爲シ之ヲシテ被相續人ノ家統ヲ相續セシメ得ル一般慣習ハ存在セサリシモノトス

前項ノ慣習ノ趣旨ハ既婚ノ長男戶主ニ先チテ死亡シ其ノ庶子男子アル場合ニ亦之カ適用アリ卽チ戶主ノ生存中既婚ノ長男死亡シタル場合ニ於テ亡長男ニ庶出ノ男子アルニ止マルトキハ其ノ者ハ當然亡長男ヲ奉祀シ其ノ遺產ヲ承繼スルモノニシテ（廣義ニ於ケル祭祀相續ノ一種）亡長男ノ死亡後親族等ニ於テ亡長男ノ爲ニ養子ヲ爲スコトヲ許ササル慣習存在シタルモノトス（昭和二・二・一五）

○胎兒ト養子緣組　養父ニ男子アルトキハ養子緣組ヲ爲スコトヲ得スト雖胎兒ハ緣組ノ妨トナルコトナシ（昭和二・三・二五）

第八百四十一條

○養父ノ妻ト緣組ノ當事者　朝鮮ニ於テ養子緣組ノ當事者ハ養父及養子ニシテ養父ノ妻ハ緣組ノ當事者ニ非ス只養父ト養子トノ間ニ緣組ヲ爲シタル效果トシテ養母タル地位ヲ獲得スルニ過キス而シテ死後養子ノ場合ニハ亡戶主ノ妻カ養子ヲ選定スルコトアリト雖緣組ノ當事者ト爲ルモノニ非サルコトハ生前養子ノ場合ト同一ナリ（大正一三・一一・二五）

卷	頁
一三	二五七
一一	二一二
一五	一一五
二〇	二〇〇
二〇	二〇〇

○養子緣組ノ訴ノ相手方　養子タルコトヲ主張スル者ヨリ提起スル養子確認ノ訴ハ人事訴訟手續法第二十六條第二條ノ規定ニ準據シ養父ヲ以テ相手方トスヘク死後養子ナル場合又ハ養父死亡後ニ在リテハ朝鮮ニ於テ緣組ノ相手方ニ準セラルヘキ養母ヲ以テ相手方トスヘク養母カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方ト爲スヘキモノトス（大正一四・七・一〇）

○養子緣組無效ノ訴ノ相手方　朝鮮人ノ養子緣組無效ノ訴ニ於テハ養父ノ生存スル場合ニハ養父及養子ヲ以テ訴訟ノ相手方ト爲スヘク養父ノ死亡シタル後ハ養母ヲ以テ緣組ノ當事者ニ準シ訴訟ノ相手方ト爲スコトヲ要スト解スルヲ妥當トス（大正一三・一一・二五）

第八百四十三條

○緣組ノ承諾ト意思能力　大正十四年頃ニ在リテハ養子ト爲ル者カ成年者ナルトキハ勿論意思能力ヲ有スル者（通例十五年ニ達セル者）ナルトキハ自ラ緣組ニ關スル承諾ヲ爲スヘク父母代リテ之カ承諾ヲ爲スコトヲ得サル慣習成立シ居タルモノトス（昭和三・四・一七）

第八百四十六條

○死後養子選定ノ順位ト親族會　朝鮮ニ於テ戸主死亡シ其ノ家督ヲ相續シタル男子カ未婚ノ儘死亡シタルトキハ右戸主ノ死後養子選定權ハ第一次ニ其ノ遺妻ニ於テ之ヲ有シ遺妻カ其ノ權利ヲ行使スルノ意思ナキトキニ非サレハ親族會ニ於テ選定スルノ權利ナキコト現行ノ慣習ナリ（昭和八・五・五）

○先順位選定權ヲ無視シテ親族會カ爲シタル死後養子選定ノ效力　敍上ノ場合ニ於テ親族會カ先順位者タル遺妻ノ選定權ヲ無視シテ爲シタル死後養子ノ選定ハ當然無效ナリ（昭和八・五・五）

○養子ヲ爲ササル旨ノ遺言ト死後養子選定ノ爲ノ親族會ノ招集　死後養子ヲ選定セサル旨ノ亡夫ノ遺言ノ效力ヲ誤信シ養子ヲ選定セスト通告シタルトキハ眞ニ養子ヲ選定スル意思ナキモノト謂フヲ得サルヲ以テ養子選定ノ爲ニスル親族會ノ招集ハ違法ナリ（昭和八・一〇・三一）

第八百四十八條

○停止條件附遺言ノ效力　遺言亦一般ノ法則ニ從ヒ之ニ停止條件ヲ附スルヲ妨ケスト雖朝鮮人ノ相續ノ爲ニスル養子指定ノ如キ遺言者死亡ノ時ニ於テ直ニ確定スルコトヲ要スル事項ニ係ルモノナルトキハ遺言者死亡ノ時迄ニ條件ノ成就スルニ非レハ其ノ效ナキモノトス（昭和二・二・一五）

第二款　緣組ノ無效及ヒ取消

○養子緣組ト禮斜　朝鮮ニ於テ兩班ノ養子緣組ニ付禮斜ヲ受クルコトヲ以テ其要件ト爲シタル慣習ナシ（大正四・二・二六）

○第三者ヨリノ養子緣組無效ノ訴　第三者ヨリ提起スル養子緣組無效ノ訴ニ於テハ緣組ノ當事者ヲ以テ訴訟ノ相手方ト爲スヘク當事者ノ一人カ死亡シタル場合ニハ生存者ヲ以テ相手方ト爲スヘキモノトス（大正一三・一一・二五）

○婚家ヲ去リタル養母ノ養子緣組無效ノ訴ニ於ケル當事者適格　寡婦タル養母ハ婚家ヲ去リテ實家ニ復籍シタル後ト雖婚家ニ其ノ實子ノ存スルニ於テハ實子トノ血族關係ニ基ク扶養ノ義務其ノ他ノ權利義務ニ付重大ナル關係ヲ有スルヲ以テ婚家ニ在ル養子ニ對シ養子緣組無效ヲ主張スルニ付正當ナル當事者トシテノ適格ヲ有スルモノトス（大正一五・九・二八）

○養子緣組無效ヲ理由トスル相續回復ノ訴ノ相手方　朝鮮人ノ養子緣組無效ノ訴ニ於テハ養父及養子ヲ以テ訴訟ノ相手方ト爲スヘク養父ノ死亡シタル後ハ養母及養子ヲ以テ相手方ト爲スヘキモノナリト雖相續回復ノ訴ニ於テハ縱令其ノ內容ニ於テ緣組ノ當否カ審理セラルル場合ナリトスルモ僭稱相續人ヲ相手方ト爲スヲ以テ足ル（昭和二・八・九）

卷	頁
二〇	三九六
一四	二二二
三	八〇
一一	二一二
一三	二六四
一四	二四三

第八百五十一條

○緣組ノ無效ト戶籍訂正ノ手續　大正十二年七月一日ヨリ施行セラレタル朝鮮民事令第十一條竝第十一條ノ三ノ改正規定及朝鮮戶籍令ノ規定ニ從ヘハ養子緣組ノ如キ屆出ニ因リ效力ヲ生スヘキ行爲ニ付戶籍ノ記載ヲ爲シタル後其ノ行爲ノ無效ナルコトヲ發見シタル場合ニ於テ之ヲ訂正スルニ付當事者雙方異議ナキトキハ當事者ヨリ管轄地方法院ノ許可ヲ得テ戶籍ノ訂正ヲ申請スヘク又當事者間ニ緣組ノ無效ナルコトニ爭アリテ戶籍ノ訂正ニ異議アルトキハ判決ニ因リテ其ノ行爲ノ無效ナルコトヲ確定シ然ル後訴ヲ提起シタル者ニ於テ判決確定ノ日ヨリ一月以內ニ當該戶籍ヲ管掌スル府尹又ハ面長ニ戶籍訂正ノ申請ヲ爲スヘキモノトス（大正一二・七・一〇）

○不適法ナル緣組ト年月ノ經過　朝鮮人ノ家族タル長男ハ宗家相續ノ爲ニスル場合ノ外養子緣組其ノ他ノ事由ニ因リ他家ニ入ルコトヲ得サル慣習ハ公ノ秩序ニ關スル法規ニ屬スルヲ以テ此ノ法規ニ反シテ爲シタル養子緣組ハ異議ナクシテ長年月ヲ經過スルモ其ノ效力ヲ生スルニ由ナキモノトス（昭和二・一二・二八）

第三款　緣組ノ效力

第八百六十條

○養家ニ於ケル男子ノ出生ト養子ノ家督相續權　養子ト爲リタル後養父ニ男子出生スルモ養父死亡ノ場合ニハ養子ニ於テ其家督ヲ相續スルヲ朝鮮ニ於ケル一般ノ慣習トス（明治四五・二・二）

○死後養子ト相續　戶主ノ死亡後其養子ト爲リタル者ハ其養子緣組ト同時ニ當然戶主ト爲ルコトモ亦朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（大正六・七・六）

○亡嗣子ノ次養子ト亡戶主トノ身分關係　戶主ノ長男結婚シ嗣子ナクシテ死亡シ次テ戶主亦死亡シタル場合ニ於テ亡長男ノ寡婦カ亡夫ノ爲ニ養子ヲ爲ス權利ヲ有スルトキハ任意之ヲ爲サスシテ亡夫ノ爲ニ次養子ヲ爲スコトヲ妨ケス斯ル場合ニ於ケル次養子ハ亡男戶主ノ養子タル身位ヲ取得スルモノトス（大正一三・一二・一五）

○親族關係不存在ニ對スル確認訴訟ノ當否　自己ト養親子關係ナキ者カ不實ノ身分登記ヲ爲シ其關係アルモノ如ク行動スルニ於テハ親族關係ノ紊亂ヲ來スヲ以テ自己ノ親族權ヲ侵害セラルルモノナレハ自己ハ其者ニ對シ親族關係不存在ノ確認ヲ求ムル利益アリ（大正八・一一・二八）

第八百六十一條

○未成年者カ養子ト爲リタル場合ト親族會　未成年者カ他家ニ養子ニ入リタルニ因リ從前ノ親族會ハ解散スルコトナク未成年者カ既ニ養子トシテ他家ニ入リタルニ拘ラス依然實家ニ在ルモノトシテ招集セラレタル場合亦同斷ナリ（昭和九・五・二九）

○妻子ノ養家入籍　朝鮮人間ニ於テ戶主又ハ家族タル男カ養子ト爲リテ他家ニ入ル場合ニ其ノ妻又ハ家ヲ同ウスル子女ハ當然之ニ隨ヒテ其ノ養家ニ入ルハ朝鮮古來ノ慣習ナリトス（大正一二・九・二一）

第四款　離緣

第八百六十六條

○養子ノ相續除斥原因　朝鮮人間ニ在リテハ養子カ外國ニ往キテ音信ナク又所在不明ナルコト數年ニ渉ルトキハ相續ヨリ除斥セラルルモノトス（隆熙三「明治四二」九・二）

○遺妻ノ失行改嫁ト亡長男ノ廢除又ハ亡養子ノ罷養　朝鮮ニ於テ成婚ノ長男ノ死亡後其妻カ失行改嫁シタルトキハ其父ハ長男ヲ廢除シ又養子ノ死亡後其妻カ失行改嫁シタルトキハ養父ハ養子ヲ罷養シ養父ナケレハ養家宗會ノ決議ニ依リ養子ヲ罷養シ更ニ他人ヲ養子ト定ムル慣習アルコトナシ（大正二・二・二一）

頁	卷
二〇六	一〇
三七九	一四
一四三一	一
六六七	四
二三五	二
五八八	六
一七八	二
二七六	一〇
一三三	一
一一八	二

○不孝ト罷養原因　養子カ養父ノ病臥スルコト半年ニ亙ルモ故意ニ之カ看護ヲ爲シタルコトナク又一回ノ慰問ヲ爲ササリシ事實アルニ於テハ假令養父カ自己ヲ好愛セサリシ爲メ斯ル行爲ニ出テタリトスルモ斯ル行爲ハ朝鮮慣習上罷養ノ原因タルヘキ養親ニ對スル甚タシキ不孝ニ該當ス（大正八・一一・二八）

○不孝ト罷養原因　甲ノ長男（既婚者）死亡後ニ乙其養子ト爲リ甲トノ間ニ緣組契約ヲ爲シ養家ノ財產中田畓若干ノ贈與ヲ受ケタルニ甲及其次子丙共謀ノ上乙名義ノ贈與證書ヲ僞造シ右田畓ヲ丙名義ニ所有權移轉登記ヲ受ケタルヨリ乙ハ之ヲ憤リ養家ノ幾人カヲ監獄ニ投入スヘシト揚言シ檢事ニ對シ丙ヲ告訴シ甲モ之ニ座シテ勾留セラレ其後乙ハ豫審判事ヨリ訊問ヲ受ケタル際甲等ノ右犯罪事實ヲ供述シ之カ爲甲ハ文書僞造罪ニ因リ刑ノ言渡ヲ受クルニ至リタル事實アルトキハ右乙ノ檢事又ハ豫審判事ニ對スル告訴又ハ供述ハ一面ヨリ見レハ養子ノ養祖父ニ對スル道義上爲スニ忍ヒサル行爲ヲ敢行シタルモノニシテ斯ノ如キ行爲アリタル以上ハ養祖父養孫間ノ親誼ヲ完フスルコト能ハサル事情アルハ勿論朝鮮ノ慣習上罷養スヘキ甚シキ不孝ノ行爲アリタルモノニ該當スルモノトス（大正一〇・一・一八）

○養孫ノ罷養　戶主タル祖父カ既婚者タル長男ノ死亡後ニ養孫タルヘキ者ト緣組契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其養孫ニ罷養スヘキ原因アリタルトキハ緣組契約ノ當事者タル養祖父ハ養孫ニ對シテ罷養スル旨ノ意思表示ヲ爲スヲ以テ足レリトスルコトヲ得ヘク而カモ之カ罷養ヲ爲スニ付テハ養孫ニ對シテ罷養スル旨ノ意思表示ヲ爲スヲ以テ足レリトスルコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（大正一〇・一・一八）

○罷養手續　朝鮮慣習ニ於テ養親カ罷養ヲ爲スニハ養子ニ對シ罷養ヲ爲ス旨ノ意思表示ヲ爲スヲ以テ足レリトシ其他親族ニ對シ其意思表示ヲ爲スコトヲ要スル等定マリタル手續アルコトナシ（大正八・一一・二八）

○慣習上ノ離緣事由　朝鮮人間ニ在リテハ養子カ家產ヲ蕩盡スル虞アルトキ又ハ養親ニ對シ甚シキ不孝ノ行爲アリタルトキ若ハ重罪ヲ犯シ處罰セラレタルトキ等ノ事由ハ今尚慣習上離緣ヲ求ムルコトヲ得ヘキ事由トシテ認メラルルモノトス（大正一二・七・一三）

○罷養ノ慣習　敍上ノ事由ノ存スル場合ニ於テ離緣ヲ爲スニハ養親ノ養子ニ對スル裁判外ニ於ケル罷養ノ意思表示ヲ爲スヲ以テ足レリトスル慣習ハ既ニ廢滅ニ歸シタルモノトス（大正一二・七・一三）

○離緣ノ訴　大正十一年以降ニ在リテハ離緣ヲ求ムルコトヲ得ヘキ事由アルトキ當事者ノ一方ヨリ訴ヲ以テ裁判所ニ離緣ノ裁判ヲ求ムヘク之ニ對シ離緣ヲ宣言スル判決アリテ其ノ判決ノ確定シタルトキ離緣ノ效力ヲ生スルモノト爲ス慣習ノ成立シタルモノトス（大正一二・七・一三）

○亡長男ノ死後養子ト離緣　戶主タル祖父カ既婚者タル長男ノ死亡後ニ養孫タルヘキ者ト緣組契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其養孫ニ罷養スヘキ原因アリタルトキハ緣組契約ノ當事者タル養祖父ハ養孫ニ對シテ罷養ヲ爲スコトヲ得ヘク而カモ之カ罷養ヲ爲スニ付テハ養孫ニ對シテ罷養スル旨ノ意思表示ヲ爲スヲ以テ足レリトスルコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（大正一二・七・一三）

○罷養ノ慣習　敍上ノ事由ノ存スル場合ニ於テ離緣ヲ爲スニハ養親ノ養子ニ對スル裁判外ニ於ケル罷養ノ意思表示ヲ爲スヲ以テ足レリトスル慣習ハ既ニ廢滅ニ歸シタルモノトス（大正一二・七・一三）

○離緣ノ訴　大正十一年以降ニ在リテハ離緣ヲ求ムルコトヲ得ヘキ事由アルトキ當事者ノ一方ヨリ訴ヲ以テ裁判所ニ離緣ノ裁判ヲ求ムヘク之ニ對シ離緣ヲ宣言スル判決アリテ其ノ判決ノ確定シタルトキ離緣ノ效力ヲ生スルモノト爲ス慣習ノ成立シタルモノトス（大正一二・七・一三）

○亡長男ノ死後養子ト離緣　戶主タル祖父カ既婚者タル長男ノ死亡後ニ養孫タルヘキ者ト緣組契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其養孫ニ罷養スヘキ原因アリタルトキハ緣組契約ノ當事者タル養祖父ハ養孫ニ對シテ罷養ヲ爲スコトヲ得ヘク而カモ之カ罷養ヲ爲スニ付テハ養孫ニ對シテ罷養スル旨ノ意思表示ヲ爲スヲ以テ足レリトスルコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（大正一二・七・一三）

第八百七十四條

○養子戶主トナリタル後ノ離緣　養子カ戶主トナリタル後ハ其家ニ在ル尊屬親ト雖離緣ヲ爲スコトヲ得サルハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（明治四五・五・二八）

○戶主トナリタル後ノ離緣　養子カ戶主ト爲リタル後ハ離緣ヲ爲スコトヲ得サルハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（大正六・七・六）

○戶主トナリタル後ノ離緣　戶主ノ死亡後其養子ト爲リタル者カ綱常ノ罪ヲ犯シタルトキ又ハ家產ヲ蕩盡シ祖先ヲ奉祀スル希望ナキトキ其他養家ヲ永久繼續スヘキ見込ナキトキ其寡婦タル養母ニ於テ其養子カ既ニ戶主ト爲リタルニ拘ラス離緣スルコトヲ得ル旨ノ慣習ハ朝鮮ニ於テハ存在セス（大正六・七・六）

巻	頁	
六	五八八	一〇 二一七
八	一	一〇 二一七
八	一	一〇 二一七
六	五八八	一 四七五
八	一	四 六六七
八	一	四 六六七

第五章　親權

第一節　總則

第八百七十七條

○妾子ニ對スル妾ノ親權　妾ハ其所生子カ未成年ニシテ夫其他ノ尊長ナキトキハ子ニ屬スル財產ニ對シテ管理權ヲ有シ且其子ヲ代表シテ財產ニ關スル法律行爲ヲ爲スノ權能ヲ有シ別籍異財ノ尊屬親ハ未成年者ヲ代表シテ法律行爲ヲ行フコトヲ得サルハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（明治四四・一二・四）

○庶子ニ對スル親權ト嫡母生母　未成年ノ庶子カ父ヲ喪ヒ嫡母及生母アリ共ニ家籍ヲ同フスルトキハ其庶子ニ對シ親權ヲ行フ者ハ嫡母ナルモ若嫡母カ多年遠隔ノ地ニ住居シ更ニ歸家セス事實上親權ヲ行使スル能ハサル場合ニ於テハ生母ニ於テ親權ヲ行フヘキモノナルコトハ從來朝鮮ニ行ハレタル慣習ナリ（大正六・一二・二六）

○同　上　無能力ノ庶子カ父ヲ喪ヒ嫡母及生母アリ共ニ家籍ヲ同フスルトキハ其庶子ニ對シ親權ヲ行フモノハ嫡母ナルモ若シ嫡母カ多年遠隔ノ地ニ住居シ更ニ歸家セス事實上親權ヲ行使スルコト能ハサル場合ニ於テハ生母ニ於テ親權ヲ行フヘキモノナルコトハ從來朝鮮ニ行ハレタル慣習ニシテ此慣習ハ大正十年十一月十四日制令第十四號ニ依リ朝鮮民事令第十一條ノ規定ヲ改正シ同制令ノ規定カ施行セラルルニ至リシ同年十二月一日ニ至ル迄存續セシモノトス（大正一一・七・二八）

○生母ト別籍庶子ノ親權　前項ノ場合ニ生母カ庶子ノ父死後其家ヲ去リ家籍ヲ同フセサルニ至リタルトキハ事實上生母ト庶子ト同居スルモ生母ハ庶子ニ對シ親權ヲ行使スルヲ得サリシモノトス（大正一一・七・二八）

頁	卷
三七四	九
二七四	九
四二七	四
一四〇三	一

○庶子ノ生母ノ親權ト嫡母ノ處分　庶子ノ生母カ親權ヲ行使スル場合ニハ生母カ庶子ノ親權者トシテ其ノ不動產ヲ處分スルニ付必スシモ嫡母ノ同意ヲ得ルコトヲ要セシモノニアラス

前項ノ場合ニ嫡母カ庶子ノ親權者トシテ第三者ニ庶子所有ノ不動產ヲ賣却スルモ其ノ賣買カ前記大正十年十一月制令第十四號ノ施行前ナルニ於テハ法定代理權ナキ者ノ爲シタル行爲ニ外ナラサレハ之ニ依リ第三者ハ該不動產ニ付何等ノ權利ヲ取得スルモノニアラス從テ同庶子ノ親權者タル生母ヨリ同一不動產ヲ買受ケタル者カ未タ登記ヲ經サルモ其ノ登記ノ欠缺ヲ主張スルニ付正當ノ利益ヲ有スル第三者ナリト謂フヲ得ス（大正一一・七・二八）

○親權行使停止ノ假處分ト假親權者ノ選定　未成年者ト家籍ヲ同フスル嫡母及生母アル場合ニ於テハ其ノ親權者ハ先ツ嫡母之ニ當ルヲ以テ原則ト爲スト雖嫡母ニシテ該親權ヲ行使スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ノ法律上ノ事由ニ基ク乎否トヲ問ハス右生母ニ於テ之カ親權行使ノ任ニ當ルヘキモノナルカ故ニ更ニ假親權者ヲ選定スルヲ要セサルモノトス（昭和五・一・二四）

○祖母ノ親權　朝鮮ニ於テ未成年者ニ對シ親權ヲ行フヘキ父ナキ場合ニ祖母之ヲ行ヒテ其未成年者ノ財產ヲ處分スル權利ヲ有スルカ如キ慣習ナシ（大正元・一〇・二九）

第八百七十八條

○繼母ノ親權ト其ノ喪失　朝鮮ニ於テ繼母カ其子ニ對スル親權ニ基キ財產管理權ヲ有スル場合ニ於テ繼母ニ其子ノ財產ヲ危クスル著シキ不行跡ナキニ拘ハラス其子ノ門中ノ決議ヲ以テ親權ヲ喪失セシメ他ノ者ヲ後見人ニ選任シテ其子ノ財產ヲ管理セシムルコトヲ得ル慣習ノ存在スルコトナシ（大正七・三・八）

○嫡母ノ親權ト財產目錄調製義務　嫡母カ親權ヲ行フ場合ニ於テハ後見ノ規定ニ從ヒ法定後見人ニ準シ其ノ事務ニ著手スル前親族會ヲシテ其ノ監督人ヲ選任セシメ之カ立會ヲ以テ遲滯ナク未成年者ノ財產ノ調査ニ著手シ一箇月

頁	卷
二七四	九
四二七	二
一三三	一七
一六三	五

内ニ其ノ目錄ヲ調製スルコトヲ要スルモノニシテ若之ニ違背シタルトキハ親族會ハ民法第九百十一條第一項同第九百十七條第三項ノ規定ニ從ヒ其ノ親權者ヲ免黜スルコトヲ得ルモノトス（昭和二・八・一二）

○民法施行後ニ於ケル嫡母ノ親權　民法施行前ヨリ嫡母トシテ親權者タル者カ其施行後親權ヲ行フニ付テハ民法施行法ハ其ノ後見ニ關スル規定ヲ準用スヘキ趣旨ナリト解スルヲ妥當トス（昭和三・五・一一）

○嫡母ノ親權　大正十年制令第十四號改正朝鮮民事令第十一條施行（大正十年十二月一日）前ヨリ嫡母トシテ親權者タル者カ其ノ施行後親權ヲ行フニ付テハ民法施行法ノ準用ニ依リ其ノ後見ニ關スル同法第七十九條及第八十條ノ規定ヲ準用スヘキモノトス（昭和三・五・一一）

○假處分命令ニ依ル嫡母ノ親權代行者ト親族會　假處分命令ニ依リ任命セラレタル嫡母ノ親權代行者カ未成年者ノ爲報酬ノ定メアル土地管理委託契約ヲ締結スルニ付テハ親族會ノ同意ヲ要スルモノトス（昭和八・七・一八）

○民法第八百七十八條ト後見規定準用ノ範圍　民法第八百七十八條ニ依リ嫡母等カ親權ヲ行フ場合ニ付準用セラルル後見ノ規定ハ唯後見人ノ權利行使ノ制限監督ニ關スルモノニ限リ後見人タル資格ニ關スル同法第九百八條ノ如キハ其ノ準用ナキモノトス（昭和一一・三・一三）

第二節　親權ノ效力

第八百七十九條

○親權ノ侵害　親權ヲ有スル父又ハ母ハ子ノ監護及教育ヲ爲ス對世的權利ヲ有スルモノナレハ何人ト雖之カ行使ヲ妨害スルコトヲ得ス（大正一〇・二・八）

○親權ト子ノ引渡請求　他人カ親權ニ服スル子ヲ故ナク抑留シ親權者ノ手ヨリ離脫セシムルカ如キハ親權者ノ教育監護權ノ行使ヲ妨害スルモノナルカ故ニ親權者ハ之ニ對シ親權行使ヲ全フスル爲子ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得ヘシ（大正一〇・二・八）

第八百八十四條

○未成年者ノ財産ト母タル妾ノ管理權　妾ハ其所生子カ未成年ニシテ夫其他ノ尊長ナキトキハ子ニ屬スル財産ニ對シテ管理權ヲ有シ且其子ヲ代表シテ財産ニ關スル法律行爲ヲ爲スノ權能ヲ有シ別籍異財ノ尊屬親ハ未成年者ヲ代表シテ法律行爲ヲ行フコトヲ得サルハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（明治四四・一二・四）

○婦女ノ財産管理　朝鮮ニ於テ婦女ハ財産ニ關スル行爲ヲ爲スコトヲ得ス門中ノ最モ近キ者ニ於テ當然其財産ノ管理ヲ爲スヘキモノナリトノ慣習ナシ（大正六・一・一六）

○子ノ財産ニ對スル管理、父ニ對スル辨濟　朝鮮ニ於テ戸主タル父ト同居スル子カ未タ獨立ノ生計ヲ立テサルモ相當ノ年齢ニ達シタル場合ニ其所有財産ニ對シ父ニ於テ管理收益ヲ爲ス權利ヲ有ストノ慣習ハ存セス從テ如上ノ場合ニ子ノ債務者カ父ニ對シテ爲シタル辨濟ハ子ニ對シテ之ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ有セサルモノトス（大正七・六・二八）

○父ノ子ノ財産處分　朝鮮民事令ノ實施セラレタル大正四年頃以降朝鮮ニ於テ法定代理人タル父ハ幼少ノ子ニ屬スル財産ヲ自己ニ屬スルモノト同樣ニ任意ニ處分スルヲ得ヘク又之ヲ處分スルニ付其使用シタル處分者ノ名義資格ノ如何ヲ論セス該處分行爲ヲ有效ナリト爲ス如キ慣習ノ存スルコトナシ（大正七・一〇・二五）

○戸主相續回復請求ニ關スル親權者ノ代理權　未成年者ノ親權者ハ其ノ財産管理權ヲ有セサル場合ニ於テモ未成年者ニ代リ戸主相續回復請求ニ關スル訴訟行爲ヲ爲シ得ルコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリトス（昭和一一・一二・一）

卷	頁
一四	二五三
一五	一三三
一五	一三三
二〇	三〇三
二三	八八
八	二七
八	二七
一	四〇二
四	五
五	五三二
五	七九四
二三	三九七

第八百八十六條

○母ノ親權ト親族會ノ同意　朝鮮ニ於テハ親權ヲ行フ母カ其子ノ所有ニ屬スル不動產ノ處分ヲ目的トスル法律行爲ヲ爲スニ付親族會ノ決議ヲ要ストノ慣習ナシ　（大正六・五・二九）

○不動產ニ關スル裁判上ノ和解ト親權ヲ行フ母ノ代理權　親權ヲ行フ母カ未成年ノ子ニ代リ不動產ニ關スル裁判上ノ和解ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス　（昭和一一・一〇・一三）

○庶子ノ親權者タル生母ノ不動產處分ト嫡母ノ同意　庶子ノ生母カ親權ヲ行使スル場合ニハ生母カ庶子ノ親權者トシテ其ノ不動產ヲ處分スルニ付必シモ嫡母ノ同意ヲ得ルコトヲ要セシモノニアラス　（大正一一・七・二八）

○親權ナキ嫡母ノ處分行爲　前項ノ場合ニ嫡母カ庶子ノ親權者トシテ第三者ニ庶子所有ノ不動產ヲ賣却スルモ其賣買カ前記大正十年十一月制令第十四號ノ施行前ナルニ於テハ法定代理權ナキ者ノ爲シタル行爲ニ外ナラサレハ之ニ依リ第三者ハ該不動產ニ付何等ノ權利ヲ取得スルモノニ非ス從テ同庶子ノ親權者タル生母ヨリ同一不動產ヲ買受ケタル者カ未タ登記ヲ經サルモ其登記ノ欠缺ヲ主張スルニ付正當ノ利益ヲ有スル第三者ナリト謂フヲ得ス　（大正一一・七・二八）

○母ノ子ノ財產管理ト嫡父ノ承諾　朝鮮ニ於テ母カ子ニ對スル財產管理權ノ行使トシテ重大ナル行爲ヲ爲ス場合ニ於テ嫡父アルトキハ其承諾ヲ得ルコトヲ要ストノ慣習存在セス　（大正一一・九・五）

第八百八十七條

○親族會ノ同意ナキ行爲ノ追認　後見人カ親族會ノ同意ヲ得スシテ被後見人ニ代リテ爲シタル行爲ヲ追認スルニハ其ノ取消ノ原因タル事由ノ除去セラレタル後即チ親族會ノ同意ヲ得タル後之ヲ爲スニ非サレハ其ノ效ナシト解スルヲ相當トス　（昭和四・六・二五）

卷	頁
四	四三八
三三	三〇六
九	二七四
九	二七四
九	三四四
一六	一四八

○第八百八十六條違反ノ行爲ト追認　民法第八百八十六條ノ規定ニ違反セル行爲ノ追認ハ取消ノ原因タル事由ノ除去セラレタル後即親族會ノ同意ヲ得タル後之ヲ爲スニアラサレハ其ノ效ナキモノトス　（昭和五・一〇・一八）

○親族會ノ同意ナキ母ノ營業ノ許可ト取消ノ對象　親權ヲ行フ母カ未成年ノ子ニ於テ獨立シテ營業ヲ爲スコトヲ許可スルニ付親族會ノ同意ヲ得サルトキハ子又ハ法定代理人ニ於テ其ノ子ノ爲シタル營業上ノ行爲ヲ取消スコトヲ得ヘキモノトス　（昭和一〇・六・二五）

第八百八十八條

○親子間利害ヲ異ニスル場合ノ特別代理人　朝鮮ニ於テ親權者ト親權ニ服スル者トノ間ニ利害ノ關係ヲ異ニスル場合ニ於テ親族會カ親權服從者ノ爲メニ特別代理人ヲ選任シ之ヲシテ親權服從者ヲ代理セシムルハ必要ノ處置ニシテ又條理ニ適スルモノトス　（大正三・九・二九）

○利害ヲ異ニスル親權者ト親族會ノ招集　民法第八百八十八條ノ規定ハ親權ヲ行フ父又ハ母ト其ノ未成年ノ子ト利益相反スル行爲ニ付テハ父又ハ母ハ其ノ子ノ爲ニ特別代理人ヲ選任スルコトヲ親族會ニ請求スヘキ義務アルコトヲ規定シタルモノニシテ事件本人ノ親族等カ民法第九百四十四條ノ規定ニ依リ附與セラレタル親族會ノ招集ヲ裁判所ニ請求スルノ權利ヲ制限シタルモノニ非ス　（大正一三・一・一八）

○親權者ニ對スル養子確認ノ訴ト特別代理　幼者カ親權者ニ對シテ養子確認ノ請求訴訟ヲ提起スル場合ニハ特別代理人ヲシテ代理セシムルヲ當然トス　（大正五・四・一八）

○親權者ト利益相反スル訴訟　原告ノ親權者カ法定代理人トシテ爲シタル法律行爲ヲ取消シ其ノ處分シタル財產ヲ回復スルコトヲ目的トスル訴訟ハ民法第八百八十八條ニ從ヒ特別代理人ニ依リ提起スヘキモノトス　（昭和七・三・八）

卷	頁
一七	一九七
三三	一七九
二	四七三
二	一
三	五二三
一九	三〇

第八百九十二條

○子ノ受贈財産ニ付管理人ヲ指定シタル從來ノ慣習　無償ニテ子ニ財産ヲ與フル第三者カ親權ヲ行フ父又ハ母ヲシテ之ヲ管理セシメサル意思ヲ表示シ別ニ管理者ヲ指定スルトキハ其ノ管理者ニ於テ當該財産ヲ管理シ裁判上及裁判外ニ於テ之ニ關スル行爲ニ付其ノ子ヲ代表スルハ朝鮮ニ於ケル從來ノ慣習ナリ（大正一四・四・七）

前項ノ慣習ニ依ル親權ノ制限及管理者ノ指定ハ大正十年制令第十四號ニ依リ改正セラレタル朝鮮民事令第十一條ノ規定ノ施行後ニ於テハ同令第一條民法第八百九十二條ノ規定ニ依ルモノトシテ其ノ效力ヲ保有スルモノト解スルヲ相當トス（大正一四・四・七）

○贈與者ノ管理人指定ト親權者ノ處分　第三者カ未成年者ニ贈與シタル財産ニ付管理人アルトキハ其財産ハ親權者ノ管理ニ屬セス親權者ノ之ニ對スル處分行爲ハ代理人カ代理權ヲ踰越シテ爲シタル行爲ニ該當シ民法第百十條ノ適用アルモノトス（昭和四・七・五）

○贈與者ノ管理人指定　第三者カ他人ノ子ニ無償ニテ財産ヲ與フル場合ニ之ヲ親權ヲ行フ父又ハ母ノ管理ニ屬セシメサルカ爲ニハ第三者カ子ニ對シ財産贈與ノ意思表示ト同時ニ之ニ附隨シテ其ノ父又ハ母ヲシテ該財産ヲ管理セシメサル意思ヲ表示スレハ足リ敢テ其ノ父又ハ母自身ニ對シ斯ル意思ヲ表示スルノ要ナキモノトス（昭和五・九・一八）

○贈與ヲ約シタル裁判上ノ和解ト本條第一項　未成年者タル原告ノ贈與ノ履行請求ニ對シ相手方カ贈與ノ意思表示ヲ爲シ同時ニ贈與土地ノ管理ヲ第三者ヲシテ爲サシムル意思表示ヲ爲シタル裁判上ノ和解契約ハ民法第八百九十二條第一項ニ所謂無償ニテ子ニ財産ヲ與フル第三者カ親權ヲ行フ父又ハ母ヲシテ之ヲ管理セシメサル意思ヲ表示シタルトキニ該當スルモノトス（昭和九・一〇・二六）

	卷	頁
	一三	一三
	一三	二三
	一六	一八三
刑	一七	三四四
	二	三八八

○本條ニ依ル管理者ノ權限　同條ニ依リ管理者ニ指定セラレタル者ハ其ノ財産管理ノ目的ヲ達スルニ必要ナル限リハ未成年者ニ代テ裁判上裁判外一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スルモノトス（昭和九・一〇・二六）

第三節　親權ノ喪失

第八百九十六條

○不行跡ノ時期　第一審判決當時親權者カ著シク不行跡ナリシトスルモ第二審判決前既ニ其不行跡止ミタル場合ニ於テハ裁判所ハ親權ノ喪失ヲ命セサルコトヲ得（大正二・七・八）

第八百九十七條

○母ノ財産管理權ノ制限又ハ喪失　朝鮮ニ於テ寡婦タル母カ子ノ財産ヲ管理スル場合ニ於テ著シキ不行跡ヲ爲シ子ノ財産ヲ危クスル虞アルトキハ親族會ハ其管理權ヲ制限シ他ノ管理者ヲ選定スルコトヲ得タルハ大正九年頃ニ於テモ慣習ノ存スル所ナリ（大正一一・四・四）

○管理權ノ制限ト善意ノ第三者　如上財産管理權ノ制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但第三者カ過失ニ因リテ其事實ヲ知ラサリシトキハ此限ニアラサルモノトス（大正一一・四・四）

○管理權ノ制限ト第三者ノ惡意ノ立證　如上管理權ノ制限ヲ主張セントスルモノハ第三者カ意思表示ヲ爲シタル當時該制限ノ事實ヲ知リタルコト若クハ第三者カ之ヲ知ラサリシコトニ付過失アルコトヲ主張シテ之ヲ立證スル責任アルモノトス（大正一一・四・四）

○管理權喪失ト善意ノ第三者　大正十年十一月朝鮮民事令改正前朝鮮ニ於テ無能力者タル子ノ財産ニ對スル母ノ管理權ノ喪失ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス唯第三者カ過失ニ因リテ其事實ヲ知ラサルトキニ限リ之

	三一	三八八
	二	二六三
	九	一一七
	九	一一七
	九	一一七

ニ對抗スルコトヲ得トノ慣習存在セリ（大正一一・九・五）

○子ノ財産ヲ危クスル行爲　親權者カ其親權ニ服スル幼者ノ財産ヲ賣却シ又ハ幼者ノ名義ノ不動産ヲ自己ノ所有名義ニ書換ヘ又ハ養子タル幼者ノ實父ニ對シテ龍養ニ同意センコトヲ求ムル訴訟ヲ提起スルモ其幼者ノ財産ヲ保全シ其利益ヲ擁護スル目的ニ出テタルトキハ此等ノ行爲アリタルノミヲ以テ幼者ノ財産ヲ危クスルモノト爲スヲ得ス（大正五・三・二四）

○破産ノ宣告ト管理權ノ喪失　破産ノ宣告ハ夫レ自體親權者ニ對スル管理權喪失宣告ノ事由タルモノトス（昭和一〇・二・八）

○戸主相續回復請求ニ關スル親權者ノ代理權　未成年者ノ親權者ハ其ノ財産管理權ヲ有セサル場合ニ於テモ未成年者ニ代リ戸主相續回復請求ニ關スル訴訟行爲ヲ爲シ得ルコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリトス（昭和一一・一二・一）

第八百九十九條

○親權者ノ財産管理辭任ノ相手方　親權ヲ行フ母ノ財産管理ノ辭任ハ戸主アルトキハ戸主、戸主ナキトキハ親族會ニ對シテ爲スヘキモノトス（昭和五・二・一四）

○心裡留保ニ依ル財産管理ノ辭任　眞意ニ非サル財産管理ノ辭任ノ意思表示ハ相手方カ其ノ眞意ニ非サルコトヲ知レルトキハ無效ナリトス（昭和五・二・一四）

第六章　後見

第一節　後見ノ開始

第九百條

○祖母ト護後人　朝鮮ニ於テ未成年者ニ對シ親權ヲ行フヘキ者ナキトキニ於テ祖母カ當然護後人トナリ未成年者ノ財産ヲ處分スル權利ヲ有スル慣習ナシ（大正二・二・二八）

○未成年者ノ後見人　朝鮮ニ於テハ未成年者ニ親權者ナキトキハ後見人ヲ設ケ之ヲシテ保護監督ヲ爲サシムル慣習アリ而シテ後見人ハ父母ノ遺言アルトキハ遺言ヲ以テ指定セラレタル者之ニ任シ遺言ナキトキハ伯叔父中年長者之ニ任スルヲ通例トシ此等ノ者ナキトキハ親族協議ノ上近親中ヨリ適任者ヲ選定スル慣習ナリ（大正八・一〇・三〇）

第二節　後見ノ機關

第一款　後見人

第九百一條

○後見人ト其ノ選定　朝鮮ニ於テ未成年者ニ親權者ナキトキハ後見人ヲ設ケ之ヲシテ保護監督ヲ爲サシメタル慣習アリ而シテ後見人ハ父母ノ遺言アルトキハ遺言ヲ以テ指定セラレタル者之ニ任シ遺言ナキトキハ伯叔父中年長者之ニ

巻　頁
九　三四四
三　四四八
三　五
三　三九七
一七　四三
一七　四二

任スルヲ通例トシ此等ノ者ナキトキハ親族協議ノ上近親中ヨリ適任者ヲ選定スル慣習ナリ（大正八・一〇・三〇）

第九百三條

○祖母ト謀後人　朝鮮ニ於テ未成年者ニ對シ親權ヲ行フヘキ者ナキトキニ於テ祖母カ當然謀後人トナリ未成年者ノ財產ヲ處分スル權利ヲ有スル慣習ナシ（大正二・二・二八）

第九百八條

○後見人免黜ノ事由タル不行跡ノ意義　後見人カ假處分ノ命令ヲ無視シテ其ノ職務ヲ行ヒ假處分ニヨル財產管理人タル者ノ職務ヲ妨害シタルノ一事ハ未タ以テ民法第九百八條第八號ニ所謂著シキ不行跡アリト爲スニ足ラサルモノトス（昭和九・四・一三）

○親族會員ノ缺格事由タル訴訟ノ繫屬　親族會員ノ缺格事由ヲ規定セル民法第九百四十六條ニ依リ準用セラルル同法第九百八條第六號ニ所謂訴訟ハ親族會員ヨリ本人ニ對スルモノノミナラス本人ヨリ親族會員ニ對スルモノヲモ包含ス

右訴訟ハ其ノ內容カ當事者雙方ノ利害相反スルモノナルヲ要シ其ノ利害相反スルヤ否ハ訴訟物ニ關スル主張ヨリ觀察スヘク當該訴訟カ不適法ナリヤ否其ノ主張カ實質上理由ナキヤ否將又相手方カ現實ニ應訴セサルヤ否ニ依テ定ムヘキニ非ス

本人ヨリ親族會員ヲ相手取リタル訴訟カ若シ本人ノ法定代理人カ親族會員ニ對スル憎惡ノ感情ニ基キ若ハ自己ノミノ利害ノ爲ニ之ト相反目シ親族會員ノ缺格事由ヲ作爲センカ爲殊更ニ虛僞ノ事實ヲ主張セルモノナルトキハ訴訟ノ內容カ當事者雙方ノ利害相反スルモノトシテ親族會員ノ缺格事由タラシムルヲ得サルモノトス（昭和一〇・七・一九）

○本條第六號ニ所謂訴訟ノ意義　民法第九百四十六條ニ依リ親族會員ニ準用セラルル同法第九百八條第六號ニ所謂訴訟ハ未成年者ヨリ親族會員ヲ相手取リ起サレタル免黜ノ訴訟及親族會決議無效確認ノ訴訟ヲ包含セサルモノトス（昭和一〇・一〇・一一）

第三節　後見ノ事務

第九百三十二條

○假處分命令ニ因ル假後見人ノ地位　假處分命令ニ依リテ後見事務ヲ行フ者ノ地位ハ該命令ノ賦與スルモノニシテ命令ノ性質上第三者ノ介與ヲ許スヘカラサルモノナルカ故ニ親族會ニ於テ之ヲ奪フハ勿論其ノ權能ヲ制限シ若クハ他人ヲシテ之ニ代ラシムル等假處分ノ內容ヲ變更シ若クハ其ノ趣旨ヲ沒却スルカ如キ行爲ハ之ヲ爲シ得サルモノトハサルヘカラス（昭和一〇・二・一二）

第九百三十六條

○親族會ノ同意ナキ行爲ノ追認　後見人カ親族會ノ同意ヲ得スシテ被後見人ニ代リテ爲シタル行爲ヲ追認スルニハ其ノ取消ノ原因タル事由ノ除去セラレタル後即チ親族會ノ同意ヲ得タル後之ヲ爲スニ非サレハ其ノ效ナシト解スルヲ相當トス（昭和四・六・二五）

第七章　親族會

第九百四十四條

○利害ヲ異ニスル親權者ト親族會ノ招集　民法第八百八十八條ノ規定ハ親權ヲ行フ父又ハ母ト其ノ未成年ノ子

ト利益相反スル行爲ニ付テハ父又ハ母ハ其ノ子ノ爲ニ特別代理人ヲ選任スルコトヲ親族會ニ請求スヘキ義務アルコトヲ規定シタルモノニシテ事件本人ノ親族等カ民法第九百四十四條ノ規定ニ依リ附與セラレタル親族會ノ招集ヲ裁判所ニ請求スルノ權利ヲ制限シタルモノニ非ス（大正一三・一・一八）

○養子選定ノ爲ノ親族會　朝鮮民事令第十一條第一項ノ親族會ニ關スル規定ハ朝鮮人ノ養子選定ノ爲メ開クヘキ親族會（從前ニ於ケル門會）ニ付テモ民法ノ親族會ニ關スル規定ニ依ラシムル趣旨ト解スヘキモノトス（昭和三・四・一三）

第九百四十五條

○親族會員選定決定取消ノ效力　親族會員選定決定ハ該決定アルト同時ニ執行力ヲ生シ後日其ノ裁判カ取消サルルニ至ルモ該決定ニ依リ選定セラレタル親族會員ノ既ニ爲シタル行爲ノ效力ニ何等ノ影響ナキモノトス（昭和八・五・一二）

第九百四十六條

○親族會員ノ缺格事由タル訴訟ノ繫屬　親族會員ノ缺格事由ヲ規定セル民法第九百四十六條ニ依リ準用セラルル同法第九百八條第六號ニ所謂訴訟ハ親族會員ヨリ本人ニ對スルモノノミナラス本人ヨリ親族會員ニ對スルモノヲモ包含ス

右訴訟ハ其ノ內容カ當事者雙方ノ利害相反スルモノナルヲ要シ其ノ利害相反スルヤ否ハ訴訟物ニ關スル主張ヨリ觀察スヘク當該訴訟カ不適法ナリヤ否其ノ主張カ實質上理由ナキヤ否將又相手方カ現實ニ應訴セサルヤ否ニ依テ定ムヘキニ非ス

本人ヨリ親族會員ヲ相手取リタル訴訟カ若シ本人ノ法定代理人カ親族會員ニ對スル憎惡ノ感情ニ基キ若ハ自己ノミノ利害ノ爲ニ之ト相反目シ親族會員ノ缺格事由ヲ作爲センカ爲殊更ニ虛僞ノ事實ヲ主張セルモノナルトキハ訴訟ノ內容カ當事者雙方ノ利害相反スルモノトシテ親族會員ノ缺格事由タラシムルヲ得サルモノトス（昭和一〇・七・一九）

第九百四十七條

○無資格者ノ參加ニ因ル親族會ト決議ノ效力　親族會員タル資格ヲ有セサル後見監督人カ會員トシテ參加シタル親族會ハ其ノ構成不適法ニシテ決議ハ當然無效ノモノト謂フヘク他ノ有資格者カ參加シ之ニ依レハ過半數ノ同意ヲ以テ決議ニ歸スル場合ト雖其ノ決議ヲ有效ナラシムルニ由ナシ（昭和九・九・二一）

第九百四十九條

○特別代理人選任ノ爲ニスル親族會ト其ノ存續　親族會カ親權ヲ行フ母ト未成年者トノ利害相反スル行爲ニ付特別代理人選任ノ爲ニ招集セラレタル場合ト雖其ノ未成年者ノ無能力ノ止ムマテ繼續ス（昭和九・五・二九）

○未成年者カ養子ト爲リタル場合ト親族會　未成年者カ他家ニ養子トシテ入リタルニ因リ從前ノ親族會ハ解散スルコトナク未成年者カ既ニ養子トシテ他家ニ入リタルニ拘ラス依然實家ニ在ルモノトシテ招集セラレタル場合亦同斷ナリ（昭和九・五・二九）

第九百五十條

○親族會ノ補缺員選定決定ト親族會員タル資格　無能力者ノ爲ニ設ケラルル親族會ハ法律上唯一ニ限定セラレ數箇ノ存在ヲ許サレサルモノナレハ適法ニ親族會成立シタルトキハ爾後缺員ナキ限リ裁判所カ決定ヲ以テ其ノ補缺員ヲ選任スルモ被選定者ハ之ニ因リテ親族會員タル資格ヲ取得スルヲ得サルモノトス（昭和七・六・三）

第九百五十一條

○代理人若ハ使者ヲ以テスル親族會ノ決議ト不服ノ訴　親族會員カ代理人ニ依リ若ハ使者ヲ以テ意思表示ヲ

巻	頁
二	一
一五	一〇〇
三〇	三三〇
三三	二四八
三二	三三一
三二	一七八
三二	一七八
一九	一三五

爲シタル決議ハ假令他ノ會員ノ意見ト一致シ且斯ル方法ニ付異議ナカリシトスルモ不適式ノモノトシテ不服ノ訴ニ依リ取消サルヘキモノトス（昭和一一・六・二）

第八章　扶養ノ義務

第九百五十四條

○父ノ扶養義務　父カ子ヲ扶養スヘキ義務ヲ負擔スルコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ニシテ其子カ父ノ家ニ在ルト否ト又他ニ戸主ノ有ルト否ト又其子ノ母ノ存スルト否トニ依リテ其義務ニ區別ナキモノトス（明治四五・六・二八）　巻一　頁一四八六

○婚家ヲ去リタル母ノ扶養義務　寡婦タル養母ハ婚家ヲ去リテ實家ニ復籍シタル後ト雖婚家ニ其實子ノ存スルニ於テハ實子トノ血族關係ニ基ク扶養ノ義務其ノ他ノ權利義務ニ付重大ナル關係ヲ有スルヲ以テ婚家ニ在ル養子ニ對シ養子緣組無效ヲ主張スルニ付正當ナル當事者トシテノ適格ヲ有スルモノトス（大正一五・九・二八）　巻一三　頁二六四四

第九百五十五條

○戸主タル夫ノ妻ニ對スル扶養義務　戸主ニシテ且夫タルノ地位ヲ有スル者ハ其ノ家族タル妻ニ對シ法律上別異ノ事由ニ因リ二重ニ扶養義務ヲ負フモノナルカ故ニ其ノ一ノ免脫ハ他ノ義務ノ消長ニ影響ヲ及ホスコトナク各個ノ義務ハ民法第九百五十五條ニ定ムル順序ニ從ヒテ履行セラルヘキモノトス（大正一三・四・一八）　巻二二　頁七一

○戸主ノ扶養義務履行ノ順位　戸主カ扶養義務ヲ負擔セル場合ニハ他ニ扶養義務者アルト否トニ拘ラス第一順位ニ於テ之ヲ履行スヘキモノトスルハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（昭和六・五・一九）　巻一六　頁一〇〇

第九百五十九條

○過去ノ扶養料請求　過去ニ於ケル扶養料ニ付テハ扶養義務者カ扶養權利者ヨリ裁判上又ハ裁判外ニ於テ扶養義務ノ履行ヲ求メタルニ拘ラス其ノ履行ヲ遲滯シタル以後ノ分ノミニ限リ之ヲ請求シ得ルモノトス（昭和四・二・一五）　巻一六　頁一三

第九百六十一條

○扶養義務者ノ同居請求　妻カ夫ノ虐待ニ因テ同居スルコト能ハサルカ故ニ別居シテ扶養料ヲ請求シタル場合ニハ夫ハ同居ヲ請求スルコトヲ得ス他ニ適當ナル扶養ノ方法ヲ指定シテ其ノ義務ノ履行ヲ提供スルニ非サレハ其ノ義務ヲ免ルルコト能ハス

請求ヲ受ケテ履行セサル過去ノ扶養義務ノ履行ハ扶養料ノ支拂ニ依ルノ外ナシ

夫婦不和ノ原因カ何レノ責ニ歸スヘキトキト雖同居ニ堪エサル狀態ニ在ルトキハ別居シテ扶養料ノ請求ヲナスコトヲ得（昭和八・二・三）　巻二〇　頁三六

第五編　相續――朝鮮民事令第十一條

第一章　家督相續

第一節　總則

祭祀繼承

○宗家奉祀　宗家嗣ナキトキハ支系ヨリ入ツテ宗家ヲ繼承シ一族ニ關スル祖先ノ祭祀ヲ主宰スルコト竝ニ此等ノ者ヲ宗孫ト稱スルコトハ朝鮮ニ於ケル從來ノ慣習トス（明治四四・四・二七）　巻一　頁二四七

○宗　孫　一門ノ宗孫トシテ本系ノ相續ヲ爲ス場合ハ嘗ニ戸主權財產權ノ相續ノミナラス門祖ノ祭祀權ヲモ相續スヘ

キコト朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（大正六・一二・一一）

○亡既婚男ノ家統ニ於ケル地位ト遺妻ノ改嫁　朝鮮ニ於テ長子カ婚姻後ニ死亡シタルトキハ家統上既ニ祭祀相續ヲ爲シタル場合ト同一ニ看做シ世代ニ加フル慣習アルモ長子ノ妻カ長子死亡後失行改嫁シタルトキ其長子ヲ不成婚ト同一ニ看做シ家統ヲ繼クヘキ資格ヲ喪失ストスル慣習ナシ（大正五・八・一八）

○債務ノミノ遺產ト祭祀相續人ノ承繼　家族死亡ノ場合ニ於テ遺產相續人カ被相續人ノ長男又ハ長孫ノ如キ祭祀者ナルトキハ假令被相續人カ消極的資產即チ債務ノミヲ殘シタル場合ト雖之ヲ承繼スヘキモノナルコトハ遺產相續ニ關スル朝鮮從來ノ慣習ナリ（大正五・一二・二六）

○庶子ト養子緣組　朝鮮ニ於テハ既往殊ニ舊韓國時代ニ在リテハ戶主タル被相續人ニ庶出ノ男子アル場合ト雖被相續人カ他ヨリ養子ヲ爲シ其ノ養子ハ相續ニ關シ嫡出ノ男子ト同一ノ權利ヲ有スル慣習存在シタレトモ是唯被相續人カ生前ニ於テ養子緣組ヲ爲シ若ハ遺言ヲ以テ養子ヲ指定スル場合ニ之ヲ有效トスルモノニ過キスシテ被相續人ノ親族等カ被相續人死亡後他ヨリ養子ヲ爲シ之ヲシテ被相續人ノ家統ヲ相續セシメ得ル一般慣習ハ存在セサリシモノトス（昭和二・二・一五）

○亡長男ノ庶子ノ祭祀相續權　前項ノ慣習ノ趣旨ハ既婚ノ長男戶主ニ先チテ死亡シ其ノ庶子男ナル場合ニ亦之カ適用アリ即チ戶主ノ生存中既婚ノ長男死亡シタル場合ニ於テ亡長男ニ庶出ノ男子アルニ止マルトキハ其ノ者ハ當然亡長男ヲ奉祀シ其ノ遺產ヲ承繼スルモノニシテ（廣義ニ於ケル祭祀相續ノ一種）亡長男ノ死亡後親族等ニ於テ亡長男ノ爲ニ養子ヲ爲スコトヲ許ササル慣習存在シタルモノトス（昭和二・二・一五）

○死後養子選定前ノ祭祀　亡戶主ノ妻カ養子ヲ選定セサル間ニ於ケル祖先ノ祭祀ハ攝祀ト稱シ女戶主カ權リニ之ヲ行ヒ又ハ近親タル男子其ノ祭祀ヲ攝行スヘキモノトス（大正一四・五・五）

卷	頁
四	一〇六六
三	六九六
三	一〇一八
一四	二二
一四	二二
一二	一七四

○收養子ノ相續權　朝鮮ニ於テハ養子タルモノハ同姓ノ適格者タルコトヲ要シ異性ノ兒ヲ養育シテ子ト爲ス場合ニハ之ヲ收養子ト稱シ父祖ノ祭祀及財產ヲ承繼スヘキ養子ト區別セリ

故ニ收養子ハ養家ノ祭祀及遺產ヲ相續スルヲ得サルコト朝鮮ニ於ケル顯著ナル慣習ナリ（大正一一・五・五）

○次養子ノ相續　次養子カ養親ノ嫡出子タル身分ヲ取得シ相續ニ因リ戶主ト爲リ財產ヲ承繼スルハ終局的ノモノニシテ次養子ニ男子出生スルモ之ニ因リテ戶主相續及財產相續開始スルコトナク次養子ハ依然其地位ヲ保有スルモノニシテ次養子緣組ニ因ル親族法上及相續法上ノ效果ハ普通ノ養子緣組ニ於ケルモノト同一ナリトスルヲ朝鮮ニ於ケル現行慣習ト認ム（昭和三・四・一三）

○次養子ノ死亡ト祭祀承繼ノ爲ノ養子　然レトモ次養子ハ養家ニ於ケル祭祀系統ヨリ除外セラレ祭祀者タル地位ヲ承繼スルコトナクシテ唯祭祀ヲ攝行シ得ルニ過キサルモノナルヲ以テ次養子カ男子ナクシテ死亡シタルトキハ養家ニ於ケル最後ノ祭祀者タリシ既婚男子ノ爲ニ養子ヲ爲スヘク次養子タル亡男ノ爲ニ養子ヲ爲スヘキモノニ非ス（昭和三・四・一三）

○外孫奉祀　嘗テ妾タリシ者既ニ戶主トナリタル後死亡シタルトキハ之ト其家ヲ同フセサル者ハ假令被相續人ノ夫タリシ者ノ子孫ト雖當然相續人タルコトヲ得ス而シテ該女戶主ハ當然相續人タル者存セサル場合ニ於テ外孫其他ノ者ニ祭祀ヲ委託シ且其遺產ヲ承繼セシムルヲ得ヘキコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（大正二・五・六）

○祭祀相續ノ觀念　戶主相續及財產相續ノ制度確立セル現今ニ於テ之ヲ除外セル祭祀相續ノ觀念ハ先代ヲ奉祀シ且祖先ノ祭祀ヲ奉行スヘキ道義上ノ地位ヲ承繼スルコトニ外ナラス（昭和八・三・三）

○系譜ノ改變　系譜ハ其一族ノ系統ヲ明ニスルモノナレハ漫ニ改變スヘキモノニアラサルモ所持者カ擅ニ改變シタル場合ニ於テ一般族人ハ勿論宗孫ト雖之カ復舊ヲ請求スルノ權利ナシ（明治四五・七・三三）

卷	頁
九	一七〇
一五	一〇〇
一五	一〇〇
二	一九六
二〇	一五四
一	四九九

婦女ノ地位

○婦女ノ相續法上ノ地位　女子ハ家督相續人タルコトヲ得サルモ遺產相續人タルコトヲ得ヘキハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（大正六・一・一六）

○妻ノ相續　戶主死亡シ男子孫ナク妻ト女ノミ存スル場合ニ在リテハ妻ニ於テ亡戶主ノ遺產ヲ相續スルヲ朝鮮ニ於ケル慣習トス（大正二・九・二六）

○妻ノ相續　夫死亡シテ男子ノ相續人ナキトキ妻ニ於テ亡夫ノ遺產ヲ相續スヘキハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（大正六・一・一六）

○婦女ノ財產管理權　朝鮮ニ於テ婦女ハ財產ニ關スル行爲ヲ爲スコトヲ得ス門中ノ最モ近キ者ニ於テ當然其財產ノ管理ヲ爲スヘキモノナリトノ慣習ナシ（大正六・一・一六）

○母ノ相續　同一ノ家ニ在ル母カ戶主タル其子ノ死亡ニ因リ男子ノ相續人アルニ至ル迄其遺產ヲ相續スヘキハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（大正六・一・一六）

○同　上　朝鮮ニ於テ夫死亡シ其家督相續人タルヘキ男子モ死亡シ單ニ其男子ノ母タル者カ生存スル場合ニ門中協議ノ決定ニ據リ相當ノ者ヲ選定シ相續人ノ定マル迄一時遺產ノ管理ヲ委託セサルヘカラストノ慣習ナシ（大正六・一・一六）

○婦女ノ相續順位　戶主死亡シ其家督ヲ相續スヘキ男子ナキ場合ニ於テ其家ニ祖母、母、妻共ニ存スルトキハ男子ノ相續人アルニ至ル迄祖母、母、妻ノ順序ニテ戶主權、財產權ヲ相續スヘキコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリトス（大正一一・一二・一）

○次養子ノ死亡ト妻ノ相續　次養子カ男子ナクシテ死亡シタルトキハ其妻カ戶主權竝ニ亡戶主ノ遺產ヲ相續スルモノニシテ其相續後死後養子カ選定セラレタル場合ニハ該養子ハ亡戶主死亡ノ日ニ遡リテ戶主權竝亡戶主ノ遺產ヲ相續スルニ非スシテ其選定セラレタル日ニ亡戶主ノ妻ヨリ之カ相續ヲ爲スモノナリ從テ若シ右養子カ之カ選定ヲ受ケタルニ拘ラス遺產相續ニ依ル不動產所有權ノ取得ヲ登記セス而モ他面ニ於テ其先代タル亡戶主ノ遺產タル不動產ヲ他ニ賣却シタルトキハ其不動產ノ買受人ハ朝鮮民事令第十三條ニ所謂第三者ニ該當スルモノナルヲ以テ遺產相續ニ因リ該不動產ノ所有權ヲ取得シタル右養子モ之ヲ以テ第三者タル右買受人ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス（大正九・一二・一八）

○他家ニ嫁シタル女子ノ實家ニ於ケル財產相續ノ失格　朝鮮人タル女子カ嫁シテ他家ニ在ル以上ハ其實家ニ於ケル財產相續人タル資格ヲ喪失シ其相續ヲ爲スコト能ハサルハ朝鮮ニ於ケル顯著ナル慣習ナリトス（大正二・四・二二）

○女戶主ノ遺產ト出嫁女ノ相續　女戶主タルモノ死亡シ其相續ヲ爲スヘキモノアラサル場合ニ於テ其遺產ハ出嫁女ニ歸スルコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリト雖其出嫁女トハ女戶主ノ子女タルコトヲ以テ足レリトセス其家ヨリ出テタルモノナルコトヲ必要トス（大正一一・九・二二）

死後養子ト被相續人

○死後養子ノ相續　戶主ノ死亡後其養子ト爲リタル者ハ其養子緣組ト同時ニ當然戶主ト爲ルコトモ亦朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（大正六・七・六）

○死後養子選定前ノ遺產ノ管理　朝鮮ノ慣習ニ依レハ男戶主死亡シ其ノ死後養子ヲ選定スヘキ場合ニ於テ之カ選

（大正九・一・二七）

○妻ノ相續權　遺產相續ニ因ル不動產所有權ノ取得モ其登記ヲ爲スニ非サレハ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス而シテ朝鮮ニ於テハ戶主カ男子孫ナクシテ死亡シタルトキハ其妻カ戶主權竝ニ亡戶主ノ遺產ヲ相續スルモノニシテ其相續後死後養子カ選定セラレタル場合ニハ該養子ハ亡戶主死亡ノ日ニ遡リテ戶主權竝亡戶主ノ遺產ヲ相續スルニ非スシテ其選定セラレタル日ニ亡戶主ノ妻ヨリ之カ相續ヲ爲スモノナリ從テ若シ右養子カ之カ選定ヲ受ケタルニ拘ラス遺產相續ニ依ル不動產所有權ノ取得ヲ登記セス而モ他面ニ於テ其先代タル亡戶主ノ遺產タル不動產ヲ他ニ賣却シタルトキハ其不動產ノ買受人ハ朝鮮民事令第十三條ニ所謂第三者ニ該當スルモノナルヲ以テ遺產相續ニ因リ該不動產ノ所有權ヲ取得シタル右養子モ之ヲ以テ第三者タル右買受人ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス（大正九・一二・一八）

○他家ニ嫁シタル女子ノ實家ニ於ケル財產相續ノ失格　朝鮮人タル女子カ嫁シテ他家ニ在ル以上ハ其實家ニ於ケル財產相續人タル資格ヲ喪失シ其相續ヲ爲スコト能ハサルハ朝鮮ニ於ケル顯著ナル慣習ナリトス（大正二・四・二二）

○女戶主ノ遺產ト出嫁女ノ相續　女戶主タルモノ死亡シ其相續ヲ爲スヘキモノアラサル場合ニ於テ其遺產ハ出嫁女ニ歸スルコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリト雖其出嫁女トハ女戶主ノ子女タルコトヲ以テ足レリトセス其家ヨリ出テタルモノナルコトヲ必要トス（大正一一・九・二二）

死後養子ト被相續人

○死後養子ノ相續　戶主ノ死亡後其養子ト爲リタル者ハ其養子緣組ト同時ニ當然戶主ト爲ルコトモ亦朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（大正六・七・六）

○死後養子選定前ノ遺產ノ管理　朝鮮ノ慣習ニ依レハ男戶主死亡シ其ノ死後養子ヲ選定スヘキ場合ニ於テ之カ選

卷	頁
四	一
四	一
二	三二八
四	一
四	五
四	一
四	五
九	五一三
七	二
七	四八三
二	一九〇
九	三七〇
四	六六七

定アル迄ノ間單ニ死者ノ旁系血族タル家族ノミアルトキト雖其者ハ一時遺產ヲ管理スルコトアルハ格別當然之ヲ相續スルコトナシ而シテ死後養子ハ其ノ選定ノ時ニ於テ當然男戶主ヨリ遺產ヲ相續スルコト（昭和三・九・二一）

○死後養子ノ相續ト被相續人　遺產相續ニ因ル不動產所有權ノ取得モ其登記ヲ爲スニ非サレハ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス而シテ朝鮮ニ於テハ戶主カ男子孫ナクシテ死亡シタルトキハ其妻カ戶主權竝ニ戶主ノ遺產ヲ相續スルモノニシテ其相續後死後養子カ選定セラレタル場合ニハ該養子ハ亡戶主死亡ノ日ニ遡リテ戶主權竝亡戶主ノ遺產ヲ相續スルニ非スシテ其選定セラレタル日ニ亡戶主ノ妻ヨリ之カ相續ヲ爲スモノナリ從テ若シ右養子カ之カ選定ヲ受ケタルニ拘ラス遺產相續ニ依ル不動產所有權ノ取得ヲ登記セス而カモ他面ニ於テ其先代タル亡戶主ノ妻カ亡戶主ノ遺產タル不動產ヲ他ニ賣却シタルトキハ其不動產ノ買受人ハ朝鮮民事令第十三條ニ所謂第三者ニ該當スルモノナルヲ以テ遺產相續ニ因リ該不動產ノ所有權ヲ取得シタル右養子モ之ヲ以テ第三者タル右買受人ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス（大正九・一二・一八）　一五　二六八

○未婚戶主ノ死亡ト相續　戶主死亡シ其ノ男子ニ於テ一旦戶主權及財產權ヲ相續シタルモ未婚ニシテ死亡シタルトキハ之ヲ世代ニ數ヘス故ニ他ニ男子ナキトキハ先代亡戶主ノ死後養子ヲ定メテ之カ相續ヲ爲サシムヘキモノニシテ其ノ死後養子ノ選定アルマテハ先代亡戶主ノ祖母、母、妻ノ順序ヲ以テ其ノ戶主權及財產權ヲ相續スヘキモノナルモ唯妾ハ家族タルト否トヲ又未婚亡戶主ノ生母タルト否トニ拘ハラス常ニ相續人タルヲ得サルモノト爲スヲ以テ朝鮮ニ行ハルル慣習ナリトス（大正一四・六・一六）　七　四八三

○死後養子ト相續　戶主ノ死亡後其養子ト爲リタル者ハ其養子縣組ト同時ニ當然戶主ト爲ルコトモ亦朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（大正六・七・六）　一　一三五

○死後養子ノ相續ト被相續人　朝鮮ノ慣習ニ依ル死後養子ハ祭祀相續ノ關係ニ於テ養父ノ直接ノ相續人トシテ其ノ世代ヲ算スヘキモノニシテ養父死亡後養子ノ選定ヲ見ルマテノ間其ノ寡婦又ハ未婚ノ男子ニ於テ一旦戶主權及財產權ヲ包括的ニ承繼スルモノト認ムヘキモノトス（大正一四・六・一六）　四　六六七

○死後養子ノ相續ノ時期　朝鮮ノ慣習ニ於テハ戶主死亡前其長男カ既ニ死亡セル場合ニ於テ其長男カ既婚者ナルトキハ亡長男ノ爲ニ養子ヲ選定スヘク其選定アル迄亡戶主ノ遺產ハ其妻ニ於テ之ヲ承繼シ養子ノ選定アルトキハ養子ハ其遺產ヲ亡戶主ノ妻ヨリ承繼スルモノトス（大正一〇・三・二四）　前八　六五

○未婚戶主ノ死後養子ト被相續人　朝鮮ノ慣習ニ依ル死後養子ハ祭祀相續ノ關係ニ於テ養父ノ直接ノ相續人トシテ其ノ世代ヲ算スヘキモノニシテ養父死亡後養子ノ選定ヲ見ルマテノ間其ノ寡婦又ハ未婚ノ男子ニ於テ一旦戶主權及財產權ヲ承繼シタル場合ニ於テモ尙然リトス爲スヘキモノナルモ戶主相續及遺產相續ノ關係ニ於テハ死後養子ハ其ノ養子ト同時ニ當然一旦戶主トナリタル寡婦又ハ未婚ノ男子ヲ通シテ戶主權及財產權ヲ包括的ニ承繼スルモノト認ムヘキモノトス（大正一四・六・一六）　一二　三二五

○家族ノ遺妻ノ相續權ト死後養子　家族タリシ既婚男ノ死亡ニ因リ遺妻カ遺產相續ヲ爲シタルトキハ亡男カ戶主ノ長男タルト否トニ拘ラス遺妻ハ其ノ相續財產ニ付終局的ニ之カ權利ヲ取得スルモノトス從テ後日亡男ノ爲ニ養子ヲ爲スモ養子ハ既ニ遺妻ノ相續シタル亡男ノ遺產ヲ承繼スルコトヲ得サルモノトス（昭和二・一〇・七）　一四　三二九

○女子相續後ノ亡父ノ死後養子　戶主男死亡シ女子ノ外ニ家ニ在ル者ナキトキハ女子相續ス故ニ女子ノ生存中ハ勿論死亡後ト雖前戶主男ノ死後養子ノ選定セラレタルトキハ其ノ者ニ於テ祭祀權戶主權及ヒ遺產ノ全部ヲ相續シ戶主權及ヒ遺產ハ女戶主ヲ通シテ之ヲ承繼スルモノトス（昭和六・二・六）　八　二四

○死後養子カ女戸主ヨリ承繼スヘキ財産ノ範圍　戸主タル地位ニ在ル亡男戸主ノ遺妻カ戸主ト爲ル前ヨリ有セシ財産竝其ノ家又ハ相續財産ニ關係ナク取得シタル財産ハ其ノ固有財産トシテ相續開始ノ場合被相續人タル遺妻ニ於テ之ヲ保有スヘク之ニ反シ先代ヨリ相續シタル財産若ハ之ニ基因スル財産及其ノ家ノ爲ニ取得シタル財産即チ戸主タル地位ニ牽聯シテ取得シタル財産ハ所謂家産トシテ次代ノ戸主タルヘキ養子ニ於テ相續スヘキモノト解スルヲ相當トス（昭和六・一二・八）

兄亡弟及

○兄亡弟及ノ法則　兄亡弟及ノ法則ハ父カ戸主トシテ被相續人タル地位ニ在ル場合ニ兄其父ノ相續開始ニ先チテ死亡シ其兄カ既婚者ニ非サリシトキニ相續順位ノ其弟ニ及フコトヲ認メタルモノニ過キス（大正九・六・二三）

○弟ノ相續　兄カ戸主ト爲リテ被相續人ノ地位ニ在ルトキハ弟ハ之カ相續人タルコトヲ得スト爲スヲ朝鮮ニ於ケル相續法上ノ慣習トス（大正九・六・二三）

○弟姪ノ相續　朝鮮ニ於テ宗家戸主タル者ニ相續人タルヘキ男子ナキ場合其ノ弟又ハ姪ハ當然宗家ノ相續人ト爲ル慣習ナシ從テ宗家戸主ノ弟カ養子ト爲リテ他家ニ入ル場合ニ於テ其ノ男ハ縱令宗家ニ嗣子ナキトキト雖已ニ宗家ノ養子ト爲リタルモノニ非サル限リハ父ニ隨ヒテ父ノ養家ニ入ルニ何等ノ支障ナキモノトス（大正一二・九・二一）

分財請求權

○家督相續ト相續財産ノ分配　戸主死亡シ嫡庶ノ男子數人アル場合ニ於テ其遺産全部ハ一旦祭祀相續人ノ所有ニ歸シ其他ノ嫡庶男ハ其遺産ニ付祭祀相續人ヲシテ相當相續分ノ分配ヲ爲サシムル權利ヲ有スルニ過キス而シテ其遺産ニ對スル所有權ハ相續開始ノ時ニ於テ當然取得スルニアラスシテ分配ニ因テ之ヲ取得スルモノナルコトハ朝鮮人間ニ於ケル一般ノ慣習トス（大正二・七・一一）

○同　上　遺産ノ分與ヲ受クル權利ヲ有スル者ハ祭祀相續人ヲシテ相續分ノ分配ヲ爲サシムルノ權利ヲ有スルニ過キス故ニ其者ニ於テ分配セラルヘキ特定ノ目的物ヲ指示シテ其贈與ヲ請求スルハ失當ナリ（大正四・七・九）

○分配請求權ノ性質　朝鮮人タル戸主ノ長男カ戸主ノ死亡ニ因リ戸主相續ヲ爲シ前戸主ニ屬セシ一切ノ財産ヲ承繼シタル場合ニ於テ朝鮮ノ慣習ニ從ヒ其ノ財産ノ幾部ヲ次弟以下ノ衆子ニ分與スルハ當該相續人カ慣習上定マレル義務履行ヲ爲スニ外ナラスシテ所謂贈與ニ該當スルモノニ非ス（昭和四・一二・三）

○分財請求權ノ拋棄ト慣習　戸主相續開始後分財請求權ノ拋棄ヲ禁スル如キ慣習ハ朝鮮ニ於テ存スルコトナシ（昭和一一・一〇・一三）

其ノ他

○隱居ニ因ル相續　從來朝鮮ニ於テハ隱居ニ因ル相續開始ヲ認ムル法規慣習存セス（大正元・一一・五）

○不在者ノ財産ト長子ノ管理權　家長タル父カ多年所在不明ナルトキハ其長子ハ父ノ財産管理者タル資格ニ於テ自己ノ名ヲ以テ侵奪者ニ對シ財産權ノ回復ヲ請求シ得ヘキハ朝鮮ニ於ケル一般ノ慣習ナリ（明治四四・五・一八）

第九百六十四條

○隱居ニ因ル相續　從來朝鮮ニ於テハ隱居ニ因ル相續開始ヲ認ムル法規慣習存セス（大正元・一一・五）

○次養子ノ男子ト養家ノ家督相續權　次養子ト爲リタル者カ男子ヲ出生シタルトキハ其男子ハ出生ト同時ニ當然養家ノ家督相續人ト爲ルモノニシテ養子ニ選定セラレテ始メテ其家督相續人ト爲ルモノニ非サルコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（大正九・三・一二）

○次養子ノ子ノ相續ト次養子ノ責任　次養子カ負擔シタル債務ハ其ノ子カ相續シタル後ニ於テモ尚次養子ニ對シテ請求シ得ヘキコトハ朝鮮ノ慣習ナリトス（昭和二・二・二五）

○次養子ノ親族法上及相續法上ノ地位　次養子カ養親ノ嫡出子タル自分ヲ取得シ相續ニ因リ戸主ト爲リ財産ヲ

卷	頁
一八	二一三
七	二八七
七	二八七
一〇	二七六
三	二七三
三	二五七
一六	二七二
二三	三一三
二	四九
一	二七〇
二	四九
七	八八
一四	五二

承繼スルハ終局的ノモノニシテ次養子ニ男子出生スルモ之ニ因リテ戸主相續及財産相續開始スルコトナク次養子ハ依然其地位ヲ保有スルモノニシテ次養子緣組ニ因ル親族法上及相續法上ノ效果ハ普通ノ養子緣組ニ於ケルモノト同一ナリトスルヲ朝鮮ニ於ケル現行ノ慣習ト認ム（昭和三・四・一三）

第九百六十六條

○上疏ニ關シテ與ヘタル相續回復ノ命令　上疏ニ關シテ與ヘタル命令ハ判決ト同視スヘキモノニアラサルハ勿論舊韓國時代ニ於テモ之ヲ判決ト同視シタル慣習ナシ又其命令ニ於テ罷養ヲ取消シ相續權ヲ回復セシムルコトヲ命スルモ既ニ存立シタル罷養行爲ヲシテ當然無效ニ歸セシムルコトナシ（大正三・七・二四）　二四四三

○相續回復權　朝鮮ニ於テ正當相續人ノ相續回復權ヲ否定シタル慣習ナシ（大正九・六・二三）　七　二八七

○家督相續回復ノ訴ト訴ノ原因　家督相續回復ノ訴ニ在リテ原告カ被告ニ相續權ナキ事由トシテ頭初被相續人甲ノ養子乙ハ甲ノ遺言ニ依リ罷養セラレタルヲ以テ乙ハ甲ノ相續權ナク從テ乙ノ養子タル被告モ亦其ノ相續權ナキモノナル旨主張シ爾後乙ハ其實家ニ於ケル長男ニシテ甲家ハ乙ノ宗家ニアラサルヲ以テ乙ハ甲ノ養子タル資格ナキモノニシテ甲乙間ノ養子緣組ハ無效ナレハ乙ノ養子タル被告ハ甲ノ相續權ナキ旨主張シ更ニ其ノ養子緣組有效ナリトスルモ乙ハ甲ヨリ罷養セラレタル旨附加陳述スルモ訴ノ請求原因ヲ變更シタルモノト爲スヲ得ス（大正一二・九・二五）　一〇　二八七

○養子緣組無效ヲ理由トスル相續回復ノ訴ノ相手方　朝鮮人ノ養子緣組無效ノ訴ニ於テハ養父及養子ヲ以テ訴訟ノ相手方ト爲スヘク養父ノ死亡シタル後ハ養母及養子ヲ以テ相手方ト爲スモノナリト雖相續回復ノ訴ニ於テハ縱令其ノ內容ニ於テ緣組ノ當否カ審理セラルル場合ナリトスルモ慣稱相續人ヲ相手方ト爲スヲ以テ足ル（昭和二・八・九）　一四　二四三

○相續人ノ死亡ト相續回復請求權　相續權ヲ侵害セラレタル相續人カ相續回復ノ請求權ヲ行使セスシテ死亡シタルトキハ其ノ請求權ハ消滅スヘシト雖其ノ者ノ相續人ハ自己ノ相續權ヲ侵害セラレタルコトヲ理由トシテ相續ノ回復ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス（昭和四・七・一二）　一六　一八九

○戸主相續回復請求ニ關スル親權者ノ代理權　未成年者ノ親權者ハ其ノ財産管理權ヲ有セサル場合ニ於テモ未成年者ニ代リ戸主相續回復請求ニ關スル訴訟行爲ヲ爲シ得ルコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリトス（昭和一一・一二・一）　一三　三九七

○相續回復請求權ノ出訴期限　朝鮮民事令ノ施行ニ依リ其前後ニ法律ノ變更アルコトナキ朝鮮人ノ外關係ナキ相續回復請求權ノ出訴期限ニ關シテハ朝鮮民事令第八十一條ノ適用ナシ（大正九・三・一二）　七　八八

○相續回復請求權ノ時效及出訴期限　朝鮮民事令ノ施行セラレタル明治四十五年四月一日以後ニ於テモ朝鮮人ノ親族相續ニ關スル事項ニ付テハ民法第四編及第五編ノ規定ハ全然其適用ナク專ラ慣習ニ依ルヘキモノニシテ相續回復請求權ノ如キ相續法上ノ權利ノ時效ニ付テハ民法第九百六十六條ノ規定ヲ適用スルヲ得ス慣習ニ依ルヘキモノナレトモ朝鮮ニ於テハ未タ此點ニ關シ一定セル慣習ナク從テ其相續回復請求權ハ今日尙時效若ハ出訴期限ノ定ナキ權利ナリトス（大正九・三・一二）　七　八八

○相續回復ノ請求權ト出訴期限　舊韓國隆熙三年法律第二十號民事訴訟期限規則ニ相續回復請求權ノ如キ相續法上ノ權利ニ付訴訟期限ノ規定ヲ設ケサリシヲ以テ隆熙二年八月一日以降ニ於テハ相續回復請求事件ハ出訴期限ノ定ナキ權利トナリタルモノトス（大正九・三・一二）　七　八八

○相續回復請求權ノ時效　朝鮮ニ於テ戸主及遺産ノ相續回復請求權ハ相續人又ハ其ノ法定代理人カ相續權ヲ侵害セラレタル事實ヲ知リタルトキ又ハ相續開始ノトキヨリ夫々相當ノ期間內ニ限リ行使シ得ヘク其ノ期間ヲ經過スルトキハ消滅スル慣習ナリ（昭和一〇・七・三〇）　三　三〇三

第二節　家督相續人

第九百六十八條

○胎兒ノ相續權　朝鮮ニ於テ胎兒ト雖出生シ且男子ナルトキハ胎兒タリシ時ニ遡リテ既ニ產レタルモノト看做シ相續權ヲ有スル慣習アリ（大正五・四・一四）

第九百六十九條

○養子ノ相續除斥原因　朝鮮人間ニ在リテ養子カ外國ニ往キテ音信ナク又所在不明ナルコト數年ニ渉ルトキハ相續ヨリ除外セラルルモノトス（隆熙三「明治四二」九・二）

○養子選定權ノ喪失原因　朝鮮ノ慣習ニ於テハ戶主タル夫ヲ殺害シタル妻ハ其ノ家統ノ繼續ニ關シ養子又ハ次養子ヲ選定スル權利ヲ有セサルモノトス（大正一三・一二・一五）

第九百七十條

○相續ト家族　戶主死亡シタル場合ナルトヲ問ハス死亡ニ因リテ其ノ財產ヲ相續スヘキモノハ其ノ家ニ在ル者ニ限リ他ノ家ニ在ル者ハ相續人タルコトヲ得サルハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリトス（大正一三・九・三）

聯○被相續人ト家籍ヲ同シクセサル子ノ遺產相續　朝鮮ノ慣習法ニ於テ母ノ遺產ハ男女ヲ問ハス其ノ子之ヲ相續シ同一家籍ニ在ルト否トヲ區別スルコトナシ（昭和八・一二・八）

○外孫奉祀　嘗テ妾タリシ者既ニ戶主トナリタル後死亡シタルトキハ之ト其家ヲ同フセサル者ハ假令相續人ノ夫タリシ者ノ子孫ト雖當然相續人タル者存セサル場合ニ於テ外孫其他ノ者ニ祭祀ヲ委託シ且其遺產ヲ承繼セシムルヲ得ヘキコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（大正二・五・六）

○家ヲ同シクセサル妾ノ夫ノ相續權　嘗テ妾タリシ者已ニ戶主ト爲リタル後死亡シタルトキハ之ト其家ヲ同フセサル者ハ假令被相續人ノ夫タリシ者ノ子孫ト雖當然相續人タルコトヲ得サルハ朝鮮ノ慣習ナリ（大正八・三・一一）

頁	卷
三〇七	三
三一三	一
三二四	二
一六八	二
四六一	二〇
一九六	二
七七	六

○養子ノ相續　朝鮮ニ於テ夫ノ財產ハ每ニ其妻トノ間ニ共有ナリトノ慣習及夫ノ死亡シタルトキ之カ生養子アルニ拘ラス其妻ニ於テ夫ノ遺產ヲ當然相續シ所有權ヲ取得スト慣習ハ共ニ存在セス（大正二・五・二三）

○次養子ノ男子ト養家ノ家督相續權　次養子ト爲リタル者カ男子ヲ出生シタルトキハ其男子ハ出生ト同時ニ當然養家ノ家督相續人ト爲ルモノニシテ養子ニ選定セラレテ始メテ其家督相續人ト爲ルモノニ非サルコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（大正九・三・一二）

○庶子ノ相續權　嫡出子ナキトキハ庶子相續權ヲ有スルコトハ韓國ニ於ケル法則ナリ（明治四三・二・一九）

○庶子ノ相續權　被相續人ニ嫡子ナクシテ庶子アルトキハ其庶子カ相續權ヲ有スルコトハ朝鮮ニ於ケル相續ニ關スル法則ニシテ特ニ庶子ハ承嫡手續ヲ爲スニアラスンハ相續權ヲ有セストスル慣習ナシ（大正二・七・二五）

○庶子ノ相續權　朝鮮人間ニ在リテ戶主タル被相續人ニ庶出ノ男子アル場合ト雖被相續人カ其生前ニ於テ養子縣組ヲ爲シ若ハ遺言ヲ以テ養子ヲ指定スル場合ニ之ヲ有效トスルニ過キスシテ被相續人ノ家督ヲ相續セシメ得ル一般慣習ナシ

○庶子ノ相續權　嫡出ノ男子ト同一ノ權利ヲ有スル慣習存在スレトモ（既判例）是レ被相續人カ他ヨリ養子ヲ爲シ其養子ハ相續ニ關シ嫡出ノ男子アル場合ト雖被相續人ノ妻若ハ親族等カ被相續人ニ庶子ノ男子アルニ拘ラス被相續人死亡後直ニ他ヨリ養子ヲ爲シ之ヲシテ被相續人ノ家督ヲ相續セシメ得ル一般慣習ナシ從來一部ノ社會殊ニ名門勢家ノ間ニアリテ庶出ノ男子アルニ拘ラス被相續人死亡後其遺妻等カ直ニ他ヨリ養子ヲ爲シ之ヲシテ家督ヲ相續セシメシカ如キ事例ナキニアラサリシモ如此ハ名門勢家各自ノ一個ノ專擅行爲ニ過キスシテ慣習法タル效力ヲ有セシモノニ非ス（大正六・一一・二七）

○庶子ノ相續權　朝鮮ニ於テハ既往殊ニ舊韓國時代ニ在リテハ戶主タル被相續人ニ庶出ノ男子アル場合ト雖被相續人カ他ヨリ養子ヲ爲シ其ノ養子ハ相續ニ關シ嫡出ノ男子ト同一ノ權利ヲ有スル慣習存在シタレトモ是唯被相續人カ生前ニ於テ養子縣組ヲ爲シ若ハ遺言ヲ以テ養子ヲ指定スル場合ニ之ヲ有效トスルモノニ過キスシテ被相續人ノ親族等カ

頁	卷
二三〇	二
八八	七
一六九	一
二〇三	二
四一〇八	四

被相續人死亡後他ヨリ養子ヲ爲シ之ヲシテ被相續人ノ家統ヲ相續セシメ得ル一般慣習ハ存在セサリシモノトス（昭和二・二・一五）

○庶孫ノ相續權　前項ノ慣習ノ趣旨ハ既婚ノ長男戸主ニ先チテ死亡シ其ノ庶子男アル場合ニ亦之カ適用アリ即チ戸主ノ生存中既婚ノ長男死亡シタル場合ニ於テ亡長男ニ庶出ノ男子アルニ止マルトキハ其ノ者ハ當然亡長男ヲ奉祀シ其ノ遺産ヲ承繼スルモノニシテ（廣義ニ於ケル祭祀相續ノ一種）亡長男ノ死亡後親族等ニ於テ亡長男ノ爲ニ養子ヲ爲スコトヲ許ササル慣習存在シタルモノトス（昭和二・二・一五）

○女子ノ相續權　女子ハ遺産相續人タルコトヲ得ヘキモ家督相續人タルコトヲ得サルハ朝鮮古來ノ慣習ナリ（明治四五・四・二六）

○女戸主ノ遺産ト出嫁女ノ相續　女戸主タルモノ死亡シ其相續ヲ爲スヘキモノアラサル場合ニ於テ其遺産ハ出嫁女ニ歸スルコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリト雖其出嫁女トハ女戸主ノ子女タルコトヲ以テ足レリトセス其家ヨリ出テタルモノナルコトヲ必要トス（大正一一・九・二二）

○遺妻ノ相續權　戸主死亡シ男子孫ナク妻ト女ノミ存スル場合ニ在リテハ妻ニ於テ亡戸主ノ遺産ヲ相續スルヲ朝鮮ニ於ケル慣習トス（大正二・九・二六）

○相續ニ因ル不動産ノ取得ト登記　遺産相續ニ因ル不動産所有權ノ取得モ其登記ヲ爲スニ非サレハ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス而シテ朝鮮ニ於テハ戸主カ男子孫ナクシテ死亡シタルトキハ其妻カ戸主權竝ニ亡戸主ノ遺産ヲ相續スルモノニシテ其相續後死後養子カ選定セラレタル場合ニハ該養子ハ亡戸主死亡ノ日ニ遡リテ戸主權竝亡戸主ノ遺産ヲ相續スルニ非スシテ其選定セラレタル日ニ亡戸主ノ妻ヨリ之カ相續ヲ爲スモノナリ從テ若シ右養子カ之カ選定ヲ受ケタルニ拘ラス遺産相續ニ依ル不動産所有權ノ取得ヲ登記セス而モ他面ニ於テ其先代タル亡戸主ノ妻カ亡戸主ノ遺産タル不動産ヲ他ニ賣却シタルトキハ其不動産ノ買受人ハ朝鮮民事令第十三條ニ所謂第三者ニ該當スルモノナルヲ以テ遺産相續ニ因リ該不動産ノ所有權ヲ取得シタル右養子モ之ヲ以テ第三者タル右買受人ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス（大正九・一二・一八）

○死後養子ノ相續ノ時期　朝鮮ノ慣習ニ於テハ戸主死亡前其長男カ既ニ死亡セル場合ニ於テ其長男カ既婚者ナルトキハ亡長男ノ爲ニ養子ヲ選定スヘク其選定アル迄亡戸主ノ遺産ハ其妻ニ於テ之ヲ承繼シ養子ノ選定アルトキハ養子ハ其遺産ヲ亡戸主ノ妻ヨリ承繼スルモノトス（大正一〇・三・二四）

○養子緣組後ノ男子出生　養子ト爲リタル後養父ニ男子出生スルモ養父死亡ノ場合ニハ養子ニ於テ其家督ヲ相續スルヲ朝鮮ニ於ケル一般ノ慣習トス（明治四五・二・二）

第九百七十四條

○庶孫ノ相續權　朝鮮ニ於テ既婚ノ長男戸主ニ先チテ死亡シ次テ戸主死亡シタル場合ニ於ケル戸主相續竝之ニ伴フ財産相續ハ法律上直接ニ亡戸主ト現ニ相續スヘキ者トノ間ニ行ハレ其ノ間ニ亡長男ノ介在スルコトナキモ其ノ相續人ノ確定ニ關シテハ亡長男ヲ被相續人ト看做シ之ヲ標準トシテ決スル慣習ナリトス從テ已ニ亡長男ヲ相續シタル庶出ノ男子アルトキハ其ノ者ハ當然亡戸主ヲ承繼スルモノニシテ此ノ者ヲ措キテ別ニ亡戸主ノ爲ニ養子ヲ爲シ之ヲシテ相續ヲ爲サシムルコトヲ許ササルモノトス（昭和二・二・一五）

第九百七十五條

○遺妻ノ失行改嫁ト亡長男ノ廢除又ハ亡養子ノ罷養　朝鮮ニ於テ成婚ノ長男ノ死亡後其妻カ失行改嫁シタルトキハ其父ハ長男ヲ廢除シ又養子ノ死亡後其妻カ失行改嫁シタルトキハ養父ハ養子ヲ罷養シ養父ナケレハ養家宗會ノ決議ニ依リ養子ヲ罷養シ更ニ他人ヲ養子ト定ムル慣習アルコトナシ（大正二・二・二一）

卷	頁
一四	二二
一四	二二
一	四七〇
九	三七〇
二	三二八
七	四八三
刑八	六五
一	四三一
一四	二二
二	一一八

第九百七十九條

○外孫奉祀　嘗テ妾タリシ者既ニ戸主トナリタル後死亡シタルトキハ之ト其家ヲ同フセサル者ハ假令被相續人ノ夫タリシ者ノ子孫ト雖當然相續人タルコトヲ得ス而シテ該女戸主ハ當然相續人タル者存セサル場合ニ於テ外孫其他ノ者ニ祭祀ヲ委託シ且其遺產ヲ承繼セシムルヲ得ヘキコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（大正二・五・六）　二　一九六

第九百八十二條

○遺妻ノ相續權　戸主死亡シ男子孫ナク妻ト女ノミ存スル場合ニ在リテハ妻ニ於テ亡戸主ノ遺產ヲ相續スルヲ朝鮮ニ於ケル慣習トス（大正二・九・二六）　二　三二八

○妻ノ相續　夫死亡シ男子ノ相續人ナキトキ妻ニ於テ亡夫ノ遺產ヲ相續スヘキハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（大正六・一・一六）　四　一

○婦女ノ相續順位　戸主死亡シ其家督ヲ相續スヘキ男子ナキ場合ニ於テ其家ニ祖母、母、妻共ニ存スルトキハ男子ノ相續人アルニ至ル迄祖母、母、妻ノ順序ニテ戸主權、財產權ヲ相續スヘキコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリトス（大正一一・一二・一）　九　五一三

○兄亡弟及ノ適用範圍　兄亡弟及ノ法則ハ父カ戸主トシテ被相續人タル地位ニ在ル場合ニ兄其父ノ相續開始ニ先チテ死亡シ其兄カ既婚者ニ非サリシトキニ相續順位ノ其弟ニ及フコトヲ認メタルモノニ過キス（大正九・六・二三）　七　二八七

○弟ノ相續權　兄カ戸主ト爲リテ被相續人ノ地位ニ在ルトキハ弟ハ之カ相續人タルコトヲ得スト爲スヲ朝鮮ニ於ケル相續法上ノ慣習トス（大正九・六・二三）　七　二八七

○死後養子選定意思ノ有無ト選定時期　遺妻ニ於テ養子選定ノ意思ヲ有スル以上ハ選定スヘキ時期ニ付制限ナキカ故ニ時日ヲ經過スルノ一事ヲ以テハ未タ選定權ノ喪失ヲ來スモノニ非ス（大正一四・五・五）　一二　一七四

○門會ノ死後養子選定　戸主カ妻ノミヲ遺シテ死亡シタル場合妻ニ於テ養子ヲ選定スル意思ナキトキハ門會ニ於テ選定シ得ル慣習ナリ（大正一四・五・五）　一二　一七四

第九百八十四條

○母ノ相續　同一ノ家ニ在ル母カ戸主タル其子ノ死亡ニ因リ男子ノ相續人アルニ至ル迄其遺產ヲ相續スヘキハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（大正六・一・一六）　四　一

○同　上　朝鮮ニ於テ夫死亡シ其家督相續人タルヘキ男子モ死亡シ單ニ其男子ノ母タル者カ生存スル場合ニ門中協議ノ決定ニ據リ相當ノ者ヲ選定シ相續人ノ定マル迄一時遺產ノ管理ヲ委託セサルヘカラストノ慣習ナシ（大正六・一・一六）　四　五

第九百八十五條

○家督相續人選定許可申請ト親族會ノ決議　民法第九百八十五條ニ依リ家督相續人選定ノ許可申請ヲ爲スニ付テハ親族會ノ決議ヲ要スルモノトス（昭和九・九・一八）　二一　三二五

○家督相續人選定許可申請ノ申請當事者　右許可申請ハ親族會ノ決議カ會員ノ過半數ヲ以テ爲サレタルトキハ其ノ決議ニ同意シタル會員ヨリ之ヲ爲シ得ヘキモノトス（昭和九・九・一八）　二一　三二五

第三節　家督相續ノ效力

第九百八十六條

○戸主相續人ト債務承繼　相續人カ相續シテ戸主トナリタルトキハ遺產ヲ取得シタルト否トニ拘ハラス先代ノ債務ニ付無限ニ承繼スヘキ責任アルコトハ朝鮮ニ於ケル慣習トス（明治四五・七・三〇）　一　五〇二

○債務ノミノ遺產ト祭祀相續人ノ承繼　家族死亡ノ場合ニ於テ遺產相續人カ被相續人ノ長男又ハ長孫ノ如キ祭

祀者ナルトキハ假令被相續人カ消極的財產卽チ債務ノミヲ殘シタル場合ト雖之ヲ承繼スヘキモノナルコトハ遺產相續ニ關スル朝鮮從來ノ慣習ナリ（大正五・一二・二六）

○家督相續ト相續財產ノ分配　戶主死亡シ嫡庶ノ男子數人アル場合ニ於テ其遺產全部ハ一旦祭祀相續人ノ所有ニ歸シ其他ノ嫡庶男ハ其遺產ニ付祭祀相續人ヲシテ相當相續分ノ分配ヲ爲サシムル權利ヲ有スルニ過キス而シテ其遺產ニ對スル所有權ハ相續開始ノ時ニ於テ當然取得スルニアラスシテ分配ニ因テ之ヲ取得スルモノナルコトハ朝鮮人間ニ於ケル一般ノ慣習トス（大正二・七・一一）

○家督相續人ニ對スル相續分ノ分配請求　遺產ノ分與ヲ受クル權利ヲ有スル者ハ祭祀相續人ヲシテ相續分ノ分配ヲ爲サシムルノ權利ヲ有スルニ過キス故ニ其者ニ於テ分配セラルヘキ特定ノ目的物ヲ指示シテ其贈與ヲ請求スルハ失當ナリ（大正四・七・九）

○相續財產分配ノ性質　朝鮮人タル戶主ノ長男カ戶主ノ死亡ニ因リ戶主相續ヲ爲シ前戶主ニ屬セシ一切ノ財產ヲ承繼シタル場合ニ於テ朝鮮ノ慣習ニ從ヒ其ノ財產ノ幾部ヲ次弟以下ノ衆子ニ分與スルハ當該相續人カ慣習上定マレル義務ノ履行ヲ爲スニ外ナラスシテ所謂贈與ニ該當スルモノニ非ス（昭和四・一二・三）

○分財請求權拋棄　戶主相續開始後分財請求權ノ拋棄ヲ禁スルカ如キ慣習ハ朝鮮ニ存スルコトナシ（昭和一一・一〇・一三）

○被相續人ニ對スル特定物給付判決ノ執行ト相續　相續開始後ト雖相續人カ相續以前ヨリ占有スル特有財產ニ對シテハ被相續人ニ對スル特定物給付判決ノ執行トシテ之カ强制執行ヲ爲スヲ得サルモノトス（大正三・四・一七）

第九百八十七條

○墓位土　墓位土ハ慣習上當然奉祀孫ノ專有ニ屬スルモノノミニハ非ス又一門ノ共有ニ屬スル場合アリトス（大正元・一二・三）

○祭位土　祖先ノ祭祀ニ供スル位土ノ所有權ハ奉祀孫ノミニ專屬スルコトアリ又ハ門中若クハ門中一派ノ共有ニ屬スルコトアリ必スシモ宗孫ノ專屬若クハ一門ノ共有ニ屬スヘキモノナリトノ慣習アルニアラス何人ノ所有ナルヤハ一ニ事實問題ニ屬スヘキモノトス（大正二・九・一二）

○位土ノ共有者　位土ノ共有權ヲ有スル者ハ家長タル戶主ニ限ル家族ハ之カ共有權ヲ有セサルモノトス（大正五・一二・一九）

○墓位土ノ歸屬　位土ノ所有權ハ或ハ奉祀者子孫ノ單獨所有ニ屬スルモノアリ或ハ一門ノ共有ニ屬スルモノアリ又或ハ一門中一派ノ共有ニ屬スルモノアリ常ニ奉祀者子孫ノ單獨所有ニノミ屬スト云フヘカラス（大正六・七・一七）

○私不遷位土設置ノ遺言ノ效力　祖先ニ於テ或不動產ヲ私不遷位土ト定メ之ヲ一門共有トシ同時ニ遺言ニ依リ永久ニ之カ賣買其他ノ處分行爲ヲ爲スコトヲ禁シタリトスルモ其子孫タル共有者（各家戶主）ニ於テ之ヲ處分シ得サル慣習ナク又不遷位土ニ關シテ前示ノ如キ遺言カ永久ニ其子孫全員ヲ拘束スル效力アルモノニ非ス（大正八・一〇・二一）

○墳墓ノ歸屬　墳墓ハ祭祀相續人ニ於テ承繼スヘキ特權ニ屬シ之ヲ移葬スルニ付テモ親族又ハ宗中ノ同意ヲ必要トセス（昭和八・一・三一）

第九百八十九條

○實家相續後ノ宗家養子ト實家ノ債務ニ對スル責任　實父死亡ニ因リ相續ヲナシ債務ヲ承繼シタル戶主カ宗家ノ養子トナリタル場合ニ在リテハ其ノ實家ニ於テ相續開始シタルトキト雖債權者ハ他家ニ入リタル前戶主ニ對シ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリトス（昭和四・三・一）

○次養子ノ子ノ相續ト次養子ノ責任　次養子カ負擔シタル債務ハ其ノ子カ相續シタル後ニ於テモ尙次養子ニ對

卷	頁
二	七八
二	三一九
三	九六六
四	七〇一
六	五三三
一〇	一七
一六	三四
一六	二七二
二三	三一二
二四	一四
三	二五七
二	二七三
三	一〇八

シテ請求シ得ヘキコトハ朝鮮ノ慣習ナリトス（昭和二・二・二五）

○次養子ノ親族法上及相續法上ノ地位　次養子カ養親ノ嫡出子タル身分ヲ取得シ相續ニ因リ戸主ト爲リ財産ヲ承繼スルハ終局的ノモノニシテ次養子ニ男子出生スルモ之ニ因リテ戸主相續及財産相續開始スルコトナク次養子ハ依然其地位ヲ保有スルモノニシテ次養子緣組ニ因ル親族法上及相續法上ノ效果ハ普通ノ養子緣組ニ於ケルモノト同一ナリトスルヲ朝鮮ニ於ケル現行ノ慣習ト認ム（昭和三・四・一三）　一五　一〇〇

第二章　遺産相續

第二節　遺産相續人

第九百九十四條

○家族ノ遺産ノ相續　朝鮮ニ於ケル家族ノ遺産ハ第一次ニ其ノ家ニ在ル直系卑屬ニ於テ相續スルノ慣習ナリ（大正一四・一二・一五）　一二　四八三

○妾ノ遺産ト相續人　朝鮮ノ慣習ニ於テハ妾ノ養子又ハ收養子ヲ認メス妾ノ遺産ハ子、子ナケレハ孫、子孫共ニ無ケレハ夫、子孫及夫無ケレハ戸主之ヲ承繼スル慣習ナリ（大正一〇・一二・二〇）　八　五五五

○妾ノ遺産　妾ノ遺産ハ子、子無ケレハ孫、子孫共ニ無ケレハ夫之ヲ承繼シ是等ノ者總テ無ケレハ戸主之ヲ承繼スル慣習ナリ（大正一四・八・二一）　一二　二九三

○出嫁女ノ相續權　朝鮮人タル女子カ嫁シテ他家ニ在ル以上ハ其實家ニ於ケル財産相續人タル資格ヲ喪失シ其相續ヲ爲スコト能ハサルハ朝鮮ニ於ケル顯著ナル慣習ナリトス（大正二・四・一五）　二　一九〇

○財産相續ト家族　戸主死亡シタル場合ナルト家族死亡シタル場合ナルトヲ問ハス死亡ニ因リテ其ノ財産ヲ相續スヘキモノハ其ノ家ニ在ル者ニ限リ他ノ家ニ在ル者ハ相續人タルコトヲ得サルハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリトス（大正一三・九・二）　一一　一六八

○家ヲ異ニスル父ノ遺産相續　夫婦離婚ヲ爲スニ當リ夫ハ兩名間ニ生レタル女子ヲシテ其ノ母タル妻ト共ニ家ヲ去ラシメ爾來母ニ於テ之ヲ養育シ其ノ後母ハ他ノ男子ト結婚シ同女子ト共ニ同人ノ民籍ニ入籍シ同女子カ未婚ノ儘死亡シタルトキハ同女子ノ遺産ハ同一家籍ニ在ル母ニ於テ之ヲ相續スヘク父ニハ其ノ相續權ナキモノトス（大正一三・九・二）　一一　一六八

○家族ノ遺産ト妻及女子ノ相續順位　朝鮮ニ於テハ次男以下ノ家族カ妻及女子ヲ遺シテ死亡シタルトキハ遺妻ニ於テ其ノ遺産ヲ相續スル慣習ナリ（昭和六・九・二五）　一八　一三三

聯　**○遺産相續ト家族**　朝鮮ノ慣習ニ於テ母ノ遺産ハ男女ヲ問ハス其ノ子之ヲ相續シ同一家籍ニ在ルト否トヲ區別スルコトナシ（昭和八・一二・八）　二〇　四六一

聯　**○遺産相續權ニ於ケル女子ノ相續分**　朝鮮ニ於テ家族タル養母カ死亡シタル場合ニ實女子ノ存スルトキハ戸主タル死後養子及右實女子ハ平等ノ割合ヲ以テ養母ノ遺産ヲ相續スルモノトス（昭和八・一一・二八）　二〇　四四〇

第九百九十六條

○妻ノ相續順位　夫死亡シテ男子ノ相續人ナキトキ妻ニ於テ亡夫ノ遺産ヲ相續スヘキハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ（大正六・一・一六）　四　一

○同　上　朝鮮ニ於テ家族タル夫カ男子ナクシテ死亡シタルトキハ其遺産ハ妻ニ於テ之ヲ相續スヘキコト古來ノ慣

習ニシテ戸主又ハ其母カ妻ニ優先シテ之カ相續ヲ爲スヘキ慣習ノ存スルコトハ當院ノ認メサル所ナリ（大正九・六・二五）

○家族ノ遺産ト妻ノ相續　朝鮮ニ於テ家族タル夫カ長子タルト衆子タルトヲ問ハス男子ナクシテ死亡シタルトキハ其ノ遺産ハ妻ニ於テ相續スヘキ慣習ニシテ父カ妻ニ優先シテ相續スヘキモノニ非ス（大正一五・一〇・二六）

○妾ノ遺産ト其ノ相續人　妾ノ遺産ハ子、子無ケレハ孫、子孫共ニ無ケレハ夫之ヲ承繼シ是等ノ者總テ無ケレハ戸主之ヲ承繼スル慣習ナリ（大正一四・八・二一）

○直系尊屬ノ相續順位　朝鮮ニ於テ家族タル未婚者ノ死亡シタル場合其ノ遺産ハ家ニ在ル父、父ナキトキハ母之ヲ相續スヘキ慣習ニシテ祖父カ戸主タルトキニ於テモ父母ニ先シテ其財産相續人タルヘキモノニ非ス（昭和四・七・一二）

○亡長男ノ遺妻ノ相續　家族タリシ既婚男ノ死亡ニ因リ遺妻カ相續ヲ爲シタルトキハ亡男カ戸主ノ長男タルト否トニ拘ラス遺妻ハ其ノ相續財産ニ付終局的ニ之カ權利ヲ取得スルモノトス從テ後日亡男ノ爲ニ養子ヲ爲スモ養子ハ既ニ遺妻ノ相續シタル亡男ノ遺産ヲ承繼スルコトナキモノトス（昭和二・一〇・七）

○家ヲ異ニスル父ノ遺産相續權　夫婦離婚ヲ爲スニ當リ夫ハ兩名間ニ生レタル女子ヲシテ其ノ母タル妻ト共ニ家ヲ去ラシメ爾來母ニ於テ之ヲ養育シ其ノ後母ハ他ノ男子ト結婚シ同女子ト共ニ同人ノ民籍ニ入籍シ同女子カ未婚ノ儘死亡シタルトキハ同女子ノ遺産ハ同一家籍ニ在ル母ニ於テ之ヲ相續スヘク父ニハ其ノ相續權ナキモノトス（大正一三・九・二）

〔參　考〕

聯　**○被相續人ト家籍ヲ同シクセサル子ノ遺産相續**　朝鮮ノ慣習ニ於テ母ノ遺産ハ男女ヲ問ハス其ノ子之ヲ相續シ同一家

卷	頁
七	二九四
一三	三二八
一三	二九三
一六	一八九
一四	三二九
一二	一六八

○祭祀者ノ遺産相續ト債務承繼　家族死亡ノ場合ニ於テ遺産相續人カ被相續人ノ長男又ハ長孫ノ如キ祭祀者ナルトキハ假令被相續人カ消極的財産即チ債務ノミヲ殘シタル場合ト雖之ヲ承繼スヘキモノナルコトハ遺産相續ニ關スル朝鮮從來ノ慣習ナリ（大正五・一二・二六）　二〇　四六一

○無權利者ノ處分ト相續　無權利者カ其ノ處分シタル權利ヲ後日取得シタルトキハ茲ニ其ノ處分行爲ハ當然ニ效力ヲ生ス

被相續人ノ生存中其ノ所有土地ヲ相續人カ擅ニ處分シタル後被相續人亦同一土地ヲ他ニ遺贈シテ死亡シタルトキハ相續人ヨリ處分ヲ受ケタル者ト受遺者トハ民事令第十三條ニ所謂第三者ノ關係ニ立ツモノトス（昭和七・三・二五）　三〇一八　一九　七三

第二款　相續分

第千四條

○遺産相續權ニ於ケル女子ノ相續分　朝鮮ニ於テ家族タル養母カ死亡シタル場合ニ實女子ノ存スルトキハ戸主タル死後養子及右實女子ハ平等ノ割合ヲ以テ養母ノ遺産ヲ相續スルモノトス（昭和八・一一・二八）　三〇　四四〇